

平成29年度
独立行政法人国立女性教育会館
自己点検・評価及び外部評価報告書

平成30年12月

独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会
独立行政法人国立女性教育会館

目 次

1	外部評価について	1
	(1) 外部評価の目的	1
	(2) 外部評価の対象	1
	(3) 外部評価の方法	1
	(4) 審議過程	1
2	評価	1
3	平成29年度事業全体に対する評価・指摘事項等	8
4	事業別評価	
	1. 地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉	9
	2. 学習オーガナイザー養成研修	11
	3. 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	13
	4. 男女共同参画推進フォーラム	15
	5. 女子中高生夏の学校2017	17
	6. 女子大学生キャリア形成セミナー	19
	7. 女性関連施設相談員研修	21
	8. 大学等における男女共同参画推進セミナー	23
	9. 男女共同参画統計に関する調査研究	25
	10. 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究	27
	11. 女性教員の活躍推進に関する調査研究	29
	12. eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究	31
	13. 情報資料の収集・整理・提供	33
	14. ポータルとデータベースの整備充実	35
	15. 図書のパッケージ貸出	37
	16. 調査研究成果物の発行及び発信	39
	17. 女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化	41
	18. アーカイブ保存修復研修（基礎コース＋実技コース）	43
	19. 広報活動の充実・強化	45
	20. アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	48

21.	NWECグローバルセミナー	50
22.	課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」	52
23.	国際会議等で得た情報の発信	54
24.	国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築	56
25.	eラーニングによる教育・学習支援の推進	60
26.	組織体制の見直し、業務改革の取組の徹底	62
27.	人件費・管理費等の適正化	64
28.	取引関係の適正化	66
29.	間接業務等の共同実施	68
30.	予算執行の効率化	70
31.	自己収入の拡大	71
32.	適切な法人運営体制の充実	73
33.	PFI事業の適切な実施のための監視・協力	76
34.	情報セキュリティ体制の充実	78
35.	長期的視野に立った施設・設備の整備	80
5	外部評価の観点	82
6	独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画 (平成29年度)	83
7	独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会委員一覧	95
8	独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程	96
9	「第4期中期目標期間(平成28～32年度)」の評価基準について	97

参考資料編

事業シートのNo. で分類している。

1. 地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉	
(1)実施要項	100
(2)参加者概況	105
(3)アンケート集計結果	106
(4)フォローアップ調査集計結果	109
2. 学習オーガナイザー養成研修	
(1)実施要項	111
(2)参加者概況	115
(3)アンケート集計結果	116
3. 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	
(1)実施要項	119
(2)参加者概況	122
(3)アンケート集計結果	123
(4)モニター調査集計結果	124
4. 男女共同参画推進フォーラム	
(1)実施要項	125
(2)参加者概況	130
(3)アンケート集計結果(参加者)	132
(4)アンケート集計結果(募集ワークショップ運営者)	135
(5)フォローアップ調査集計結果(募集ワークショップ運営者)	139
5. 女子中高生夏の学校2017	
(1)実施要項	143
(2)参加者概況	149
(3)アンケート集計結果(女子中高生)	150
(4)アンケート集計結果(保護者)	152
(5)アンケート集計結果(教員)	155
(6)フォローアップ調査集計結果	158
6. 女子大学生キャリア形成セミナー	
(1)実施要項	160
(2)参加者概況	164
(3)アンケート集計結果	165
7. 女性関連施設相談員研修	
(1)実施要項	169
(2)参加者概況	173
(3)アンケート集計結果	174
(4)フォローアップ調査集計結果	176

8. 大学等における男女共同参画推進セミナー	
(1)実施要項	177
(2)参加者概況	180
(3)アンケート集計結果	181
(4)モニター調査集計結果	183
10. 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究	
・調査結果	184
11. 女性教員の活躍推進に関する調査研究	
・調査結果	192
13. 情報資料の収集・整理・提供	
・女性教育情報センターの運営	204
14. ポータルとデータベースの整備充実	
・女性情報ポータルの整備充実	205
18. アーカイブ保存修復研修（基礎コース）＋（実技コース）	
(1)実施要項	206
(2)アンケート集計結果	209
20. アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	
(1)実施要項	211
(2)アンケート集計結果	215
21. NWE Cグローバルセミナー	
(1)実施要項	217
(2)アンケート集計結果	219
22. 課題別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進」	
(1)実施要項	222
(2)アンケート集計結果	227
25. eラーニングによる教育・学習支援の推進	
・アンケート集計結果	228
33. 利用状況	
(1)延べ利用者数の推移（平成17～29年度）	233
(2)宿泊施設及び研修施設利用率の推移（平成28～29年度）	233

1 外部評価について

(1) 外部評価の目的

外部評価委員会では、NWE Cが実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うとともに、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行うことを役割としている。

(2) 外部評価の対象

NWE Cでは、独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程に基づき「会館が実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うと共に、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行う。」としている。

これを受け、第4期中期目標期間の2年度である平成29事業年度の評価を実施した。

(3) 外部評価の方法

評価方法については、外部評価委員会においてNWE Cから各事業の内容、成果等のヒアリングを実施し、平成19年度に外部評価委員会で作成した外部評価の観点別に評価意見等を取りまとめた。

(4) 審議過程

平成30年度は計2回の委員会を以下のとおり開催。

第1回では、年度計画にある5つの観点毎に評価の対象となっている各事業の実施概要について確認を行い、第2回では、各委員から出た評価について意見交換を行い、総論及び全体的な意見交換を行い、外部評価報告書を取りまとめる。

平成30年5月28日（月） 第1回外部評価委員会

- ・平成29事業年度外部評価の進め方
- ・平成29事業年度実施事業の概要説明

平成30年9月26（水） 第2回外部評価委員会

- ・5本の観点毎の評価について
- ・平成29事業年度外部評価報告書総論について

2 評価

1 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施

- 会館の基幹的業務として、男女共同参画社会の実現に向けて企業、大学、自治体、女性関連施設等の多様なアクターと連携しながら人材の育成・研修に特色をもって取り組むという側面が、個々の事業によく表れている。いずれの事業でも時宜を得たテーマを掲げており、また応募倍率は100%を超えていることは特筆に値する。

＜地域における男女共同参画推進リーダー研修（女性関連施設・地方自治体・団体）＞

- 昨年度よりも受講生の満足度が高くなっていて、内容がより充実していることが確認できた。特に今年度より導入されたeラーニング方式は、初歩的なところから学ぶことで参加者の主体的な学びを確保し、思い込みや学習不足を補う大きな役割を果たしたと考えられ、また効率的な講座運営の実現にも貢献した。今後のeラーニング活用への良い先行事例となったと考えられる。

＜学習オーガナイザー養成研修＞

- 企画内容にジェンダー統計を盛り込むことの意義と効果を修了生に実感させる講座となっており、満足度の高いプログラムの提供ができています。
- 昨年度の個人レベルのキャリア開発から始まり、地域づくりまで視野に入れた適時性の高い講座内容を実施出来たことや、行政担当者、管理職といった新たな参加者拡大にもつながった発展性の高い内容になっていたこと等は高く評価できる。
- NWE Cの開発したプログラムデザインに基づくNWE C独自の事業であり、参加者の満足度は100%となった。事業の効率化もはかられており、地域での事業展開に大いに期待できる結果である。今後はその成果を、研修内だけではなく、幅広く共有できる手法も研究してほしい。

＜企業を成長に導く女性活躍促進セミナー＞

- 応募倍率も高く、テーマの適時性、講師を企業トップに依頼するなどの工夫、さらにきめの細かい広報などの努力が成果となって表れている。
- 参加者の感想に寄せられたように、女性活躍を推進するためにはより多くの男性の参加を得られるように取組んでほしい。

＜男女共同参画推進フォーラム＞

- 男女共同参画に関わる多方面の関係者が一堂に会する貴重な機会である「男女共同参画推進フォーラム」において、若者を中心とした企画・運営による会館提供ワークショップは、次世代の男女共同参画推進リーダーを育む良い機会となっている。今後も幅広い年代が関わる事業を増やしてほしい。
- 若者に焦点をあて、若い世代の参加者を増やしていくことに尽力しており、事業を次世代に発展的に継承して行く上で大変重要な成果であったと評価できる。

＜女子中高生夏の学校2017＞

- ジェンダーサミット10、リケジョin香川、文京区での講義、ミニ夏学等プログラムの普及が広がっている。長年培った経験と実績を広げていく良い事例となっており、今後のNWE Cでの成功事業の展開可能性を示唆する良い事業となっている。
- 理系大学へ進学したかつての参加者が、今度はTA、講師、さらには企画委員にまでなっており、女子の理系進学支援にさまざまな役割を果たしている状況は、この事業が本格的な成果の展開のサイクルに到達している実情を示している非常に重要である。

＜女子大学生キャリア形成セミナー＞

- 例年通りの安定した事業展開であった。広報の工夫により地方からの学生参加があったことは好ましい。学年も1年生から大学院生まで幅があるので、単なる就職活動セミナーとは異なる点を打ち出していけると良い。
- 参加者は定員を下回ったものの、満足度が大変に高く、よいセミナーである。ただ、1ヶ所に集めて開催というよりも、各大学で開催できるようにセミナー開催のノウハウをわかりやすく提供する方向へ舵を切る時期がきたとも考えられる。

＜女性関連施設相談員研修＞

- 参加者の評価も高く実績を重ねた有意義な事業である。継続事業としての効果の点では、参加者のネットワークづくりに可能なプログラムの提供が、着実に参加者からの高い評価につながっている。

＜大学等における男女共同参画推進セミナー＞

- 継続実施の過程で参加者の枠組も広がり、特に男性参加者の割合がめざましく向上している点などは注目に値する。

2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施

- 豊富な資料・情報収集能力をフルに活かした会館の高度な調査研究能力が十分に発揮された事業であり、テーマ設定も含めて個々の調査研究の水準は、男女共同参画の専門的見地から見ても、極めて高いものである。

＜男女共同参画統計に関する調査研究＞

- 2017年版リーフレット作成、パネルデータのウェブ掲載、データベースの使い方ガイドの検討などが行われ、データ利用の講義やワークショップ開催によって成果を挙げている。「非常に有用」が70%と有用度評価が大きく伸びたことは評価できる。
- ジェンダー統計は、今必要とされているので、一般の方々に向けた利用が進むようなデータベースの公示方法や使い方ガイドの案内を実施してほしい。

＜男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究＞

- その適時性、独創性から多くのマスメディアに注目され、多方面への報道を通じて一般社会にその成果を還元できたこと、企業からの研修要請など新たな事業展開にもつながっていること、そして、注目度に高さに比例してパネル調査としては珍しく調査対象者からの継続的協力が着実に得られ続けていることなど、多くの成果を挙げた点で極めて高い評価に値する事業である。
- 研究成果の外部での引用も多くNWE Cならではの成果が評価されている。記者説明会の開催を含めて意欲的な取り組みが、高評価につながっていると思う。

<女性教員の活躍推進に関する調査研究>

- 女性教員の活躍推進に関する調査研究について、ウェブでの調査に踏み切ったことで1万人規模の有効回答が得られる結果となった。新しい手法に戸惑いがあると思うが、新しい効果的な手法への挑戦は今後も続けていただきたい。
- 教員のワークライフバランスとして昨今問題視されていることでもある。今後の分析に期待したい。

<eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究>

- オンライン講座の実施やeラーニング講座の事前学習としての提供などから得られた知見を蓄積することで、eラーニングによる学習者支援方法の今後の展開に向けた可能性を開いた成果は大きい。
- 放送大学との連携であり、とても興味深い。ICT活用がどのような人々に効果を与えるのかも、これまでの学習機会の提供とは異なるかもしれない。学習内容やニーズの把握をお願いしたい。
- これからの研修は、全てが一同に会する場というわけにはいかなくなると思う。様々な条件を抱える方々が、学び続けることができるよう、この研究はより実践的に深めていっていただきたいと思う。

3 男女共同参画推進のための広報・情報発信

- 男女共同参画に関する国内最大規模の資料・情報収集機能と情報発信機能をフルに発揮した取組内容がこの分野のすべての事業に共通しており、今年度もそうしたナショナル・センターとしての会館の最大の特色を残分に活かし、役割期待に十分応えた事業展開が示されていると評価できる。引き続き多くの人の情報を収集できるよう、それらをデータベース化し、多くの人に提供できるようこれからも取り組んでほしい。

<情報資料の収集・整理・提供>

- 女性活躍やワークライフバランスに関する資料を集めると同時に大学の男女共同参画に関する広報や地方自治体の発行する統計、ハンドブックの収集がなされ、NWE C女性教育情報センターならではの成果をあげている。さらに「こども霞が関見学デー」「図書館総合展」などへの出展を通じて、幅広い利用者にアピールしている。

<ポータルとデータベースの整備充実>

- NWE C独自の使いやすいデータベースを作成・提供されている。

<図書のパッケージ貸出>

- 貸出が32か所となり、目標の30か所を達成したことは評価できる。

<調査研究成果物の発行及び発信>

- 調査研究成果物の発行も順調に進められていることは好ましい。また「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」について記者説明会を開いて情報提供するなど、積極的な情報発信姿勢が会館の重要な成果への社会的認知を大いに高めた点で重要な効果があったと評価できる。

<アーカイブ保存修復研修（基礎コース）＋（実技コース）>

- 昨年度までは定員割れだったが、今年度は募集定員を大きく上回る参加者を得た。研究資料のアーカイブが求められるようになったという環境変化があったのが理由と聞いたが、世の中のニーズに応えられる優良なプログラムを企画、提供しているNWE Cの成果ともいえる。

<広報活動の充実・強化>

- 4つのプロジェクトチームを編成して効果的な取組を展開し、特に開館40周年というタイミングを最大限に活かして、「開館40周年展」をはじめとする官庁主催や全国規模の外部イベントへの積極的参加を行ったことにより、会館の認知度が向上したことは、注目すべき成果である。そうした取組みの結果、HPやSNSへのアクセスは目標数値を上回り、多くの人々へNWE Cの存在と男女共同参画のための活動を知らしめることが可能になった。
- ホームページの充実も進んでおり、SNS、メールマガジン等による情報発信内容も充実し、一般に活用しやすい環境を整えてきている。

4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献

- 海外との連携はとても有意義である。この分野は、会館のナショナル・センターとしての対外的機能の発揮が最も期待される分野であり、今年度も時代の要請に応えるニーズの高い事業がそろっている。

<アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー>

- 「指導的地位への女性の参画」というテーマは、アジア各国のみならず、女性活躍が強く求められる現代日本にとっても極めて重要である。「非常に満足」「非常に有用」ともに100%という極めて高い評価が参加者から得られている点は、十分な意義が認められる証左といえよう。さらに研修生が研修から学んだ知見を基に国別に報告をまとめ日本語と英語で公表するなど、単に研修の場だけで終わっていない事業の発展性も重要である。
- 指導的地位への女性の参画をテーマとし、企業でのダイバーシティマネジメント、女性起業家との意見交換を行い、参加者から高い満足度を得ている。参加者である研修生の国々の抱える問題を適切に捉え、ニーズに合致した内容となった結果であろう。

<NWE Cグローバルセミナー>

- 今回日本と類似性があるといわれるドイツの経験から考えるという企画で、参加者の満足度、有用度とも高かった。類似性の高い国との比較も良いが、北欧等先進国から目指す姿を学べる良い機会ともなるので、今後の企画にも期待したい。

<課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」>

- メコン地域からアセアン諸国に参加国が拡大した形で事業が継続展開しており、広くアジア地域における女性のエンパワーメントのための人材育成に大きく貢献する発展性を備えた取組である。特に平成30年度からの次の3カ年の新フェーズも会館が国際協力機構からあらためて事業を受託できたことは、これまでの3年間のこの事業への取組成果が高く評価された結果として注目すべき点といえる。
- 新たに外国人技能実習法に関する講義、介護分野で働く外国人支援の例を取り上げており、日本とアセアン諸国をめぐる喫緊の課題をテーマとし、プログラムの達成度の高さ、参加者の研修目標度100%という結果となっている。

<国際会議等で得た情報の発信>

- 国際会議等で得た情報の発信は、日本政府代表団の一員として出席した国際会議(GSW)の情報など有意義である。過去から構築してきた海外機関との協力体制を今後も活用し、国際情報の発信を継続してほしい。

5 横断的に取り組む事項

<国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築>

- 会館が全国的なスケールで男女共同参画の推進に資する事業展開を行う上で欠かせないことが、官公庁から独立行政法人、教育団体、大学関係、NPOなど多様な連携先の開拓と連携強化による横断的取組の充実である。「国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築」については、昨年度の反省をしっかりと活かして、協働事業の取組実績機関数が目標を上回る結果を出すことに成功しており、PDCAサイクルが順調に回って結果の向上につながっている実態がよく示されている。また各協働実績についてもそれぞれ大変充実した内容となっていることも重要である。
- 関係府省との連携、ネットワークの構築、関係機関との連携・協働、その他の人的交流や他団体との連携を行い、協働実績機関数は26機関となり、目標を順調に達成させている。今後とも、時宜にあったテーマに取り組みながら、連携の輪をより広めて行ってほしい。
- 質が高く継続性のある活動に裏付けされており、将来の発展性が期待される。特に海外との関係強化は今後ますます有効になると考えられる。文部科学省の情報広場や文部科学省主催「女性の学び支援のための研究協議会」における展示の開催等、積極的に関係府省と連携しているのは大変好ましく効果的である。今後も期待したい。

<eラーニングによる教育・学習支援の推進>

- 放送大学との連携による「eラーニングによる教育・学習支援の推進」に関して、多様化・高度化した学習需要に応えつつ学習者の利便性の向上を図るという近年の動向に速やかに対応した取組が実践的に行われており、特に中期計画上、1年前倒しで会館独自のオンラインによる研修プログラムを開発・運用した実績は高く評価できる。
- 放送大学との連携や動画配信、SNS利用といった方法を用いて、事前学習による事業プログラムの効率化や対象者の獲得に成功している。
- eラーニングによる教育・学習支援の推進は、学習素材の提供可能性を広げる大変期待できる活動である。年間目標3件に対して5件と積極的かつスピーディに活動しているところも高く評価したい。

3 平成29年度事業全体に対する評価・指摘事項等

会館全体の事業運営を通して顕著に見られることは、ナショナル・センターとしての本来的役割をトップから末端の職員に至るまでしっかりと認識し、新規事業の積極的な開拓、既存事業の内容充実に向けた創意工夫、効率的な業務運営のための諸々の取組といった各種の努力が全体にわたって真摯に行われている点である。平成29年度においても、こうした点が確実に維持されていることは、高い評価に値する。

研修、調査研究、広報・情報発信、国際貢献の全ての分野において、現在の日本の男女共同参画にとってタイムリーで重要なテーマが選ばれており、独創的な事業が効率的に行われている。また、継続的な事業においても、テーマやプログラム、講師陣を、社会的なニーズの変化に合わせて常に見直しより良いものとする努力を続けている。さらに、eラーニングやウェブの活用など、時代に合わせて新しい手法を取り入れており、活動成果を広く知らせ若い人たちを含めてそれらの活用の可能性を広げている。こうしたことが進めば、参加者の年齢的な偏りや地域的な偏りといったことも改善していくものと考えられ、今後とも、国立女性教育会館という「場」の活用とともに、充実した事業の展開が期待される。

公共的な成果が高く求められ、かつ多くの情報開示のもとで、常に厳しい社会的評価にさらされやすいナショナル・センターの責務として、このような方向で引き続き多くの重要な事業を展開していくことへの期待はこれからいよいよ高まると予想される。こうした点をしっかり自覚して、さらなる各事業の発展に取り組むことが極めて重要である。

他方、時代の動きを常に敏感にキャッチして社会の要請に応えうる新たな事業に果敢にチャレンジしていく積極的な姿勢とともに、効率的な業務運営に努めつつ、男女共同参画の促進を多くの関係機関との連携・協働をとおして多方面に広げていこうとする中核的拠点施設としての役割意識は、明確に会館の存在意義を高めるものとなっている。

また、効率的な施設運営という要請に対し、PFI化によって事業モニタリングが主たる会館の業務と変更されたことは、その結果を見る限り、会館が、事業の充実に向けてより専念しやすい体制を構築する上で、有意義な業務転換であったと改めて評価できる。

引き続き、事業モニタリングを通して効率的運営への努力を継続しつつ、本来的事業への取組を一層充実させていく方向をしっかりと打ち出していくことを強く望む。

4 事業別評価

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成
年度計画の項目 (I-1-(1)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成 ①地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉

事業名	地域における男女共同参画推進リーダー研修 〈女性関連施設・地方自治体・団体〉
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員、係員 計 3名

年度実績概要		
1. 趣 旨	地域の男女共同参画を推進するリーダーとして必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワークの活用力向上等、高度で専門的な内容の研修として実施した。	
2. 実施概要	「多様な生活スタイルを可能にする働き方改革」をテーマに実施。前半は2題の基調講演と関係府省の施策説明により、男女共同参画の最新の動向と多様な価値観の尊重について理解を深めた。後半は地域連携による女性活躍推進を軸とした分科会を課題別・コース別と2回展開、全国からの好事例の報告と参加者同士によるグループ討議により、現場に戻ってから取り組むべき課題について共有した。	
3. 開催期日(場所)	平成29年6月7日(水)～6月9日(金)2泊3日 会館	
4. 研修内容の分析	会館初の試みとして、事前研修にeラーニング講座を実施。新任者/ベテランを問わず、男女共同参画の土台をあらためて学ぶとともに、ICT活用となる機会を提供した。また3日間の研修では、参加者が主体的に学べるよう講義とワークショップを組み合わせるなどプログラムを工夫した。	
5. 研修対象者の厳選	全コースにおいて、参加者の決定にあたって実際の業務・活動内容の確認を行うなど、基幹的な指導者を厳選した。また全国幅広く参加を得た。	
6. 課題の厳選	働き方改革における組織文化や無意識の偏見、新たな地域連携など、男女共同参画における最近の動向やキーワードを取り上げた。また分科会の設定では、参加者の多様な属性・ニーズ・課題に対応した。	
実績を裏付けるデータ		
1. 参加者の概況	参加者：145名(女性111名、男性34名)・定員120名・応募者151名・応募倍率：125.8% 内訳：女性関連施設管理職コース67名、地方自治体コース52名、団体リーダーコース26名	
2. 地域バランス	北海道・東北15名(10.3%)、関東59名(40.7%)、甲信越8名(5.5%)、北陸・東海22名(15.2%)、近畿13名(9.0%)、中国・四国11名(7.6%)、九州・沖縄17名(11.7%)	
3. 主な意見・感想等	<ul style="list-style-type: none"> 時代のニーズに即したテーマを中心に上げられており、参考になった。 今年度から現在の部署に就き、不安で見通しが持てずにいたが、幅広い研修内容で今後の自分の取組方についても考えることができた。 	
4. 成果の活用	講演1題をNVECのYouTubeチャンネルに登録、研修参加者以外も広く視聴できるように一般公開した。	
事業実績		
指標	H28	H29
満足度(%)	93.8	94.8
高い満足度(%)	43.0	31.0
フォローアップ調査(有用度)(%)	100.0	99.2

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	B	B	A	

適時性：アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）などの新しい切り口を紹介しながら、男女共同参画の視点での働き方改革を具体的に進めるための方策を示すことができた。

独創性：女性関連施設・地方自治体・民間団体の三者が全国規模で一堂に会する研修であり、調査研究や政府代表団の一員としての国連女性の地位委員会報告などはナショナルセンターである会館だからこそ可能となるプログラムである。

発展性：事例報告者は先進事例や今後の展開が期待できる事例を選出した。さらに参加者同士の情報交換や交流の場から、その後の講師依頼や連携事業の実施につながり、新たな協働関係の構築のきっかけとなった。これは多様な地域及び主体の参加者が一堂に会する利点である。

効率性：事前研修をeラーニングに切り替えることで、参加者は自分自身のペースで時間を有効活用して学ぶことができた。実施側も参加者の学習状況を事前に把握することで、柔軟なプログラム提供ができるとともに、半日分のプログラムを省略でき、当日の運営をスリム化することができた。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	フォローアップ調査			
判 定	B	A			

○プログラムの満足度
満足度 94.8%（非常に満足 31.0%、満足 63.8%）
【昨年度：満足度 93.8%（非常に満足 43.0%、満足 50.8%）】
<目標：満足の評価 90%、高い満足の評価 45%>
高い満足の評価は目標値に満たないが全体評価は越えており、講演 2 題の高い満足度が 48.7%、54.3%と高い評価を得ていることから、総合的に B と評価した。

○フォローアップ調査（平成 30 年 1 月実施）
有用度 99.2%（非常に役立った 45.0%、役立った 54.2%）
【昨年度：有用度 100.0%（非常に役立った 52.3%、役立った 47.7%）】
<目標：肯定的な回答 80%>
目標値を 120%達成しており、「仕事や活動に直接的に活用できる」との評価が全体の 58.3%（団体リーダーコース 68.2%、女性関連施設管理職コース 68.0%）であり、「仕事や活動に応用」24.2%、「自分自身の参考になる」17.5%と、回答者すべてから、その後の研修成果を何らかの形で活用している回答を得たため、総合的に A と評価した。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	女性関連施設・地方自治体・民間団体などを地域で男女共同参画を推進する主体と位置付け、高度で専門的な研修と情報交換の場を継続的に提供している本研修は、対象者にとって基幹的研修のひとつとして認知されている。参加者から満足度 94.8%の評価も得ているが、昨年度基調講演（高い満足度 70.5%）のように突出して高い評価を得たプログラムがなかったことが、今回の高い満足度に対する評価に影響していると思われる。しかしその後のフォローアップ調査では回答者から 45%の高い有用度の評価を得ているとともに、組織内での「研修内容の報告説明」92.4%、「具体的な事業の企画・運営への指導・助言」31.9%、「地域や他機関への指導・助言」26.1%など、研修成果を組み合わせると現場で実際に活用しており、組織内や地域への波及効果が十分あったと評価できるため、B と評価した。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
行政の初任者から長年男女共同参画に携わっているセンター管理職や地域リーダーまで、好評であったため、eラーニングによる事前研修は次年度も実施する。次年度は第 4 次中期計画の中間年にあたることから、各分野の取組の成果をレビューし、さらなる推進に向けての課題を洗い出す視点からテーマを構築することも考えられる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-1)(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成
年度計画の項目 (I-1-1)(1)②)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成 ②学習オーガナイザー養成研修

事業名	学習オーガナイザー養成研修	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員、客員研究員(2)、係員	計5名

年度実績概要
<p>1. 趣旨 男女共同参画の基本理念や取組の意義、社会状況や現代的課題について把握し、個人の課題と社会的課題のつながりについて整理するとともに、学習方法や評価など事業運営に関する必要な理論と実務を学ぶ。</p> <p>2. 実施概要 1 日目は「学習オーガナイザーとはなにか」と、そのツールとして会館が開発した「プログラムデザイン」の説明に続き、基調講演「男女共同参画の基礎的理解を深めるために」を実施。その後、ジェンダー統計から社会課題を把握し、参加者自身が所属する地域の課題を探った。2 日目は、過去の研修修了生2名を講師に迎え、地域の課題をいかにすくい上げ解決を目指す学習の場を構築したかについての実践例を共有した上で、地域の男女共同参画課題解決に向けたプログラム試案を作るグループワークを行った。講師から、社会的土台をつくりながら自身のキャリアも構築しており、「位置」と「役割」の重要性についても言及。また、講義「協働型学習の理論・方法」「男女共同参画の視点に立った事業計画を考える」から事業企画実施におけるノウハウを磨いた上で、プログラム試案を作成した。最終日は作成したプログラム試案をブラッシュアップ、中間発表を行った。発表に対して出された企画委員の厳しいコメントや他の研修生からの意見を踏まえ、プログラムには更なる修正が施され、「働く女性への支援」「意思決定の立場にある男性の意識改革」「介護男子を切り口に男女共同参画意識をつくる」等のプログラムデザインを完成させた。</p> <p>3. 開催日時(場所) 平成30年1月18日(木)～1月20日(土)2泊3日 会館</p> <p>4. 研修対象者及び課題の厳選 研修対象者は、男女共同参画推進に係る事業の企画・実施経験を有する職員等とし、きめ細かな学習支援とコメントができるように定員数を30人に絞っている。「男女共同参画の視点に立った地域づくり」を中心テーマに据え、個人的課題と社会の課題を結びつけ、社会的土台づくりをすることの重要性のもと「プログラムデザイン」作成へとつなげることができた。</p>

実績を裏付けるデータ												
<p>1. 参加者の概況 (1) 参加者：38名(女性33名、男性5名)、定員：30名、応募者数：43名、応募倍率：143.3% (2) 地域別：北海道・東北3名(7.9%)、関東12名(31.6%)、甲信越5名(13.2%)、北陸・東海3名(7.9%)、近畿4名(10.5%)、中国・四国6名(15.8%)、九州・沖縄5名(13.2%) (3) 所属：センター10名(26.3%)、地方公共団体14名(36.8%)、任意団体6名(15.8%)、法人3名(7.9%)、社会教育施設1名(2.6%)、大学・研究員1名(2.6%)、その他3名(7.9%) (4) 役職：管理職・役員13名(34.2%)、職員21名(55.3%)、メンバー・会員4名(10.5%)</p> <p>2. プログラムの普及 直後のアンケートにおいて、参加者が「研修で学習したことをもとに実際に地域で事業を展開する予定でいる」72%、「検討する」25%と回答。全体の97%が地域で実践できる内容と回答している。また、過去の研修修了生が研修での学びを実践に結びつけた活動について事例報告を行うなど、学びの循環が見られる。</p> <p>3. 主な意見・感想等 ・体系的な学びと実践的な内容が身についた。また講座を行う意義と役割について理解できた。プログラムデザインによる講座の見える化ができることの意味は大きい。 ・個の課題を社会の土台づくりとして描いていく考え方が大変重要であることを実感した。</p>												
事業実績												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足度(%)</td> <td>96.3</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>高い満足度(%)</td> <td>77.8</td> <td>65.7</td> </tr> <tr> <td>フォローアップ調査(%)</td> <td>80.0</td> <td>未実施</td> </tr> </tbody> </table>	指標	H28	H29	満足度(%)	96.3	100.0	高い満足度(%)	77.8	65.7	フォローアップ調査(%)	80.0	未実施
指標	H28	H29										
満足度(%)	96.3	100.0										
高い満足度(%)	77.8	65.7										
フォローアップ調査(%)	80.0	未実施										

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	B	A	B	

適時性：社会における活動や個人の生き方が多様化する中で、固定的な性別役割分業にとられない制度・慣行の構築が必要である。昨年度の個人のキャリア開発の視点からさらに広げ地域づくりとした。男女共同参画の視点に立った地域の土台を作る人材の育成は時宜に適っている。

独創性：「学習オーガナイザー」の定義付け及び「プログラムデザイン」は、会館独自で開発し作り上げたものである。また、調査研究の知見や研修事業での成果のもとに構築されたプログラムとなっている。

発展性：地域における男女共同参画研修プログラムを企画する上で、ジェンダー統計を盛り込むことの意義と効果を実感した修了生により、プログラム相談や会館職員の講師派遣の相談を受けている。また、プログラムデザインを活用することで、企画が通った、予算を獲得したという声も多数届いている。

効率性：プログラム内容・研修の趣旨・方向性は確立しつつある。企画委員と当日講師を兼任することで、3回の会議で共通理解を図ることができ、時間的及び予算的にも効率よく進めることができた。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	フォローアップ調査			
判 定	A	30年度7月実施予定			

○プログラムの満足度
満足度 100%（非常に満足 65.7%、満足 34.3%）
【昨年度：満足度 96.3%（非常に満足 77.8%、満足 18.5%）】
<目標：90%以上の研修参加者からの満足、45%以上からの高い満足>
満足度は 100%、年度計画の 90%を 111%達成のため B に値する。しかし、高い満足度は 65.7%で、目標の 45%を 120%以上達成しているため A であり、総合として A 評価とする。

○フォローアップ調査
6か月後（平成 30 年 7 月）実施予定。
【昨年度：有用度 80%（とても役立っている 30%、役立っている 50%）】
<目標：80%以上の肯定的な回答>

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	女性関連施設において研修を企画・実施する職員の資質向上の機会がほしいという要望に応え、男女共同参画を推進するための喫緊の課題に対する学習プログラム開発を行い、本格的実施 2 年目となった。女性関連施設の職員だけでなく行政担当者の参加も増え、また管理職も多く、中核的な役割を担う人材向け研修としての本研修に対する期待の高さも見られた。今年度は、個人のキャリア開発の視点から、社会的土台づくりの重要性のもと、「男女共同参画の視点に立った地域づくり」へと広げて実施。研修自体を「基点・基軸の形成」→「企画力・実践力の形成」と流れを設定し、実際に作成する企画案「プログラムデザイン」と本研修をオーバーラップさせることで、研修生の学習力を高めることもできた。個々のプログラムにおいても、有用度や満足度が 100%（無回答を除く）となるものが 4 割。また、研修をもとに「地域課題解決に向けた事業展開」が 72%、「検討する」が 25%と、研修を各地域への展開に生かすことができている。さらに、「研修を直接業務に活用したり応用したりできる」は 94.6%であった。本研修は適切なものであり、ねらいを十分に達成できているといえる。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
3 日間の研修がタイトなものとなっているため、プログラム内容の検討をしていく。 「課題の共有」「学習理論」の部分において、前後のプログラムとの一貫性のあるものとなるようにしていく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-1)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成
年度計画の項目 (I-1-1) ③	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成 ③企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

事業名	企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員、係員、客員研究員(2)	計5名

年度実績概要		
<p>1. 趣旨 企業における女性の活躍推進を図り、男女共同参画社会の形成に資するため、企業におけるダイバーシティや女性の活躍促進の推進者、管理職、リーダーを対象とした学習の場を提供した。</p> <p>2. 実施概要 1日目は、日産自動車株式会社取締役の志賀俊之氏から「女性活躍を進めるための組織風土とは」をテーマに、国・企業・個人の3つの立場から、女性の活躍をなぜ行うのかについて、統計資料やご自身の体験談を交えたお話をいただいた。続いてNVECの研究員が、新入社員の5か年計画の追跡調査をもとにキャリア意識とその変化について紹介。パネルディスカッションでは、初めに、ニッセイ基礎研究所が「なぜ女性活躍が社会として求められているのか。」について解説。その後、企業3社のパネリスト及びコーディネーターから、「女性も男性も働きやすい職場環境をつくりだす取組」について仕事と育児・介護の両立支援や長時間労働は正に向けた具体的な取組の報告があった。 2日目は、「アクションラーニング」の講義とその手法を用いたグループワークが実施され、参加者それぞれが抱える課題の共有と解決に迫った。</p> <p>3. 開催日時(会場) 平成29年10月19日(木)放送大学東京文京学習センター、10月20日(金)1泊2日 会館</p> <p>4. 後援 経済産業省、厚生労働省</p> <p>5. 講師の選定 毎年学者だった基調講演を志賀俊之氏(日本を代表する上場企業のトップ男性)に依頼し、女性活躍推進や働き方改革に取組む意義、具体的な取組事例や女性活躍推進を進めるトップの姿勢を語っていただいた。</p> <p>6. 影響評価 参加者から無作為にモニターとして11名を抽出し、研修後の活用や普及について調査をし、回答者から100%の有用度を得た。</p>		
実績を裏付けるデータ		
<p>1. 参加者の概況：</p> <p>(1)参加者：114名(女性：92名、男性：22名)・定員80名・応募者数：128名・応募倍率：160.0% 【28年度：106名(女性：89名、男性：17名)・定員：80名・応募倍率：147.5%】</p> <p>(2)地域別：北海道・東北1名(0.9%)、関東96名(84.2%)、甲信越1名(0.9%)、北陸・東海7名(6.1%)、近畿3名(2.6%)、中国・四国3名(2.6%)、九州・沖縄3名(2.6%) 【28年度：北海道・東北2名(1.9%)、関東88名(83.0%)、北陸・東海8名(7.5%)、近畿6名(5.7%)、中国・四国2名(1.9%)】</p> <p>2. 主な意見・感想等 ・非常に、中味の濃い内容だった。女性活躍を推進する男性上司の方々にも参加して欲しい内容だと感じた。 ・女性活躍から、男性の働き方、働き方改革にテーマを広げ、最新の情報をいただいた。(3年連続参加)</p>		
指標	H28	H29
満足度(%)	93.8	98.1
高い満足度(%)	43.3	39.3
モニター調査(有用度)(%)	100	100

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	A	A	B	B	
<p>適時性：「女性活躍推進」「働き方改革」が国の経済戦略として位置付けられる中、ダイバーシティ、ワーク・ライフ・バランスを含めた具体的な方策を提供する時宜を得た取組である。</p> <p>独創性：男女共同参画の視点を正面に据えた上での女性活躍推進プログラムは独創的といえる。また、情報交換の場やアクションラーニングによるグループワークをふんだんに取り入れたプログラムにより参加者同士の業種を超えたネットワークが形成されている。</p> <p>発展性：企業の担当者が主対象者ではあるが、社会全体において女性活躍推進が進められる中、地方自治体、独立行政法人等の他業種からの積極的な参加が見られ、これまでの研修の成果が参加者によって拡散され、広く参加者を得る結果となっている。企業コンサルタントの参加も見られるようになり、企業における女性活躍促進に向けた新たなルートが見込まれる。</p> <p>効率性：1日目を東京会場とすることにより、講演、パネルディスカッションだけでも受講したいという参加者には利便性が図られ、参加者が増加しており、集客の効率性を高めることができた。また、放送大学の協力により、会場使用料を負担することなく事業を実施できた。</p>					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	モニター調査		
判 定	B	A		
<p>○プログラムの満足度 満足度 98.1%（非常に満足 39.3%、満足 58.8%） 「高い満足」の率が目標である 45%に満たないが、満足度は目標値の 90%を越え、かつ、基調講演の満足度 99.1%（とても満足 59.8%、満足 39.3%）と高い評価を得ているため、評価を B とした。 【昨年度：満足度 93.8%（非常に満足 43.3%、満足 50.5%）】 <目標：90%以上の満足、45%以上の非常に満足></p> <p>○モニター調査 有用度 100%（非常に役立った 50%、役立った 50%） モニター調査目標値の 120%以上の肯定的な回答を得ているため評価を A とした。 【昨年度：有用度 100%（非常に役立った 66.7%、役立った 33.3%）】 <目標：80%以上からの肯定的な回答を得る></p>				

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	<p>企業セミナーの集客については、応募倍率 160.0%と定員を大きく上回った。平成 25 年度からの実績による本セミナーの認知度並びに女性活躍推進法の施行により企業等のニーズが高まったためと思われる。ホームページや企業に対する一般的な広報に加え、これまでの参加者にメールで案内を行うとともに、ダイバーシティ経営企業 100 選をはじめ、女性活躍促進に熱心に取り組んでいる企業に対し、ピンポイントできめ細やかな広報を行った。</p> <p>さらに、本セミナーの特徴である男女共同参画の視点を持った内容とアクションラーニングによる実践的グループワークをメインにしたプログラムが評価された結果と思われる。</p> <p>満足度も 90%を達成しているが、高い満足度が 45%については下回ったが、その後のモニター調査では有用度 100%を得、かつ非常に役に立ったが 50%を超えたことから、職場の業務においてその有効性を実感したものと推測される。また、毎年参加がみられる企業もあり、本セミナーの有用度が伺われるなど、十分に狙いを達成できたと思われる。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>アクションラーニングについては、参加者から即効性があると大きな反響があり、今後も丁寧な講義と、グループワーク体験を提供できるようにする。質の高いグループワークを提供するため、会館職員によるファシリテーションは不可欠であり、AL コーチ（ファシリテーター）に関する研修を、担当職員を中心に実施した。今後も継続的に研修を実施していく必要がある。参加者からは、参加者の地域・属性では招くことができない講師陣の講演を聞くことができ、会館ならではのセミナーであり、大変有意義であるとの意見をいただいている。今後も講師の選定に向けた情報収集を行い、時宜に見合った内容を検討していきたい。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-1)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成
年度計画の項目 (I-1-1)④	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成 ④男女共同参画推進フォーラム

事業名	男女共同参画推進フォーラム	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員、係員(2)	計4名

年度実績概要		
1. 趣旨 男女共同参画を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティ、女性の活躍を推進する担当者等が一同に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修。組織分野を超え、連携・共同して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成も図る。		
2. 実施概要 1日目は長年男性が中心的存在であり、指導的地位の女性が少なかった柔道界で選手として、指導者として活躍されている山口香氏による特別講演「変わる勇氣、変えるアクション～女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る～」を開催。すべての人が男女にとらわれず互いの価値を見出し、違いを尊重すること、勇氣を持って声を発し、具体的に行動することが暮らしやすい社会を創るために重要だと語られた。 2日目の40周年記念シンポジウム「自分が変わる、社会を変える～明日に向けてのロードマップ～」では、会館理事長の内海房子より会館の40年の歴史が語られ、大きく変化する社会で、2人のパネリストからは女性の活躍をすすめるためには標準的働き方を変えていくことが重要であり、男性女性に限らず個々の能力や可能性が伸ばせる社会を創る必要があると結んだ。最終日は、「アッラーと私とスカーフと」の映画を上映し、女性監督が舞台挨拶及び質疑応答を行ったことは非常に好評であった。また期間中、一般公募団体及び個人によるワークショップ48件、会館提供ワークショップ2件、パネル展11件を実施。日頃の各団体の専門分野における研究成果や実践活動報告、交流などを参加型で実施した。この他会館ボランティアによる交流プログラムなどを実施し、来館者の交流を支援した。全国各地から様々な分野・活動・年代の参加者が集い、情報の共有と交換を行った。		
3. 開催日時(場所) 平成29年8月25日(金)～8月27日(日)2泊3日 会館		
4. 研修対象者の厳選および課題の厳選 一般公募による募集ワークショップのテーマ設定を第4次男女共同参画基本計画に沿った内容とし、実施団体の選定については外部有識者を交えた「ワークショップ選定委員会」を開催した上で厳選した。		
5. 参加者の地域バランス：参加者の約7割が関東だが、北海道から沖縄県まで全国からの参加者を得た。		
6. 大学や企業等、次世代を担う若者からの参加促進状況 参加者全体に対する「研究者・大学教員」の割合は、5.9%(H28年度6.1%)「会社員・企業関係者」の割合は、5.6%(H28年度3.5%)と少ない割合であるが、募集ワークショップやパネル展示にも出展し、大学やダイバーシティ先進企業などにおける男女共同参画推進の成果報告の場として活用されている。参加者として、30代以下が15.4%(昨年度10.9%)、学生が3.9%(H28年度2.2%)と少しずつではあるが増えている。これは、若者を呼び込むため、CSWへのインターンシップの成果発表でワークショップに登壇した団体に継続的な参加を依頼、大学のゼミ研修として学生に参加してもらうよう努力したこと、会館提供ワークショップでユースを対象としたプログラムを入れた成果である。教育現場との連携の可能性も少しずつ広がっている。		
実績を裏付けるデータ		
1. 参加者の概況 (1) 参加者：1,039名(女性857名、男性152名、無回答30名)定員1,000名、応募倍率103.9% (2) 年代別：10代25名(2.4%)、20代52名(5.0%)、30代83名(8.0%)、40代108名(10.4%)、50代185名(17.8%)、60代493名(47.4%)、無回答93名(9.0%) (3) 地域別：北海道・東北52名(5.1%)、関東708名(68.9%)、甲信越101名(9.8%)、北陸・東海36名(3.5%)、近畿46名(4.5%)、中国・四国21名(2.0%)、九州・沖縄61名(5.9%)		
2. プログラムの普及 ・会館でワークショップをおこなったことで他県での開催依頼や他県への講師依頼があった。 ・CSWへ参加したYouth同士がつながり会館提供ワークショップ参加へとつながった。 ・会館で登壇した講師が全国へとつながっている。		
事業実績		
指標	H28	H29
満足度(%)	92.3	93.6
高い満足度(%)	45.5	44.5
フォローアップ調査(有用度)(%)	100.0	94.6

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判定	B	B	A	B	

適時性：第4次男女共同参画基本計画の重要課題である「男性中心型労働慣行等の変革」について昨年取り上げたが、今年度は一歩進め、男性のみならず、男女ともに暮らしやすい社会を創造するためへの変革と、社会を変えるためのアクションをテーマとし、特別講演、シンポジウム、映画上映を行った。誰もが能力を発揮でき、社会に向けて一人ひとりが声をあげアクションを起こし、社会を変える視点を提示した。

独創性：男女共同参画に取り組む女性団体や研究者、女性センター職員をはじめ、女性活躍やワーク・ライフ・バランス、キャリア教育等に興味をもつ行政・企業・大学・団体など、幅広い分野から1,000名を超える関係者が全国規模で一堂に会する機会である。平成8年度から長年にわたって実施されている事業は全国でも数少なく、夏の風物詩として男女共同参画リーダーの間で認知されている。

発展性：CSWに参加した若者が中心になり企画・運営した会館提供ワークショップを行い、社会で若者が抱える生きづらさについて議論を展開した。このワークショップは来年も継続し、並行して新しい層の開拓をする試金石として今年度開催した。非常に好評だったので来年度は若者だけでなく多世代で意見交換・情報共有できる場の設定や、若い世代の参加者も増やしていきたい。また、男女共同参画に関する様々な分野・テーマのワークショップやパネル展示が展開され、幅広い手法での情報収集・交換が行われ、地域に戻った学習者の活動の幅を広げることが期待される。フォローアップアンケートでも示されるように、全国の仲間とのネットワークづくりや、次への活動へと発展している。

効率性：東武鉄道株式会社の協力を得て東武東上線各駅へのポスター配布を行い、近隣へはボランティアの方がちらし配布を行い、効率的な広報を行うこともできた。

2. 定量的評価

観点	プログラムの満足度	フォローアップ調査		
判定	B	B		

○プログラムの満足度
93.6%（とても満足した44.5%、満足した49.1%）
【昨年度：満足度92.3%（とても満足した45.5% 満足した46.8%）】
特別講演：満足度94.2%（とても満足66.7%、満足27.5%）
※高い満足度は目標にわずかに届かなかったが、満足度は90%以上であり、特別講演の数値が目標値より大幅に超えていたのでB評価とした。
<目標：90%以上の満足、45%の高い満足>

○フォローアップ調査有用度94.6%（非常に役に立っている42.9%、役に立っている51.7%）
【昨年度：有用度100.0%（非常に役に立っている47.1% 役に立っている52.9%）】
<目標：80%以上からの肯定的回答を得る>

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	プログラムの満足度、フォローアップ調査ともに目標を達成した。また事業実施にあたり関係機関・団体など多様な分野からの協力及び参画があったことは、会館が培ったネットワークの成果である。プログラム内容も、特別講演、シンポジウム、映画上映とも、参加者にこれまでの男女共同参画の歩みを伝えつつ、男性女性誰もが能力を発揮でき、社会に向けてアクションを起こし、社会を変える視点を提示し、参加者からの評価も高くよって本研修のねらいは十分達成することができた。 課題としていた新規ワークショップ団体の開拓は、職員が各地でPRしたり、県内の女性チャレンジ団体など広報先を増やしたこともあり、募集ワークショップは全59団体となり、昨年度より8団体の増、そのうち新規団体も20団体（昨年は7団体）となり成果があがった。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
男女共同参画推進の次世代リーダーとなる学生や若手研究者等の参加を得られるよう継続的にアプローチしていく。来年度は木～土曜日という日程であることから土曜日に30代以下の若い層・及び大学生（リカレント教育含む）を呼び込む工夫を行う。具体的には、土曜日に若者が企画するワークショップを集めることで若い層の集客、土～日での大学（大学院）のゼミ合宿の開催の勧誘、土曜日午後を映画に変え「多世代ワールドカフェ」を開催し若者の課題について多世代で共有する時間を取る予定である。同時に新規ワークショップの数も引き続き増やしていけるよう力を注いでいく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (2) 次代を担う女性人材の育成
年度計画の項目 (I-1-(2)①)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (2) 次代を担う女性人材の育成 ①女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会いへ～

事業名	女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会いへ～	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員、係員(2)	計4名

年度実績概要		
<p>1. 趣旨 女子中高生の理系進路選択支援を目的として、学生及び身近な支援者である保護者・教員を対象に、科学技術の楽しさと多様な分野で活躍する女性たちの姿に触れる機会を提供する。</p> <p>2. 実施概要 女子中高生を対象に、理系の分野で活躍している先輩のキャリア講演、16のコース別実験・実習、各学会や企業等40団体によるポスター展示・キャリア相談、国際交流、等を実施。 また学生企画として、理系の道に進んだ輝く先輩の話聞き、思いや考えをシェアする「シェアトーク」、理系の学びや進路について、多様な理系分野の様々な年代の人々と話し合い具体的な進路を模索し「タイムライン」としてまとめる「キャリアプランニング」などを行った。 保護者・教員向けには、夏学0Gによる講演、大学・企業等の研究者・技術者、学生ティーチングアシスタント(TA)との座談会等を開催した。 研修終了後も、メンター制度による相談活動、多くの人に研修内容を広めてもらうアンバサダー活動、ロールモデル集の配布など、理系進路選択への継続した支援を行った。 さらに、国際会議やシンポジウムで紹介、地方講演等も展開しプログラムの普及を行った。</p> <p>3. 開催日時(場所) 平成29年8月5日(土)～8月7日(月) 2泊3日 会館</p> <p>4. 影響評価 本事業の成果が、実際の進路選択決定にどのように影響しているのか、現在高校3年生となっている今までの参加者を対象に、その進路先についてアンケート調査を実施している。回答者の66.7%が進路決定にあたり「本事業が影響した」と回答している。また、進路先の学系統は、76.2%が理系である。</p> <p>5. 同様の事業を行う他機関への影響 本事業は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が行う「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」の受託事業である。「宿泊型研修」「キャリア講演」「実験・実習」「保護者向け講義」「理系進路を選択した女性の先輩との交流」「国際交流」など、JSTの同事業を受託する他機関が取り組んでいる内容をすべて網羅するプログラムとなっている。</p>		
実績を裏付けるデータ		
<p>1. 参加者の概況 参加者：女子中高生103名、応募者数110名、応募倍率110%、 保護者教員19名、応募者数22名、応募倍率44%</p> <p>(1) 学年別：中学3年生40名、高校1年生30名、高校2年生28名、高校3年生5名、保護者8名、教員11名 (2) 地域別：北海道・東北17名(13.8%)、関東56名(45.5%)、甲信越15名(12.2%)、 北陸・東海16名(13%)、近畿6名(4.9%)、中国・四国4名(3.3%)、九州・沖縄9名(7.3%)</p> <p>2. プログラムの普及 (1) ジェンダーサミット10：国際会議に参加し夏学(研修)の様子を実行委員長・学生実行委員長が紹介。 (2) リケジョ in 香川：地方での理系進路支援プログラム(保護者・教員向け)に実行委員長と会館職員が講師として参加。 (3) 文京区での講義：夏学(研修)実行委員が地域でミニ実験・講義を実施。 (4) ミニ夏学：夏学0Gが主体となり、長野県で「ミニ夏学」を2日間で開催(平成30年3月末開催)。</p>		
事業実績		
指標	H28	H29
満足度(%)	99.1	100.0
高い満足度(%)	83.2	90.3
有用度(%)	95.1	95.9

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性		
判 定	B	B	A		

適時性：理系進路選択支援として、キャリア講演、実験・実習、キャリア相談、国際交流学生企画によるキャリアプランニングなど、様々なプログラムを実施した。今まで見えにくかった理系分野を幅広く紹介することで、女子中高生の視野を広げることに繋がった。

独創性：単に理系分野の面白さを伝えだけでなく、女性研究者・技術者や女子大生・大学院生・社会人といったキャリアモデルとの交流や、ロールモデル集の配布、研修終了後のメールでの相談などを通じ、女性のキャリア形成をいかに進めるかという視点が盛り込まれた企画を提供している。全国規模で参加者（30の都道府県から参加）が集まり宿泊を伴い研修を行う事業は他に類を見ない。

発展性：参加者が理系大学に進学したのち学生 TA となり、その後、講師となり自分のキャリアについて紹介し最終的には企画委員となり、理系進路を支援していくといった活動キャリアを積み上げていくつながりが確立している。また、国際会議、地域展開に対するプログラム指導や講師、ミニ夏学実施など本事業の成果を活用した展開が広がっている。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	プログラムの有用度			
判 定	B	A			

○満足度：女子中高生 100%（非常に満足 90.3% 満足 9.7%）
【昨年度：満足度 99.1%（非常に満足 83.2%、満足 15.9%）】
保護者 100%（非常に満足 100%） 教員 100%（非常に満足 62.5% 満足 37.5%）
女子中高生・保護者・教員すべての参加者の満足度が 100%となっている。非常に満足は目標の 80%は超えているがその 120%に達していないため B とする。
<目標：95%以上の満足、80%以上の高い満足>

○有用度：女子中高生 96%、保護者 100%、教員 96%であり、目標の 120%を達成したため A とする。
【昨年度：女子中高生 有用度 95.1%】
<目標：有用度について 80%以上からの肯定的回答を得る>

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	本事業は、今年で 13 回目の開催となる。理系進路の先に広がる多様なキャリアパスの提示、理系キャリアの具体像の提示、自らのキャリアや理系の面白さについて考え発信することを促すことで女子中高生が理系キャリアについての知識を獲得したうえで、自らの意思に基づいて進路を選択できるようなプログラムの実施ができた。男女共同参画学協会連絡会との連携、参加者から学生 TA へとスパイラル的な組織の成長が確立してきている。企画の中心となる委員や学生 TA 等総勢 170 人を超える当日スタッフにより運営され、継続によるノウハウの積み上げが脈々と活用されている。参加者の満足度も 100%と極めて高く、研修実施状況は順調である。広報活動としても、国際会議や国内シンポジウム、地方での講演などを行ってきた。また、本事業を発展させ、夏学 0G により「ミニ夏学」を地方（長野県）で 3 月末に開催することとなった。女性のキャリア形成の視点を持った理工系女子育成プログラムとしての地位を確立している。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
○JST の受託を受け取り組んできたが、平成 30 年度からは「女子中高生夏の学校実行委員会」と会館との共催事業として実施する予定。
○JST 受託のため様々な要望が取り入れられ、本来の研修目的や内容より大きく拡大されてきた部分もある。そのため、女子中高生対象の研修であるが、プログラムが 22 時まで組まれている。研修自体は大変充実しているがハードなものとなっている。そこで、目的を再確認する中で、学習プログラムの内容を見直し、企画を立てる必要がある。
○会館での実施のみならず、地域実施に対するプログラム相談・講師派遣の検討を視野に入れていく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (2) 次代を担う女性人材の育成
年度計画の項目 (I-1-(2)②)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (2) 次代を担う女性人材の育成 ②女子大学生キャリア形成セミナー

事業名	女子大学生キャリア形成セミナー	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員、係員、客員研究員	計4名

年度実績概要		
1. 趣旨 自らのキャリアを模索する女子大学生を対象に、①仕事をもち、自らの人生の選択権をもつことが豊かな人生設計に重要であること(自主自立)、②女性の人生設計に関わる様々な出来事をあらかじめ知り、長期的な視点を持つこと(ライフ・プランニング)、③キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながること(社会に主体的に参画・変える視点)の3つを学ぶ機会を提供し、男女共同参画社会実現に向けて、社会や組織における女性リーダーの育成を図る。		
2. 実施概要 「キャリアを考えることは人生を考えること」を主題に、1泊2日の合宿形式で実施し、人生を俯瞰した長期的視点からなる参加型、実践的プログラムとした。このセミナーの修了生であるOGが企画委員として準備運営に、当日は「見守り隊」として参画し、「学びの循環」を創出している。初日は、グローバル化する社会の中で必要な行動をテーマとした基調講演、3名の講師によるキャリアトーク、講師やセミナーを修了したOG企画委員を交え、自由な意見交換を行う夜の交流会を行った。2日目は、会館が実施した男女の初期キャリアに関する調査研究を用いた講義、ワールド・カフェの手法を用いた参加者同士のグループ討議を経て、キャリアシートを作成し、プランの発表を行った。		
3. 開催日時(場所) 平成30年2月17日(土)～2月18日(日) 会館 昨年は1日目を東京会場とし定員充足率を大幅に超えたが、移動に時間がとられプログラム全体として余裕がなかったため、今年度は、プログラムの充実、参加者の交流の促進など会館で行うメリットは大きいと判断し2日間とも会館にもどした。		
4. 共催：リーダーシップ111		
5. 広報の工夫 ①広報先を関東甲信、福島・宮城の国公立・私立大学に全国の国公立大学を加えた。結果、鹿児島、徳島、岐阜薬科大学など地方からの学生7名から申し込みを得た。 ②昨年度のセミナー内容をまとめた小冊子を作成、参加者の声なども掲載し広報資料に同封した。 ③会館のHP、Facebook、大学の図書館、生協や食堂など学生が集まるところにポスター掲示を依頼した。		
実績を裏付けるデータ		
1. 参加者の概況 (1)参加者：26名、定員30名、応募者数31名、応募倍率103.3% (2)所属別：国立大学8名(25.8%)、公立大学3名(9.7%)、私立大学20名(64.5%) (3)学年別：1年10名(32.3%)、2年9名(29.0%)、3年6名(19.4%)、4年5名(16.1%) 博士課程1名(3.2%)		
2. プログラムの普及 ・青森県立保健大学でプログラムの一部を使ったキャリアセミナーを一昨年度実施、今年度も継続して開催。		
3. 主な意見・感想等 ・普段は会えないような人生の先輩と近い距離で話をするすることで、将来への考え方、価値観を学ぶことができた。 ・OGや同年代の参加者とたくさん意見交換ができ、将来への不安や悩みが自分だけではなくと勇気が出た。 ・いろいろな人の話を聞き非常に刺激を受け、自分もひとりの人間として意思を持って行動していきたい。		
事業実績		
指標	H28	H29
満足度(%)	95.0	100.0
高い満足度(%)	75.0	88.5
有用度(%)	81.5	100.0

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	A	A	B	
<p>適時性:働く女性及び担当者レベルでの女性リーダーは増えてきているものの、組織において意思決定に関わる女性の割合はまだまだ低い状況である。グローバル化へと急激に変化していく世界の中で主体的・積極的に社会に関わりキャリアを重ねていく視点を持つことで、将来の女性リーダーを育成することは時宜に適っている。</p> <p>独創性:①共催団体の講師は、夜間交流会、2日目のグループワークにも参加し、2日間学生に寄り添い参加者のキャリア形成や内的キャリア（生きることで働くことの価値観）に関する理解をさらに深めている。 ②今期で5回目となる本セミナーは、過去の修了生がOG企画委員（今年度は7名）として、チラシ作り、企画、当日の運営及び「見守り隊」としてグループワークにも参画し参加者の学習を支援している。その姿に接した参加者からはOG企画委員を希望する者が年々増えており、今年は26名中13名が手を挙げている。また、学生の支援をOGとして体験することでOG自身の学びや気づきにもつながり、まさに「学びの循環」となっている。</p> <p>発展性:昨年度に本プログラムの一部を活用したキャリア支援セミナーが青森県立保健大学で開催され、会館からはプログラム相談やコーディネーターの派遣を行った。同大学では今年も継続した事業を実施。平成29年度も大分県庁と埼玉県東松山市役所から社会教育、人権教育の担当者がオブザーバーとして参加しており、プログラムの普及が期待される。いわき市の女性センターが地元のいわき明星大学と連携で行った「人材育成講座」修了生の中から、次世代を担うリーダー研修として、学生を1人センターの費用で当セミナーに派遣している。また、OG企画委員が4期にわたりつながり、年々参画の積極性も増し、高い発展性が見られる。</p> <p>効率性:パネリストは共催団体と会館職員で構成され、宿泊を伴う研修の利点を活かし、1泊2日参加者に講師、OG、職員が寄り添うことで、短い期間と最小限のスタッフで最大の効果と変容を与える効率的なセミナーである。</p>					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	プログラムの有用度			
判 定	B	A			
<p>○プログラムの満足度 100.0%（非常に満足88.5% 満足11.5%）【昨年度：95.0%（非常に満足75.0% 満足20.0%）】 どちらも達成したためB評価とする。 <目標：95%以上の満足、80%以上の非常に満足></p> <p>○プログラムの有用度 有用度100.0%（非常に有用84.6% 有用15.4%）【昨年度：81.5%】 120%達しているためA評価とした。 <目標：80%以上からの肯定的な回答を得る></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	初日がインプット、2日目のグループワークがアウトプットというプログラム構成になっており、自己理解・他者理解の深化、自己肯定感の向上、コミュニケーション、プレゼンテーション力アップ、参加者同士のネットワーク構築などを含む幅広い内容を2日間にデザインし、ジェンダーの視点を踏まえ、効果的なリーダー育成を行っている。また、目標とするすべての数値目標もクリアしている。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
会館で実施しているセミナーが、大学などにおいて実施されるような方向へ向けていきたい。プログラムの内容評価が高いことに加え、リーダーシップ111との共催や、パネリストが2日間を通じて学生の学習に寄り添う点、OG企画委員の参画などの特徴を有しており高い発展性が見られる一方、参加者の獲得と広報の工夫が課題となっている。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (3) 困難な状況に置かれている女性を支援するための人材の育成
年度計画の項目 (I-1-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施 (3) 困難な状況に置かれている女性を支援するための人材の育成

事業名	女性関連施設相談員研修	
担当課室	事業課	
スタッフ	事業課長、専門職員、係員	計3名

年度実績概要
<p>1. 趣旨 複雑・多様化する悩みに男女共同参画の視点から適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上に向けた専門的・実践的研修を実施する。</p> <p>2. 実施概要 女性相談の意義と役割、法知識、トラウマ・ケアなど、相談業務の基盤となる内容のほか、ストーカー事案の防止のポイント、女性が貧困に陥りやすいという社会構造などの最新情報を学ぶと共に、相談員自身が直面している課題と解決に向けた意見交換を行った。 分科会1では人間関係の悩みやDV被害、ひとり親家庭などの困難や課題を抱えた相談者にどのように対応し支援を行うかについて、課題整理や相談場面を想定したロールプレイを行い、実践的な知見とスキルを身につけた。分科会2では、相談者の自立に向けた地域・機関連携の事例報告を通じて、相談者の問題を解決するためにどのような機関に引継ぐことができるのか、今後の展開の可能性を探ると共に、参加者同士、日頃の相互の情報共有を図った。その他、男性相談、ストーカー被害、SNSに関するトラブルへの実際の対応の方法など、相談を受けるうえで必要な背景の理解、社会情勢、ニーズを捉えた現代的かつ社会的な問題も組み込んだ。</p> <p>3. 開催日時（場所） 平成29年7月4日(火)～6日(木) 2泊3日 会館</p> <p>4. 研修対象者の厳選 専門的かつ実践的な内容であるため、女性関連施設、NPO・民間団体、配偶者暴力相談支援センターに所属する現職の相談員（または支援員などの同等職）を対象者としている。本研修には例年多数の申し込みがあるため、公正な学習機会の提供という観点から、申込期間を段階的に設定し、初回参加者を優先して受け付けた、相談員のスキル向上を図るとともに、適正な規模での実施を行うことにした。</p>

実績を裏付けるデータ

1. 参加者の概況
(1)参加者102名（女性：100名、男性：2名）・定員80名 応募者数105名（定員に達したため期日前に締切）・応募倍率：131.3%
(2)施設区分：公設公営82名（80.4%）、公設民営13名（12.7%）、民設民営2名（2.0%）、 その他4名（3.9%）、無回答1名（1.0%）
(3)地域別：北海道・東北12名（11.8%）、関東36名（35.3%）、甲信越4名（3.9%）、 北陸・東海15名（14.7%）、近畿5名（4.9%）、中国・四国11名（10.8%）、 九州・沖縄19名（18.6%）
2. 主な意見・感想等
・どの講義の内容も、得たいと思っていた知識や考えであり、実際に役立つものであった。 ・他の機関の参加者と交流を深めながら、今後の相談業務に生かせる知識や情報を得ることができた。

事業実績

指標	H28	H29
満足度（%）	100	97.8
高い満足度（%）	64.1	67.7
フォローアップ調査（有用度）（%）	99.0	100

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	A	B	B	
<p>適時性：ストーカー事案の概要と被害防止のポイントや近年ニーズが高まっている男性相談に関する内容を取り上げたほか、女性を取り巻く貧困の現実と社会構造の理解を図った。グループワークを通して、参加者の持つ課題意識に応えることができた。</p> <p>独創性：男女共同参画の視点からの相談の意義と役割を考える講義は、参加者に新たな視点を与え、女性相談の本質的理解に役立っている。対象を女性関連施設の相談員、特に経験の浅い方にターゲットを絞り、第一線で活躍している講師陣による女性相談の総合的な視点を網羅する研修（講義とグループワーク）を2泊3日で効果的に行っている。全国からの参加者のネットワークづくりが可能なプログラムは「会館ならでは」と参加者から高い支持を得ている。特に、全国的なネットワークを活用して開催した本事業は、相談者をエンパワーメントするための力量を高める機会となり、相談者への総合的な視点を持つ独創性のある取組として評価できる。</p> <p>発展性：支援に役立つ法知識や関係機関との連携の方策と重要性、相談業務における実際の対応を想定した事例検討、相談員の技能・力量の向上と多岐にわたる相談事業への実践的な反映が期待できることから発展性のある取組と評価できる。また講師の所属は実績のあるNPO代表、弁護士、県警察など多岐にわたっており、今後参加者自身が連携する相手のモデルを示すことができた。</p> <p>効率性：対象者を絞っていることにより、効率的な広報・周知を行うことができた。</p>					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	フォローアップ調査			
判 定	A	A			
<p>○プログラムの満足度 満足度 97.8%（非常に満足 67.7%、満足 30.1%） 「高い満足」の目標値 45%を 120%達成しているためA評価。 【昨年度：満足度 100.0%（非常に満足 64.1%、満足 35.9%）】 <目標：90%以上の満足、45%以上の非常に満足></p> <p>○フォローアップ調査 有用度 100%（非常に役立った 50%、役立った 50%） 目標値 80%を 120%達成しているためA評価。 【昨年度：有用度 99.0%（非常に役立った 59.2%、役立った 39.8%）】 <目標：80%以上からの肯定的な回答を得る></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	<p>女性相談における意義と役割について、その背景と実際を学ぶプログラムを設けるとともに、「ストーカー事案の概要と被害防止のポイント」「男性相談」について取り上げた。課題へのアプローチに際しては、その社会的構造の理解や実際の支援に至るまで幅広く学べるような切り口となっている。</p> <p>また、「トラウマ・インフォームド・ケア」を取り上げ、相談員自身のメンタルヘルス、2次受傷の理解を図った。守秘義務を伴う業務に就く相談員にとって、全国的な規模で同じ立場の者同士が集まり共に学び語り合える本研修は、非常に貴重な情報交換とネットワークづくりの機会である。第一線で活躍している講師陣による女性相談の総合的な視点を網羅する研修（講義とグループワーク）と全国からの参加者のネットワークづくりが可能な会館の研修は高く評価されている。以上より、本プログラムは適切なものであり、ねらいを十分に達成できたといえる。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
講師や先進事例の選定にあたっては女性相談分野における第一人者に登壇を依頼しているが、実際の相談ニーズの多様化・複雑化を受け、次年度の企画にあたっては、企画委員会を立ち上げ有識者からの意見を参考に、より相談実務に寄り添った内容を盛り込むこととしたい。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-1-(4))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (4) 教育分野における女性参画拡大に向けた取組
年度計画の項目 (I-1-(4))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 1. 基幹的な男女共同参画及び女性教育指導者等の資質・能力の向上 (4) 教育分野における女性参画拡大に向けた取組

事業名	大学等における男女共同参画推進セミナー
担当課室	事業課
スタッフ	事業課長、専門職員、係員 計 3名

年度実績概要		
<p>1. 趣 旨</p> <p>「知の拠点」として地域に影響力を持つとともに、我が国の将来を支える人材を輩出する大学等における男女共同参画推進は非常に重要である。各大学の好事例と豊富なデータ分析による最新の動向を踏まえ、高等教育機関における男女共同参画推進上の課題を共有するとともに、解決方法を探る。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>基調講演では「社会、組織、大学の男女共同参画は進化しているか」と題し、第一次男女共同参画基本計画策定から現在までのプロセスと論点、今後の課題を整理した。パネルディスカッションは、学長経験者、男女共同参画推進室長等の立場から各校の取組と課題、組織改革をどう進めるかについて論じた。NWECによる新入社員の意識調査パネル調査報告では、大学等の関係者にとって卒業生のその後のキャリア意識を知る機会を提供した。2日目は、女性教育情報センター等の見学後、3校の事例報告をもとに、参加者同士が小グループとなり、自校の課題や取組、改善に向けて明日からの行動について共有した。キャンパス・ハラスメント防止に向けた講義では、現状と防止策について具体的な解説とアドバイスがあった。</p> <p>3. 開催期日及び会場 平成29年11月30日(木)～12月1日(金)1泊2日 1日目：筑波大学東京キャンパス文京校舎、2日目：会場</p> <p>4. 後 援</p> <p>一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、日本私立大学団体連合会、全国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会、独立行政法人国立高等専門学校機構</p> <p>5. 研修内容の分析</p> <p>講義・講演には弁護士や前男女共同参画会議委員・監視専門調査会会長など、そのテーマにおいて第一線の講師を招聘した。2日目の事例報告では、国立大学／私立大学、総合大学／専門大学、学内／学外に向けた取組と双方向の切り口から事例を選定した。さらにアクティブラーニングによるワークショップを行うことで、大学での授業や教育活動での実践への展開を意識した。</p>		
実績を裏付けるデータ		
<p>1. 参加者の概況</p> <p>(1)参加者：86名(女性59名、男性27名) 定員80名・応募者数93名・応募倍率116.3%</p> <p>(2)所属別：国公立大学39名、私立大学21名、高等専門学校15名、その他11名(企業、官庁等)</p> <p>(3)職種別：教員系23名、職員系59名、その他4名</p> <p>(4)地域別：北海道・東北13名(15.1%)、関東46名(53.4%)、甲信越0名(0%)、北陸・東海11名(12.8%)、近畿4名(4.7%)、中国・四国4名(4.7%)、九州・沖縄地区8名(9.3%)</p> <p>2. 成果の活用</p> <p>(1)基調講演及びNWEC調査研究報告を動画で撮影しNWECのYouTubeチャンネルに登録。研修参加者以外にも広く視聴できるように一般公開した。</p> <p>(2)NWECホームページ「大学等における男女共同参画イベント情報」と連動し、情報を掲載した。</p>		
事業実績		
指標	H28	H29
満足度(%)	100.0	100.0
高い満足度(%)	56.1	48.4
モニター調査(有用度)(%)	100.0	100.0

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	B	B	B	

適時性：近年の高等教育機関をとりまく状況をふまえ、組織改革とリーダーシップをテーマに展開した。また大学におけるリスクマネジメントとしてキャンパス・ハラスメントを取り上げたことは、時宜を得たアプローチである。

独創性：国公立／私立、大学／高等専門学校、教員／職員など、総合的で多様な視点から組まれた学習プログラムは他に類を見ない。全国各地から集まった参加者同士のネットワークを広げる機会を提供している。

発展性：各課題に即した講義や各大学等の事例報告、グループ討議などを通して、自校の課題を把握し、課題解決に向けた実践力を養うことにより、各校での取組の発展性を期待することができる。

効率性：NWEC ホームページ「大学等における男女共同参画イベント情報」を活用し広報を行った。講師・会場選定では後援先からの紹介など、ネットワークを生かして効率よく準備を進めることができた。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	モニター調査			
判 定	A	A			

○プログラムの満足度
満足度：100.0%（非常に満足 48.4%、満足 51.6%）
満足の評価が目標値を達成したため B。高い満足では目標値の 120%以上の評価を得ており、かつ基調講演 50.8%、事例報告と討議 49.0%、キャンパス・ハラスメント防止 57.1%と、同様に 120%以上を達成しているプログラムがあるため、総合的に A と判定した。
【昨年度：満足度 100.0%（非常に満足 56.1%、満足 43.9%）】
<目標：満足の評価 90%以上、高い満足の評価 40%以上>

○モニター調査（平成 30 年 3 月～4 月実施）
8 名に実施し、有用度 100.0%。
目標値を 120%以上達成しており、回答者すべてから研修の成果を直接的または間接的に活用しているとの回答を得たため、総合的に A と評価した。
【28 年度 9 名に実施 100.0%】
<目標：肯定的な回答 80%以上>

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	<p>第一線の講師陣による最新の情報提供、課題解決に向けて先進的・積極的な取組を展開している大学の事例報告やグループ討議、情報交換などを通して、全体の動向や他校の取組状況について、多様な背景を持つ参加者同士が、直接関わり合いながら多くの情報を得ることができる場をもつことの意義は大きい。実際に、男女共同参画推進の歴史と経緯を学ぶ「基調講演」、他大学の事例を学び、多様な職種・属性の参加者同士で意見交換をする「事例報告と討議」、専門家からの実務的な情報を得た「キャンパス・ハラスメント防止」のプログラムは、参加者から高い満足の評価を得ている。</p> <p>さらに昨年度 84 名中 18 名（21.4%）であった男性参加者の割合も、今年度は 86 名中 27 名（31.3%）と増えた。関係機関にとっても本セミナーへの参加が有用であり、男女共同参画推進を学内全体で取り組む機運が高まっているものと判断した。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>本セミナーの実施が定着してきたこともあり、今年も定員を超える応募を得ることができた。大学における女性研究者支援、優秀な教員人材を獲得するための労働環境の改善については様々な取組がなされるようになり、一定の成果を上げている。一方、職員の働き方改革や女性管理職の登用はこれから解決すべき課題である。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-②)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 ②
年度計画の項目 (I-2-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (1) 男女共同参画統計に関する調査研究

事業名	男女共同参画統計に関する調査研究
担当課室	研究国際室
スタッフ	研究国際室長、情報課長、研究員、専門職員(2)、係員(2) 計 7名

年度実績概要	<p>1. 趣旨 女性の活躍、男女共同参画を推進していくためには、男女の置かれている状況を客観的に把握することが必要であるとされている。そこで男女の置かれている状況を客観的に把握するための統計の充実を目指し、分野ごとの内容とデータの提供方法について検討する</p> <p>2. 実施概要 (1) 男女共同参画に関する基本的なデータを収集し、A4版三つ折りのリーフレット「国立女性教育会館ミニ統計集日本の女性と男性2017年」(日本語版、英語版)を作成した。 (2) 男女共同参画統計学習パネルのデータをホームページに掲載した。 (3) データベースの使い方ガイドを検討した。</p> <p>3. 成果の活用 会館主催事業で男女共同参画統計データを活用した講義やワークショップを実施した。また、行政機関等で企画されている研修事業等においても男女共同参画統計データを活用した講義やワークショップが実施された。 放送大学と連携して作成したオンライン講座のプログラム、「地域における男女共同参画リーダー研修」の事前学習のeラーニング教材「男女共同参画の基礎知識」に男女共同参画統計データを活用した図表を掲載した。</p>	
実績を裏付けるデータ		
事業実績		
1 成果の活用 有用度		
指標	H28	H29
有用度 (%)	100.0%	100.0%
高い有用度	57.1%	70.3%
2. 男女共同参画統計データを活用した講義、ワークショップ等		
(1) 主催事業：女子大学生キャリア形成セミナー、教職員を対象とした男女共同参画研修、学習オーガナイザー養成研修、埼玉県私立短期大学協会・国立女性教育会館連携プログラム		
(2) 地方公共団体、女性団体等の研修 北九州市女性リーダー国内研修 日本生活協同組合勉強会 日本女性会議さの運営委員勉強会 埼玉県学校新任主幹教諭研修会 佐久市女性リーダー養成研修 等		
(3) その他 国立教育政策研究所「社会主事講習」		

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性			
判 定	B	B			
<p>適時性：男女共同参画政策を推進する上で男女共同参画の現状をデータで示すことは重要であり、第4次男女共同参画基本計画の「推進体制の整備・強化」に挙げられている「ジェンダー統計の充実」に対応するものである。またCSWでもジェンダー統計の重要性が増しており、国際的動きにも対応しているといえる。</p> <p>独創性：男女共同参画統計に関する調査研究はデータベースのデータを見直す、データを収集してリーフレットや展示パネルを作成するだけでなくNVECの主催事業や各地で実施されている研修事業の講義やワークショップ、オンライン講座のプログラム、書籍の作成にデータを活用するなど、総合的に事業を展開している。</p>					

2. 定量的評価

観 点	調査研究を活用した 研修資料の作成				
判 定	A				
<p>有用度 100%（非常に有用 70.3%、有用 29.7%）</p> <p>平成29年度「学習オーガナイザー養成研修」において、男女共同参画統計データを活用した講義とワークショップを実施。高い有用の評価が目標を120%以上達成しているのでA評価とする。</p> <p>【昨年度 有用度 100%（非常に有用 57.1%、有用 42.9%）】</p> <p><目標：有用の評価 85%以上、高い有用の評価 40%以上></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
B	<p>男女共同参画統計を活用した講義やワークショップについては、幅広い対象者に講義やワークショップを実施することによって男女共同参画統計データの普及に努めた。</p> <p>中期計画の評価項目である「調査研究を活用した研修資料等を作成し、研修参加者の85%以上の有用の評価、40%以上からの高い有用の評価」にも達している。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>統計データベースの充実のために、わかりやすい図表をHPに掲載する等データの提供方法も工夫する。また、統計データベースの「使い方ガイド」を検討する。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-3)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 ③
年度計画の項目 (I-2-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (2) 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究

事業名	男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究国際室長、研究員 (2)	計3名

年度実績概要		
1. 趣旨 企業における若年層の初期キャリアに関して、男女の意識の差と女性が直面する問題について実証的に検討する。平成29年度は、平成27年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を調査対象に5年間追跡するパネル調査の第三回調査を実施する。		
2. 実施概要 (1) 「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究」検討委員会を2回開催した（平成29年7月3日、平成30年3月15日）。さらにメール会議も開催し（平成29年7月～8月）、第三回調査の調査票を策定した。 (2) 調査参加企業の担当者を訪問し、調査実施の手順などについて説明（平成29年8月～9月）。 (3) 第一回・第二回調査結果の概要を報告するニュースレターを作成し、調査対象者に配布。 (4) 第三回調査を実施（平成29年10月）。 (5) 初期キャリア期男女のキャリア形成に関する意識について理解を深めるため、平成29年11月～12月に、平成26年度に就職先が内定した女子大学生に対する追跡ヒアリング調査を実施。		
3. 得られた知見 パネル調査の第一回および第二回調査から、入社1年目から2年目にかけて、男女ともに転職志向が高まること、管理職志向を失う女性が少なくないことが示された。第三回調査では、入社3年目時点でのキャリア意識の男女差は、入社1年目および2年目時点でのそれとあまり異なることが示された。		
4. 成果の活用 (1) パネル調査の第三回調査結果について、全調査項目の回答結果を男女別に集計した報告書を作成し、調査参加企業、各省庁・省庁所管機関、学会などに広く配布。 (2) 各調査参加企業から得たテーマに即して分析した報告書を作成し、当該企業に配布（13社）。 (3) 平成29年5月に記者説明会を開催。その結果、平成29年6月9日に13の全国紙・地方紙、6月11日に毎日新聞、7月31日に朝日新聞、平成30年2月20日に読売新聞に調査結果が紹介された。平成29年7月17日にYahoo!ニュース Japanで調査結果が配信された。また平成29年6月に日本経済新聞社の取材を受け、7月11日に日本経済新聞に調査結果が紹介された。平成29年9～10月に「厚生福祉」（時事通信社）に、平成29年10月に「賃金事情」（産労総合研究所）に結果が紹介された。 (4) 平成29年6月に国際会議「女性のリーダーシップをエンパワーメントする」（韓国両性平等教育振興院主催）で調査結果を紹介した。 (5) 平成29年10月3日に、第二回 ANA グループ女性活躍推進担当者会議で調査結果を紹介した。 (6) 平成29年度「短期大学生のためのキャリア形成講座」「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」「大学等における男女共同参画推進セミナー」「女子大学生キャリア形成セミナー」で調査結果を紹介した。		
実績を裏付けるデータ		
・平成29年10月にパネル調査の第三回調査を実施した（回答数1,092名、回答率59.8%） ・成果の活用：平成29年度「女子大学生キャリア形成セミナー」講義「働く女性を取り巻く環境」の有用度		
指標	H28	H29
有用度 (%)	100	95.8
高い有用度 (%)	42.3	62.5

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	独創性	発展性		
	B	B	A		
<p>適時性：平成27年に女性の職業生活における活躍の推進に関する法律（女性活躍推進法）が成立し、第4次男女共同参画基本計画の中で重要事項とされている「第2分野 政策・方針決定過程への女性の参画拡大」において、「将来役員や管理職に就くことが期待される女性社員の育成を促す」ことが掲げられている。そして近年、女性管理職の育成において、初期キャリア期に成長と経験を先取りさせる施策が提言されていることから、時宜を得た調査研究といえる。</p> <p>独創性：従来、管理職志向などキャリアに関する意識研究は、一時点データによる分析に限定されがちであった。そこで同一個人を追跡するパネル調査を実施した結果、初期キャリア期男女の意識の変化について精緻に検証することが可能になった。入社3年目までデータが蓄積されたことで、男女のキャリア意識の差や差が生じる要因について、より明らかにすることが可能になった。</p> <p>発展性：本調査研究では同一の初期キャリア期男女を追跡することから、初期キャリア期男女の意識と実態について、複数時点のデータをもとに変化をとらえることができる。たとえば平成29年度「企業を成長に導く女子活躍促進セミナー」においてパネル調査結果の一部を紹介したところ、「今後の追跡結果がどのように変化していくのか気になる」「調査の継続的な実施とデータの蓄積が重要であり、女性活躍推進のために有意義な調査だと感じました」などの感想を得た。また平成29年5月に記者説明会を行ったところ、平成29年6月9日に13の全国紙・地方紙、6月11日に毎日新聞、7月31日に朝日新聞、平成30年2月20日に読売新聞に調査結果が掲載された。平成29年6月には日本経済新聞社の取材を受け、7月11日に日本経済新聞に調査結果が掲載された。平成29年7月及び11月には、本調査研究の検討委員である高見具広氏が、ワーク・ライフ・バランス&多様性推進・研究プロジェクト（代表：中央大学教授 佐藤博樹氏）において調査結果の一部を報告した。『国際ジェンダー学会誌』15号には、パネル調査データを用いた分析結果が掲載された（島直子「女性新入社員の管理職志向を維持する要因：パネルデータによる入社1年目と2年目の比較」）。</p>					

2. 定量的評価

観 点 判 定	調査研究を活用した研修資料の評価				
	A				
<p>有用度 95.8%（とても役に立つ 62.5%、役に立つ 33.3%）</p> <p>平成29年度「女子大学生キャリア形成セミナー」における講義「働く女性を取り巻く環境」において、調査結果の一部を紹介した。本講義に対する参加者の評価は「とても役に立つ」62.5%、「役に立つ」33.3%であった。高い有用の評価が62.5%で目標を120%以上達成しているためA評価とする。</p> <p>【昨年度 有用度 100%（非常に有用 42.3%、有用 57.7%）】</p> <p><目標：研修資料について有用の評価 85%以上、高い有用の評価 40%以上></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	<p>平成27年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を調査対象に5年間追跡するパネル調査の第三回調査と、平成26年度に就職先が内定した女子大学生を調査対象に追跡するヒアリング調査を実施した。この結果、企業における若年層の初期キャリアに関して、男女間の意識の差や類似性、女性が直面する課題等について実証的に検証するためのデータを得た。調査結果について記者説明会を行ったところ、多数の全国紙・地方紙等に調査結果が掲載されるなど、社会の注目度も高い。また、調査結果を、本調査研究の検討委員がNVEC外部の研究会で報告したり、NVEC研究員が学会誌に論文執筆するなど調査結果が広く活用された。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>平成30年度は、パネル調査の第四回調査を実施し、調査結果をふまえて報告書を作成する。さらに第一回～第四回調査データを分析し、初期キャリア期男女の意識の変化と変化の要因について検証する。分析結果については、会館が有するネットワークを通じて、全国の企業・大学にフィードバックする。また会館が実施する大学や企業を対象とする各種研修プログラムの企画・実施に研究成果を生かす。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-④)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 ④
年度計画の項目 (I-2-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (3) 女性教員の活躍推進に関する調査研究

事業名	女性教員の活躍推進に関する調査研究	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究国際室長、研究員(2)	計3名

実績概要	<p>1. 趣旨</p> <p>初等中等教育の分野における政策・方針決定過程への女性の参画の拡大についての取組を進めるため、女性の管理職の登用状況等を明らかにする調査研究を3年計画で実施する。平成29年度はその2年次である。平成29年度は、昨年度に行った論点整理を踏まえ、調査の具体化に向け検討を進める。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>(1) 昨年度に引き続き、教育委員会や校長経験者等を対象としたヒアリング調査を実施すること等により、女性の活躍推進の現状・課題を把握した。</p> <p>(2) 把握した現状・課題を踏まえ、定量調査の実施に向け、質問項目や対象、調査票の配付方法等の検討を行った。</p> <p>(3) 学校基本調査個票データをもとにした対象校の抽出(小中学校各1,500校)や、ウェブ調査画面の作成、プレテスト実施等、実査にあたり必要な準備を行った。</p> <p>(4) 教員宛依頼状及び回答のためのIDの配付にあたり、事前に都道府県、政令市の教育委員会に対して、市町村教育委員会及び対象学校への周知・伝達の協力を依頼するとともに、問い合わせ等に対応した。</p> <p>(5) 対象校へ依頼状を配付し、教員を対象としたウェブを通じた定量調査を実施した(回答数(暫定値):小学校約12,000人、中学校約12,700人)。実査終了後、データクリーニング前の暫定的な集計結果を出し、分析視点の検討を行った。年度計画通り、順調に進んでいる。</p> <p>3. 得られた知見</p> <p>平成29年度の調査の中心である定量調査の実査は、1~2月に行ったため、分析を進めて詳細の知見を得るのは次年度になる。なお、データクリーニング前の暫定的な集計結果では、年齢階級や職種等によって仕事に対する満足度に差があること、管理職を目指したいかどうかや家事育児負担に男女差があること、性別役割分担意識や無意識の偏見が男女ともに根強くあること等が明らかになった。</p> <p>4. 成果の活用</p> <p>ヒアリング調査や情報収集等から得られた知見をもとに、平成29年度「教職員を対象とした男女共同参画研修」において、女性管理職登用の現状や課題、課題の背景、登用を推進する意義等について講義した。また、講義後のグループディスカッションを効果的に行うために、本調査研究の情報収集で得た取組事例の中から長野県の実践を取り上げた。ディスカッションの進め方や到達目標についても事業課担当者とともに検討する等、プログラムの開発過程にも参画した。本講義「学校現場の女性管理職登用の課題について考える」及び長野県の報告、グループディスカッションの一連のプログラムは、満足度96.6%(非常に満足58.7%・満足37.9%)であった。</p>
------	---

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	効率性		
判 定	B	B	A		
<p>適時性：あらゆる分野における女性の活躍推進が求められるなか、初等中等教育における女性教員の管理職登用率は依然として低く、このテーマを取り上げることは、男女共同参画の推進にとって重要である。</p> <p>独創性：初等中等教育の現場では、現在、教員の労働時間の削減が喫緊の課題となっている。一方、教員自身のワーク・ライフ・バランスや女性管理職登用については、労働時間削減の課題と密接に関連する課題であるにもかかわらず、それらの必要性については十分に理解が進んでいない。本調査研究は、議論が進んでいないこれらのテーマを焦点とするものであり、学校における男女共同参画の推進に資する専門性、先駆性の高いものである。</p> <p>効率性：教員を対象とした定量調査をウェブを通して実施することにより、2万人を超える小中学校の教員から回答を得ることができた。また、収集した回答者の回答の入力作業等が不要なため、紙ベースの調査と比較して、大幅な時間的、人的な効率化を図りつつ、大量の回答データを得ることができた。</p> <p>調査実施にあたっては、文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課にも、教育委員会等への依頼状の作成・同封を依頼し、対象学校からの問い合わせ等も密に連絡を取りつつ対応した。また、都道府県、政令市教育委員会には、調査実施について事前に知らせ、市町村教育委員会や対象校への周知・伝達の協力依頼を行う等、調査が効率的に、円滑に遂行されるよう関連機関との連携を図った。</p>					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
B	<p>初等中等教育においては、女性教員の管理職登用率が低いにもかかわらず、取組の意義・必要性に対する認識が浸透していないのが現状である。教員を対象とした定量・定性の調査を通して教員や学校の現状や課題について詳細を明らかにし、学校における男女共同参画の推進に向けた情報発信やプログラム開発を行う本調査研究の意義は大きい。</p> <p>平成29年度は、関連機関の協力を得つつ、教員を対象とした大規模なウェブ調査を実施した。ヒアリング調査や情報収集で得た知見の研修への活用も行った。報告書等の成果物作成やそれらを使った成果普及は来年度以降になるが、調査研究自体は順調に進んでいる。</p>

3. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>定量調査で得られたデータをもとに、次年度は分析を進める。分析の視点にそって、適切な対象者を選定し、ヒアリング調査もあわせて行うことで、定量・定性調査の結果を相互に補完しつつ、女性管理職登用推進にかかわる現状や課題の詳細を明らかにする。成果物の作成・普及にあたっては、男女共同参画の推進や女性の意思決定過程への参画の必要性が十分に認識され、関係者が行動を起こすきっかけになり得るような内容・方法を熟考して進めていく。また、研究成果の研修プログラムへの効果的な反映のしかたについても検討する。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-2-⑤)	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 ⑤
年度計画の項目 (I-2-(4))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施 (4) eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究

事業名	eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究国際室長、研究員(2)、専門職員	計4名

実績概要	
1. 趣旨	放送大学の科目として昨年度に開講した「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」及び今年度開講する「女性のキャリアデザインの展開（‘17）」について放送大学と連携して運用する。一部の研修事業についてeラーニングを用いた事前学習を導入するなど、会館が提供するeラーニングの在り方について検討する。
2. 実施概要	<p>(1) 4月～8月、「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」及び「女性のキャリアデザインの展開（‘17）」を提供・運用した。</p> <p>(2) 6月、主催事業「地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉」参加予定者全員を対象に、男女共同参画に関する基礎知識を内容とする、eラーニングを用いた事前学習を導入・実施した。</p> <p>(3) 10月～2月にかけて「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」及び「女性のキャリアデザインの展開（‘17）」を提供し、10月～2月にかけて、講座を受講した職員を対象にヒアリングを行った。</p> <p>(4) 1月～2月、オンライン講座の改修作業、内容確認作業を行った。</p> <p>(5) 12月～3月、オンライン講座の参考資料として会館のキャリア事例サイトに掲載用の9事例を作成した。</p> <p>(6) 1月～3月、会館の研修事業で提供するeラーニング講座を改修した。</p> <p>(7) eラーニングとその提供の在り方に関する情報を収集した。</p>
3. 得られた知見	<p>(1) eラーニング学習の多様なあり方や、eラーニングを提供するにあたりコンテンツの内容や提供方法（動画、アニメーション、小テスト、PDF、リンク等）及びそれぞれの有用性についての知見を得た。</p> <p>(2) 「女性のキャリアデザイン入門」、「女性のキャリアデザインの展開」の受講者を通じて、一般学習者の男女共同参画分野に関する知識・情報共有レベル、学習関心やニーズ等を把握した。</p> <p>(3) 事前学習として実施したeラーニング講座を通じて、自治体や男女共同参画センター職員の男女共同参画に関する学習課題を把握した。</p>
4. 成果の活用	<p>(1) 一般学習者向けのeラーニング講座として、放送大学オンライン講座「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」及び「女性のキャリアデザインの展開（‘17）」をそれぞれ前期、後期に各1回ずつ提供。</p> <p>(2) 上記講座を職員研修に一部活用。</p> <p>(3) 会館主催事業参加者を対象に、eラーニングを用いた事前学習講座を試行的に実施。</p>
実績を裏付けるデータ	
事業実績	
<ul style="list-style-type: none"> 放送大学と連携し、放送大学オンライン講座「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」、「女性のキャリアデザインの展開（‘17）」をそれぞれ前期、後期に各1回ずつ提供。 ウェブ教材として「女性のキャリア形成支援サイト」に掲載する女性のキャリア形成事例を9本作成。 会館の主催事業研修の事前学習用に作成したeラーニング講座をリーダー研修の事前学習として実施。受講結果を検証するとともに、次年度研修に向けて講座を改修。 	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性		
判定	B	B	B		
<p>適時性：教育再生実行会議の「「学び続ける」社会、全員参加型社会、地方創生を実現する教育の在り方について（第六次提言）」（平成27年3月）は、女性の活躍支援等についての実践的なプログラムの提供や学びやすい環境の整備としてeラーニングを活用した教育プログラムの提供を推進している。また、中央教育審議会答申（平成28年5月）は、ICTを活用して「生涯学習プラットフォーム（仮称）」の構築が考えられるとされており、eラーニングによる教育・学習支援を取り上げることが適時性がある。</p> <p>発展性：ICTを活用して、これまで受講できなかった層へ、情報や学習教材を提供していくための地盤づくりを行った。これまで会館の主催事業は来館を前提に行われてきたが、オンライン講座の開発を行ったことで、受講生の幅が全国の個人に広がった。「女性のキャリアデザイン」に関心を持つ男性の受講者が確認できたとともに、幅広い年代の学習者男女の問題関心を把握できた。会館の集合型研修に事前学習講座としてeラーニングを導入したことから発展性がある。</p> <p>効率性：放送大学と協定を締結し、これまで会館で蓄積した研究、研修、情報の成果をオンライン講座の形で提供し効率的に一般対象の学習機会を提供するとともに、会館職員の研修としても活用したため効率的である。</p>					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	<p>オンライン講座「女性のキャリアデザイン入門（'16）」、「女性のキャリアデザインの展開（'17）」を、それぞれ前期後期に各1回ずつ実施し、年間約1,200人の一般学習者に会館が蓄積した男女共同参画や女性のキャリアに関する情報を提供した。</p> <p>主催事業研修の一部として、自治体・団体のリーダー層約130名を対象にした男女共同参画の基礎知識に関するeラーニング講座を事前学習として実施し、次年度に向けた改修作業を行った。</p> <p>上記の講座提供を通じて、eラーニング講座の提供方法や進め方、学習者情報等についての知見を得た。</p>

3. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>平成30年度は、①放送大学を通じて前期・後期各2回ずつ提供するオンライン講座の必要な改修及び学習活動の活性化を図り、②会館主催事業で提供するeラーニング講座の改修を行うとともに、③①及び②の実施等から得られた知見を、会館が今後提供していくeラーニング講座の対象、学習内容やニーズとその在り方の検討にいかす。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信
年度計画の項目 (I-3-(1)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信 ①情報資料の収集・整理・提供

事業名	情報資料の収集・整理・提供	
担当課室	情報課	
スタッフ	情報課長、係長(併)専門職員、専門職員、係員(5)	計8名

実績概要	<p>1. 趣旨 男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として、広域的、専門的な資料・情報を収集し、多様な手段で広く一般に提供することにより、男女共同参画社会の推進を図る。</p> <p>2. 実施概要 地域レベルでは収集困難な広域的、専門的な資料・情報の収集を図った。更に、収集した資料を個人向け及び団体向けに館外貸出した他、レファレンス・サービス、文献複写サービス、館内見学会の実施、「こども霞が関見学デー」や「図書館総合展」「図書館と県民のつどい埼玉」等のイベント出展等により広く利用に供し、男女共同参画のための情報提供を行った。また、会館内では研修棟に「図書館出張コーナー」を設置、宿泊棟各部屋に女性教育情報センター利用案内の備え付けを開始し、来館者への周知を向上させた。</p> <p>3. 成果 【収集資料】 「収集資料統計」参照。企業や大学のダイバーシティ推進に資する資料の収集を継続して行い、「女性活躍」や「ワークライフバランス」に関する図書を受け入れた。大学が刊行する男女共同参画に関する広報誌等も全国的な収集を心がけた。また、地方自治体が刊行する男女共同参画に関する統計やハンドブック等を収集した。これらは女性教育情報センターで受け入れ、広く一般の利用に供している。</p> <p>【学習支援】 図書資料の展示を年に4回行った。主催事業と連動した展示等を実施すると同時に、資料リストをホームページ上で公開し、男女共同参画推進のための学習・教育を支援した。また、情報センターのテーマ別図書案内「本、あり図。」の通常号、特別号を刊行し、全国の女性関連施設や埼玉県内の公共図書館等に配布するとともに一部についてははりポジトリに掲載した。 更に、埼玉大学との連携授業「男女共同参画社会を考える」の中で、統計を用いた講義、女性教育情報センターを利用した情報検索の実習等を担当し、レポート作成のための資料情報の収集選択スキルアップの支援を行った。</p>
実績を裏付けるデータ	<p>収集資料統計（平成29年度受入） 図書 2,291件、地方行政資料 233件、雑誌 35件、新聞切り抜き 24,876件、AV資料 34件</p> <p>利用状況統計（平成29年度） 資料等利用者数 5,015人、貸出資料総数 10,794冊、レファレンス・サービス 727件、 文献複写サービス 883件、情報研修プログラム 4件、29人 相互貸借貸出件数 285件（内 パッケージ貸出件数 79件）</p>

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	独創性	効率性			
判 定	B	B			
<p>独創性：「地方行政資料」は、地方自治体が刊行する男女共同参画に関する統計やハンドブック等を集中的に収集し備え付けているコレクションであり、専門性に優れたコレクション構築として高く評価できる。</p> <p>効率性：大学の男女共同参画担当部署が発行する資料の収集・展示は、各自治体の男女共同参画部署が発行する資料の収集・展示とあわせて、特定の地域や機関で網羅できない資料をナショナルセンターとして集中的に収集しており、効率性が評価できる。</p>					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	資料の収集を概ね着実に行っており、地域レベルでは収集困難な広域的・専門的な国内外の資料・情報の収集、提供に着実に取り組んでいる。来館者だけでなく、来館が難しい利用者に対してもサービスを行っており、文献複写サービスやパッケージ貸出等で資料の利活用が図られている。文献複写サービス件数は平成28年度が795件、平成29年度は883件と88件増加している。相互貸借貸出件数は平成28年度が221件、平成29年度は285件と64件増加している。パッケージ貸出機関数は平成28年度が30機関、平成29年度が32機関と2機関増加している。

3. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>情報センターの広報手段充実による入館者増のため、イベント出展や主催事業（研修）との連携、別棟の書架増設などを充実させる。</p> <p>また、魅力的な蔵書構成と書庫の空きスペース不足対策のため、古い資料の除却などを行う。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信
年度計画の項目 (I-3-(1)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信 ②ポータルとデータベースの整備充実

事業名	ポータルとデータベースの整備充実	
担当課室	情報課	
スタッフ	情報課長、係長(併) 専門職員、専門職員、係員(5)	計8名

実績概要	<p>1. 趣旨</p> <p>「女性情報ポータル“Winet”(Women's information network, ウィネット)」は、女性の現状と課題を伝え、女性の地位向上と男女共同参画社会の形成を目指した情報の総合窓口である。次の3要素で構成され、日々、データやコンテンツを継続的に整備充実することにより、政策担当者、研究・学習者、団体・グループ関係者、メディア関係者等ユーザのニーズに、迅速・的確に応えるアクセス手段を提供している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性情報ナビゲーション(リンク集。インターネット上の有用な資源への道案内) ・会館作成のデータベース ・女性情報CASS(NWEC作成のデータベース、及び他の関連機関のデータベースの横断検索) <p>2. 実施概要</p> <p>女性情報ポータル“Winet”の組織的なデータ更新、充実を図るとともに、利便性の高いポータルサイトを目指す。今年度はコンテンツの随時追加・修正等を行ったほか、「女性のキャリア形成支援サイト」について利便性の向上のため研究国際室と連携して分野構成の再構築を行った。</p> <p>3. 成果</p> <p>(1) 「女性と男性に関する統計データベース」は更新された統計について、最新の数値を反映した。また、収録データの見直しを3年間で行う予定であるが、全11分野のうち2年目となる29年度は「生活時間・無償労働」「意思決定」「安全・犯罪」「家計・資産」「意識調査」の5分野について見直しを行い、使われていないデータの削除、新たなデータの追加によって男女共同参画の視点から明確で使いやすい構成とした。</p> <p>(28年度は「人口」「世帯・家族」「労働」「教育・学習」の4分野の見直しを行っている。30年度は「社会保障・福祉」「健康・保健」分野の見直しを行う予定である)</p> <p>(2) 「女性関連施設データベース」と「人物データベース」の更新を行った。「女性情報レファレンス事例集」を21件更新した。</p>										
実績を裏付けるデータ	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>データベース化件数</td> <td>28,400</td> <td>28,685</td> </tr> <tr> <td>アクセス件数</td> <td>469,284</td> <td>523,682</td> </tr> </tbody> </table>		指標	H28	H29	データベース化件数	28,400	28,685	アクセス件数	469,284	523,682
指標	H28	H29									
データベース化件数	28,400	28,685									
アクセス件数	469,284	523,682									

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	独創性	発展性	効率性		
判定	B	B	B		
<p>独創性：「女性情報ポータル“Winet”」「女性と男性に関する統計データベース」「女性関連施設データベース」「女性情報レファレンス事例集」など独自のデータベースを提供し、単なるリンク集ではない、男女共同参画関係者に有用なポータルサイトとして独創的である。</p> <p>発展性：「女性と男性に関する統計データベース」「女性関連施設データベース」のデータを使い、男女共同参画施設での講習会やイベントの企画につながるなど、発展性がある。</p> <p>効率性：男女共同参画社会の推進に有用な情報がひとつにまとまっており、ワンストップサービスの利用者にとって効率的である。</p>					

2. 定量的評価

観点	データベース化件数	アクセス件数			
判定	B	A			
<p>データベース化件数 28,685件（目標達成率：110%）【昨年度：28,400件】 <目標：年間26,000件以上></p> <p>アクセス件数 523,682件（目標達成率：149%）目標を120%達成しているためA評価とする。【昨年度：469,284件】 <目標：年間35万件></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	<p>データベース件数、アクセス件数ともに中期計画期間中の年度目標を達成した。</p> <p>28年度より3年計画で実施している女性と男性に関する統計データベースの統計データの見直し作業が、28年度、29年度の2年間で全11分野のうち9分野について行われ、順調と言える。女性のキャリア形成支援サイトに研究国際室と連携して9件のキャリア事例を登録した。また、分野の名称や構成を見直してわかりやすいものとした。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>「女性と男性に関する統計データベース」のデータ見直しを継続し、「社会保障・福祉」「健康・保健」分野について行う予定である。また、「女性情報シソーラス」の内容のアップデートの準備を進める。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信
年度計画の項目 (I-3-(1)) ③	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信 ③ 図書のパッケージ貸出

事業名	図書のパッケージ貸出	
担当課室	情報課	
スタッフ	情報課長、専門職員、係員(2)	計4名

年度実績概要	<p>1. 趣旨 各施設における男女共同参画を推進するため、テーマ毎にパッケージ化した図書の館外への貸出を実施する。</p> <p>2. 実施概要 大学、女性関連施設、公共図書館、高等専門学校等の機関を対象とし、男女共同参画社会形成を目指した様々なテーマに合致する図書について、ここ数年以内に出版された比較的新しい図書を中心に、「キャリア・しごと」「家庭・家族」など複数のジャンルを組み合わせ原則100冊のパッケージにまとめ、貸出を行っている。NVEC であらかじめ用意したパッケージを3か月ごとに入れ替えながら年間を通して貸し出す「年間パッケージ」と、相手館の事業とのタイアップなどに合わせてパッケージ内容をカスタマイズし一定期間貸し出す「個別パッケージ」の2通りの利用形態がある。</p> <p>3. 成果 図書館総合展や講習会での広報の成果で女性関連施設を中心に新規の利用が9か所あった。 (新規利用機関) ① 滋賀県立男女共同参画センター、② 苫小牧市男女平等参画推進センター ③ 世田谷区立男女共同参画センターらぶらす ④ 横浜国立大学 ⑤ 釧路工業高等専門学校、⑥ 長野工業高等専門学校、⑦ 呉工業高等専門学校 ⑧ 北九州工業高等専門学校、⑨ 都城工業高等専門学校</p>	
実績を裏付けるデータ		
事業実績		
	指標	
	H28	H29
	30	32

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	B	B	B	
<p>適時性：ここ数年以内に出版された図書を中心にパッケージを構成し、男女共同参画についての新しい知識や知見を他機関を通じて多くの国民に知ってもらうという点で時宜にかなった事業である。</p> <p>独創性：専門図書館である女性教育情報センターの蔵書構成を活かして機関・目的・対象別に男女共同参画社会形成のための知識と情報を提供する「図書のパッケージ貸出サービス」は、全国的にも珍しく、特に専門図書館では例を見ないサービスである。</p> <p>発展性：パッケージ貸出で貸し出した資料や、NVECのWebページで公開している図書リストを参考に、他機関が男女共同参画に関する資料を購入するなどの動きがあり、男女共同参画の展開に資するものとなっている。また、テーマに関しても個別パッケージのリクエストに「女性と映像作品」「男性問題」など新しい切り口のものがあり、テーマ選定の視点の拡大に資するものとなっている。</p> <p>効率性：他機関と連携してNVECの蔵書を一定期間、まとまった量を貸し出すことで男女共同参画に関する情報の効率的な普及が図られ、また、NVECの蔵書の効率的な運用にもつながっている。</p>					

2. 定量的評価

観 点	パッケージ貸出機 関数										
判 定	B										
<p>パッケージ貸出機関数<目標：30か所以上> 32か所（目標達成率：106%）【昨年度：30か所】 （利用機関種類別内訳）</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>男女共同参画センター</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>大学</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>高専</td> <td>8</td> </tr> </table>						男女共同参画センター	6	大学	18	高専	8
男女共同参画センター	6										
大学	18										
高専	8										

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	<p>年度目標の30機関への貸出を達成した。</p> <p>利用機関は大学が半数以上となっているが、29年度に男女共同参画センターが新規に3件増加し、資料がより広い年齢層に利用される機会が増えた。</p> <p>パッケージテーマは、「男女共同参画」「女性の人権」「ジェンダー」「理科系」「キャリア・しごと」「貧困・格差」をはじめ30以上あり、今後も広がりが期待できる。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>今後もセミナーや講習会等の機会を捉えて男女共同参画施設等への広報に努め、ナショナルセンターの図書館のサービスとして発展させることが課題である。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信
年度計画の項目 (I-3-(1)) ④	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信 ④調査研究成果物の発行及び発信

事業名	調査研究成果物の発行及び発信	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究国際室長、研究員(3)、専門職員、係長	計6名

年度実績概要	
1. 報告書、冊子等の発行	<p>(1) 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査～パネル調査による入社1年目と2年目の比較～ 1,000部作成。主として平成29年5月23日に実施した「記者説明会」で配布 (平成29年度男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究)</p> <p>(2) 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査(第一回調査・第二回調査)ニュースレター 500部作成。主として調査協力企業に配布 (平成29年度男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究)</p> <p>(3) NWEC 実践研究 第8号「女性活躍と地方創生」 800部作成。主として女性/男女共同参画センター等に配布 (平成29年度 NWEC 実践研究)</p> <p>(4) ミニ統計集 日本の女性と男性 2017 日本語版 1,500部、英語版 500部作成。主として主催事業及び職員による館外での講演等で配布 (平成29年度男女共同参画統計に関する調査研究)</p> <p>(5) 2017NWEC リーダーセミナーレポート「指導的地位への女性の参画」 150部作成。主としてリーダーセミナー研修生、推薦者・機関等に配布 (平成29年度アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー)</p> <p>(6) 第61回国連女性の地位委員会(CSW)早わかり 1,000部作成。主に会館主催事業で配布 (平成29年度国際的なネットワークの構築)</p>
2. 成果物の発信	<p>(1) 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究</p> <p>①「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」「大学等における男女共同参画推進セミナー」「女子大学生キャリア形成セミナー」で第一回・第二回の調査結果を紹介</p> <p>②初期キャリア調査(第二回)分析結果について記者説明会を開催(平成29年5月)</p> <p>③国立大学協会 教育・研究委員会男女共同参画小委員会にて第一回・第二回の調査結果を紹介(5月)</p> <p>④国際会議「女性のリーダーシップをエンパワーメントする」(主催 韓国両性平等教育振興院)で調査結果を報告(6月)</p> <p>⑤2017年度第二回 ANA グループ女性活躍推進担当者会議にて第一回・第二回の調査結果を紹介(10月)</p> <p>⑥平成29年度5～7月、平成30年2月に全国紙・地方紙、ネットニュース等で取りあげられた。</p> <p>(2) 女性教員の活躍推進に関する調査研究 平成28・29年度に行ったヒアリング調査や情報収集等から得られた知見について、「教職員を対象とした男女共同参画研修」において講義</p> <p>(3) 男女共同参画統計に関する調査研究 「学習オーガナイザー養成研修」において、男女共同参画統計データを活用した講義とワークショップを実施</p> <p>(4) 第61回国連女性の地位委員会(CSW)早わかり 「地域における男女共同参画推進リーダー研修」の情報提供「NWECの事業展開について」において研修に活用</p> <p>(5) 「平成27年度女性関連施設に関する調査研究」の成果物『地域による女性活躍推進の実践 持続可能な地域づくりに活かす行政と民間のつながり』</p> <p>①「地域における男女共同参画推進リーダー研修」において事例報告に活用</p> <p>②第1回新潟県女性活躍推進協議会(6月)において情報提供を実施</p> <p>③日本女性会議2017とまこまい(10月)においてパネルを作成しブースを出展</p>

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性		
判定	A	A	B		

適時性：「第4次男女共同参画基本計画」に基づき年度計画どおり実施している。
近年、女性管理職の育成において、初期キャリア期に成長と経験を先取りさせる施策が提言されていることから、「初期キャリア調査」は適時を得た調査研究であり、パネル調査の結果は、記者説明会を開催し紹介した。また、記者説明会用資料として『男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査～パネル調査による入社1年目と2年目の比較～』を作成し配布した。
『NWECC 実践研究』では各分野での重要事項に焦点をあてテーマを決め、全国各地の好事例や男女の初期キャリア形成、各調査研究の実施等を成果物として発行及び発信したことは、政策的にも適時になかったものといえる。

発展性：『NWECC 実践研究』をはじめ、各報告書等はすべて会館ホームページ及び会館リポジトリへ掲載し配信している。また、「初期キャリア調査」の記者説明会には、新聞社等6社より10名が参加。うち、5社の新聞各紙に調査研究結果が掲載され、共同通信社が作成・発信した記事が全国紙及び地方紙に掲載された。企業や海外でも調査結果を紹介するなど、今後の調査研究や事業展開等においても有効活用が期待できる。
【新聞掲載：17社(平成28年度16社)、ニュース：1件(平成28年度1件)、刊行物：2件(平成28年度1件)】

効率性：『NWECC 実践研究』等の作成にあたっては、校正及び編集等を出版社元編集者である研究国際室客員研究員が行い、効率的かつ専門的、経済的かつ時間的効率の向上を図った。

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」は、今年度も平成29年5月に記者説明会を行い、各新聞社の全国紙・地方紙やネットニュース等で取りあげられた。 『NWECC 実践研究』第8号は「女性活躍と地方創生」をテーマとし、女性活躍促進の地方創生について、これまでの女性の活躍を進める政策の流れや地域の連携の在り方を論じた論文、全国各地で実践されている創意工夫に溢れた新しい事例を掲載した。また、平成29年11月に開館40周年を迎え実施した「40周年記念事業」の他、会館の29年度事業や平成27年度から実施している「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」の中間報告等も掲載している。 各報告書等はすべて会館ホームページ及び会館リポジトリへ掲載、ダウンロードできるようにし、広く調査研究成果を発信した。

3. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
来年度も継続して『NWECC 実践研究』を刊行する他、女性／男女共同参画センターや各自治体等と連携して事業や報告、講義等を行い調査研究成果の発行及び発信に努める。会館ホームページ等のWebサイトに随時掲載するとともに、会館主催事業や教育機関、女性関連施設及び企業等においても活用しやすい情報の収集・共有・発信に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進
年度計画の項目 (I-3-(2)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進 ①女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化

事業名	女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化	
担当課室	情報課	
スタッフ	情報課長、係長(併)専門職員、係員	計3名

年度実績概要		
1. 趣旨	女性に関する過去の歴史的事実および現在の状況を検証し、現代の問題へのアプローチを可能とするため、歴史的価値・研究資料的価値を有する女性関係史・資料の収集・整理・保存および提供・公開を行い、男女共同参画の推進に関する啓発、学習・研究支援等に資する。	
2. 概要	女性アーカイブセンターにおいて、女性関係史・資料を収集・整理・保存し、閲覧・展示・データベース等によって提供・公開した。会館のもつ全国の女性関連施設とのネットワークを活かして災害に関する史・資料のアーカイブ化を進め、国立国会図書館が運営するポータルサイトと連携させた。また、アーカイブセンター展示室にて、特別展示「国立女性教育会館 開館40周年展」を開催し、文部科学省の「情報ひろば」でも同展の縮小版を開催したほか、女性教育情報センター前を常設の展示スペースに変更した。	
3. 成果	順調に事業を推進し、今年度の数値目標を達成することができた。 展示用パネルについて他機関より利用の申し込みがあり、16件の貸出を行った。うち10件は、地方自治体の男女共同参画担当部署等からの希望により、平成27年度所蔵展示「男女雇用機会均等法から30年」のパネル貸出を行った。	
【評価指標】	○資料の収集（年度目標1千点以上） 1,164点 ○展示室利用（年度目標1万人以上） 11,359人 ○女性アーカイブ企画展における他機関との連携状況（年間5機関以上） 女性アーカイブセンター平成30年特別展示「女性の歩みを受け継ぐ 女性アーカイブセンター10周年展」において、7機関と連携を行った。 (内訳) 主婦連合会、日本生活協同組合連合会、名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ、東京都立中央図書館、お茶の水女子大学、柏書房、大空社	
実績を裏付けるデータ		
事業実績		
指標	H28	H29
収集した史・資料点数（点）	1,142	1,164
展示室への入室人数（人）	9,997	11,359
企画展における連携機関数（機関）	5	7

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性	効率性		
判 定	B	A	B		
<p>独創性：女性デジタルアーカイブシステムを国内で唯一構築し、収集した資料の目録情報と一部の画像をインターネットで公開している点に高度専門性がある。また、NNEC災害復興支援女性アーカイブは、女性の視点を災害復興支援記録に活かすという独自性を持っている。</p> <p>発展性：アーカイブ展示用パネルを平成29年度は佐賀県立男女共同参画センターや京都市男女共同参画センターなど全国の男女共同参画センターに貸出すことで、男女共同参画関連の展示を全国に広げたことで発展性がある事業と言える。特に平成29年度は明治大学中央図書館でも当館のパネルが展示され若年層にも広がりを見せた。</p> <p>効率性：展示用パネルは現物を貸し出す以外に当館リポジトリからダウンロードのうえ印刷して利用することも可能であり、効率性がある。</p>					

2. 定量的評価

観 点	収集数	展示室入場者数	他機関との連携数		
判 定	B	B	A		
<p>収集数：1,164点（目標達成率：116%）【昨年度：1,142点】 <目標：年間1千点以上></p> <p>展示室入場者数：11,359人（目標達成率：114%）【昨年度：9,997人】 <目標：年間1万人以上></p> <p>他機関との連携数：7機関（目標達成率：140%）【昨年度：5機関】 <目標：年間5機関以上></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	<p>各取り組みを順調に進め、当年度の数値目標を達成することができた。</p> <p>平成30年度もすでに複数の団体・個人からの収集を予定しており、中期計画の目標値達成に向けて順調な経過といえる。</p> <p>展示室の入場者数は中期計画の5年間で5万人を目標値としている。初年度・次年度（平成28-29年度）の2年間で21,356人を達成しており、こちらもおおむね順調である。</p> <p>他機関との連携については、展示で協力を得た団体に対して当館が別件で協力をを行うなど、多様な形で連携の輪が広がっている。アーカイブ展示のパネル貸出件数が伸びており、当館で行った展示が各地に広がりを見せている。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>アーカイブ収集については、引き続き収集先のネットワーク拡大に努める。</p> <p>展示については、引き続き他機関との連携ならびに入場者数の目標値達成に努める。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進
年度計画の項目 (I-3-(2)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進 ②アーカイブ保存修復研修

事業名	アーカイブ保存修復研修	
担当課室	情報課	
スタッフ	情報課長、係長(併)専門職員、係員	計3名

年度実績概要	<p>1. 趣旨 女性の歴史を今に生かし未来につないでいくためには、女性に関わる原資料(女性アーカイブ)の適切な保存と活用が必要である。そのため平成21年度から、女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者を主な対象として「女性情報アーキビスト入門講座」を開始した。その後、研修名の改称やコースの増設を行い、平成27年度は実技コースの定員を10名から20名に増員、平成28年度からは研修名を「アーカイブ保存修復研修(基礎コース+実技コース)」と改称して実施している。</p> <p>2. 実施概要 基礎コースでは、アーカイブ概論ならびに複数のアーカイブ実践機関によるアーカイブ構築の事例報告を行った。また、昨年度の研修効果のフォローアップ調査等で希望の寄せられたデジタルアーカイブの活用に関する内容を講義に反映させた。実技コースでは、紙資料の修復に関わる技術について実習を行った。</p> <p>3. 開催日時(場所) 平成29年11月20日(月)～11月22日(水) 場所: 国立女性教育会館 ①基礎コース: 11月20日(月)～11月21日(火) 1泊2日 ②実技コース: 11月21日(火)～11月22日(水) 1泊2日</p> <p>【評価指標】 ○研修参加者数(年間36名以上) 63名(基礎コース35名、実技コース28名) ○内容評価(90%以上の研修参加者からの満足の評価、65%以上からの高い満足の評価を得られたか) 満足度93.3%(基礎91.2%、実技96.2%)、高い満足度50.0%(基礎29.4%、実技76.9%) ○アーカイブ実務者同士のネットワーク構築支援 実技コースにおいて情報交換会を実施し、それぞれの立場や仕事状況などについて相互理解を深められるよう配慮した。過去の修了者間では、有志が集まり男女共同参画推進フォーラムに参加するなどの交流が続いている。</p>																												
実績を裏付けるデータ	<p>事業実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基礎コース</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加者数(人)</td> <td>29</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>満足度(%)</td> <td>100</td> <td>91.2</td> </tr> <tr> <td>高い満足度(%)</td> <td>46.2</td> <td>29.4</td> </tr> <tr> <td>実技コース</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>参加者数(人)</td> <td>25</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>満足度(%)</td> <td>100</td> <td>96.2</td> </tr> <tr> <td>高い満足度(%)</td> <td>95.8</td> <td>76.9</td> </tr> </tbody> </table>		指標	H28	H29	基礎コース			参加者数(人)	29	35	満足度(%)	100	91.2	高い満足度(%)	46.2	29.4	実技コース			参加者数(人)	25	28	満足度(%)	100	96.2	高い満足度(%)	95.8	76.9
指標	H28	H29																											
基礎コース																													
参加者数(人)	29	35																											
満足度(%)	100	91.2																											
高い満足度(%)	46.2	29.4																											
実技コース																													
参加者数(人)	25	28																											
満足度(%)	100	96.2																											
高い満足度(%)	95.8	76.9																											

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性			
判 定	B	A			
<p>独創性：女性アーカイブに主眼を置き独自に開発している専門的な研修プログラムは他に例をみないものであり、ユニークである点が評価できる。</p> <p>発展性：外部機関の職員に積極的に声をかけ講師として招くことで会館とのネットワークづくりを広げている。また、参加者間および講師とのネットワークが広がることにより新たな事業展開につながっている。例えば昨年度から今年度にかけての事例として、①実技コース講師が複数の他機関に招かれ、当研修をモデルケースとした講義を実施し、さらにその結果を持ち帰って当研修の講義内容改善に役立てた②参加者が地元の関連団体に呼びかけ、当研修を参考とした事業を実施した、などがあった。</p>					

2. 定量的評価

観 点	参加者数	プログラムの満足度			
判 定	A	B			
<p>参加者数：63名 「基礎コース」：35名（募集定員30名）【昨年度：29名】 「実技コース」：28名（募集定員20名）【昨年度：25名】 目標の36名を120%以上達成しているためA評価とする。 <目標：36名></p> <p>プログラムの満足度： 高い満足度50.0%（基礎29.4%、実技76.9%）【昨年度：70.0%（基礎46.2%、実技95.8%）】 満足度93.3%（基礎91.2%、実技96.2%）【昨年度：100%（基礎100%、実技100%）】 満足度及び「実技コースの高い満足度」については目標値を達成した。また、アンケート調査の結果では「基礎コース」で高い満足度が低かったが、その理由は、「質問時間が不足したこと」が大きな理由であり、講義内容自体は評価されている。そのため、今後は講師との事前打ち合わせにおいて、質問時間の確保を依頼することにより満足度は目標を達成可能と考えB評価とする。 <目標：90.0%以上の満足、65.0%以上の高い満足></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
B	参加者数が昨年度まで定員割れとなっていたが、今年度は募集定員を大きく上回る参加者を得た。また、プログラムの満足度も一定の評価を得た。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等	
・基礎コース	専門家による講義がいずれも内容の濃いものだったが、その分レベルがやや中級者向けとなり、質問時間も不足した。今後は講師との事前打ち合わせにおいて、研修受講者が初級者であることを十分に認識していただくと同時に、質問時間の確保を依頼する。
・実技コース	紙資料の修復における初心者向けの実習内容はバリエーションが限られているが、実習内容が例年高い評価を得てリピーターもいることから、今後は講師と打ち合わせて新たな実習内容の開発に取り組む。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-3-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (3) より多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化
年度計画の項目 (I-3-(3))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 3 男女共同参画推進のための広報・情報発信 (3) より多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化

事業名	広報活動の充実・強化	
担当課室	全課室	
スタッフ	理事長、理事、全職員	計 43 名

年度実績概要	
1. 趣旨	NWEC の事業や取組について積極的に国民に周知し、NWEC のプレゼンスを高めるため、ICT の活用等により多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化を図る。
2. 実施概要	
(1) 組織横断的な課題への対応	<p>「国立女性教育会館広報・情報発信計画」に基づき組織横断的な課題へ対応するため、「広報・情報発信に関する委員会」に設置された4つのプロジェクトチームによる広報活動を実施した。</p> <p>①40周年記念対応班による活動</p> <p>平成29年に開館40周年を迎えたことから、次のような広報活動を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロゴマークの設定：職員からデザインを募集し、決定した。NWEC ホームページ、プレスリリース、主催事業チラシ・ポスター、研修資料等に活用し、広報を行った。 ・メッセージの募集：ホームページやチラシを通じて募集し、130件の応募があった。その中で個人情報等に配慮し、応募者の了解が得られた24件をホームページに掲載。 ・記念樹の植樹：NWEC 職員、PFI 事業者、ボランティアが参加して、正面玄関前にクヌギの植樹を行った。参加者全員で記念撮影を行い、SNS や記念誌等を通じて広報した。 ・記念誌の作成：過去10年間のダイジェスト版を作成し、全国の地方公共団体、女性・男女共同参画センター、図書館等へ配布。 ・のぼりの作製・掲示：40周年記念展示等の広報のため、のぼりを作製し、NWEC の敷地内や文部科学省情報ひろば、日本女性会議の広報ブースに掲示した。 ・グッズの作成：40周年を記念して、広報用バック、ロゴマークの入ったステッカー、マグネット等を作成し、主催事業やイベントにおいて配付を行った。 <p>②40周年記念展示班による活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国立女性教育会館 開館40周年展」：女性アーカイブ展示室において平成29年2月17日～12月17日で展示を開催した。また、文部科学省の情報ひろばにおいて平成30年1月4日～4月22日で展示を開催するとともに、3月23日には記念展示関連イベントとして、ワークショップ「私のキャリア大作戦」を実施した。 ・7月に女性教育情報センター入口前スペースを常設展示に改めた。 <p>③Winet 改善・運営班による活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「女性と男性に関する統計データベース」の「生活時間・無償労働」「家計・資産」「意思決定」「安全・犯罪」「意識調査」の5分野を改善した。 ・また、女性情報レファレンス事例集掲載の事例を21件更新した。 <p>④ホームページ運営班による活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に改訂したホームページについて、組織横断的に設置されたホームページ運営班において、より見やすく、分かり易いホームページを目指して、毎月、掲載記事等の検討・修正を行った。主催事業の実施等に関する最新の報告や写真を掲載した。 <p>⑤「広報・情報発信に関する委員会」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報・情報発信事業の内容を充実するため、平成29年度中に1回開催し、理事及び各課室長をメンバーとする委員会を開催し、広報・情報発信計画の実施状況についてまとめ、振り返りを行った。
(2) 各課室による取組	<p>【総務課】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS、メールマガジン等による情報発信内容の充実 <p>Facebook には、NWEC における主催事業や刊行物だけでなく、40周年記念に関する記事やニューヨークで開催された国連女性の地位委員会(CSW)に日本政府代表団の一員として参加した職員の現地レポートや写真の他、ボランティアによる季節ごとの取組などに関する記事について積極的に掲載し</p>

た。また、29年度、新たに若年女性向けに Instagram のサイトを立ち上げ、主催事業やジェンダー問題に関する国際的取組などを紹介する記事を掲載した。

その結果、平成 29 年度の SNS への記事掲載件数は 144 件（Facebook108 件と Instagram36 件）であり、目標を達成した。

また、月 1 回発行していたメールマガジンを平成 29 年 4 月から月 2 回発行（1 日、15 日）するとともに、内閣府、文部科学省、嵐山町等の広報誌を通じて、40 周年記念の企画展示や研修事業の参加者募集、実施報告及び調査研究の成果報告並びに女性アーカイブセンターの企画展示等、NWEC の取組について積極的に広報を行った。

さらに、内閣府や文部科学省、女性関連施設等が実施する全国的な会議や研修・イベントの際に、NWEC 利用案内・チラシ・パンフレットや NWEC 概要の冊子等の配布を積極的に行った。さらに、理事長をはじめ、職員が外部機関で講演・講義を行う際には、パンフレット等を配布し利用を呼びかけている（三つ折りリーフレット 7,650 枚を配付）。

・ **プレスリリースによる広報**

研修事業を広報するプレスリリースを 11 件作成し、NWEC ホームページ上に掲載するとともに、文部科学省、川越市役所、埼玉県庁の記者会に配付した。

【事業課】

・ **NWEC 主催の研修内容の動画配信**

物理的・地理的制約のために NWEC に集うことのできない方に対しても NWEC の研修内容を普及させるため、NWEC が実施した研修のうち一部のプログラム（基調講演や講義）について You Tube を利用して NWEC ホームページ上で配信している。平成 29 年度は、You Tube15 件（平成 29 年度 5 件、平成 26～28 年度実施事業：10 件）を配信している。

・ **東武東上線沿線駅でのポスター掲示**

多くの方に NWEC の主催事業を知っていただき、また参加いただけるよう、「男女共同参画推進フォーラム」及び「女子大学生キャリア形成セミナー」のポスターを東武東上線沿線駅にて掲示をした。

【情報課】

・ **女性教育情報センターの資料をテーマ別に紹介するリーフレット「本、あり。」「を 4 回発行するとともに、過去の「本、あり。」「と新着図書をまとめた「本、あり。特別号」を 8 月に発行し、全国の女性関連施設や全国の大学・公共図書館へ配付した。**

・ **女性教育情報センターの前のスペースを常設展示場へ改めた。**

・ **宿泊棟の各部屋に女性教育情報センターの利用案内を備え付けた。**

・ **文部科学省をはじめとした 25 府省庁等が連携して開催する「こども霞ヶ関見学デー」において、参加した親子に「男女雇用機会均等法すごろくで遊ぼう！」や絵本の読み聞かせを行い、NWEC の資料やグッズを配付した。**

【研究国際室】

・ **調査研究成果物の発行及び発信**

「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」（第二回）の分析結果について記者説明会を開催した（平成 29 年 5 月）。第三回パネル調査の結果を男女別に集計した『男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査（第三回調査）報告書』を作成した（平成 30 年 3 月）。

より多くの人に NWEC の調査研究成果が普及し活用されるよう、前年度に「女性関連施設に関する調査研究」の成果としてまとめた『地域連携による女性活躍推進の実践』を、苫小牧市で開催された日本女性会議の広報ブースで参加者に紹介した。（平成 29 年 10 月）。

また、女性のエンパワーメント、男女共同参画の推進に関する調査報告、女性関連施設や女性団体の実践活動等を掲載する『NWEC 実践研究』第 8 号を発行（平成 30 年 3 月、テーマ：女性活躍と地方創生）した。

・ **ウェブ調査を利用した広報**

「学校教員のキャリアと生活に関する調査」として、全国の公立小学校・中学校の教員 3 千人を対象に実施したウェブ調査を機に、NWEC ホームページや調査研究に関するアクセスも増加した。

3. 成果

以上のような取組の結果、平成 29 年度のホームページアクセス件数は 505,132 件に達し、平成 29 年度目標の 36 万件、中期目標の 40 万件を達成した。

実績を裏付けるデータ

事業実績

	H28	H29
ホームページへのアクセス件数	389,066	505,132
SNS への記事掲載件数	102	144

自己点検評価調査

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性	効率性		
判 定	B	A	B		
<p>適時性：開館 40 周年を機会に、記念展示の開催やロゴマークの制定、記念誌の作成・配付、メッセージ募集、植樹式などの話題で繰り返し広報を行うことができた。</p> <p>発展性：文部科学省情報ひろばにおける「開館 40 周年展」の開催、「こども霞ヶ関見学デー」や苫小牧市で開催された日本女性会議など、省庁主催や全国規模の外部イベントに積極的に参加し、広報活動を行った。来年度以降も継続的实施により、広報効果が期待できる。</p> <p>効率性：文部科学省情報ひろばにおける 40 周年記念展示の開催、25 府省庁等が連携して実施する「こども霞ヶ関見学デー」や全国の男女共同参画行政関係者等が参加する日本女性会議への広報ブースの出展など、外部機関が開催するイベントに参加し広報活動を行うことは、NWEC の認知度を上げるうえで効率的である。</p> <p>月に 1 回発行していたメールマガジンは、情報量が多く、目を通すには時間が掛かりすぎるという課題があったが、月に 2 回発行することにより、1 回あたりの情報量をコンパクトにすることができた。一方、研修事業の参加者募集等の情報は繰り返し発信するなど、効率的・効果的な情報発信が可能となった。</p>					

2. 定量的評価

観 点	ホームページへの アクセス件数	SNS への記事 掲載件数			
判 定	A	A			
<p>ホームページへのアクセス件数：505,132 件（目標達成率：140.3%） 【昨年度：389,066 件】 <目標：36 万件以上></p> <p>SNS への記事掲載件数：144 件（目標達成率：144%） 【昨年度：102 件】 <目標：年間 100 件以上></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
A	開館 40 周年という機会を活かし、様々なツールや場所を使って広報活動を行ったことにより、効果的な広報ができた。その結果、ホームページへのアクセス件数及び SNS への記事掲載件数について、年度計画の目標値を達成することができた。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>Instagram による情報発信について、内容やタイミングなど、より効果的な情報発信の在り方について検討を行う。また、外部イベントにおける広報ブースについて、のぼりや表示・看板・配布物を検討し、より効果的な広報活動となるよう工夫する。</p> <p>海外向けの情報発信だけでなく、国内に滞在する外国人や留学生向けの情報発信の充実を図るため、来年度以降、英文ホームページの更新を行う。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (1)アジア地域における男女共同参画推進のための人材育成
年度計画の項目 (I-4-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (1)アジア地域における男女共同参画推進のための人材育成

事業名	アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	専門職員、係長、係員、派遣社員	計4名

年度実績概要	<p>1. 趣旨 開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。平成29年度は、指導的地位への女性の参画をテーマとして設定し研修を行う。</p> <p>2. 実施概要 本研修では、日本国内の関連機関の視察や専門家による講義に加え、研修生同士がテーマに関する好事例を学び合うことを目指したカリキュラム構成としている。</p> <p>3. 開催日時・場所 平成29年10月2日(月)～10月6日(金) (受入期間:10月1日(日)～10月7日(土)) NWECC、内閣府男女共同参画局、ANA、京都ウィメンズベース、京都市男女共同参画センター他</p> <p>4. アジア地域における拠点としての取組 研修生には、出身国(5カ国)における男女共同参画政策と、女性の社会参画に関するベスト・プラクティスを分析したカントリーレポートを事前に提出するとともに、研修終了後は報告書の執筆を義務づけた。</p> <p>5. 研修の内容評価 研修の有用度と満足度はともに100%であった。特に企業でのダイバーシティ・マネジメントの取組みや女性起業家との意見交換が、有意義であったと評価が高かった。</p>
--------	---

実績を裏付けるデータ	<p>1. 参加者の概況 10名(定員10名)</p> <p>2. 国籍 インドネシア、韓国、カンボジア、フィリピン、ベトナム(各2名)</p> <p>3. アンケート結果 研修の満足度 100.0%(非常に満足 100.0%) 研修の有用度 100.0%(非常に有用 100.0%)</p> <p>4. 2017NWECCリーダーセミナーレポート 指導的地位への女性の参画 150部</p>	
事業実績		
指標	H28	H29
満足度(%)	100%	100%
高い満足度(%)	80%	100%
有用度(%)	100%	100%

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	効率性		
判 定	B	B	B		
<p>適時性：女性の社会参画を進めてゆくためには、意思決定の場により多くの女性が参画し、ジェンダーの視点に立った方針決定が行われることが重要である。本研修のプログラム構成は研修期間中に各国の女性リーダーの育成に関する政策や好事例を学ぶことに主眼をおいた。専門家による講義と関係機関の視察を通じて、女性のリーダーシップの発揮を妨げる要因について学習し意見交換を行うことができた。</p> <p>独創性：研修カリキュラムは、NVECがこれまで築いてきた人的ネットワークを活かし、省庁や行政機関、女性関連施設、企業より協力を得て、限られた日程でテーマについて学ぶことができる研修内容となるよう配慮した。</p> <p>効率性：研修生が研修から学んだ知見を基に国別報告をまとめ、2017NVEC リーダーセミナーレポートとして日本語と英語で刊行した。レポートはホームページ上でダウンロード可能な形式で公表し、研修成果の普及につとめている。</p>					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度	プログラムの有用度			
判 定	A	A			
<p>プログラムの満足度：100%（非常に満足 100%） 【昨年度：満足度 100%（非常に満足 80%）】 目標値「高い満足の評価」80%以上を 120%達成したのでA評価とする。 <目標：満足の評価 90%以上、高い満足の評価 80%以上></p> <p>プログラムの有用度：100%（非常に有用 100%） 目標値 80%以上を 120%達成したのでA評価とする。 【昨年度：有用 100%】 <目標：80%以上></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
A	年度計画どおりに実施されている。アンケートでは高い満足度、有用度ともに 100%で、目標値を 120%達成しており、研修生のニーズに合致した研修となった。質疑応答も活発に行われ、研修生が意思決定分野への女性の参画に係る各国の政策と課題について知り、考察を深める機会を提供できた。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
企業訪問と京都スタディーツアー期間中に実施した、日本人女性起業家との意見交換は、有用度・満足度共に高かった。次年度以降も、テーマに応じて企業における女性の登用の事例や起業等を通じて経済的自立を達成した具体的な事例を紹介し研修に組み込む。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応
年度計画の項目 (I-4-(2)) ①	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応 ①NWE Cグローバルセミナー

事業名	NWE Cグローバルセミナー	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	専門職員、係長、係員、派遣社員	計4名

年度実績概要	<p>1. 趣旨 女性活躍推進、男女共同参画に関わる研究者、地方公共団体や男女共同参画センター、女性団体の職員等を対象に、女性の人権やエンパワーメントに係る課題について理解を深めることを目的として、海外の専門家を招へいするものである。</p> <p>2. 実施概要 行政職員、女性関連施設職員、大学院生、研究者、企業関係者等を対象として、「女性の活躍促進に向けた取組み ドイツの経験から考える」をテーマとした国際シンポジウムを実施した。</p> <p>3. 開催日時・場所 平成29年12月7日(木) 13:00~16:30 主婦会館プラザエフ</p> <p>4. 国際的課題への対応 (1)女性教育のナショナルセンターとしての人的ネットワークを活用して、国内外から専門家を招へいし男女共同参画の推進に係る課題にして現状を分析し、解決のための方策について議論することを目指した。 (2)日独両国が企業における女性の活躍促進に関して取組むべき課題について、参加者と海外の専門家が意見交換を行うことができる場を設定した。</p> <p>5. グローバルセミナーの内容評価 (1)第I部基調講演では、ドイツにおける女性活躍推進の取組と今後の課題について講演を行った。第II部パネルディスカッションでは、ドイツ系企業の管理職ならびに日独社会の比較研究を専門としている研究者による報告を行った。 (2)基調講演とパネルディスカッションの資料は事前に日英二カ国語の資料集を作成し、グローバルセミナー参加者に配付したほか、会館のホームページ上でもダウンロード可能な形式で公表している。また基調講演の動画も配信している。</p>										
実績を裏付けるデータ	<p>1. 参加者概況 86名(定員80名)</p> <p>2. アンケート結果 満足度 97.2%(非常に満足 28.2%、満足 69.0%) 有用度 95.8%(非常に有用 28.2%、有用 67.6%)</p> <p>3. 平成30年1月17日付の『社会新報』に本事業の特集記事「女性の活躍 ドイツの取り組みは」が掲載された(5万部)</p>										
事業実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>H28</th> <th>H29</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>満足度(%)</td> <td>95</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>高い満足度(%)</td> <td>42</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>		指標	H28	H29	満足度(%)	95	97	高い満足度(%)	42	28
指標	H28	H29									
満足度(%)	95	97									
高い満足度(%)	42	28									

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	発展性	効率性		
	B	B	B		
<p>適時性：「女性が輝く社会」の実現を目指して、平成 27 年 8 月には「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が成立し、女性支援政策が展開されている。ドイツで実施されている上場企業の女性役員クォータ制等の事例を基に、女性が社会で能力を十分に発揮するためには、どのような制度・支援が必要かを議論した。</p> <p>発展性：福岡県人づくり・県民生活部男女共同参画推進課が実施した地域のリーダーを目指す女性応援研修 12 名が研修の一環として NVEC グローバルセミナーに参加し、セミナー当日の午前中は、会館職員が GSW の講義をおこない、国内女性団体へ海外の先進事例を学ぶ機会を提供した。</p> <p>効率性：文部科学省とドイツ大使館より後援を得て広報等に活用した。グローバルセミナーの企画、講師との調整、実施は専門職員、研究国際係長、係員及び派遣社員の 4 名体制で行い、講義資料の準備や謝金の支払い手続き等、全て円滑に行うことができた。</p>					

2. 定量的評価

観 点 判 定	プログラムの満足度				
	B				
<p>プログラムの満足度：97.2%（非常に満足 28.2%、満足 69.0%） 【昨年度：満足度 95%（非常に満足 42%）】</p> <p>満足度が 97.2%と非常に高く、前年度に比べ 2.2%数値が増加した。「非常に満足」は 28.2%にとどまったが、参加者のアンケートによれば、英語での報告スピードが速すぎ、マイクの音量不足のため議論の内容を十分に理解できなかった等の意見が挙げられており、むしろ「ドイツの現状についての理解を深めることができた」、「日独の比較などの統計データが有用だった」、「取組事例が具体的で参考になった」など、セミナーのテーマや内容に対する評価は高く、満足度は前年度より増加する結果となったため、B評価とする。</p> <p><満足の評価 85%以上、高い満足の評価 40%以上></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	年度計画どおりに実施されている。社会の中で女性が十分に能力を発揮することができることを目指して、「女性が輝く社会」政策が進められている。これまで日本国内でドイツの男女共同参画政策や女性支援の具体的な取組みを学ぶことができる機会が限られていたため、本事業を通じて、ドイツにおける男女平等を推進するための好事例の紹介は、参加者から評価を得た。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
ドイツがどのようにして男女平等な社会を構築してきたかを主題とした講演は、参加者の満足度、有用度ともに高かったため、次年度以降も引き続き EU 諸国を含む先進国における事例を紹介できるよう企画を進める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応
年度計画の項目 (I-4-(2)) ②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応 ②課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」

事業名	課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究員(1)、係長	計2名

年度実績概要	
<p>1. 趣旨</p> <p>独立行政法人国際協力機構(JICA)がアジア地域において実施する「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」のカウンターパート及び近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修。対象国をアセアン地域に広げた3年計画の第3年次。</p> <p>人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が各国の人身取引対策に関する取組について相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として実施した。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>①参加者：カンボジア、ベトナム、タイ、フィリピン、ミャンマー、マレーシアの人身取引対策の予防と保護の分野に携わる中央・地方政府機関職員(司法・法執行・入管、婦人保護、ソーシャルワーカー等)。</p> <p>②研修内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各国の人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセス及び関連機関の関係の把握、グッドプラクティスや課題の共有 ・人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチの理解と、改善策やネットワーク強化に資する方策の検討を行うための発表と討議 ・関係省庁等(東京入国管理局、都道府県警察含む)、地方自治体の女性相談所等、民間団体(母子自立支援施設、若年女性支援団体等)、弁護士や有識者等を講師・見学先として、意見交換や講義を実施 ・関係機関や有識者を招いた成果発表会と意見交換会の開催 <p>3. 開催期日 平成29年10月19日(木)～11月2日(木)</p> <p>4. 開催場所 NVEC、JICA、内閣府、婦人相談所、東京入国管理局、社会福祉法人、民間団体等</p> <p>5. 研修内容の評価</p> <p>人身取引という地域に共通する喫緊の課題をテーマに取り上げ、行政官を対象に、人身取引問題の解決にジェンダー視点で取り組むことを促進する研修であり、JICAの海外ネットワークと会館の情報や研修ノウハウ、国内ネットワークが相互にいかされている。</p> <p>本年度は、新しく制定された外国人技能実習法(平成29年11月施行)に関する講義や、介護分野で働く外国人を支援する好事例や生活者としての外国人を支援する国際交流協会の活動を取り上げた。</p> <p>国内の人身取引対策や女性保護に携わる関係者も含めて、ASEAN諸国の取組について理解を深め、人身取引対策に携わる関係者の国を越えた相互理解やネットワークを深める役割も果たした。研修参加者からは特に、日本の官民の連携、国と地方の役割分担、現場で重視されている被害者中心主義など、帰国後に自国で役立つ知識や情報を得る貴重な機会になったと高く評価されている。</p>	
実績を裏付けるデータ	
<p>1. 参加者の概況：7ヵ国13名(女性8名、男性5名)(各国政府が選定・推薦しJICAとNVECで選定)</p> <p>2. アンケート結果：研修目標達成度100.0%(十分に達成38.5%、達成61.5%)</p> <p>3. 参加国実績(人、()内は女性で内数)：カンボジア2、ベトナム2(1)、タイ2(1)、ラオス2(1)、フィリピン1(1)、ミャンマー2(2)、マレーシア2(2)</p>	

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性	効率性		
判 定	B	A	B		
<p>適時性：人身取引問題は国際的にも指摘されているが、アジア太平洋地域は女性や女児の被害が多く、政策的に重要な課題である。平成29年3月から外国人家事支援人材の受け入れ事業が開始し「外国人の技能実習の適正な実施及び技能実習生の保護に関する法律」（平成29年11月1日施行）が制定されるなど、人の移動のグローバル化が進んでいる中で本プログラムを実施することは適時性がある。</p> <p>発展性：人身取引の問題解決のために、受入国と送出国の間で多分野連携協働をテーマに行われる複数カ国を対象としたワークショップ型の研修は、メコン地域からアセアン諸国に参加国が拡大し、被害者保護だけでなく送り出し国における移住労働の課題について取り上げるなど、参加国及び内容において発展性がある。また、これまでの本研修の会館実績が認められ、平成30年度から平成32年度の新フェーズも会館が受託することになった。</p> <p>効率性：会館の国際研修実施経験で培ったノウハウや調査研究の知見と行政や団体等とのネットワークをいかして企画したプログラムである。会館の研修宿泊施設を利用し、委託管理収入も得ており効率性が高い。</p>					

2. 定量的評価

観 点	プログラムの達成度				
判 定	B				
<p>プログラムの達成度： 「目標達成度」と「業務への活用度」の合計を「満足度」とする 100.0%（非常に満足 57.7%、満足 42.3%） 【昨年度（非常に満足 46.2%、満足 53.8%）】</p> <p>研修参加者の研修目標達成度 100.0%（十分達成 38.5%、達成 61.5%） 【昨年度：100%（46.2%、53.8%）】</p> <p>研修で得た知識の業務への活用度 100.0%（直接活用 76.9%、応用できる 23.1%） 【昨年度：100%（46.2%、53.8%）】</p> <p>3年間平均 達成度 100%（十分達成 45%、達成 55%）活用度 100%（直接活用 52.5%、応用できる 47.5%）</p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	<p>アセアン諸国の行政官を対象に、グローバルな課題である人身取引をテーマとして研修を実施することで、アジア地域における女性のエンパワーメント及び男女共同参画のための人材育成に貢献している。</p> <p>平成27年度から平成29年度までの委託契約期間が滞りなく終了した。これまでの実績が認められ、平成30年度から平成32年度の新フェーズも会館が受託することになった。</p>

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>これまでの実績が認められ、平成30年度から平成32年度の新フェーズも国際協力機構から会館が受託することになった。</p> <p>来期は研修終了時に成果物の作成が求められるなど、新フェーズの趣旨に沿った研修の企画立案が求められている。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-4-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応
年度計画の項目 (I-4-(2)) ③	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献 (2) 国際的課題への対応 ③国際会議等で得た情報の発信

事業名	国際会議等で得た情報の発信	
担当課室	研究国際室	
スタッフ	研究国際室長、研究員(3)、専門職員、係長、係員	計7名

年度実績概要		
1. 国際会議等で得た情報の国内発信		
<p>(1) 会館協定締結機関である韓国両性平等教育振興院(KIGEPE)主催の国際研修「女性のリーダーシップをエンパワーする」(平成29年6月1日(木))において、研究国際室研究員2名が会館の取組みと目的、「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」で得られた知見、今後の課題等を報告した。</p> <p>(2) 平成29年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修<女性関連施設・地方自治体・団体>」(平成29年6月7日(水)～9日(金))において、研究国際室専門職員及び事業課専門職員が平成29年3月に参加した「第61回国連女性の地位委員会(CSW)」での議論や合意結論について報告した。</p> <p>(3) 平成29年度「男女共同参画推進フォーラム」(平成29年8月25日(金)～27日(日))において、日本女性監視機構(JAWW)会員CSWメンターが、CSW61に参加し、学んだ経験を国内外でどのように活かしてつなげていくか等、パネルディスカッションを会館提供ワークショップとして行った。</p> <p>(4) 日本女性監視機構(JAWW)主催「第62回CSWに向けた勉強会 Before and After～CSWで何が学べるか、何を学ぶか～」(平成29年11月6日(月))において、研究国際室専門職員を講師として派遣した。</p> <p>(5) 福岡県人づくり・県民生活部男女共同参画推進課主催「地域のリーダーを目指す女性応援研修」(平成29年12月7日(金))において、事業課専門職員がCSW61等について情報提供を行った。</p>		
2. 会館主催国際研修及び会議等の開催		
<p>(1) アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー(平成29年10月2日(月)～6日(金)) テーマ：指導的地位への女性の参画 会館の協定締結先である、韓国両性平等教育振興院(KIGEPE)及びカンボジア王国女性省から職員(各1名)が参加。セミナー期間中はFacebookにて様子を配信するとともに実施報告を会館ホームページへ掲載。研修生がセミナーから学んだ知見を基に国別報告をまとめた『2017NWECリーダーセミナーレポート』を作成し会館ホームページ上でダウンロードできる形で掲載。研修生及び所属機関並びに関係者へ配付。</p> <p>(2) NWEC グローバルセミナー(平成29年12月7日(金)) テーマ：女性の活躍促進に向けた取組み～ドイツの経験から考える～ 基調講演者としてウルリケ・ヘルワース氏(ドイツ)を招聘。 基調講演及びパネルディスカッションの資料集を日英二カ国語で作成し参加者へ配付。会館ホームページ上でダウンロードできる形で掲載するとともに基調講演の動画を配信。実施報告を会館ホームページ及びFacebookにて配信。</p> <p>(3) 独立行政法人国際協力機構(JICA)委託事業 課題別研修アセアン諸国における人身取引対策協力促進(平成28年10月24日(月)～11月4日(金)) 「人身取引被害者保護・自立支援促進プロジェクト」のカウンターパート及び近隣地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修。実施報告を会館ホームページ及びFacebookにて配信。</p> <p>(4) 人身取引学習パネルの展示及び貸出 会館が行った「人身取引の防止のための教育・啓発と連携方策に関する調査研究」の一環として、人身取引に関する教育・啓発パネル『人身取引と女性に対する暴力をなくすために』を作成し研修棟1階に展示。会館利用者等を通じて広く国内に発信した。</p>		
実績を裏付けるデータ		
1. アンケート結果		
(1) 地域における男女共同参画推進リーダー研修(CSW)		
指標	H28	H29
有用度(%)	76.5	86.7
高い有用度(%)	22.7	21.0
(2) NWEC グローバルセミナー		
指標	H28	H29
満足度(%)	95.0	97.2
高い満足度(%)	42.0	28.2

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性			
判 定	B	B			

適時性：会館主催による国際研修及び会議の開催、会館協定締結機関主催の国際会議に参加し会館の研修事業や調査研究等について報告するなど、これまでに構築した会館の取組み等を情報発信・共有した。また、海外からの来館者とも、相互の現状と課題、情報を共有するなど、海外機関と連携・協力体制を強化している。

発展性：『2017NWEC リーダーセミナーレポート』『NWEC グローバルセミナー資料集』の作成及び配付、NWEC グローバルセミナー基調講演の動画、その他、国際研修や韓国両性平等教育振興院(KIGEPE)主催国際会議での調査研究報告等を随時、会館ホームページやFacebookで配信した。『リーダーセミナーレポート』は、研修生及び所属機関からも好評を得ている。

2. 定量的評価

観 点	プログラムの満足度				
判 定	B				

プログラムの満足度：

(1) 地域における男女共同参画推進リーダー研修(GSWの報告)
○有用度 87.6% (非常に有用 21.0%、有用 65.7%)
【昨年度：有用度 76.2% (非常に満足 22.7%、満足 53.8%)】

(2) NWEC グローバルセミナー
○満足度 97.2% (非常に満足 28.2%、満足 69.0%)
【昨年度：満足度 95.0% (非常に満足 42.0%、満足 53.0%)】
○有用度 95.8% (非常に有用 28.2%、有用 67.6%)
【昨年度：有用度 96.0% (非常に有用 47.0%、有用 49.0%)】
<目標：85%以上の満足、40%以上の高い満足>

プログラム満足度は「40%以上の高い満足」に達していないが、他に、主催事業や国際会議等で会館の取組みや研修事業、調査研究について国内外に広く報告するとともに情報共有・収集しているためB評価とする。

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	日本政府代表団の一員として国際会議(CSW)に出席し会館主催事業にて参加報告、アジア太平洋地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー及びNWEC グローバルセミナーの様子や実施報告をFacebook及び会館ホームページにて配信。また、NWEC グローバルセミナー基調講演の動画を配信するなど、会館の取組を国内外に広く普及した。よって、本件はねらいを十分に達成できているといえる。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
来年度以降も、今までに構築してきた海外機関との協力体制を強化しつつ、アジア地域における男女共同参画及び女性教育の人材育成のための拠点としての役割を果たすと同時に、海外における先進的な取組及び先進国における女性支援施策について情報収集を行う。また、国際研修修了生等とのつながりを一層強めるため、情報交換を定期的に行うなど、会館を中心としたネットワーク構築を図り、会館ホームページ及びFacebook等で研修成果を国内外に普及させる。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(1))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 5 横断的に取り組む事項 (1) 国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築
年度計画の項目 (I-5-(1)) ①②	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 5 横断的に取り組む事項 (1) 国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築 ①関係府省との連携強化、ネットワークの構築、②関係機関との連携・協働

事業名	国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築	
担当課室	全課室	
スタッフ	理事長、理事、全職員	計 43 名

年度実績概要
<p>1 趣旨</p> <p>関係府省との意思疎通と情報共有を図ることによって、連携して事業を行うとともに、「国立女性教育会館運営委員会」を有識者や関係府省から意見を聞く場として活用する。</p> <p>年間24機関以上との協働で研修事業等に取り組み、連携によるより効果的な事業を実施する。</p> <p>2 実施概要</p> <p>(1) 関係府省との連携強化、ネットワークの構築</p> <p>①運営委員会出席：4府省（内閣府2回、文部科学省2回、外務省2回、厚生労働省1回） 各府省から、施策の説明等、情報提供を受けるとともに意見交換を行った。</p> <p>②主催事業等への講師派遣：8回（厚生労働省2回、文部科学省、内閣官房、内閣府、経済産業省、法務省、警察庁各1回） 「地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉」、課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」において各府省より施策説明等を受けた。</p> <p>③その他の連携例： ・外務省主催の国際女性会議WAW! 2017の公式サイドイベントとして「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」及び「大学等における男女共同参画セミナー」を登録した。 ・平成29年8月2日～3日、文部科学省主催の「こども霞が関見学デー」に出展し「男女雇用機会均等法すごろく」やクイズ、紙芝居や絵本の読み聞かせなどを行った。 ・内閣府男女共同参画局『理工チャレンジ（リコチャレ）』に「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」を登録した。 ・平成30年1月4日～4月22日まで文部科学省の「情報ひろば」において「国立女性教育会館開館40周年記念展示」を実施。また記念展示に関連するイベントとして3月23日にワークショップ「私のキャリア大作戦」を行った。 ・平成30年2月26日、文部科学省主催の「平成29年度女性の学び支援のための研究協議会」のパネル展示に参加し、展示パネルをもとに会館の事業説明を行った。</p> <p>④関係府省との情報共有（訪問・電話・メール等）：80件 主催事業への各府省からの講師派遣や講演等を受けるに当たり事前に意見調整等を行った。</p> <p>(2) 関係機関との連携・協働 協働実績：26機関</p> <p>①共催機関数：5 ・NPO法人全国女性会館協議会（「地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉」（女性関連施設管理職コース）） ・日本学術会議「科学者委員会 男女共同参画分科会」、お茶の水女子大学、沖縄科学技術大学院大学（「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」） ・リーダーシップ111（「女子大学生キャリア形成セミナー」）</p> <p>②受託機関数：2 ・国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）（「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」） ・独立行政法人国際協力機構（JICA）（課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」）</p>

③後援機関数：15

- ・男女共同参画学協会連絡会、埼玉県教育委員会（「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」）
- ・経済産業省、厚生労働省（「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」）
- ・一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、日本私立大学団体連合会、全国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会、独立行政法人国立高等専門学校機構（「大学等における男女共同参画推進セミナー」）
- ・文部科学省、ドイツ連邦共和国大使館（「NWE Cグローバルセミナー」）
- ・独立行政法人教職員支援機構（「教職員を対象とした男女共同参画研修」）
- ・埼玉新聞社（平成30年女性アーカイブセンター特別展示「女性の歩みを受け継ぐ 女性アーカイブセンター10周年展」）
- ・（株）資料保存器材（「アーカイブ保存修復研修」）

④連携協定による協働：4

- ・埼玉大学
連携事業「男女共同参画社会を考える」の実施。
- ・放送大学
放送大学授業「女性のキャリアデザイン入門（'16）」及び「女性のキャリアデザインの展開（'17）」を提供・運用。
- ・韓国両性平等教育振興院（K I G E P E）
「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」にK I G E P E職員が参加。K I G E P E主催の国際会議「Empowering Women's Leadership: expanding influence and innovation（女性のリーダーシップをエンパワーする：影響とイノベーションの拡大）」に研究国際室研究員2名が参加し、会館の調査研究等について報告を実施。
- ・カンボジア王国女性省
「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」に女性省職員が参加。

(3) その他

【人的交流】

- ①平成29年6月14日～21日、NWE Cグローバルセミナー基調講演者との打合せのため研究国際室専門職員がドイツを訪問。ドイツ女性協議会、フェミニスト・アーカイブ等を訪問し意見交換及び情報収集を行った。
- ②平成30年2月27日、UN Women日本事務所長が来館。国内外の男女共同参画の状況について会館役員と意見交換を行った。

【他団体の事業との連携】

- ①平成29年5月25日、26日に開催されたジェンダーサミット10（科学技術振興機構、日本学術会議主催）に参加。パラレルセッションにおいて「女子中高生夏の学校2017」についての報告を行った。
- ②平成29年9月5日に神奈川県職業能力開発協会主催の講演「企業を成長に導く働き方改革と風土改革」（講師：NWE C理事長）を「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」のプログラム展開の位置づけとして実施。女性が活躍する職場風土や女性活躍のポイントについて説明した。
- ③平成29年10月13日～15日に開催された「日本女性会議2017」に参加し、苫小牧市の協力を得て広報活動を行った。
- ④平成29年10月26日、27日にNWE Cで開催された大学女性協会全国セミナー（テーマ「女性の自立とは 真のリーダーシップを発揮するために」）に職員が男女共同参画に関する研修の一環として参加した。
- ⑤平成29年11月6日、埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SAL A）のOpen Library Weeksの企画としてNWE C40周年「図書館の連携 ～男女共同参画に関する情報を中心に～」を開催した。
- ⑥平成30年2月9日、全国女性会館協議会主催の情報事業担当者向け研修にてNWE Cの情報関連サービスを紹介する講義を行った。
- ⑦平成29年度に埼玉県立嵐山史跡の博物館が実施した講演「鎌倉時代の「後家尼」」（平成29年12月15日）、「中世武士の本拠と本領—武蔵熊谷氏を中心に—」（平成29年12月23日）、シンポジウム「武蔵武士とその本拠」（平成30年1月27日、28日）の実施場所としてNWE C講堂を提供するとともに、講演等の広報を行った。
- ⑧平成30年3月12日～23日、Commission on the Status of Women（CSW：第62回国連女性の地位委員会）に日本政府代表団の一員として、研究国際室専門職員、事業課（兼）研究国際室専門職員及び総務課人事・企画係長の3名が参加した（ニューヨーク）。

【NVEC 主催事業での連携】

- ①平成27年度に民間企業の正規職についた男女（大学・大学院卒）を5年間追跡するパネル調査の第三回調査（「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」）を調査参加企業（17社）の協力を得て実施した。
- ②平成29年度「女性教員の活躍推進に関する調査研究」において、全国公立小・中学校女性校長会に検討委員を依頼した。また、全国の小中学校教員を対象とした「学校教員のキャリアと生活に関する調査」を都道府県・政令市教育委員会に対して、各市町村教育委員会や対象となる学校への周知・伝達の協力を依頼し実施した。
- ③「女性関連施設相談員研修」では、埼玉県警察本部子ども女性安全対策課より、「ストーカー事案の概要と被害防止のポイント」をテーマに情報提供いただいた。
- ④「女子中高生夏の学校2017」では43の学会・団体・企業から協力を得た。
- ⑤課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」で、東京都、岐阜県警、国際移住機関、人身売買禁止ネットワーク等から講師や視察先として協力を得た。
- ⑥女性教育情報センターは、図書パッケージ貸出サービスとして、大学、高等専門学校、女性関連施設等32機関へ貸出を実施した。
- ⑦女性アーカイブセンター平成30年特別展示「女性の歩みを受け継ぐ 女性アーカイブセンター10周年展」において7機関から資料提供等の協力を得た。

実績を裏付けるデータ

事業実績

指標	H28	H29
協働実績機関数	23	26

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性	効率性		
判 定	B	A	B		
<p>独創性：女性教育のナショナルセンターとして、関連府省をはじめ関連機関の連携強化により、全国規模から国際的な事業まで多様な研修等で充実したプログラムを提供できたことは、国の施設として40年にわたり、事業を継続してきた会館ならではのものです。</p> <p>発展性：従来の連携に加えて新たに、文部科学省情報ひろばや文部科学省主催「女性の学び支援のための研究協議会」における展示の開催、こども霞ヶ関見学デーへの出展など積極的に関係府省と連携した。また、ジェンダーサミット10や日本女性会議へのブースの出展、埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA）のOpen Library Weeksへの参加など、国際的・全国規模のイベント等と連携した。さらに、会館事業の実施において、新たな連携先（埼玉新聞社）を開拓することができた。今後も様々な府省や関係機関と連携することにより、幅広い事業展開が期待できる。</p> <p>効率性：関係府省による参加者募集の広報協力や連携機関による実施経費分担、人的支援経費、人的労力の節約が可能となった。関係府省や連携機関の構成員に、会館の事業展開や男女共同参画・女性の活躍推進への理解を深めることができた。</p>					

2. 定量的評価

観 点	協働事業の取組実績				
判 定	B				
<p>協働事業の取組実績 26機関（共催：5、受託：2、後援：15、連携協力：4） 【昨年度：23機関（共催：5、受託：2、後援：12、連携協力：4）】 <目標：年間24機関以上></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定と根拠
B	平成29年度は、女性関連施設、女性団体だけでなく、省庁や独立行政法人、大学、学術機関、新聞社、民間企業等、様々な分野の機関・団体と積極的に連携を行った結果、協働実績に係る数値目標を達成した。

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
関係府省及び関係機関との連携は、事業の内容充実には不可欠であり、連携先等における男女共同参画の取組の促進につながるものであることから、今後もあらゆる機会を捉えて拡大に努め、女性関連施設等のネットワークの中核としての役割の強化を図る。

業務実績報告書

中期計画の項目 (I-5-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 5 横断的に取り組む事項 (2) eラーニングによる教育・学習支援の推進
年度計画の項目 (I-5-(2))	I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項 5 横断的に取り組む事項 (2) eラーニングによる教育・学習支援の推進

事業名	eラーニングによる教育・学習支援の推進		
担当課室	事業課		
スタッフ	事業課長、事業課(兼)研究国際室専門職員、研究国際室長、研究員	計4名	

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>(1) これまで会館が主催する研修等に直接参加する機会がなかったリーダーや地理的理由等から直接の参加が困難な国民を対象に、eラーニングによる教育・学習支援を行う。</p> <p>(2) 会館で実施した研修内容を、オンデマンドで中期目標期間中15件以上発信する。</p> <p>(3) 中期目標期間の1年目、2年目においては、オンライン講座の教育・学習支援プログラムについて、放送大学と連携して入門編及び実践編のカリキュラムを開発・運用し、広く提供する。</p> <p>(4) 中期目標期間の3年目以降には、会館独自のオンラインによる研修プログラムを開発・実施し、幅広く発信するとともに、男女共同参画推進のリーダーに学習の素材を提供することで、学習活動を支援する。</p> <p>2. 概要</p> <p>(1) 「地域における男女共同参画推進リーダー研修<女性関連施設・地方自治体・団体>」の事前学習にeラーニングを活用。初日午前中に行っていた「男女共同参画の基礎知識」をコンテンツ化した。これにより、遠方からの参加者でも男女共同参画に関する予備知識を研修前に得る機会を提供した。</p> <p>(2) 学習者がよりアクセスしやすい動画配信システムとして前年度に開設したYouTube上に今年度実施した研修の講義を録画した動画を5件配信。今期中期目標期間中の累積数は12件となった。加えて利便性向上を狙い、年度別の再生リストを設置した。</p> <p>(3) 中期計画の項目1-2-⑤(放送大学との連携)と同一内容</p> <p>3. 成果の活用</p> <p>(1) 分析により①地方自治体の初任者研修、②国際的事項の周知に課題があることが判明し、その結果をふまえた改訂を行った。</p> <p>(2) 新たに配信した動画は、YouTube自体の周知もかね、メールマガジンで周知。</p> <p>(3) 中期計画の項目1-2-⑤(放送大学との連携)と同一内容。</p> <p>(4) (1)～(3)で得た知見をもとに、平成30年度以降、オリジナルコンテンツの開発・提供準備を進める。</p>

実績を裏付けるデータ

事業実績

指標	H28	H29	計
配信動画数	7	5	12

- リーダー研修の参加者による事前学習eラーニングの評価は有用度97.4%。
受講登録者数138名のうち、修了者は131名。
修了者のうち4名はリーダー研修の初日の午前中に会館内のマルチメディア室にて受講。
未修了者内訳は、研修自体のキャンセル3名、未受講者2名、途中まで受講し修了しなかった方2名
- 新規動画配信(5件)
 - 平成29年度地域における男女共同参画推進リーダー研修 講演
 - 平成29年度男女共同参画推進フォーラム 40周年記念シンポジウム
 - 平成29年度大学等における男女共同参画推進セミナー 基調講演
 - 平成29年度大学等における男女共同参画推進セミナー 情報提供
 - 平成29年度NWE Cグローバルセミナー 基調講演
- 中期計画の項目1-2-⑤(放送大学との連携)と同一内容
- (1)で展開したeラーニングの受講結果を分析し、日本社会教育学会において発表。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	独創性	発展性	効率性	
判 定	B	A	A	B	
<p>適時性：前年度に整備したHPやSNSとも連携し、YouTubeの動画配信を進めた。一例として、HPの事業報告内にYouTubeの動画リンクを埋め込み、報告書上で直接動画がみられるように改良した。</p> <p>独創性：「地域における男女共同参画推進リーダー研修」の受講者用に作成したeラーニングの受講データ分析を行った結果、地方自治体所属の初任者への基礎事項の周知と、国際的事項の理解に課題があることが判明。今後のeラーニングの展開にむけて大きな知見を得た。</p> <p>発展性：eラーニングのテストやアンケート結果をリーダー研修開始前に簡易集計し、受講者の傾向を把握。リーダー研修の講師と事前に共有・協議し、リーダー研修の内容にも反映させることができた。いつでもどこでも受講できるeラーニングを事前学習として取り入れる利点を確認し、他の研修にもとり入れられる可能性があることが見いだせた。</p> <p>効率性：分析結果をもとに、認知度が低かった国際的事項を補強する改訂を行った際、設計当初よりデータ差替を想定していたことから、新規プログラムを開発するのに比べ45%の費用での修正が可能となった。</p>					

2. 定量的評価

観 点	配信動画数				
判 定	A				
<p>配信動画数 5件（年間目標3件に対して、150%超の実績） <目標：年間3件以上配信></p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定と根拠
A	<p>平成29年度は、前年度導入したYouTubeを通じて、年度目標である3本を超える5本の動画を配信。これらは会館HPやSNSなど他メディアと連携し、活用した。</p> <p>並行して、放送大学のオンライン講座2本に加え、前年度独自に試行開発した会館の主催研修事業向けeラーニング講座の合計3本のeラーニング講座の運用を行った。</p> <p>上記の結果、会館がeラーニングを展開していく上での、新任の行政担当者に向けて基礎研修を早急に行う必要があるなど想定すべきターゲットや活用方法、課題について明確にすることができた。</p> <p>オンライン講座の作成及び運用で得た知見を活用し、会館の研修事業で提供するeラーニング講座を制作していく上での参考にすることを記載している中期計画に、1年前倒しで会館独自のオンラインによる研修プログラムを開発・運用したこれらの実績は適切なものであり、ねらいを十分に達成できたといえる。</p>

4. 今後の課題と対応

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等	
<p>今年度運用した3つのeラーニングコースで得た知見をベースに、会館独自のオンラインによる研修プログラムの開発に資する検討を行っていく。</p> <p>なお、「地域における男女共同参画推進リーダー研修」で実施したeラーニングにより、地方自治体の初任者においては、男女共同参画の施策を行う上で知っておくべき基礎用語について詳しくないことが判明している。</p> <p>次年度以降、広く国民の男女共同参画意識を啓発するような教材の開発にとりくんでいく。</p>	

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-1)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 1 組織体制の見直し
年度計画の項目 (Ⅱ-1、5)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 1 組織体制の見直し 5 業務改革の取組の徹底

事業名	組織体制の見直し、業務改革の取組の徹底	
担当課室	総務課	
スタッフ	理事長、理事、全職員	計 43 名

年度実績概要
<p>1 趣旨</p> <p>「国の行政の業務改革に関する取組方針～行政の ICT 化・オープン化、業務改革の徹底に向けて～」(平成 26 年 7 月 25 日総務大臣決定)に沿って、民間能力等の積極的な活用並びに業務の実施内容の不断の見直し及び評価により、業務運営の一層の効率化を図るとともに、効率化で得られた人的資源を会館の本来のミッションの遂行に向けた業務の対応に振り向ける。また、職員の業務遂行能力の向上のための人材育成の在り方を検討することで、組織の生産性のさらなる改善を図る。</p> <p>上記のことを通して、限られた人的資源という厳しい条件の下での業務運営の効率化を行っていく。</p> <p>2 業務概要及び成果</p> <p>(1) 業務体制の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 29 年 10 月より、総務課内に「広報・経営班」を試行的に設置し、認知度の低い会館にとっての喫緊の課題である広報・情報発信の更なる推進を図っている。 課室横断的な組織として、40 周年記念誌やグッズの作成等について検討する 40 周年記念対応班、40 周年記念展示について検討する 40 周年記念展示班、「女性と男性に関する統計データベース」、女性情報レファレンス事例集、女性情報ナビの追加・更新について検討する Winet 改善・運営班、ホームページの維持・管理、修正を検討するホームページ運営班を設置した。 多様で柔軟な働き方に向けた取組として、前年度より引き続き、テレワークを実施した(平成 29 年度利用実績 3 名)。職員からの要望を踏まえ、年間の利用上限日数を 40 日から 52 日に引き上げること等により、さらに柔軟な制度に改正した。 サイバー攻撃の脅威が増大する等、従来以上に厳重な情報管理が要請されていることを踏まえ、サイバーセキュリティ ICT 機器の運用管理及び情報セキュリティ等の整備のため、専門有期雇用職員を 1 名採用した。 <p>(2) 業務運営の不断の見直し</p> <p>原則として毎週火曜日に、理事長、理事、各課室長、総務課専門官、各課室係長が出席する運営会議を開催し、事業進捗状況の報告等を通し不断の業務見直しを行った。また、監事が出席する役員会を年 4 回、有識者から構成される運営委員会を年 2 回開催し、会館の業務運営について審議・協議を行った。</p> <p>(3) 業務の実績に関する評価</p> <p>①自己点検・評価</p> <p>各事業担当者が、事業成果を理事長、理事、各課室長が出席する自己点検・評価委員会(計 10 回実施)において説明し、事業の成果と課題を共有した。なお、年度計画における各項目の評価は、従来、当該年度末より行っていたが、確実な目標の達成に向けて、年度途中においても進捗状況を確認する体制を整備した。</p> <p>②外部評価委員会による評価及び意見</p> <p>平成 29 年 5 月と 9 月に外部評価委員会を実施し、12 月には「平成 28 年度独立行政法人国立女性教育会館 自己点検・評価及び外部評価調査書」を作成し、ホームページでも公表した。</p> <p>(4) 外部委託及び PFI の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設管理、保守、消費税申告書類作成、アンケート集計や主催事業実施時のバス運行等の事業実施に伴い派生する業務等について可能な限り外部委託した。 平成 27 年 7 月から、資産の有効活用と利用者の立場から見たサービス水準の向上を民間活力の導入により実現するため、施設の運営管理に PFI を導入した。事業課ではこれにより得られた人的資源を男女共同参画の推進の業務に向けた。具体的には、「教職員を対象とした男女共同参画研修」を試行実施するとともに、会館主催の研修(「地域における男女共同参画推進リーダー研修<女性関連施設・地方自治体・団体>」)において、事前学習用の e ラーニングプログラムの運用を行った。また、PFI 事業者による音楽会、親子パン作り教室等のイベント開催により、利用者へのさらなるサービス向上が図られた。 <p>(5) ICT の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 主催事業の動画配信を YouTube 上でを行い、物理的制約等により会館の研修に参加できない人々に対しても、効率的に会館での研修内容の情報の発信・普及を行った。 会館主催の研修(「地域における男女共同参画推進リーダー研修<女性関連施設・地方自治体・団体>」)の事前学習として e ラーニングを活用した。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	効率性		
判 定	B	B		

適時性：平成27年7月よりPFI化した施設運営について、月1回の定例モニタリング等により常に把握し、必要に応じて会館より運営改善の要求を行う体制を整備していることにより、会館職員の人的資源を活用して「教職員を対象とした男女共同参画研修」の試行実施や研修の事前学習用のeラーニングプログラムの運用等、男女共同参画の推進という会館の本来のミッションに係る業務に振り向け、時宜にかなった業務運営が可能となった。また、広報・情報発信にかかる業務体制の見直しを行った。

効率性：理事長、理事、各課室長、総務課専門官、関係職員の出席の下、ほぼ毎週開催している運営会議に加え、自己点検・評価委員会等の会議を通して、現場からトップまで随時情報共有しているため、小規模組織であることによる情報伝達の容易さとあいまって、業務運営の見直しや検討を効率的に行うことができている。

民間能力の積極的な活用による業務の効率化等が求められている中、PFI事業者の知見・ノウハウの活用により、従来にはないサービスの提供を行うことができている。

また、前年度より導入しているテレワークの利用日数の上限を緩和したことで職員の効率的な業務の遂行が可能となっている。

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	<p>認知度の低い会館にとっての喫緊の課題である広報・情報発信の更なる推進を図る等、必要に応じて業務体制の見直しを行っている。</p> <p>また、テレワークの利用制限を緩和したことで、調査研究等の業務に集中できるといった、業務のさらなる生産性・向上が図られている。</p> <p>そして、PFI事業者の民間能力を活用することによって、「教職員を対象とした男女共同参画研修」の試行実施や、研修の事前学習用のeラーニングプログラムの運用等の事業実施への人的資源の投入が可能となっており、効率的な業務運営が図られている。</p> <p>役職員全体の情報共有が容易であること等の小規模組織の利点をしっかりと活用しながら、運営会議を始め、役員会、自己点検・評価委員会、外部評価委員会等の会議・委員会を経て着実にPDCAサイクルを回し、業務運営を行っている。</p>

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>・PFI事業が停滞しないように、引き続きモニタリング等により運営体制を常に把握し、必要に応じて業務改善要求を行う。またeラーニングプログラムの運用、試行実施の「教職員を対象とした男女共同参画研修」等、男女共同参画の推進という会館の本来のミッションに係る業務について引き続き充実に努める。PFIの導入により得られた人的資源を政策課題に対応した事業等に投入する等、引き続き業務運営の効率化を図る。</p> <p>・小規模組織であることによる情報伝達の速さの利点を生かし、今後も業務運営の見直しや検討を効率的に行うよう努める。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-2)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 2 人件費・管理費等の適正化
年度計画の項目 (Ⅱ-2)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 2 人件費・管理費等の適正化

事業名	人件費・管理費等の適正化
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、人事・企画係長、会計係長、係員(2) 計5名

年度実績概要			
<p>1. 趣旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人件費については、国家公務員の給与水準に準拠し、役職員給与の適正化に取り組む。 ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。 ・平成29年度は、一般管理費（公租公課、人件費相当額を除く。）については、平成27年度と比して6%以上、業務経費（公共施設等運営事業等関係経費を除く。）については平成27年度と比して2%以上の効率化を図る。 <p>2. 人件費の適正化</p> <p>引き続き、理事が事務局長を兼任し、人件費削減を図った。</p> <p>また、平成29年人事院勧告に基づく国家公務員給与法の改定に準拠し、役職員給与も同様に対応した（平成30年2月に29年4月に遡って実施）。</p> <p>ラスパイレス指数は、事務職が国家公務員比83.3、研究職が国家公務員比62.1となっており、国家公務員と比較して低い水準にある。なお、役職員の報酬・給与等については、その実績値と、国家公務員及び他法人の給与水準との年額の比較をHPにおいて情報公開している。</p> <p>3. 関係機関・団体との連携による経費等の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学技術振興機構受託事業「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」、国際協力支援機構課題別研修受託事業「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」を5,039千円の受託費用を受けて行った。 ・「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」において東京会場を提供した放送大学の協力により、会場使用料を負担することなく事業を実施できた。 ・利用を休止しているプール棟について、東京大学の資料保管庫としての賃貸借契約を平成29年10月に1年間延長し、1,163千円の賃借料を得ている。 <p>4. 一般管理費、業務経費の効率化</p> <p>(1) 一般管理費効率化 平成29年度 12,108千円 計画値 平成27年度の一般管理費14,704千円と比して-6%、13,822千円 達成度 114.2%</p> <p>(2) 業務経費効率化 平成29年度 102,029千円 計画値 平成27年度の業務経費119,712千円と比して-2%、117,318千円 達成度 115.0%</p> <p>外部への業務委託費等について、入札参加業者への積極的な声掛けを行うなど競争性を確保し、経費の削減に取り組んだ。</p> <p>また、間接業務の共同実施における共同調達を着実に実施し、経費の削減に努めた。</p>			
実績を裏付けるデータ			
経費削減割合			
		28年度	29年度
一般管理費効率化	計画値	14,263千円	13,822千円
	実績値	13,906千円	12,108千円
	達成度	102.6%	114.2%
業務経費効率化	計画値	118,515千円	117,318千円
	実績値	122,935千円	102,029千円
	達成度	96.4%	115.0%

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	発展性	効率性		
判定	B	B	B		
<p>適時性：平成 29 年人事院勧告に基づく国家公務員給与法の改定に準拠し、役職員給与も同様に対応した（平成 30 年 2 月に 29 年 4 月に遡って実施）ことは時宜にかなっている。</p> <p>発展性：開館 40 周年を迎えたことから、ロゴマークの設定、メッセージの募集、記念樹の植樹、記念誌の作成、のぼりの作製・掲示、グッズの作成、女性アーカイブ「国立女性教育会館 開館 40 周年展」など、40 周年を記念した広報活動を実施した。こうした広報活動へ予算を重点的に支出したことは会館の知名度向上という意味で発展性が認められる。</p> <p>効率性：国家公務員の給与水準に準拠し、前年度同様ラスパイレス指数が 100 を下回るなど、適正な給与支出に努めた。</p> <p>また、一般管理費、業務経費ともに削減がなされ、効率化の目標を達成することができた。</p>					

2. 定量的評価

観点	一般管理費効率化	業務経費効率化			
判定	B	B			
<p>一般管理費効率化 平成 29 年度 12,108 千円 計画値 平成 27 年度の一般管理費 14,704 千円と比して-6%、13,822 千円 達成度 114.2%で目標を達成。 【昨年度：実績値 13,906 千円、計画値 14,263 千円、達成度 102.6%で目標を達成】</p> <p>業務経費効率化 平成 29 年度 102,029 千円 計画値 平成 27 年度の業務経費 119,712 千円と比して-2%、117,318 千円 達成度 115.0%で目標を達成。 【昨年度：実績値 122,935 千円、計画値 118,515 千円、達成度 96.4%で目標を未達成】</p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	<p>一般管理費は平成 27 年度比 6%以上、業務経費は、平成 27 年度比 2%以上削減するという目標を達成することができ、効率的な業務運営に努めている。</p> <p>また、人件費については、前年度同様ラスパイレス指数は 100 を下回っており、適正な支出を行った。</p>

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>今後とも、業務運営に支障がないよう適切な執行に努めていく。</p> <p>人件費についても、今後もラスパイレス指数が 100 を下回るよう適正な支出に努める。</p> <p>また、利用を休止しているプール棟については、現在東京大学の資料保管庫として貸し出している。このような利用形態を踏まえ、今後の将来計画を引き続き検討する。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-3)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 3 取引関係の適正化
年度計画の項目 (Ⅱ-3)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 3 取引関係の適正化

事業名	取引関係の適正化	
担当課室	総務課	
スタッフ	総務課長、会計係長、会計係(3)	計5名

年度実績概要	
<p>1 契約の競争性、透明性の確保</p> <p>(1) 契約に係る規程類の整備及び運用状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省所管独立行政法人の少額随意契約に係る基準額を平成19年度より国と同基準とし、一般競争入札の範囲を拡大している。 <p>(2) 契約の執行体制、審査体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各課室からの要望や仕様書を総務課会計係でとりまとめ、一般競争入札が必要な案件では入札を執行して契約を締結している。入札金額に満たない物品・役務・工事等の発注に対しては、過去の契約単価を調査し、複数の業者から見積書を徴収するなどして、安価な契約の締結に努めている。 <p>(3) 契約監視委員会を平成29年10月と平成30年3月の2回開催し、随意契約、一者応札等について報告を行い、審査を受けた。指摘事項もなく、適正な契約を行っているとの評価を受けた。</p> <p>2 契約実施状況</p> <p>(1) 随意契約の見直し状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」(平成21年11月17日閣議決定)に基づき、外部有識者2名を含む契約監視委員会を設置(平成22年11月30日)している。また「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」(平成27年5月25日総務大臣決定)に基づく取組を着実に実施するため調達等合理化計画を策定し、入札・契約の適正化、調達の合理化等を推進することにより、コストを削減し公正性、透明性を確保した。 ・引き続き入札可能なものについては全て入札を実施した。平成29年度随意契約の実績は、契約の性質上、入札不可能な「水道料金(埼玉県嵐山町)」「土地借料(埼玉県)」「郵便料金(信書)(日本郵便)」と国との契約である「宿泊棟給湯設備改修工事」の4件である。 <p>(2) 一者応札について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一者応札の削減に向け、引き続き「充分な公告期間の確保、入札条件の緩和」等の努力を行った結果、平成29年度は0件であった。引き続き、公告期間の十分な確保や業務等準備期間の十分な確保等により一者応札の抑制に向け努力する。 <p>(3) 再委託は、無し。</p> <p>(4) 関連法人は、無し。</p>	
実績を裏付けるデータ	
1 入札実績	: 14件【28年度 12件】
2 随意契約状況	: 4件(水道料金:埼玉県嵐山町、土地借料:埼玉県、郵便料金(信書):日本郵便、宿泊棟給湯設備改修工事:国土交通省関東地方整備局【28年度 6件】)
3 一者応札状況	: 0件【28年度 2件】

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	効率性			
判 定	B	B			
<p>適時性：少額随意契約に係る基準額の国への準拠や「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて」（平成 21 年 11 月 17 日閣議決定）に基づく契約監視委員会の設置等、適切な処置がなされている。</p> <p>効率性：一者応札の削減に向け、引き続き十分な公告期間の確保、入札条件の緩和など、契約業務を効率的に実施した。事柄の性格上、定められた手続きの適切な適用に尽力した。</p>					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	<p>整備された規程に基づく契約が執行されている。</p> <p>平成 29 年度調達等合理化計画（平成 29 年 6 月 30 日策定）における一者応札の評価指標（一者応札件数 10%未満）を達成できており、契約監視委員会も確実に開催されている。</p> <p>随意契約は、入札とすることが不可能な水道料金、土地料金、郵便料金（信書）と国との契約による宿泊棟給湯設備改修工事の 4 件に限られている。</p> <p>低価格物品等の調達等においても、複数業者からの見積り徴収を徹底しており、契約に関する競争性も確保されていると言える。</p>

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
引き続き、適正な契約の実施に努め、NVEC ホームページ等を用いた積極的な情報公開により公平性・透明性の確保を図る。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-4)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 4 間接業務等の共同実施
年度計画の項目 (Ⅱ-4)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 4 間接業務等の共同実施

事業名	間接業務等の共同実施
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、専門官、人事・企画係長、人事・企画係(3)、会計係長、会計係 計8名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>国立特別支援教育総合研究所、国立青少年教育振興機構、教職員支援機構と共同した間接業務等の実施を、費用対効果等を検証しつつ行う。</p> <p>2. 実施概要及び成果</p> <p>●共同調達：</p> <p>【実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・蛍光管 平成29年度から調達実施（なお3法人は平成27年度から調達実施）。この結果、4法人合計年間8万円程度（3法人は平成25年度比、国立女性教育会館は平成27年度比）を削減した。 ・電子書籍 平成29年度から調達実施。この結果、各法人単独で契約した場合に比べ法人あたり年間1万円程度を削減した。 ・古紙溶解 平成29年度から調達実施。この結果、4法人で年間15万円程度を削減した。 ・電気供給の調達に係る入札手続き 平成29年度から実施。入札公告料で30万円程度の削減が図られた。 <p>【引き続き検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務用品（事務用電子計算機）賃貸借、LED管・LED電球、非常食 <p>【実施困難と判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・封書運送業務（メール便）、デジタル複合機（コピー機）の賃貸借・保守業務 経費削減の見込みが乏しいなど困難な面が多いことが判明した。 <p>●共同事務：</p> <p>【実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会計事務等の内部監査 内部監査支援員として、会館職員が国立特別支援教育総合研究所の内部監査に参加するとともに、会館の内部監査に国立特別支援教育総合研究所職員が参加した。 ・宿泊研修施設利用者の相互受入 国立青少年教育振興機構（国立オリンピック記念青少年総合センター）とHPで相互にバナーを張っている。 ・国立大学法人等職員採用合同説明会の共同運営 平成29年4月に開催された合同説明会の国立青少年教育振興機構ブース受付で国立女性教育会館の概要を配布。平成29年7月は、国立青少年教育振興機構及び国立女性教育会館のブース受付で相互に概要を配布するとともに、ブース会場の案内を実施。 <p>【実施困難と判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源泉徴収票（外部者の謝金）作成 ・旅費計算事務 マイナンバーの問題、経費削減の見込みが乏しいなど困難な面が多いことが判明した。 <p>●共同職員研修：</p> <p>【実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度は「新規採用職員研修」（4月）、「人事制度（労働法、ハラスメント防止、安全衛生管理）研修」（5月）、「ダイバーシティ推進研修（障害者差別解消研修）（5月）」、「評価階層別研修（11月）」を実施した。 <p>【検討中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「独立行政法人制度（法律、評価、会計）研修」、「専門研修（コンプライアンス、個人情報保護、情報システム、危機管理、設備保全等）」

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	発展性	効率性			
	B	B			

発展性：古紙溶解、国立大学法人等職員採用合同説明会の共同運営といった業務を平成 29 年度に新規実施するとともに、平成 30 年度以降実施の検討を行い、間接業務の共同実施について着実に発展させた。
 効率性：間接業務の共同実施により着実に事務効率化や経費削減に努めた。

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	検討にとどまらず、共同調達（蛍光管、電子書籍等）、共同事務（会計事務等の内部監査、宿泊研修施設利用者の相互受入及び国立大学法人等職員採用合同説明会の共同運営）、共同研修（新規採用職員研修、人事制度（労働法、ハラスメント防止、安全衛生管理）研修、ダイバーシティ推進研修）を実施した。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
・今後も、未検討の分野について検討を行い、中期目標期間中に 15 業務検討という目標を着実に達成する。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅱ-6)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 6 予算執行の効率化
年度計画の項目 (Ⅱ-6)	Ⅱ 業務運営の効率化に関する事項 6 予算執行の効率化

事業名	予算執行の効率化	
担当課室	総務課	
スタッフ	総務課長、会計係長、会計係	計3名

年度実績概要
<p>1. 趣旨 独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。</p> <p>2. 実施概要及び成果 「独立行政法人国立女性教育会館業務達成基準の取扱いについて」（平成24年1月10日理事長裁定）に従い、事業の実施状況をもとに、業務達成基準に基づく収益化を実施し、効率的な予算執行に努めた。事業の実施状況については、理事長、理事、課室長等が出席する運営会議（週1回開催）や監事が出席する役員会（年4回開催）や研修・調査研究事業検討会、自己点検評価委員会で適宜、報告がなされている。</p>

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観点	適時性	効率性			
判定	B	B			
適時性・効率性：独立行政法人会計基準の改訂に沿って、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を整備できた。					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	中期目標、中期計画、年度計画に基づき事業ごとにセグメントを設定し、予算と実績を管理する体制を構築することができた。このセグメントに基づき、「独立行政法人国立女性教育会館業務達成基準の取扱いについて」（平成24年1月10日理事長裁定）に従い、事業の実施状況をもとに、業務達成基準に基づく収益化を実施し、効率的な予算執行に努めた。

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
予算配分を適正に実施し、個々の業務の予算管理等を徹底することにより、より効率的な業務の実施を目指していく。

業務実績報告書

中期計画の項目 (Ⅲ-1-(1) (2))	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 1 自己収入の拡大 (1) PFI 事業による運営権対価等の確保 (2) 外部資金の積極的導入
年度計画の項目 (Ⅲ-1-(1) (2))	Ⅲ 財務内容の改善に関する事項 1 自己収入の拡大 (1) PFI 事業による運営権対価等の確保 (2) 外部資金の積極的導入

事業名	自己収入の拡大	
担当課室	全課室	
スタッフ	理事長、理事、全職員	計 43 名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>(1) PFI 事業による運営権対価等の確保 PFI 事業の導入による運営権対価を得ることにより、安定した自己収入を確保する。 PFI 事業の経常収益のプラスを目指して、PFI 事業者と協力して施設利用を促進する。</p> <p>(2) 外部資金の積極的導入 科学研究費補助金等の申請や、国・企業等からの受託事業の積極的な受入れを行い、外部資金を確保する。</p> <p>2. 実施概要・成果</p> <p>(1) PFI 事業による運営権対価等の確保 PFI 事業の導入による自己収入確保 平成 29 年度運営権対価の納入額：46,582 千円 PFI 事業者と協力して、経常利益プラスに向け、営業活動の支援や幅広い広報活動等を行った。具体的には NVEC、内閣府、文部科学省、嵐山町の広報誌、メールマガジン等を通して、主催事業の参加者募集をはじめ、女性アーカイブセンターの企画展示等、NVEC の取組について積極的に広報を行った。内閣府や文部科学省が実施する全国的な会議や研修・イベント等の際に、利用案内チラシや会館概要の三つ折りリーフレット等の配布を積極的に行った（三つ折りリーフレット 7,650 枚を配布）。 また、会館のホームページでは、PFI 事業者のホームページへのリンクボタンを、TOP ページの目立つ箇所に作成するなど、利用率向上につながるよう努めた。</p> <p>(2) 外部資金の積極的導入 積極的な外部資金の導入に努め、受託事業 2 件（5,039 千円）、寄附金 5 件（2,657 千円、現物寄附 1 件含む）を獲得した。 またその他事業収入として、文献複写料、職員講演料、「利用を休止しているプール棟を東京大学の資料保管庫として貸し出したことによる賃借料」等として、2,349 千円の収入を得た。</p>

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性	効率性		
判 定	B	B	B		
<p>適時性：PFI 事業者による訪問活動・自主事業を通じた新たな利用層への働きかけを行うとともに、会館も引き続き積極的な広報を行ったことは、時宜にかなっており、今後、企業や学校、海外からの利用が期待できる。</p> <p>発展性：PFI 事業者と協力して広報等を行ったことにより、今後の利用拡大に向け期待できる。</p> <p>効率性：訪問活動・自主活動を PFI 事業者が行うことにより、運営に職員が労力を割くことなく、効率的に自己収入を得られた。</p>					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	PFI 事業者からの運営権対価収入で安定した自己収入を得ることができた。また、PFI 事業者と連携した広報活動を行うことにより、今後の施設利用の促進を図り、PFI 事業者の経常利益を上げ、プロフィットシェアリングを得られる土台作りができた。引き続き外部資金を獲得するため、受託事業の申請を行うとともに、寄附金を得るため広く広報を行った結果、受託事業経費、寄附金収入額で計 7 件（7,696 千円）の資金を獲得することができた。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
PFI 事業者とより一層連携して会館の広報に努め、PFI 事業の経常収益のプラスを目指していく。また、引き続き、業務負担を勘案しつつ、30 年度以降も外部資金導入に努める。

業務実績報告書

中期計画の項目 (IV—4—(1) (2))	IV その他業務運営に関する重要事項 4 適切な法人運営体制の充実 (1) 内部統制の充実 (2) 組織・人事管理の適正化
年度計画の項目 (IV—4—(1) (2))	IV その他業務運営に関する重要事項 4 適切な法人運営体制の充実 (1) 内部統制の充実 (2) 組織・人事管理の適正化

事業名	適切な法人運営体制の充実	
担当課室	総務課	
スタッフ	理事長、理事、全職員	計 43 名

年度実績概要	
1 趣旨	
(1) 内部統制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・理事長のリーダーシップのもと、運営会議や職員研修等を通じて会館が担う役割や課題等の情報を職員が共有。 ・所要の規則等を整備し、ガバナンスの保持、コンプライアンスの遵守等内部統制を充実。 ・内部規定を必要に応じて見直し、内部統制・リスク管理の充実及び監事による監査機能を強化。また、監事による監査及び会館が自ら行うモニタリングの結果を業務に反映させ、内部統制等の継続的な見直しを図る。
(2) 組織・人事の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・配置転換や人事交流により、組織の活性化を図るとともに、職員の資質を向上させるための研修を実施し、他機関の実施事業等への職員の参加を促す。 ・客員研究員の活用体制を工夫し、職員との連携のもと、充実した体制とする。
2 実施概要・成果	
(1) 内部統制の充実	
①理事長のリーダーシップによる事業運営	
【会議を通じた課題等に関する情報の共有】	<ul style="list-style-type: none"> ・運営会議 原則として毎週火曜日に、理事長、理事、各課室長、総務課専門官、各課室係長の出席のもと運営会議を開催し、各事業における進捗状況の報告等を通して不断の業務見直しを行った。 ・内部統制・リスク管理委員会 平成 29 年 6 月に開催し、会館のミッションを有効かつ効果的に果たすために、業務遂行の障害となる要因について、情報共有及び対応策の検討を行った。 ・研修・調査研究事業検討会 課室横断的な職員から構成される研修・調査研究事業検討会を原則月 1 回開催し、事業内容の検討及び振り返りを行った。 ・役員会 監事が出席する役員会を年 4 回開催し、業務運営及び評価に関する重要事項を審議した。 ・運営委員会 有識者から構成される運営委員会を年 2 回実施し、会館の業務運営に関する基本事項等について協議した。 ・自己点検・評価委員会 中期目標を達成するための各年度の業務運営に関する自己点検・評価について、理事長、理事、各課室長等が出席して、平成 29 年度事業に対して実施した。
【職員研修等を通じた職務に係る意識の醸成】	<ul style="list-style-type: none"> ・サイバー攻撃の脅威等が増大する等して従来以上に厳重な情報管理が要請されている近年の状況を踏まえ、情報セキュリティに関する研修に、情報システム担当の専門職員を参加させた。また、平成 30 年 1 月～3 月に標的型メールに関する訓練を実施し、不審なメールの添付ファイル等の開封等を行わないよう注意喚起するとともに対応について周知し、職員の情報セキュリティへの意識をさらに高めた。 ・放送大学と連携の上、会館が蓄積してきた研究等の成果をもとに作成したオンライン講座（「女性のキャリアデザイン入門（'16）」「女性のキャリアデザインの展開（'17）」）を会館の職員研

修の一環として実施した。

②コンプライアンス体制の整備

【規程等の整備】

他法人の状況も参考にしつつ、以下の規程等の整備を行った。

- ・平成 29 年人事院勧告に応じた会館職員給与規程等の改正
- ・システム保守業者との定例会議の実施を明記するなど、会館情報セキュリティポリシーの改正
- ・会館一般有期雇用職員就業規則の改正（休暇に関する箇所）。
- ・テレワーク利用状況等を勘案し、「業務の生産性・効率性の向上」を理由としたテレワークの上限「年度内 40 日」を「年度内 52 日」に引き上げるとともに週あたりのテレワーク勤務日上限を「3 日」から「2 日」に引き下げる会館テレワーク実施要領の改正。
- ・開館日等に関して会館女性教育情報センター利用規程の改正

【監査】

- ・監事監査規程に基づき、2 名の監事による監査を実施。平成 29 年度は監事監査計画に基づき、四半期ごとに計 4 回の定期監査（業務及び会計を対象）を実施した。監査結果を理事長に報告し、いずれも是正勧告を必要とする事項はなかった。
- ・監査室員による内部監査を実施し、確実に個人情報の管理、PFI 事業者へのモニタリング等がされていることを確認した。なお、内部監査においては特別支援教育総合研究所の職員が、内部監査支援員として参加した。

③ 評価の業務への反映

- ・平成 27 年度文部科学省業務実績評価の結果を踏まえ、平成 28 年度、平成 29 年度の業務運営を改善し、その内容を会館ホームページにて公表。

(2) 組織・人事管理の適正化

①人事交流等による組織の活性化

- ・文部科学省、国立大学法人、都道府県教育委員会と人事交流を行っている（平成 29 年度新規受入実績：2 名（千葉県教育委員会 1 名、埼玉県教育委員会 1 名））。
- ・前年度に引き続き、4 月に国立大学法人等職員採用試験合格者から 1 名を常勤職員として採用したことに加えて、情報セキュリティ等の整備のため、1 名を専門有期雇用職員として採用した。

②研修への参加促進による職員の資質向上

- ・各府省や法人等が実施する研修について、従来から参加させていた人事、個人情報保護、文書管理等の研修に加え、情報セキュリティに関する研修にも職員を参加させた（33 研修に延べ 82 名参加（前述の 4 法人共同実施による研修は除く））。
- ・例年通り、職員採用時に新任職員研修を 4 月に実施した。また、職員が知見を広げる研修の機会として
 - 1) 10 月に NVEC で開催された大学女性協会全国セミナー（テーマ「女性の自律とは 真のリーダーシップを発揮するために」）に職員が男女共同参画に関する研修の一環として参加し
 - 2) 11 月に海外の女性・情報専門家を招き、「男女共同参画を実現するための図書館の連携」をテーマにした講演を開催した。
- ・将来の業務運営の中核となる常勤職員を計画的に育成するため、大学院派遣を行っている（前年度に引き続き、図書系職員を 1 名派遣）。

③客員研究員（計 10 名）を採用し、以下の用務に従事させている。

【事業課】

「地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉」、「学習オーガナイザー養成研修」、「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」、「男女共同参画推進フォーラム」、「女子大学生キャリア形成セミナー」、「女性関連施設相談員研修」等、研修事業の企画・運営への協力。

会館ボランティアに対する活動支援や利用団体等の学習支援への協力。

【情報課】

女性アーカイブの構築（資料収集）、女性情報ポータル整備充実に関する協力。

【研究国際室】

「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」等、国際研修の構成・実行に係る助言・指導。

NVEC 実践研究や調査研究成果報告書等の構成・編集に係る助言・指導。

「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」データの構築と分析。

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	発展性	効率性			
	B	B			

発展性：大学院への派遣等を実施することにより、将来の業務運営の中核となる常勤職員の資質向上を計画的に行うことができている。

効率性：オンライン講座（「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」「女性のキャリアデザインの展開（‘17）」）を会館の職員研修の一環として実施し、職員を一堂に集めて研修を行う負担を軽減できた。

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体の情報共有が容易であること等の小規模組織の利点をしっかりと活用しながら、運営会議を始め、研修・調査研究事業検討会、自己点検・評価委員会、外部評価委員会等の会議を経て、着実にPDCAサイクルを回し、業務改善を図っている。 ・職員の多くが人事・個人情報保護・文書管理・内部統制・評価・簿記・労働法、情報セキュリティ等、多様な研修に参加し、資質の向上を図った。また、他機関の協力を得て、定期的な人事交流を実施している。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度以降も引き続き内部統制やリスク管理、コンプライアンス体制を充実し、時代の要請に的確に応じた業務展開を推進していく。 ・限られた人的資源という厳しい条件の下、今後、適宜、業務遂行のために必要な職員の採用に努めるとともに、客員研究員の活用体制を工夫し、会館の事業を効率的・効果的に実施できるよう努める。 ・将来の業務の中核となる常勤職員を計画的に育成するため、国立大学法人等採用試験合格者から採用した職員等を対象とした処遇方針に基づき、職員の研修等を実施するとともに方針について随時見直す。

業務実績報告書

中期計画の項目 (IV—5)	IV その他業務運営に関する重要事項 5 PFI 事業の適切な実施のための監視・協力
年度計画の項目 (IV—5)	IV その他業務運営に関する重要事項 5 PFI 事業の適切な実施のための監視・協力

事業名	PFI 事業の適切な実施のための監視・協力
担当課室	総務課、事業課
スタッフ	総務課長、専門官、会計係長、施設担当専門職員、会計主任、事業課長、事業係長、事業課専門職員 計 8 名

年度実績概要		
1. 趣旨		
<p>利用者へのサービス水準の向上や適切な運営体制等、PFI 事業に係る契約内容が着実に実施されているかについてモニタリングを行う。</p> <p>宿泊施設を含む施設利用率の向上のため、関係各省庁や地方公共団体等が主催する事業等での広報資料等の配布依頼を行うとともに、PFI 事業者が実施する利用拡大の取組に協力する。</p> <p>宿泊施設の利用率については 44%、研修施設の利用率については 54%を目指し、施設全体の利用率として 49%を達成する。</p>		
2. 実施概要及び成果		
(1) PFI モニタリング		
<p>毎月 1 回の定例会議において NVEC 職員が PFI 事業者から運営状況の報告を受け、契約内容が着実に実施されているかモニタリングを実施するとともに、日常的に主催事業参加者からの意見を伝えるなど、適切なアドバイスや協力を行った。</p> <p>その結果、PFI 事業者が独自で NVEC フェスティバル、サッカー教室、お菓子作り教室など、NVEC の認知度を高め、利用者を増やすために 87 回の主催事業を行い、2,077 人の参加があった。</p> <p>また、PFI 導入以来、宿泊室へのテレビやアメニティ・タオルの設置、中庭でのバーベキューや食堂のメニュー改善、音楽会の実施等、利用者の利便性が向上し、さらなるサービス向上が図られている。例えば、ネットエージェントの活用については、29 年度は 1,455 件（前年度 149 件）であり、前年度と比較して約 10 倍の予約があり、大変好調であった。さらに、新たな宿泊プランを 15 プラン販売し、そのうち、地元自治体の開催するイベントに絡めたプランを 5 プラン販売するなど、宿泊客の獲得に努めた。</p>		
(2) NVEC の広報活動		
<p>NVEC は、利用者の獲得と PFI 事業者の経常利益プラスに向け、幅広い広報活動等を行った。具体的には、NVEC、内閣府、文部科学省、嵐山町の広報誌、メールマガジン等を通して、主催事業の参加者募集をはじめ、女性アーカイブセンターの企画展示等、NVEC の取組について積極的に広報を行った。内閣府や文部科学省が実施する全国的な会議や研修・イベント等の際に、利用案内チラシや NVEC 概要、三つ折りリーフレット等の配布を積極的に行った（三つ折りリーフレット 7,650 枚を配布）。</p>		
(3) 施設利用率		
<p>PFI 導入の効果が出てきており、宿泊施設利用率が前年度比 5.2%増と大幅に向上した。また、研修施設利用率も前年度比 3.2%増となり、施設全体の利用率 50.9%と目標値を達成することができた。</p>		
実績を裏付けるデータ		
指標	H28	H29
施設全体利用率 (%)	46.7	50.9
宿泊施設利用率 (%)	38.3	43.5
研修施設利用率 (%)	55.1	58.3

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	独創性	発展性	効率性		
判 定	B	B	B		
<p>独創性：PFI（コンセッション方式）を他機関に先駆けて導入し、NVEC と PFI 業者の連携により、利用者へ提供するサービスが充実し、施設利用率の向上が図られた。特に、インターネットエージェントを通じた宿泊予約の導入や近隣の社会教育施設（文化の森連絡協議会）、地元の温泉等と連携することにより、紅葉まつりプラン、歴史講座宿泊プラン、温泉プランなど独自のプランを開発し、多くの利用者を得ることができた。</p> <p>発展性：PFI 化後は、PFI 事業者が独自で自主事業を多数行い、食堂のメニュー改善等を図るとともに、近隣施設にパンフレットを置くなどの取組を行うことで、地域住民の施設利用や近隣施設利用者の宿泊も増えている。また、県内および近隣他県の私立大学や短期大学、地元企業や、県内観光協会等を訪問し、会館の利用案内を呼びかけたことにより新規団体利用も増え、成果も現れている。特に、県内の高等学校を訪問したことにより、その附属中学校からも新規利用や申込みがあり、今まで利用が少なかった中学校へも NVEC の利用広報の成果が浸透してきていると言える。また、利用者が所属他団体に NVEC を紹介し、新たに利用者を得るなど、今後の利用者拡大が期待できる。なお、インターネットエージェントを活用した予約も増えており、宿泊施設利用率の向上が期待できる。</p> <p>効率性：PFI 化した施設運営について、月 1 回の定例モニタリング等により常に把握し、必要に応じて会館より運営改善の要求を行う体制を整えた。その結果、施設の管理・運営に労力を割く必要がなくなり、NVEC 職員の労力を e ラーニングの活用事業など、男女共同参画の推進という NVEC の本来的なミッションに係る業務に振り向けた効率的な業務運営が可能となった。</p>					

2. 定量的評価

観 点	施設全体利用率	〔 宿泊施設利用率：C 研修施設利用率：B 〕			
判 定	B				
<p>施設全体利用率：50.9%（年度目標 49%）【28 年度：46.7%（年度目標 47%）】</p> <p>〔 宿泊施設利用率：43.5%（年度目標 44%） 研修施設利用率：58.3%（年度目標 54%） 〕</p>					

3. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判 定	判定の理由
B	<p>PFI 事業者への適切なモニタリングと広報活動への努力の結果、昨年度と比して利用率が大幅に増加するなど PFI 導入の効果が次第に表れつつある。</p> <p>宿泊施設利用率もほぼ目標値を達成し、施設全体利用率が目標値を超えることができた。</p> <p>PFI 事業者による様々な団体・機関と連携し、主催事業や宿泊プランやインターネットエージェントを活用した利用申込を導入することにより宿泊者の獲得が図られた。また、県内に限らず近隣他県の大学や企業、観光協会等を訪問することにより、新しい利用団体の獲得に繋がった。</p>

4. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等	
<p>PFI 事業者は独自で主催事業を行い、食堂のメニュー改善を図る等の取組を行い、NVEC も広報等に努め、施設全体利用率が目標を達成したが、今後さらに高い目標値を達成するためにさらにどのような工夫が必要か分析を行い、目標値の達成に努める。</p> <p>なお、来年度は PFI 事業者との連携事業として、NVEC アニバーサリーウィークの開催を予定している。この事業では、さまざまな文化プログラムや交流プログラム等を実施し、学びの場を提供し利用率の向上に努める。</p>	

業務実績報告書

中期計画の項目 (IV-6)	IV その他業務運営に関する重要事項 6 情報セキュリティ体制の充実
年度計画の項目 (IV-6)	IV その他業務運営に関する重要事項 6 情報セキュリティ体制の充実

事業名	情報セキュリティ体制の充実
担当課室	総務課
スタッフ	理事長、理事、全職員 計43名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>情報セキュリティは、従来からあるシステムの脆弱性を狙った侵入や Web サイトの改ざんに加え、WannaCry を始めとするランサムウェアの世界的な被害の拡大、標的型攻撃と呼ばれる手法による重要情報の略取が、組織的かつ大規模に行われるようになる中、業務の維持や社会的評価の維持のため重要度を増している。また、「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」の準用が平成 29 年度から独立行政法人にも求められることとなった。</p> <p>これらに対応するため、情報セキュリティ・ポリシーの見直し、情報セキュリティ要員の確保及び教育・研修の実施など情報セキュリティ体制の充実が必要となっている。</p> <p>2. 実施概要</p> <p>「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」への対応のための情報セキュリティ・ポリシーの見直しや情報セキュリティ対策推進計画の策定を行った。また、全職員に対して標的型攻撃メールを想定した事前研修と実践的なメール配信訓練をセットで実施するとともに、文部科学省及び内閣府が行う情報セキュリティ研修に出席させ、スキルアップを図った。</p> <p>3. 成果</p> <p>(1) 情報セキュリティ・ポリシーの見直し</p> <p>情報セキュリティ・ポリシーに対する現状の対応状況等を一覧表にまとめ、現実的に対応可能か分析した上で、情報セキュリティ・ポリシーの適切な見直しを実施した。</p> <p>(2) 情報セキュリティ対策の実施</p> <p>① 技術的対策</p> <p>より高度なセキュリティ攻撃対策、モバイル端末管理対策、外部メディア制限対策を実現するために、エンドポイント管理ツール (ismCloudOne) の導入を情報セキュリティ委員会に提案した。</p> <p>② 物理的対策</p> <p>サーバを設置しているコンピュータ室の区域情報セキュリティの強化対策として、クラウド型入退室管理システム (Akerun Pro) を試験導入した。</p> <p>③ 組織的対策</p> <p>情報セキュリティに関する文部科学省並びに独立行政法人情報処理推進機構 (IPA) からの情報は適宜会館内に注意喚起としてメール配信した。</p> <p>④ 人的対策</p> <p>前年度の標的型攻撃メール訓練に比べて、より効果的な訓練とするために、標的型攻撃メールを想定した事前研修と標的型攻撃メールを模した実践的な訓練をセットで実施した。</p> <p>また、情報セキュリティ人材の養成のために、内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター (NISC) および文部科学省主催の情報セキュリティに関する各種の研修に参加して、情報セキュリティに関するスキルアップを図った。</p> <p>(3) 情報セキュリティ体制の充実</p> <p>情報セキュリティ等の整備のため、ICT 関連の専門知識を有する専門有期雇用職員 1 名を採用した。また、上記(1)の情報セキュリティ・ポリシーの見直しと併せて、情報セキュリティの運用に係る組織の見直しを実施して、組織体制の強化を図った。</p> <p>情報セキュリティ体制として、情報システム管理班 (統括情報セキュリティ責任者、情報セキュリティ責任者、システム管理要員で構成) を組織した。</p> <p>(4) 情報セキュリティ運用管理の定期的な実施</p> <p>会館内の情報システム機器に対して、脆弱性排除のために適切なセキュリティ・パッチの適用を定期的 (月一回以上) に行うほか、各端末のウィルスチェック動作の定期実行 (毎週月曜日) など、館内のセキュリティ状態の安全性を確保した。</p> <p>(5) 情報セキュリティ・インシデントへの対応</p> <p>平成 30 年 1 月に発生した情報セキュリティ・インシデントでは、会館 HP の問合せページから同じ内容のメールが大量に配信されたが、問合せページを一時停止するとともに、恒久対応として、ロボットによるスパム投稿を排除する機能を問合せページに追加した。</p>

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点 判 定	適時性	効率性			
	B	B			
<p>適時性/効率性: 近年増加傾向にある標的型攻撃メールを想定した事前研修と標的型攻撃メールを模した実践的な訓練をセットにして実施することで、より効果的な訓練が実施できた。</p> <p>適時性 : 情報セキュリティ・ポリシーについて、現状とのギャップ分析をすることで適切な見直しができる。</p>					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	情報セキュリティ・ポリシーについては、見直しを図るとともに、職員研修を実施することにより情報セキュリティに関する人材育成を実施した。

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>① 技術的対策として、ゼロディ攻撃などのより高度なセキュリティ攻撃に対応するために、ふるまい検知などのエンドポイント監視対策、モバイル端末管理対策、外部メディア制限対策の実施。</p> <p>② 物理的対策として、サーバを設置しているコンピュータ室の区域情報セキュリティの強化対策の実施。</p> <p>③ 組織的対策として、情報セキュリティ・インシデント発生時の会館全体の行動訓練の実施。</p> <p>④ 人的対策として、計画的・定期的な職員研修を実施することで役職員のセキュリティ意識の向上を図っていく。</p> <p>上記に加えて、情報セキュリティ・ポリシーの適切な見直しを継続していく。</p>

業務実績報告書

中期計画の項目 (IV-7)	IV その他業務運営に関する重要事項 7 長期的視野に立った施設・設備の整備
年度計画の項目 (IV-7)	IV その他業務運営に関する重要事項 7 長期的視野に立った施設・設備の整備

事業名	長期的視野に立った施設・設備の整備
担当課室	総務課
スタッフ	総務課長、総務課専門官、総務課専門職員、会計主任 計4名

年度実績概要
<p>1. 趣旨</p> <p>長期的視野に立った安心・安全な研修環境の維持のための施設改修、設備更新を計画的に行い、引き続き施設利用者への安全かつ快適な環境整備を図る。</p> <p>2. 実施概要・成果</p> <p>長期的視野に立って、日々、整備・点検に務めることによって、中央監視・電気弱電設備、冷暖房・換気設備、給排水・衛生設備、消防・防災設備、建物・建具等、庭園管理、その他施設の細部にわたって、効果的・効率的な長寿命化の推進や良好な状態の維持を図っている。また、安心・安全な研修環境の維持や利用者への安全かつ快適な環境を提供するため、以下のような施設改修・設備更新を行った。</p> <p>1 安心・安全な研修環境の維持のための施設改修・設備更新</p> <p>①本館地下電気室直流電源装置用蓄電池更新工事 地域停電の際に早期の復旧に支障があったことから、原因を調査し、直流電源装置用蓄電池を更新した。</p> <p>②プロパン庫南側芝地内屋外給水管漏水修繕工事 給水配管の老朽化による漏水に対応して、工事を実施した。</p> <p>③宿泊棟A棟地下空調機ポンプ室中水揚水ポンプ及びフット弁更新 NVEC 設立以来、更新しないまま老朽化した中水揚水ポンプ及びフット弁を更新した。</p> <p>④ゲート事務所その他防犯カメラ設置工事 利用者の増大に伴い、防犯上の見地から新たにゲート事務所を始め、敷地内に防犯カメラを設置することにより、安心・安全な研修環境の提供に努めた。</p> <p>⑤本館南側庭園灯改修工事 夜間、本館から体育館へ移動する際に、通路の階段が暗く、危険であったことから、庭園灯を明るくすることにより利用者の事故防止を図った。</p> <p>2 利用者への安全かつ快適な環境整備</p> <p>①宿泊棟B・C棟、研修棟Wi-fi 設置工事、体育館バスケットゴール設置工事 昨年度の宿泊棟A棟に続き、平成29年度に宿泊棟B・C棟、研修棟1,2階のWi-fi 設置工事を実施し、利用者の利便性の向上を図った。また、利用者からの要望の強かったバスケットゴールの設置工事を行った。</p> <p>②宿泊棟B・C棟1・2階エアコン設置工事 宿泊棟B・C棟は宿泊室が個別空調であるため、冬期の廊下の寒さが課題であったが、エアコンの設置により、快適な利用環境を提供できるようになった。</p> <p>3 計画的な長期的視野に立った施設改修・設備更新 安心・安全な研修環境を維持するために、インフラ長寿命化計画（行動計画）を策定した。今後は、計画に沿って施設改修や設備更新を実施する。</p>

自己点検評価調書

1. 定性的評価

観 点	適時性	発展性	効率性		
判 定	B	B	B		
<p>適時性：施設・設備の老朽化に伴い、本館地下電気室直流電源装置用蓄電池更新工事、プロパン庫南側芝地内屋外給水管漏水修繕工事等、必要な個所に適切に改修・修繕工事を行ったことは時宜にかなっており、施設利用者の安全性・快適性が図られている。</p> <p>発展性：宿泊棟 B・C 棟、研修棟 Wi-fi 設置工事、体育館バスケットゴール設置工事、宿泊棟 B・C 棟 1・2 階エアコン設置工事等を行うことにより、利用者へのサービスや利便性の向上が図られ、今後の利用者拡大が期待できる。</p> <p>効率性：施設の維持管理業務を PFI 事業者へ委託することで、各部署との連携により、利用受入れ状況と連動した計画的な設備・点検の実施が可能となった。また PFI 事業者による主体的、積極的な提案も行われ、施設の管理・運営がスムーズとなっている。</p>					

2. 実績の総合的評価及び中期計画の実施状況の確認

判定	判定の理由
B	<p>日々、整備・点検を行うことで、効果的・効率的な長寿命化の推進や良好な状態の維持に努めている。</p> <p>一方、必要に応じて、宿泊棟 B・C 棟、研修棟 Wi-fi 設置工事、体育館バスケットゴール設置工事、宿泊棟 B・C 棟 1・2 階エアコン設置工事、本館南側庭園灯改修工事等、きめ細かな利用者の利便性及び安心・安全に配慮した施設改修、設備更新を実施している。</p>

3. 今後の課題

改良・改善すべきこと、次年度計画への反映等
<p>次年度以降も、点検調査・診断の結果を踏まえ、実施する修繕・改修等の優先順位を検討するなど、計画的に安心・安全な研修環境維持のための施設改修、設備更新を行い、引き続き施設利用者への快適な環境整備を図る。</p>

5 外部評価の観点

◆ 評価の基本： ナショナルセンターとしての役割
男女共同参画推進の中核機関
公共性を実現する機関

評価の観点	評価する際に手がかりとなる事項の例
独自性・先駆性を有する事業を企画実施しているか 〔独自性・先駆性〕	・先行事例の有無 ・事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
新たな社会的課題の解決に向けて積極的に取り組んでいるか 〔現代的課題性〕	・事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
事業内容がよい事例として全国に広まっているか 〔モデル性〕	・他機関の事業内容の分析 ・事業内容に対する事業参加者の意見 ・事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が日本を代表するものとして国際社会において一定の役割を果たしているか 〔国際性〕	・他国における同種の機関との関係 ・国内における代替可能な機関の有無 ・海外の専門家の評価
事業の成果が国や地方公共団体における政策の企画実施に役立っているか 〔政策性〕	・国や地方公共団体の政策担当者の意見 ・事業内容に対する専門家（研究者、実践者）の意見
事業内容が高度な専門性をもつものとして地域の関係機関の活動により影響を与えているか 〔高度専門性〕	・事業実施後における地域の関係機関の活動内容 ・事業内容に対する専門家（特に地域の研究者や実践者）の意見
事業の成果が参加者以外にも波及しているか 〔波及性・普及性〕	・事業参加者が中心となっていく講習会等の有無 ・事業に関連する分野における団体の数及びそれらの事業内容
会館のもつ内部資源を有効に活用しているか 〔内部資源の有効活用〕	・内部資源の把握とそれらに着目した事業内容の分析
関係する機関や団体のネットワークの形成を促しているか 〔ネットワークの促進〕	・ネットワーク形成に関する専門家（研究者や実践者）の意見
様々なレベルで関係者の交流を促しているか 〔交流の促進〕	・交流事業の内容（プログラム・方法・対象者など）分析 ・交流事業参加者の事業後のフォローアップ
事業成果を他の事業に活用しているか 〔事業成果の有効活用〕	・事業の成果の把握とそれらに着目した事業内容の分析
最小の投入で最大の効果を上げるという点から事業の企画実施に創意工夫を行っているか 〔効率性〕	・事業内容（プログラム・方法・対象者など）の分析
宿泊施設を有意義に活用しているか 〔施設の有効活用〕	・宿泊に関わる事業に参加した者や関係者の意見
評価の結果を積極的に改善に結びつけているか 〔評価結果の有効活用〕	・評価結果の把握とそれらに着目した事業計画の分析

6 独立行政法人国立女性教育会館の業務運営に関する計画（平成29年度）

平成29年3月29日

文部科学大臣へ届け出

独立行政法人通則法（平成十一年法律第百三号）第三十一条の規定により、独立行政法人国立女性教育会館中期計画（平成29年3月29日文部科学省大臣認可）に基づき、平成29年度の業務運営に関する計画を次のとおり定める。

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 男女共同参画社会の実現に向けた人材の育成・研修の実施

(1) 女性活躍推進のためのリーダーの育成

①地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設、地方自治体、団体〉

- ・地方公共団体や男女共同参画センター、女性団体等、地域において女性の活躍や男女共同参画を推進するリーダー等を対象に、女性の活躍推進や男性中心型労働慣行の变革を促すために必要な専門的知識、マネジメント能力、ネットワーク力を養うことを目的として、実践的な研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うためフォローアップ調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

②学習オーガナイザー養成研修

- ・女性関連施設職員など研修を企画・実施する立場にある地域のリーダーを対象に、力量の形成と資質の向上を目的として、喫緊の課題、学習方法、評価の視点など事業実施上必要とされる知見を身につけるための研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うためフォローアップ調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

③企業を成長に導く女性活躍促進セミナー

- ・企業の管理職、人材育成推進者、チームリーダーを対象に、長時間労働や転勤を前提とする男性中心型労働慣行の見直しをはじめとする職場の意識改革を目的として、ダイバーシティーの本質や社員がその能力を最大限に発揮できる環境作りについて学習する研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うためモニター調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

④男女共同参画推進フォーラム

- ・行政、大学、企業等の担当者及び女性団体やNPOのリーダー等を対象に、課題の共有と課題解決の方策に協働して取り組むことを目的として、分野を越えて横断的に情報を共有し、ネットワークの構築を行うための研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うためフォローアップ調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

(2) 次代を担う女性人材の育成

①女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～

- ・女子中高生を対象に、研究者・技術者、理工系大学生との交流や実験実習を通して、理系への関心を深めることを目的として、合宿形式の体験型プログラムを実施する。また、女子中高生の進路選択に強い影響力をもつ保護者、教員を対象としたプログラムも併せて実施する。
- ・研修終了後のアンケートで、95%以上の研修参加者からの満足の評価、80%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修終了後のアンケートで、研修内容がその後のキャリア形成に役立つかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

②女子大学生キャリア形成セミナー

- ・女子大学生を対象に、将来活躍しうる女性人材の育成を目的として、職業をもつ意義、経済的自立の精神、社会や組織のリーダーとなる志などを伝えることを目的として、キャリア開発研修を実施する。
- ・研修終了後のアンケートで、95%以上の研修参加者からの満足の評価、80%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修終了後のアンケートで、研修内容がその後のキャリア形成に役立つかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

(3) 困難な状況に置かれている女性を支援するための人材の育成

女性関連施設相談員研修

- ・男女共同参画センター等において、ドメスティックバイオレンスや貧困などの困難な状況に置かれている女性を支援する人材を対象に、専門的知識・技能の向上を目的とした研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、45%以上からの高い満足の評価を得る
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うためフォローアップ調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

(4) 教育分野における女性参画拡大に向けた取組

大学等における男女共同参画推進セミナー

- ・大学等の高等教育機関における女性の活躍推進・男女共同参画の推進担当者を対象に、組織や労働環境、学生に対するキャリア教育の見直しや、参加者同士のネットワークの構築を図ることを目的として、実践的な研修を実施する。
- ・研修終了後、90%以上の研修参加者からの満足の評価、40%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修効果を的確に把握し、研修内容の改善を行うため、モニター調査を実施し、研修内容がその後の取り組みに役立っているかについて、80%以上からの肯定的な回答を得る。

2 男女共同参画社会の実現に向けた基盤整備のための調査研究の実施

(1) 男女共同参画統計に関する調査研究

- ・男女の置かれている状況を客観的に把握するための統計の充実を目指し、分野ごとの内容とデータの提供方法について検討する。
- ・調査研究を活用した研修資料等を作成し、研修参加者の85%以上からの有用の評価、40%以上からの高い有用の評価を得る。

(2) 男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究

- ・企業における若年層の初期キャリアに関して、男女間の意識の差や女性が直面する問題について実証的に検証する。
- ・平成29年度は追跡調査（第3次調査）を実施する。
- ・調査研究を活用した研修資料等を作成し、研修参加者の85%以上からの有用の評価、40%以上からの高い有用の評価を得る。

(3) 女性教員の活躍推進に関する調査研究

- ・女性教員の管理職登用等学校における男女共同参画に係る問題について、平成28年度に行った論点整理を踏まえ、平成29年度は調査の具体化に向け検討を進める。

(4) eラーニングによる教育・学習支援に関する調査研究

- ・平成28年度に放送大学の科目として開講した「女性のキャリアデザイン入門（‘16）」及び平成29年度に開講する「女性のキャリアデザインの展開（‘17）」について放送大学と連携して運用する。
- ・一部の研修事業についてeラーニングを用いた事前学習を導入するなど、会館が提供するeラーニングの在り方について検討する。

3 男女共同参画推進のための広報・情報発信

(1) 女性の活躍推進等に資する情報の一元化・発信

①情報資料の収集・整理・提供

- ・女性教育情報センター利用者に資料等を提供するとともに、女性情報ポータル及びデータベースを整備充実し、広く国民に対して情報発信を行う。
- ・女性教育情報センターの資料をテーマ別に紹介するパンフレットを作成し、全国の女性関連施設や大学・公共図書館へ配布するとともに、リポジトリにも掲載する。

- ・ 宿泊棟の各部屋に女性教育情報センターの利用案内を備え付ける。

②ポータルとデータベースの整備充実

- ・ 女性と男性に関する統計データベースについて、必要に応じ各分野の専門家の意見を聴取し、平成 28 年度から 3 年計画で見直しを行う。
- ・ 女性情報レファレンス事例集掲載の過去の事例について更新作業を行う。
- ・ データベース化件数は、年間 26,000 件以上、アクセス件数は年間 35 万件を達成する。

③図書のパッケージ貸出

男女共同参画センターや大学等に、女性の活躍推進や男女共同参画社会の形成を目指した様々なテーマに応じた図書をパッケージ化し、年間 30 か所以上への貸出を行う。

④調査研究成果物の発行及び発信

- ・ 女性のエンパワーメント、男女共同参画の推進に関する研究報告、女性関連施設や女性団体の実践活動等を掲載する「NWE C 実践研究」を発行する。
- ・ 研究成果物については記者懇談会や国内の全国的規模のイベント等において研究成果の発表を行う。

(2) 男女共同参画等に関する歴史的資料の収集・保存の推進

①女性アーカイブ機能の充実と全国の女性アーカイブとのネットワークの強化

- ・ 男女共同参画に関連する歴史的な資料について、外部有識者の意見を参考にしつつ、収集・保存のための方針に基づいて全国から収集し保存する。女性に関する史・資料を新たに年間千点以上収集する。
- ・ 女性教育情報センター前を常設の展示スペースに変更する。
- ・ 開館 40 周年記念展示を企画・実施する。
- ・ 展示室への入室者数は、年間 1 万人以上を達成する。
- ・ アーカイブ企画展において年間 5 機関以上との連携を行う。

②アーカイブ保存修復研修

- ・ 女性関連施設職員、図書館職員、地域女性史編纂関係者などの実務担当者を対象に、女性アーカイブの保存や整理に必要な実技等の習得を目的として、実践的な研修を実施する。
- ・ 女性アーカイブに関する研修を 36 名以上に提供し、研修参加者の 90% 以上からの満足の評価、65% 以上からの高い満足の評価を得る。
- ・ 研修効果の普及状況を的確に把握するためフォローアップ調査を実施し、次回の研修内容の改善のために活用する。

(3) より多様な主体への積極的な広報活動の充実・強化

広報活動の充実・強化

- ・ 40 周年記念誌を発行する。
- ・ 新たに若年女性向けの SNS のサイトを立ち上げる等により改訂したホームページの内容を充実する。また、メールマガジンを月 2 回発行し広報活動の充実・強化を図る。
- ・ SNS への記事掲載件数を年間 100 件以上とする。

4 男女共同参画の推進に向けた国際貢献

(1) アジア地域における男女共同参画推進のための人材育成

アジア地域における男女共同参画推進リーダーセミナー

- ・アジア地域において男女共同参画の政策策定及び政策提言を行う立場にある行政担当者、NGO のリーダーを対象に、女性の能力開発に係る課題解決の方策を検討する実践的なセミナーを実施する。
- ・毎年度研修参加者の 90%以上からの満足の評価、80%以上からの高い満足の評価を得る。
- ・研修成果の効果的な普及に向けて、80%以上から、本国に帰ってから取組を進める上で有用であるという評価を得る。

(2) 国際的課題への対応

①NWE Cグローバルセミナー

- ・女性活躍推進、男女共同参画に関わる研究者、地方公共団体や男女共同参画センター、女性団体の職員等を対象に、女性の人権やエンパワーメントに係る課題について理解を深めることを目的として、海外の専門家を招へいするセミナーを開催する。
- ・男女共同参画の推進に資する先進事例や、国際社会の動向を紹介し議論し、参加者の 85%以上からの満足の評価、40%以上からの高い満足の評価を得る。

②課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」

- ・国際協力機構（JICA）がアセアン諸国で実施する人身取引対策プロジェクトに関連して、人身取引対策に携わるアセアン諸国関係者を対象としたワークショップ型研修を 3 年計画で実施する。

③国際会議等で得た情報の発信

- ・国際会議等で得た情報を国内に発信するための報告会を実施し、参加者の 85%以上からの満足の評価、40%以上からの高い満足の評価を得る。

5 横断的に取り組む事項

(1) 国内外の関係機関との連携強化、ネットワークの構築

①関係府省との連携強化、ネットワークの構築

関係府省との意思疎通と情報共有を図ることによって、連携して事業を行うとともに、「国立女性教育会館運営委員会」を有識者や関係府省から意見を聞く場として活用する。

②関係機関との連携・協働

年間 24 機関以上との共同で研修事業等に取り組み、連携によるより効果的な事業を実施する。

(2) e ラーニングによる教育・学習支援の推進

e ラーニングによる教育・学習支援の推進

- ・これまで会館が主催する研修等に直接参加する機会がなかったリーダーや地理的理由等から直接の参加が困難な国民を対象に、e ラーニングによる教育・学習支援を行う。
- ・会館で実施した研修内容を、オンデマンドで年間 3 件以上発信する。学習者がアクセスし易い動画配信システムに改善する。また、新たに動画を配信した場合には、メールマガジンで周知する。
- ・オンライン講座の教育・学習支援プログラムについて、放送大学と連携して、開発した入門編・展開編を運用し、広く提供する。

- ・多様な場で男女共同参画に関する研修等が実施されるよう、「地域における男女共同参画推進リーダー研修<女性関連施設・地方自治体・団体>」の事前学習としてeラーニングを活用する。

II 業務運営の効率化に関する事項

1 組織体制の見直し

PFI の導入により施設運営に従事していた人的資源を女性活躍促進等の政策課題に対応した事業等に投入する。

2 人件費・管理費等の適正化

- ・人件費については、国家公務員の給与水準に準拠し、役職員給与の適正化に取り組む。
- ・関係機関・団体との連携による経費等の削減に努める。
- ・平成 29 年度は、一般管理費（公租公課、人件費相当額を除く。）については、平成 28 年度と比して 3%以上、業務経費（公共施設等運営事業等関係経費を除く。）については平成 28 年度と比して 1%以上の効率化を図る。

3 取引関係の適正化

政府における調達等合理化の取組を踏まえた契約の見直しを行う。

4 間接業務等の共同実施

国立特別支援教育総合研究所、国立青少年教育振興機構、教職員支援機構と共同した間接業務等の実施に当たっては、費用対効果等を検証しつつ行う。

5 業務改革の取組の徹底

政府の業務改革に関する方針に準じ、費用対効果も含めて業務運営の効率化について検討する。

6 予算執行の効率化

独立行政法人会計基準の改訂等により、運営費交付金の会計処理として、業務達成基準による収益化が原則とされたことを踏まえ、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する体制を構築する。

III 財務内容の改善に関する事項

1 自己収入の拡大

(1) PFI 事業による運営権対価等の確保

- ・PFI 事業の導入による運営権対価を得ることにより、安定した自己収入を確保する。
- ・PFI 事業の経常収益のプラスを目指して、PFI 事業者と協力して施設利用を促進する。

(2) 外部資金の積極的導入

科学研究費補助金等の申請や、国・企業等からの受託事業の積極的な受入れを行い、外部資金を確保する。

IV その他業務運営に関する重要事項

1 予算

別紙1のとおり

2 収支計画

別紙2のとおり

3 資金計画

別紙3のとおり

4 適切な法人運営体制の充実

(1) 内部統制の充実

- ・理事長のリーダーシップのもと、運営会議や職員研修等を通じて会館が担う役割や課題等の情報を職員が共有する。
- ・所要の規則等を整備し、ガバナンスの保持、コンプライアンスの遵守等内部統制を充実する。
- ・内部規定を必要に応じて見直し、内部統制・リスク管理の充実及び監事による監査機能を強化する。また、監事による監査及び会館が自ら行うモニタリングの結果を業務に反映させ、内部統制等の継続的な見直しを図る。

(2) 組織・人事管理の適正化

- ①配置転換や人事交流により、組織の活性化を図るとともに、職員の資質を向上させるための研修を実施し、他機関の実施事業等への職員の参加を促す。
- ②客員研究員の活用体制を工夫し、職員との連携のもと、充実した体制とする。

5 PFI 事業の適切な実施のための監視・協力

- ①利用者へのサービス水準の向上や適切な運営体制等、PFI 事業に係る契約内容が着実に実施されているかについてモニタリングを行う。
- ②宿泊施設を含む施設利用率の向上のため、関係各省庁や地方公共団体等が主催する事業等での広報資料等の配布依頼を行うとともに、PFI 事業者が実施する利用拡大の取り組みに協力する。
- ③宿泊施設の利用率については 44%、研修施設の利用率については 54%を目指し、施設全体の利用率として 49%を達成する。

6 情報セキュリティ体制の充実

政府の情報セキュリティ対策のための統一基準等を踏まえ、情報セキュリティ・ポリシーを適宜適切に見直すとともに、これに基づき情報セキュリティ対策を講じる。また、対策の実施状況を毎年度把握し情報セキュリティ体制の改善を図る。

7 長期的視野に立った施設・設備の整備

- ・長期的視点に立った安心・安全な研修環境の維持のための施設改修、設備更新を計画的に進める。

(以上)

平成29年度計画予算

(単位:百万円)

区 別	研 修 関係事業	調 査 研 究 関係事業	広 報 ・ 情 報 発 信 関係事業	国 際 貢 献 関係事業	公 共 施 設 等 運 営 事 業 関係事業	受 託 事 業	共 通	合 計
収入								
運営費交付金	92	19	33	11	97		267	519
施設整備費補助金			1		45	1	272	272
運営権対価等収入							1	47
受託収入								1
計	92	19	34	11	142	1	540	839
支出								
業務経費	92							298
うち研修関係経費		19						92
うち調査研究関係経費			34					19
うち広報・情報発信関係経費				11				34
うち国際貢献関係経費					142			11
うち公共施設等運営事業関係経費						1	272	142
施設整備費								272
受託経費								1
一般管理費								268
計	92	19	34	11	142	1	540	839

[人件費の昇格]

平成29年度は187百万円を支出する。

但し、上記の額は、役員報酬並びに職員基本給、職員諸手当、超過勤務手当、超過勤務手当、退職者給与及び国際機関派遣職員給与に相当する範囲の費用である。

[運営費交付金の算定ルール]

別紙のとおり

別紙

1. 運営費交付金の算定ルール

毎事業年度に交付する運営費交付金(A)については、以下の数式により決定する。

$$A(y)=P(y) + R1(y) + R2(y) + \varepsilon(y) - B(y)$$

A(y): 当該事業年度における運営費交付金

$\varepsilon(y)$: 特殊業務経費。施設・設備の改修工事、事故の発生等の事由により時限的に発生する経費であって、運営費交付金算定ルールに影響を与えうる規模の経費。
各事業年度の予算編成過程において、当該経費を具体的に決定。

1) 人件費

毎事業年度の人件費(P)については、以下の数式により決定する。

$$P(y)=P(y-1) \times \sigma(\text{係数}) \times \theta(\text{係数})$$

P(y): 当該事業年度における人件費。P(y-1)は直前の事業年度におけるP(y)。

σ : 人件費調整係数。各事業年度予算編成過程において、給与昇給率、給与改善率等を勘案し、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

θ : 人件費効率化係数。各事業年度予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

注) 当該法人における退職手当については、独立行政法人国立女性教育会館役員退職手当規程及び独立行政法人国立女性教育会館職員退職手当規程に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される金額を運営費交付金に加算する。

2) 業務経費

毎事業年度の管理経費の業務費(R1)及び事業経費の業務費(R2)については、以下の数式により決定する。

$$R1,2(y)=R1,2(y-1) \times \beta(\text{係数}) \times \gamma(\text{係数}) \times \alpha 1,2(\text{係数})$$

R1,2(y): 当該事業年度における業務経費。R1,2(y-1)は直前の事業年度におけるR1,2(y)。

β : 消費者物価指数。各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

γ : 業務政策係数。自己収入に見合う支出を勘案し、また、研究開発の場合には、計画期間中の初期に大きな投資が必要であること、事業の進展により必要経費が変動すること等を勘案し、各事業年度の予算編成過程において当該事業年度における具体的な係数値を決定。

$\alpha 1,2$: 効率化係数。各独立行政法人について計画的削減を行うこととされている観点から、業務の効率化等を勘案して、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

3) 受託事業等経費(受託事業実施に伴う間接経費を含む)

毎事業年度の受託事業経費(F)については、以下の数式により決定する。

$$F(y)=F(y-1) \times \omega(\text{係数})$$

F(y): 当該事業年度における受託事業収入の見積り。F(y-1)は直前の事業年度におけるF(y)。

ω : 受託収入政策係数。過去の実績を勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

4) 自己収入

毎事業年度の自己収入(B)の見積り額については、以下の数式により決定する。

$$B(y)=B(y-1) \times \lambda(\text{係数}) \times \delta(\text{係数})$$

B(y): 当該事業年度における自己収入の見積り。B(y-1)は直前の事業年度におけるB(y)。

λ : 収入調整係数。過去の実績における自己収入に対する収益の割合を勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

δ : 自己収入政策係数。過去の実績等を勘案し、各事業年度の予算編成過程において、当該事業年度における具体的な係数値を決定。

[注記]前提条件

1. 運営費交付金の試算にあたっての係数値

$\alpha 1$: 効率化係数: $\Delta 3. 20\%$

$\alpha 2$: 効率化係数: $\Delta 1. 03\%$

β : 消費者物価指数: 勘案せず

θ : 人件費効率化係数: 勘案せず

γ : 業務政策係数: $\Delta 14\%$ ※PFI導入分

ω : 受託収入政策係数: 勘案せず

δ : 自己収入政策係数: $\Delta 63. 54\%$ ※PFI導入分

σ : 人件費調整係数: 勘案せず

λ : 収入調整係数: 0%

平成29年度収支計画

(単位:百万円)

区 別	研 修 関係事業	調査研究 関係事業	広報・情報発信 関係事業	国際貢献 関係事業	公共施設等運営事業 関係事業	受託事業	共 通	合 計
費用の部	92	19	34	11	142	1	404	703
経常費用	92	19	34	11	142	1		92
業務費								19
うち研修関係経費								34
うち調査研究関係経費								11
うち広報・情報発信関係経費								142
うち国際貢献関係経費								1
うち公共施設等運営事業関係経費								399
うち受託事業経費								5
一般管理費								-
減価償却費								-
財務費用								
臨時損失								
収益の部	92	19	33	11	97	1	262	514
運営費交付金収益			1		45		1	47
運営権対価等収入								1
受託収入								136
施設費収益								
香附金収益								
資産見返運営費交付金戻入								4
資産見返物品受贈額戻入								1
純利益								
目的積立金取崩額								
総利益								

[注記]
当該法人における退職手当については、独立行政法人国立女性教育会館役員退職手当規程及び独立行政法人国立女性教育会館職員退職手当規程に基づいて支給することとし、毎事業年度に想定される全額を運営費交付金に加算する。

平成29年度資金計画

(単位:百万円)

区 別	研 修 関係事業	調査研究 関係事業	広報・情報発信 関係事業	国際貢献 関係事業	公共施設等運営事業 関係事業	受託事業	共 通	合 計
資金支出 業務活動による支出 投資活動による支出 次期中期目標の期間への繰越金	92	19	34	11	142	1	404 136	703 136 -
資金収入 業務活動による収入 運営費交付金による収入 運営権対価等収入 受託収入	92	19	33 1	11	97 45	1	267 1	519 47 1
投資活動による収入 施設費による収入 前期中期目標の期間よりの繰越金							272	272 -

平成29年度施設・設備に関する計画

施設・設備の内容	予定額(百万円)	財源
機能性向上改修 宿泊棟給湯設備老朽化改修工事	272	施設整備補助金 (平成28年度繰越分)
計	272	

[注記]

金額については見込みである。
なお、上記のほか、業務の実施状況等を勘案した施設整備が追加されることがあり得る。また、施設・設備の老朽度合等を勘案した改修(更新)等が追加される見込みである。

7 平成30年度 国立女性教育会館外部評価委員会委員名簿

犬塚 協太（静岡県立大学国際関係学部教授）

斎藤 悦子（お茶の水女子大学大学院基幹研究院人間科学系准教授）

笹井 宏益（玉川大学学術研究所教授）

長田 三紀（全国地域婦人団体連絡協議会事務局長）

萩原 貴子（株式会社グリーンハウス取締役）

（敬称略、五十音順）

8 独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会規程

(設置)

第1条 独立行政法人国立女性教育会館（以下「会館」という。）に、独立行政法人国立女性教育会館外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(役割)

第2条 委員会は、会館が実施した業務の実績に関し客観性を持った質の高い評価を行うと共に、評価を踏まえた今後の事業活動の充実及び活動内容の在り方に資する提言を行う。

(委員)

第3条 委員会は、会館の業務に関し識見を有するもののうちから、理事長が委嘱する8名以内の委員で構成する。

(委嘱期間)

第4条 前条に規定する委員の委嘱期間は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員を生じた場合の補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、第3条の委員のうちから、委員の互選により選出する。

3 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

4 委員長に事故があるときは、副委員長が、その職務を代理する。

(関係者の出席)

第6条 委員会は、必要があるときは関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は平成18年2月10日から施行する。

2 この規程の施行後、最初及び委員長が置かれていないときに召集される委員会の会議は、第5条第3項の規定にかかわらず、理事長が召集する。

9 「第4期中期目標期間（平成28～32年度）」の評価基準について

1. 中期計画の実施状況に関する判定の考え方

判定に使用する用語は、次のとおりとする（文部科学省所管の独立行政法人評価に関する評価基準（平成27年6月30日文部科学大臣決定）による）。

- S 顕著な達成 : 当該目標を120%以上達成し、量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
- A 達成 : 当該目標を120%以上達成し、目標を上回る成果が得られている（S評価を除く）
- B 順調 : 当該目標を100%以上～120%未満達成
- C 改善 : 当該目標を80%以上～100%未満達成で目標を下回っており、改善が必要
- D 抜本的改善 : 当該目標を80%未満達成で目標を下回っており、業務廃止を含めた抜本的改善が必要

2. 定量的評価の観点について

定量的評価の観点については、下記の中期計画、年度計画に掲げられている達成目標を達成した時をBとする。

【中期目標期間内】

事業区分	評価観点	中期目標期間の達成目標
研修事業	研修件数	40件
	地域向け研修件数	15件
	企業向け研修件数	5件
	大学等教育機関向け研修件数	5件
	学生向け研修件数	10件
	分野横断的研修件数	5件
調査研究事業	調査研究の件数	5件
	調査研究を活用した研修の有用度	参加者の85%
	調査研究を活用した研修の高い有用度	参加者の40%
広報・情報発信事業	データベース化件数	13万件
	図書館のパッケージ貸出箇所数	150か所
	資料収集数	5,000点
	アーカイブ展示室への入室者数	5万人
	アーカイブ企画展連携機関数	25機関
	アーキビスト研修参加者数	180人
	ホームページへのアクセス件数	40万件
国際貢献事業	主催事業	10件
横断的事項	連携機関数	120機関
	研修のオンデマンド発信数	15件
業務の効率化	一般管理費効率化	平成27年度から15%削減
	業務経費効率化	平成27年度から5%削減
	間接業務の共同実施の検討	15業務
PFI事業の適切な実施	PFIのプロフィットシェアリング	50%
	施設利用率	55%

【平成29年度内】

事業区分	評価観点	平成29年度の達成目標
研修事業	プログラムの満足度（学生向け研修）	参加者の95%
	プログラムの高い満足度（学生向け研修）	参加者の80%
	プログラムの満足度（高等・初等中等教育機関向け研修）	参加者の90%
	プログラムの高い満足度（高等・初等中等教育機関向け研修）	参加者の40%
	プログラムの満足度（その他の研修）	参加者の90%
	プログラムの高い満足度（その他の研修）	参加者の45%
	フォローアップ調査（有用度）	参加者の80%
広報・情報発信事業	データベース化件数	26,000件
	図書のパッケージ貸出箇所数	30か所
	ポータル及びデータベースへのアクセス件数	350,000件
	資料収集数	1,000点
	アーカイブ展示室への入室者数	1万人
	アーカイブ企画展連携機関数	5機関
	アーキビスト研修参加者数	36人
	アーキビスト研修の満足度	参加者の90%
	アーキビスト研修の高い満足度	参加者の65%
	ホームページへのアクセス件数	36万件
	SNSへの記事掲載件数	100件
	主催事業	2件
国際貢献事業	アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーの満足度	参加者の90%
	アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーの高い満足度	参加者の80%
	アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナーの有用度	参加者の80%
	NWECグローバルセミナー、「国際会議等で得た情報の発信」の満足度	参加者の85%
	NWECグローバルセミナー、「国際会議等で得た情報の発信」の高い満足度	参加者の40%
横断的事項	連携機関数	24機関
	研修のオンデマンド発信数	3件
業務の効率化	一般管理費効率化	平成27年度から6%削減
	業務経費効率化	平成27年度から2%削減
PFI事業の適切な実施	施設利用率	49%
	宿泊施設利用率	44%
	研修施設利用率	54%

3. 定性的評価の観点について

○各業務区分に応じた定性的評価の観点については、基本的な考え方は下記のとおり。特段の事情がある場合などで、このほかの観点を使用する事が適当と思われるときは、任意に観点を設ける事も可能。

適時性：喫緊の課題を踏まえたプログラムの実施や男女共同参画基本法等の政策との関連点等、時宜に合わせてその事業を実施することが、男女共同参画の推進等に資することを示すもの。

独創性：独自の視点による調査研究や先進的なプログラムの作成等、「国立女性教育会館ならではの」高い専門性等を示すもの。

発展性：会館で作成されたプログラム等をモデルとした地方の活動事例、研修をきっかけに拡大した女性関連団体等のネットワーク等、会館が提供した情報等で男女共同参画の展開に資するもの。

効率性：事業をより円滑に実施するための取組等を示すもの。

評価の観点	適時性	独創性	発展性	効率性
観点の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・ 政策性 ・ 必要性 ・ 国際性 ・ 緊急性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 独自性 ・ 新規性 ・ 先駆性 ・ 高度専門性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 影響性 ・ 汎用性 ・ 応用性 ・ 多様性 ・ 将来性 ・ モデル性 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間的投資 ・ 人的投資 ・ 設備的投資 ・ 内部資源の活用 ・ 施設の有効活用 ・ 他機関との連携

○定性的評価の基準（文部科学省の評価基準による）

- S：目標を量的及び質的に上回る顕著な成果が得られている
- A：目標を上回る成果が得られている
- B：目標を達成している
- C：目標を下回っており、改善が必要
- D：目標を下回っており、業務廃止を含めた抜本的改善が必要

4. 総合評価の判定基準の考え方

各観点評価の結果を基に、総合的判定を行うが、考え方は次のとおりとする。

S=5点、A=4点、B=3点、C=2点、D=1点

<例>

4つの観点で評価し、Aが3つ、Bが1つの場合

$$((4 \times 3) + (3 \times 1)) \div 4 = 3.75 \div 4 \rightarrow \text{総合評価 A}$$

※S評価については、文部科学省等からその根拠について詳細な確認を求められる傾向にある。

判定結果をSとする場合、「評価の観点」に応じた明確な理由を「理由欄」に記述。

参考資料

平成29年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修
〈女性関連施設・地方自治体・団体〉」実施要項

1. 趣 旨

テーマ：「多様な生活スタイルを可能にする働き方改革」

男女ともに働きやすく暮らしやすい社会、ともに活躍できる社会の実現に向け、重要な鍵を握る「働き方改革」をどのように捉え、進めていったらよいのか。第4次男女共同参画基本計画の柱として挙げられている「働き方改革」について、国の施策の最新情報、働く場の変革を広げるための地域連携による女性活躍推進の実践事例、全国からの参加者同士による情報交換とネットワーク構築などを通じて様々な角度から捉えることで、現状と課題を把握し、それぞれの現場に持ち帰って実践できる取組のヒントを探ります。地域における男女共同参画の推進者として知識・企画力・実践力を養う高度で専門的な研修です。

2. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

3. 共 催

特定非営利活動法人全国女性会館協議会（女性関連施設管理職コースにおける共催）

4. 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL 0493-62-6724・6725

FAX 0493-62-6720

<https://www.nwec.jp>

5. 期 日

平成29年6月7日（水）～6月9日（金）2泊3日

6. 対象及び定員

地域の女性関連施設、地方自治体、団体等で男女共同参画推進リーダーとして実践的な取組を行っている方で、研修終了直後のアンケートと6か月後に実施するフォローアップ調査の両方を提出可能の方 120名

(1) 女性関連施設管理職コース（50名）

公立女性会館・女性センター、男女共同参画センター等、男女共同参画社会の形成に向けた拠点としての施設の管理職

(2) 地方自治体職員コース（40名）

都道府県・市区町村の男女共同参画推進責任者

(3) 団体リーダーコース（30名）

地域で男女共同参画を推進する団体等のリーダー及び役員等

7. 日 程 (※印のプログラムは希望者のみ参加)

6/7 (水)	12:00 13:00 13:30 15:00 15:45 17:15 18:30 19:30									
	受付			開会	講演	討議	講演	チェックイン	※情報交換会	
6/8 (木)	9:00 10:30 10:45 12:00 13:30 16:00 16:15 17:00 19:00 20:30									
	情報提供	全体会1		昼食休憩		分科会1		情報提供	夕食休憩	※自由交流
6/9 (金)	9:00 11:10 11:30 12:20 12:30									
	分科会2		全体会2	閉会						

8. 内 容

第1日 6月7日(水)

(1) 開会

13:00~13:25

- ①主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長
- ②共催者あいさつ 納米恵美子 特定非営利活動法人全国女性会館協議会代表理事
- ③来賓あいさつ 高橋 雅之 文部科学省生涯学習政策局男女共同参画学習課長
- ④趣旨説明 引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

(2) 講演「男女ともに活躍できる働き方改革にせまる

～お互いに認め合う文化の組織を実現するには～ 13:30~15:00

男女ともに働きやすく、また働きがいが高めつつ、ともに活躍できる社会の実現に向け、重要な鍵を握るのは「働き方改革」です。この「働き方改革」の実現には、制度整備のみならず、企業・組織における文化変革に切り込んでいくことが必要です。女性関連施設・行政・NPOの役割はどのようなものになるのか、多くの先進企業の事例から、目指すべき方向性やその課題を探ります。

講 師：石山 恒貴 法政大学大学院政策創造研究科教授

(3) 課題整理のためのディスカッション

15:10~15:30

参加者同士の自己紹介、研修に対するニーズや課題などについて、整理・共有します。

(4) 講演「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）を乗り越える」 15:45~17:15

「アンコンシャス・バイアス（無意識の偏見）」とは、過去の経験や習慣、環境から生じる、自分自身が気づかずに持つ偏った見方・考え方のことです。誰にでもあるものですが、多様な価値観を尊重する「働き方改革」や「多様な人材の活躍」においては阻害要因にもなりかねません。ダイバーシティ推進に向け注目されている概念について、その背景と影響を学びます。

講 師：パク・スックチャ アパショナータ I n c. 代表、コンサルタント

(5) 情報交換会（希望者のみ参加）

18:30~19:30

全国からの参加者同士での情報交換とネットワークづくりを行います。

第2日 6月8日(木)

(6) 情報提供「男女共同参画社会に向けた今日の政策課題」

9:00~10:30

男女共同参画や女性活躍の促進に向けた国の最新施策についての説明と今後の方向性について理解を深めます。

講師：岡田 恵子 内閣府男女共同参画局総務課長

講師：吉田 麻衣 厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課国際係長

講師：眞家 恵美 経済産業省経済産業政策局経済社会政策室係長

(7) 全体会1「持続可能な地域づくりに活かす新たなネットワーク構築と活用」

10:45~12:00

女性の活躍推進の取組の鍵となる様々な分野の機関との新たなネットワークの構築とその効果的な活用について、国立女性教育会館が行った調査研究の成果及び事例報告をもとに、取組の実際とその課題について、全体で共有します。

パネリスト：津島 伊保 広島県商工労働局働き方改革推進・働く女性応援課参事

寺田 陽子 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画部長

堀田 真奈 特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ代表理事

コーディネーター：飯島 絵理 国立女性教育会館研究国際室研究員

(8) 分科会1「持続可能な地域づくりに活かす新たなネットワーク構築と活用」

13:30~16:00

男女ともに働きやすく暮らしやすい社会の実現に大きく関わる3つのテーマについて「連携」「ネットワーク構築」をキーワードに、新たな仕組みづくりや効果的な事業の展開等について考えます。

A：「働き方改革に向けた企業、経済団体とのネットワーク」

「男性中心型労働慣行」の変革に欠かせない官民のネットワークの構築と、ネットワークを活用した経営者・管理職の男性への働きかけや女性の人材育成等、効果的な取組について考えます。

報告者：津島 伊保 広島県商工労働局働き方改革推進・働く女性応援課参事

B：「起業支援に向けたネットワーク」

女性の多様なニーズとキャリアに配慮しつつ、個人の経済的エンパワーメントと地域づくりを効果的につなぐ起業支援に向けて、関係機関がどのように連携し役割を担ったらよいか、現状と課題を探ります。

報告者：寺田 陽子 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会市民参画部長

C：「若年層へのアプローチ」

男女共同参画社会づくりの次代の担い手育成のためにも、地域活性化のためにも重要な若年層を対象とした取組について、大学等の教育機関との効果的なつながり方や事業の内容等について考えます。

報告者：堀田 真奈 特定非営利活動法人 ワークライフ・コラボ代表理事

(9) 情報提供「NWE Cの事業展開について」 16:15~17:00

①**情報事業** 女性アーカイブ展示や女性デジタルアーカイブシステムなど、NWE Cの情報事業や機能について詳しく説明します。

説明者：細川 芽 国立女性教育会館情報課長

②**研修事業** 平成29年度の研修事業計画について説明します。

説明者：櫻田今日子 国立女性教育会館事業課長

③**報告「第61回国連女性の地位委員会（CSW61）参加報告」**

「変化する職業の世界における女性の経済的エンパワーメント」を優先テーマとして、平成29年3月に国連本部（ニューヨーク）で開催された、CSW61での議論や合意結論について報告します。

報告者：越智 方美 国立女性教育会館研究国際室専門職員

佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

(10) 自由交流（希望者のみ参加） 19:00~20:30

参加者同士で関心あるテーマごとに集い、情報交換や交流を行います。

[テーマ]「意思決定の場への女性の参画」「女性に対する暴力」「女性と防災」「男性視点からの男女共同参画」「多様な分野との連携」など（予定）

第3日 6月9日（金）

(11) 分科会2「働くことをめぐる課題に迫る」 9:00~11:10

コースごとに事例報告に基づくグループワークを行い、実践に役立つ力を身につけながら、支援や解決の方法を考えます。

A：女性関連施設管理職コース「社会参画につながる『学び』の促進」

平成28年度文部科学省委託事業として、全国女性会館協議会が実施した「『学び』を通じた女性の社会参画を促進するグッド・プラクティス収集調査」の結果について共有し、女性が「働くこと」を支援するために、女性関連施設が果たせる役割について考えます。

報告者：納米恵美子 特定非営利活動法人全国女性会館協議会代表理事

ファシリテーター：

加藤志生子 仙台市男女共同参画推進センター エル・パーク仙台館長
兼 管理事業課長

岡本 峰子 公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会総務部長

B：地方自治体職員コース「女性活躍推進に向けた効果的な地域連携とは」

地域における男女共同参画を戦略的に推進するためには庁内外での横断的な計画や取組が不可欠です。庁内の他部署や外部組織との有効的な連携について今後どう進めていくのか、現状と課題を整理し、現場で生かせるヒントをつかみます。

コーディネーター：

岸田 眞代 特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター
代表理事

C：団体リーダーコース「NPOが拓く新しい働き方」

東日本大震災後の南三陸地域に暮らす女性たち自身による、共同のチャレンジ工房立ち上げプロジェクトの事例から、持続的な組織運営と地域における男女共同参画の視点での新しい働き方の枠組づくりに必要な要素と今後の可能性を探ります。

報告者：栗林美知子 特定非営利活動法人ウィメンズアイ事務局長

(12) 全体会

11:30～12:20

分科会の報告内容や、話し合われた課題や解決法について、分科会2の各コーディネーターから報告、全体で共有します。

報告者：分科会2各コース登壇者

コーディネーター：西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員

(13) 閉会・アンケート記入

12:20～12:30

9. その他

(1) 事前学習（eラーニング講座の受講）について

参加決定後、本研修の参加前までに、男女共同参画の基礎知識を学ぶためのeラーニング講座を受講していただきます（総学習時間1時間程度、受講料無料）。

(2) 広報について

研修期間中に職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめご了承ください。

(3) フォローアップ調査の実施について

研修終了6か月後を目途にフォローアップ調査を実施いたします。実際の職務や活動に、研修成果がどのように役立てられているかについて伺うものです。御協力をお願いいたします。

平成29年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修〈女性関連施設・地方自治体・団体〉」参加者概況

2018年2月26日 現在

1. 性別

	参加者			
	女性関連施設	地方自治体	団体リーダー	総計
	計	計	計	計
女性	54	34	23	111
男性	13	18	3	34
計	67	52	26	145

定員 120 名
 申込者数 151 名
 キャンセル 6 名
 参加者数 145 名
 応募倍率 125.8 %

2. 年代別

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
20代	1	-	4	1	-	-	5	1	6
30代	2	-	5	6	-	-	7	6	13
40代	15	5	16	10	5	1	36	16	52
50代	15	7	8	1	6	-	29	8	37
60代	10	1	1	-	7	1	18	2	20
70代以上	1	-	-	-	2	-	3	-	3
無回答	10	-	-	-	3	1	13	1	14
計	54	13	34	18	23	3	111	34	145

3. 施設区分(女性関連施設管理職コースのみ)

	女	男	計
(1)公立Ⅰ:管理運営者が教育委員会	-	-	-
(2)公立Ⅰ:管理運営者が男女共同参画担当部課	9	4	13
(3)公立Ⅱ:指定管理者を導 ①運営者が財団法人、社団法人、任意団体等	11	6	17
②管理運営者が企業	3	1	4
③管理運営者がNPOなど	22	1	23
(4)私立	-	-	-
(5)その他	1	1	2
(6)無回答	8	-	8
計	54	13	67

4. 情報交換会

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
	33	6	23	14	15	1	71	21	92

5. 自由交流

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
	28	6	20	14	14	1	62	21	83

6. 会館の利用歴(複数回答)

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女	男	女	男	女	男	女	男	計
会館が主催する男女共同参画に携わるリーダー向け研修に参加したことがある	21	2	7	1	6	1	34	4	38
会館が主催する本事業以外の事業に参加したことがある	20	2	5	3	8	1	33	6	39
会館を利用し、事業を実施したことがある	-	-	1	-	4	1	5	1	6
会館で実施された、他の機関・団体で実施した事業に参加したことがある	4	-	-	-	3	1	7	1	8

8. 地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	割合%
北海道・東北	13	2	15	10.3
関東	49	10	59	40.7
甲信越	7	1	8	5.5
北陸・東海	17	5	22	15.2
近畿	9	4	13	9.0
中国・四国	6	5	11	7.6
九州・沖縄	10	7	17	11.7
合計	111	34	145	100.0

7. 地域別

	女性関連施設		地方自治体		団体リーダー		総数		
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	計
北海道	-	1	2	-	-	-	2	1	3
青森県	1	-	-	-	1	-	2	-	2
岩手県	2	-	-	-	1	-	3	-	3
宮城県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
秋田県	2	-	1	-	-	-	3	-	3
山形県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
福島県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
茨城県	-	-	4	1	-	-	4	1	5
栃木県	-	-	-	2	2	-	2	2	4
群馬県	2	1	-	-	-	-	2	1	3
埼玉県	2	-	1	-	3	2	6	2	8
千葉県	1	1	-	2	5	-	6	3	9
東京都	19	-	3	1	4	-	26	1	27
神奈川県	1	-	2	-	-	-	3	-	3
山梨県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
新潟県	1	-	2	1	-	-	3	1	4
長野県	1	-	1	-	1	-	3	-	3
富山県	-	1	-	1	-	-	-	2	2
石川県	-	-	-	-	1	-	1	-	1
福井県	-	-	3	-	1	1	4	1	5
岐阜県	1	-	-	-	-	-	1	-	1
静岡県	3	-	2	1	-	-	5	1	6
愛知県	1	-	3	1	-	-	4	1	5
三重県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
滋賀県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	1	1	-	-	-	2	1	3
兵庫県	3	-	1	2	3	-	7	2	9
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	1	-	1	-	-	-	2	2
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	1	-	1	1	2
広島県	3	1	-	-	-	-	3	1	4
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	1	-	-	-	1	1
愛媛県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	2	-	2	2	-	-	4	2	6
佐賀県	1	1	-	1	-	-	1	2	3
長崎県	1	-	1	-	-	-	2	-	2
熊本県	1	1	1	-	-	-	2	1	3
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	1	-	-	-	-	-	1	1
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	1	1	-	-	-	1	1	2
計	54	13	34	18	23	3	111	34	145

平成29年度「地域における男女共同参画推進研修
 <女性関連施設・地方自治体・団体リーダー>」参加者アンケート 集計結果

アンケート対象者数 134名 共催者、当日参加者を除く
 アンケート回答者数 125名 (女性90名、男性31名、性別不明4名)
 回答率 93.3%

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

I 研修に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

1. 各プログラムについて

(1)事前学習「男女共同参画の基礎知識」
 (eラーニング講座)

	人数	%	※%	※%
非常に有用	33	26.4	28.2	97.4
有用	81	64.8	69.2	
あまり有用でない	3	2.4	2.6	2.6
有用でない	-	-	-	
不参加	3	2.4		
無回答	5	4.0		
合計	125	100.0		

(2)講演「男女ともに活躍できる働き方改革にせまる
 ～お互いに認めあう文化の組織を実現するには～」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	58	46.4	48.7	97.5
有用	58	46.4	48.7	
あまり有用でない	3	2.4	2.5	2.5
有用でない	-	-	-	
不参加	3	2.4		
無回答	3	2.4		
合計	125	100.0	100.0	100.0

(3)課題整理のためのディスカッション

	人数	%	※%	※%
非常に有用	32	25.6	28.3	88.5
有用	68	54.4	60.2	
あまり有用でない	12	9.6	10.6	11.5
有用でない	1	0.8	0.9	
不参加	4	3.2		
無回答	8	6.4		
合計	125	100.0	100.0	100.0

(4)講演「アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)を
 乗り越える」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	63	50.4	54.3	96.6
有用	49	39.2	42.2	
あまり有用でない	2	1.6	1.7	3.4
有用でない	2	1.6	1.7	
不参加	5	4.0		
無回答	4	3.2		
合計	125	100.0	100.0	100.0

(5)情報交換会(希望者のみ)

	人数	%	※%	※%
非常に有用	35	28.0	42.7	92.7
有用	41	32.8	50.0	
あまり有用でない	6	4.8	7.3	7.3
有用でない	-	-	-	
不参加	27	21.6		
無回答	16	12.8		
合計	125	100.0	100.0	100.0

(6)全体会1「持続可能な地域づくりに活かす新たな
 ネットワーク構築と活用」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	48	38.4	42.1	92.1
有用	57	45.6	50.0	
あまり有用でない	9	7.2	7.9	7.9
有用でない	-	-	-	
不参加	1	0.8		
無回答	10	8.0		
合計	125	100.0	100.0	100.0

(7)分科会「持続可能な地域づくりに活かす新たなネットワーク構築と活用」

A:「働き方改革に向けた企業、経済団体とのネットワーク」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	12	30.0	30.0	87.5
有用	23	57.5	57.5	
あまり有用でない	5	12.5	12.5	12.5
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	40	100.0	100.0	100.0

B:「起業支援に向けたネットワーク」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	9	69.2	69.2	100.0
有用	4	30.8	30.8	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	13	100.0	100.0	100.0

C:「若年層へのアプローチ」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	18	48.6	48.6	97.2
有用	18	48.6	48.6	
あまり有用でない	1	2.8	2.8	2.8
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	37	100.0	100.0	100.0

(9)自由交流(テーマ別)(希望者のみ)

	人数	%	※%	※%
非常に有用	22	17.6	42.3	92.3
有用	26	20.8	50.0	
あまり有用でない	4	3.2	7.7	7.7
有用でない	-	-	-	
不参加	40	32.0		
無回答	33	26.4		
合計	125	100.0	100.0	100.0

B:地方自治体職員コース

	人数	%	※%	※%
非常に有用	7	24.1	24.1	93.1
有用	20	69.0	69.0	
あまり有用でない	2	6.9	6.9	6.9
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	29	100.0	100.0	100.0

(11)全体会

	人数	%	※%	※%
非常に有用	28	22.4	35.4	96.2
有用	48	38.4	60.8	
あまり有用でない	3	2.4	3.8	3.8
有用でない	-	-	-	
不参加	6	4.8		
無回答	40	32.0		
合計	125	100.0	100.0	100.0

(8)情報提供「NVECの事業展開について」
①情報事業 ②研修事業 ③CSW61参加報告

	人数	%	※%	※%
非常に有用	22	17.6	21.0	86.7
有用	69	55.2	65.7	
あまり有用でない	12	9.6	11.4	13.3
有用でない	2	1.6	1.9	
不参加	6	4.8		
無回答	14	11.2		
合計	125	100.0	100.0	100.0

(10)分科会2「働くことをめぐる課題に迫る」

A:女性関連施設管理職コース

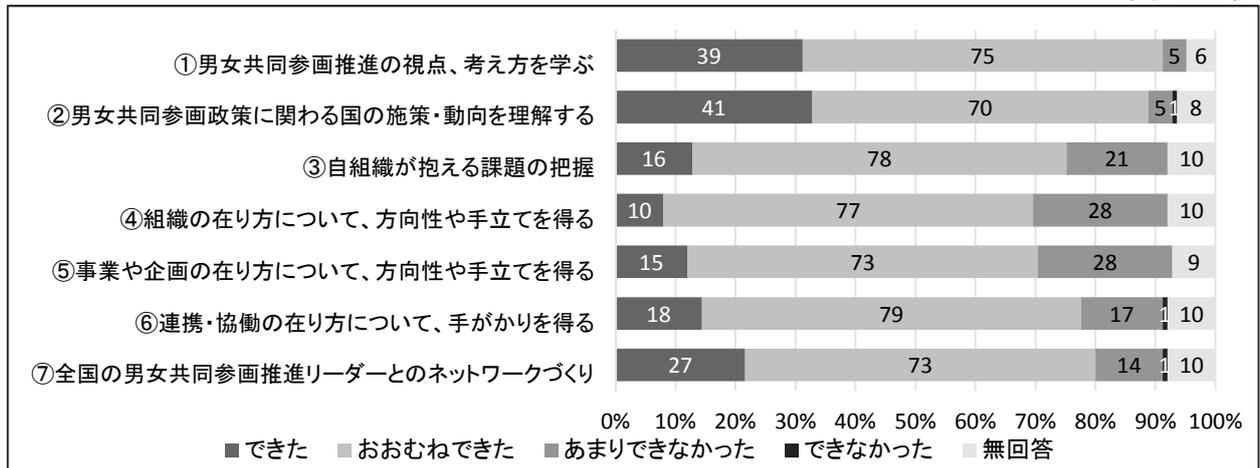
	人数	%	※%	※%
非常に有用	8	32.0	38.1	95.2
有用	12	48.0	57.1	
あまり有用でない	1	4.0	4.8	4.8
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	4	16.0		
合計	25	100.0	100.0	100.0

C:団体リーダーコース

	人数	%	※%	※%
非常に有用	11	78.6	78.6	100.0
有用	3	21.4	21.4	
あまり有用でない	-	-	-	
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	14	100.0	100.0	100.0

2. 研修の達成度

(単位:人数)



3. 研修全体の満足度

	人数	%	※%	※%
非常に満足	36	28.8	31.0	94.8
満足	74	59.2	63.8	
少し物足りない	6	4.8	5.2	5.2
物足りない	-	-	-	
無回答	9	7.2		
合計	125	100.0	100.0	100.0

<意見・感想等>

「非常に満足」の理由

- やはり参加してよかった！という思いです。国指針の施策をまず知ってから、その背景、課題、今後を考えることもでき、批判(?)もできるというよさであろう。
- 多くの方が、同様の業務について、話し合える機会が普段は持てないので、とても役に立った。みなさんのプレゼンテーション力の高さに感銘を受けた。是非、取り入れられるものは、取り入れていきたい。
- 男女共同参画の職に就いて2ヶ月、不安なことや見通しが持てずにいたが、幅広い研修内容で今後の自分の取り組み方について考えることができた。全国のさまざまな方々との出会いにもとても刺激をうけた。

「満足」の理由

- 1日目の2つの講演会が大変有意義だった。センターの目指すべき方向性について考えることができた。地域のハブとなること、つなげることで必要とされるセンターになれるよう考えていきたい。
- 事前学習、座学、ワーク、振り返りのバランスがよかった。
- 今後展開する事業についてのヒントがあったのでよかった。全国の方と知り合う機会だったのでとても有益だった。
- 国の最新の情報など知ることができて有意義でした。女性活躍推進の”難しさ”をどう各地で解決しているのかも少し知りたかった。
- 働き方改革やネットワーク作りなど時代のニーズに即したテーマを中心に取り上げていたため参考になった。

<少し物足りなかった理由>

- もう少し深掘りした男女共同参画の意義や今後すべきことについて学べるとうれしかったです。
- 今年2回目の参加でした。昨年は防災がテーマで、熊本地震の後でもあり参加者も多くとても良かったのですが、今年は行政の若い方が多く、熱量の差を感じました。
- 上意下達的ニュアンスを感じる。
- 身分自身がまだまだ知識不足、実践不足のため。

4. 今後、この研修で取り上げたいテーマ・内容・方法等について

- 男性の働き方改革に向けたアプローチ
- これからの「男女共同参画センター」のあり方、「男女共同参画の視点の持ち続け方」県や市町村の部署名から「男女共同参画」の文字がなくなっている現状、男女共同参画は必要ではないのか、もう一度問い直していただきたい。
- 女性と防災、男女共同参画の視点からの防災
- LGBT、性的マイノリティ
- シングルマザー・ファザー、障害のある方にとっても働きやすい、生きやすい社会づくりの取組について。
- 市民との協働のあり方(中間支援団体としての)
- コミュニティービジネス、コミュニティーカフェなど地域課題(生活・人生に関わる)を解決するための”場”を作るビジネス
- 女性の政治参画、女性のライフストーリー。
- 働き方改革の追跡調査。取り組んでいる企業のその後の動向を知りたい。成功事例だけでなく、うまくいかなかった点なども。
- もう少し基礎的な内容を学べるとよい。
- 「地方における人間関係のしがらみ」を取り除く手段について

平成29年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修
 <女性関連施設・地方自治体・団体>」フォローアップ調査集計結果

●回答者について

	対象者	回答数	無効回答数	% ※各コースの 回答率	参加者数:
女性関連施設管理職コース	59	50	1	86.2	145名
地方自治体職員コース	52	48	-	92.3	調査対象者数: 134名(共催者等を除く)
団体リーダーコース	23	22	-	95.7	回答数: 120名
合計	134	120	1	90.2	無効回答数: 1名(退職のため回答不能)

回収率(回答数/(対象者数-無効回答数))
 ※再掲 90.2 %

1. 研修の成果はあなたの仕事や活動に役立ちましたか

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%	合計	%
a. 非常に役立った	25	50.0	15	31.3	14	63.6	54	45.0	119	99.2
b. 役立った	25	50.0	32	66.6	8	36.4	65	54.2		
c. あまり役立たなかった	-	-	1	2.1	-	-	1	0.8	1	0.8
d. 役立たなかった	-	-	-	-	-	-	-	-		
合計	50	100.0	48	100.0	22	100.0	120	100.0	120	

2. この研修の内容に対して、あなたはどのように評価しますか

	管理職	%	自治体	%	団体	%	合計	%
仕事や活動に直接的に活用できる	34	68.0	21	43.8	15	68.2	70	58.3
仕事や活動に直接的に活用することはできないが、業務に応用できる	11	22.0	16	33.3	2	9.1	29	24.2
直接的に活用、応用することはできないが、自分自身の参考になる	5	10.0	11	22.9	5	22.7	21	17.5
役に立つこと、参考になることはない	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	50	100.0	48	100.0	22	100.0	120	100.0

【参考】設問1と設問2のクロス集計

	設問1a	%	設問1b	%	設問1c	%	設問1d	%	合計	%
仕事や活動に直接的に活用できる	40	74.1	30	46.2	-	-	-	-	70	58.3
仕事や活動に直接的に活用することはできないが、業務に応用できる	8	14.8	21	32.3	-	-	-	-	29	24.2
直接的に活用、応用することはできないが、自分自身の参考になる	6	11.1	14	21.5	1	100.0	-	-	21	17.5
役に立つこと、参考になることはない	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	54	100.0	65	100.0	1	100.0	-	-	120	100.0

3. 所属する組織内での、研修成果の具体的な普及・活用方法について(複数回答)

内容	研修直後アンケートでの回答		フォローアップ調査での回答						比較増減 (今回-直後)
			設問1a		設問1b		合計		
	件数	% (125名中)	件数	%(54名 中)	件数	%(65名 中)	件数	%(119名 中)	%
研修内容の報告・説明	95	76.0	51	94.4	59	90.8	110	92.4	16.4
各種広報資料への執筆・公表	12	9.6	5	9.3	6	9.2	11	9.2	-0.4
研修資料を活用した勉強会・研修会の開催	22	17.6	5	9.3	5	7.7	10	8.4	-9.2
所属組織・団体の体制づくり・整備への提言	21	16.8	9	16.7	7	10.8	16	13.4	-3.4
来年度事業・予算への反映	35	28.0	8	14.8	5	7.7	13	10.9	-17.1
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	46	36.8	24	44.4	14	21.5	38	31.9	-4.9
その他	4	3.2	5	9.3	5	7.7	10	8.4	5.2

4. 地域・他機関との連携での、研修成果の具体的な普及・活用方法について(複数回答)

内容	研修直後アンケートでの回答		フォローアップ調査での回答						比較増減 (今回-直後)
			設問1a		設問1b		合計		
	件数	% (125名中)	件数	%(54名 中)	件数	%(65名 中)	件数	%(119名 中)	%
研修内容の報告・説明	32	25.6	17	31.5	17	26.2	34	28.6	3.0
研修資料の提供	設問なし	—	7	13.0	12	18.5	19	16.0	—
各種広報の原稿執筆	26	20.8	4	7.4	2	3.1	6	5.0	-15.8
勉強会・研修会で指導・助言・協力	12	9.6	5	9.3	5	7.7	10	8.4	-1.2
所属組織・団体の体制づくり・整備について指導・助言・協力	29	23.2	9	16.7	4	6.2	13	10.9	-12.3
具体的な事業の企画・運営への指導・助言	24	19.2	20	37.0	11	16.9	31	26.1	6.9
ネットワーク構築に向けた働きかけ	35	28.0	12	22.2	7	10.8	19	16.0	-12.0
その他	8	6.4	10	18.5	12	18.5	22	18.5	12.1

平成29年度「学習オーガナイザー養成研修」実施要項

1. 趣旨

国立女性教育会館では、「男女共同参画の視点に立った地域づくり」をテーマに体系的な学習プログラムを効果的に実践・展開できる人材を育成する「学習オーガナイザー」を養成する研修を開催します。

男女共同参画の基本理念や取組の意義、社会状況や現代的課題について把握し、個人の課題と社会的課題のつながりについて整理するとともに、学習方法や評価など、事業運営に関する実務的な学びの機会を提供することで、経験者の知見・技能の向上と人材養成をもって男女共同参画の推進を図ります。

2. 目的

- (1) 男女共同参画の基点・基軸の形成
- (2) 学習をオーガナイズする企画力・実践力の形成
- (3) 地域における社会参画を推進する人の育成

3. 主催 独立行政法人国立女性教育会館

4. 会場 国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL 0493-62-6724・6725

FAX 0493-62-6720

5. 期日 平成30年1月18日（木）～1月20日（土）2泊3日

6. 対象及び定員

女性関連施設、公民館、行政、大学、NPOなどで、研修・学習事業、女性のキャリア開発、女性の活躍推進・地域づくりに係る事業等の企画・実施経験を有する方 30名

*現に業務に就いている方、活動している方、初めて参加される方を優先します。

7. 日程・内容（各プログラムの間に10～15分の休憩が入ります）

1/18 (木)	13:00 13:15 14:00 14:40 15:50 17:00 19:00 20:30									
		受付	開会	講義	アイスブレイク	講義	講義 グループワーク	チェックイン 夕食	グループ ワーク	
1/19 (金)	9:00	10:30	12:00	13:15	14:15	17:00 18:30 19:30				
	実践研究	講義	昼食	講義	グループワーク	休憩	情報交換会			
1/20 (土)	9:00 10:45 11:40 11:55 12:15									
	グループワーク	まとめと 成果の 共有	まとめ	閉会						

第1日 1月18日(木)

- (1) 開会 13:00～13:15
①主催者あいさつ
②オリエンテーション
- (2) 講義「プログラムデザインの意義と役割」 13:15～14:00
学習プログラムの設計図となる「プログラムデザイン」作成の目的・意義とその重要性について、学習の「見える化」の視点から理解を深めます。
講 師：櫻田今日子 国立女性教育会館事業課長
- ◇アイスブレイク 14:00～14:30
- (3) 講義「男女共同参画の基礎的理解を深めるために
～個人的課題から社会的課題、そして課題解決へ～」 14:40～15:40
男女共同参画社会基本法の理解、視点の必要性、個人的課題と社会的課題のつながりについて理解を深めます。また、男女共同参画の歴史的経緯や、個としての女性と社会との関係などを踏まえ、男女共同参画の今日的な理解について講義を行います。
講 師：神田 道子 東洋大学名誉教授、国立女性教育会館事業課客員研究員
- (4) 講義・グループワーク「統計から考える男女共同参画の現状」 15:50～17:00
男女共同参画社会基本法の5つの柱をもとに、人権、意思決定の参画、職業と他の活動の両立、性別役割分業、国際的協調などを、統計データから日本の男女共同参画の現状と課題を深掘りし、読み解きます。地域の実状を知るための基礎としての統計の見方を学びます。
講 師：中野 洋恵 国立女性教育会館研究国際室長
- (5) グループワーク「課題の共有と整理」 19:00～20:30
プログラムの対象となる学習者の地域に取り巻く個人的課題、その背景に見えてくる社会的課題を探り、共有します。その中で、地域における喫緊の課題は何かを考えていきます。
ファシリテーター：引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

第2日 1月19日(金)

- (6) 実践研究「男女共同参画の視点を持った地域づくりとキャリア開発を結びつける」 9:00～10:20
職業や社会活動をとおしてキャリア開発を進められた実践報告をもとに、その共通要因やポイントについて把握します。また、キャリア開発を進めていくうえで、社会参画へと結びつけていくことを考えます。
報告者：大田 茂子 千葉県白井市桜台センター長
山本美千代 熊本県菊池市中央公民館長
コメンテーター：亀田 温子 十文字学園女子大学名誉教授
日本女性学習財団理事

- (7) 講義「協働型学習の理論・方法について」 10:30～12:00
協働型学習（グループワーク）を単なる「意見交換の場」ととどめずに、その場の学びをどう振り返り意味づけするか、その意味づけの中から実践につながる「気づき」を得ることの重要性について、社会教育の視点から考えます。
講 師：笹井 宏益 玉川大学学術研究所教授

<昼食休憩 12:00～13:15>

- (8) 講義「男女共同参画の視点に立った事業企画を考える」 13:15～14:00
学習プログラムを企画する上での現状把握、実施、評価までのPDCAサイクルに基づく運営について、注意点を解説します。また、プログラム開発実施の位置を探ります。
講 師：松下 光恵 NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか代表理事

- (9) グループワーク「地域に即した課題解決プログラムをつくる」① 14:15～17:00
課題解決に向けての意識開発と実践活動につながる学習プログラムデザインを、実際に企画・作成します。
ファシリテーター：西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員
学習支援：平成29年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員
国立女性教育会館事業課専門職員

- (10) 情報交換会 18:30～19:30
全国からの参加者同士のネットワークづくりを図り、交流を深めます。

第3日 1月20日（土）

- (11) グループワーク「地域に即した課題解決プログラムをつくる」② 9:00～10:45
課題解決に向けての意識開発と実践活動につながる学習プログラムデザインを、実際に企画・作成します。
ファシリテーター：西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員
学習支援：平成29年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員
国立女性教育会館事業課専門職員

- (12) まとめと成果の共有 10:45～11:30
作成したプログラムデザイン案の発表により成果を共有するとともに、出来上がったプログラムを検証します。
コメンテーター：平成29年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員

- (13) まとめ「学習オーガナイザーの役割を学ぶ」 11:40～11:55
3日間の研修を通して学習したことや作成したプログラムデザインについて振り返り、学習オーガナイザーの役割について再確認します。
講 師：櫻田今日子 国立女性教育会館事業課長

- (14) アンケート・閉会 11:55～12:15

8. 平成29年度「学習オーガナイザー養成研修」企画委員（五十音順、敬称略）

- ・ 亀田 温子 十文字学園女子大学名誉教授、日本女性学習財団理事
- ・ 神田 道子 東洋大学名誉教授、国立女性教育会館事業課客員研究員
- ・ 西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員
- ・ 松下 光恵 NPO法人男女共同参画フォーラムしずおか代表理事

9. その他

- (1) 研修期間中に職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめ御了承ください。
- (2) 研修の一環として、研修終了後（期日未定、平成30年3月以降）にフォローアップ調査を実施いたします。皆様の実際の職務や活動に、研修成果がどのように役立てられているかを伺うものです。今後の事業を充実させていくための参考にさせていただきますので、御協力の程よろしく願いいたします。

1. 性別

	合計
女性	33
男性	5
合計	38

定員 30名
 申込者 43名
 (※内キャンセル5名)
 参加者 38名
 応募倍率 143.3%

2. 参加日別

	女性	男性	合計
全日程	30	5	35
18日のみ	1	-	1
18日、19日	1	-	1
19日、20日	1	-	1
19日のみ	-	-	-
20日のみ	-	-	-
合計	33	5	38

3. 年代

	女性	男性	合計
20代	4	1	5
30代	4	1	5
40代	8	1	9
50代	7	-	7
60代以上	8	2	10
無回答	2	-	2
合計	33	5	38

4. 情報交換会参加

	合計
女性	28
男性	4
不参加	6
合計	38

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計
北海道・東北	3	-	3
関東	9	3	12
甲信越	4	1	5
北陸・東海	3	-	3
近畿	4	-	4
中国・四国	6	-	6
九州・沖縄	4	1	5
合計	33	5	38

5. 都道府県別

		女性	男性	合計
北海道・東北	北海道	2	-	2
	青森県	-	-	-
	岩手県	1	-	1
	宮城県	-	-	-
	秋田県	-	-	-
	山形県	-	-	-
関東	福島県	-	-	-
	茨城県	1	-	1
	栃木県	1	1	2
	群馬県	-	-	-
	埼玉県	2	1	3
	千葉県	1	1	2
	東京都	3	-	3
	神奈川県	1	-	1
甲信越	山梨県	-	-	-
	新潟県	-	-	-
	長野県	4	1	5
北陸・東海	富山県	-	-	-
	石川県	-	-	-
	福井県	1	-	1
	岐阜県	-	-	-
	静岡県	2	-	2
	愛知県	-	-	-
	三重県	-	-	-
近畿	滋賀県	1	-	1
	京都府	-	-	-
	大阪府	1	-	1
	兵庫県	1	-	1
	奈良県	1	-	1
中国・四国	和歌山県	-	-	-
	鳥取県	-	-	-
	島根県	-	-	-
	岡山県	1	-	1
	広島県	2	-	2
	山口県	2	-	2
	徳島県	1	-	1
	香川県	-	-	-
	愛媛県	-	-	-
高知県	-	-	-	
九州・沖縄	福岡県	1	1	2
	佐賀県	-	-	-
	長崎県	-	-	-
	熊本県	2	-	2
	大分県	-	-	-
	宮崎県	-	-	-
	鹿児島県	-	-	-
沖縄県	1	-	1	
合計	33	5	38	

平成29年度「学習オーガナイザー養成研修」参加者アンケート集計結果

参加者 38名
 回答者 37名
 回収率 97.4%

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

1. 各プログラムについて

(1) 講義「プログラムデザインの意義と役割」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	24	64.9	66.7	100.0
有用	12	32.4	33.3	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	1	2.7		
合計	37	100.0	100.0	100.0

(2) 講義「男女共同参画の基礎的理解を深めるために～個人的課題から社会的課題、そして課題解決へ～」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	26	70.3	70.3	100.0
有用	11	29.7	29.7	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	37	100.0	100.0	100.0

(3) 講義・グループワーク「統計から考える男女共同参画の現状」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	26	70.3	70.3	100.0
有用	11	29.7	29.7	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	37	100.0	100.0	100.0

(4) グループワーク「課題の共有と整理」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	14	37.8	40.0	88.6
有用	17	45.9	48.6	
あまり有用でない	4	10.8	11.4	11.4
有用でない	-	-	-	
不参加	1	2.7		
無回答	1	2.7		
合計	37	100.0	100.0	100.0

(5) 実践研究男女共同参画の視点を持った地域づく

	人数	%	※%	※%
非常に有用	19	51.4	51.4	97.3
有用	17	45.9	45.9	
あまり有用でない	1	2.7	2.7	2.7
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	37	100.0	100.0	100.0

(6) 講義「協働型学習の理論・方法について」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	14	37.8	37.8	86.5
有用	18	48.6	48.6	
あまり有用でない	5	13.5	13.5	13.5
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	37	100.0	100.0	100.0

(7) 講義「男女共同参画の視点に立った事業企画を考える」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	26	70.3	72.2	100.0
有用	10	27.0	27.8	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	1	2.7		
合計	37	100.0	100.0	100.0

(8) グループワーク 地域に即した課題解決プログラムをつくる①

	人数	%	※%	※%
非常に有用	25	67.6	71.4	100.0
有用	10	27.0	28.6	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	1	2.7		
無回答	1	2.7		
合計	37	100.0	100.0	100.0

(9) 情報交換会(希望者のみ参加)

	人数	%	※%	※%
非常に有用	17	45.9	58.6	100.0
有用	12	32.4	41.4	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	4	10.8		
無回答	4	10.8		
合計	37	100.0	100.0	100.0

(10) グループワーク 地域に即した課題解決プログラムをつくる②

	人数	%	※%	※%
非常に有用	26	70.3	74.3	97.1
有用	8	21.6	22.9	
あまり有用でない	-	-	-	2.9
有用でない	1	2.7	2.9	
不参加	1	2.7		
無回答	1	2.7		
合計	37	100.0	100.0	100.0

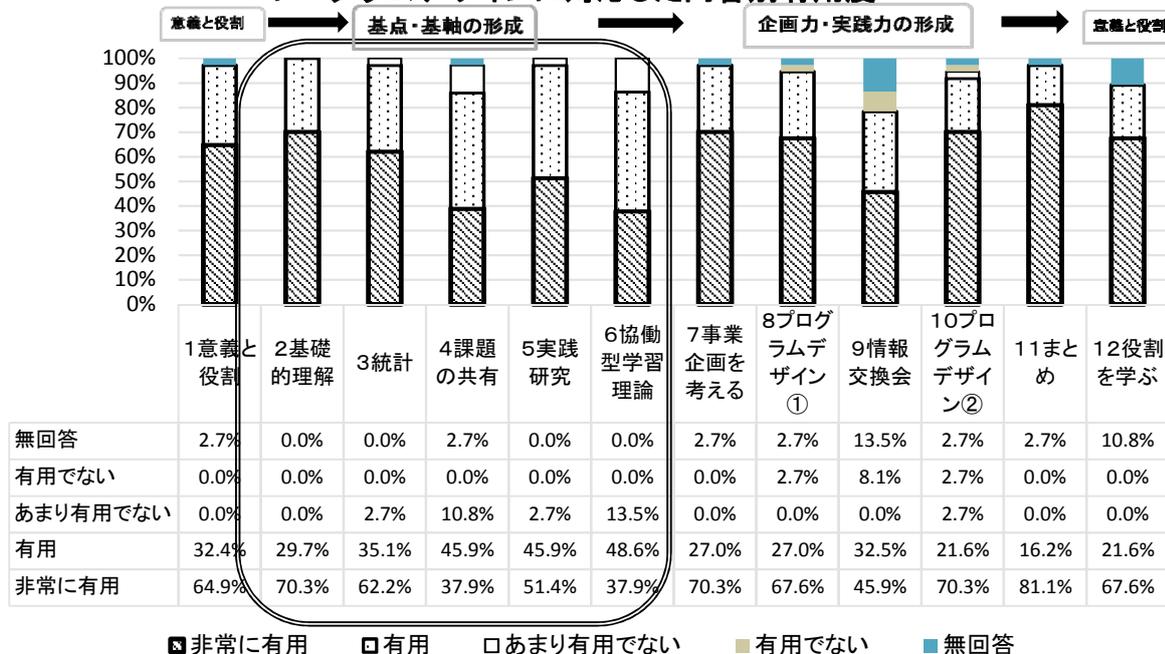
(11)まとめと成果の共有

	人数	%	※%	※%
非常に有用	30	81.1	83.3	100.0
有用	6	16.2	16.7	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	1	2.7	-	-
合計	37	100.0	100.0	100.0

(12)まとめ学習オーガナイザーの役割を学ぶ

	人数	%	※%	※%
非常に有用	25	67.6	75.8	100.0
有用	8	21.6	24.2	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	4	10.8	-	-
合計	37	100.0	100.0	100.0

プログラムデザインに対応した内容別有用度



(1)満足度

	人数	%	※%	※%
非常に満足	23	62.2	65.7	100.0
満足	12	32.4	34.3	
少し物足りない	-	-	-	-
物足りない	-	-	-	-
無回答	2	5.4	-	-
合計	37	100.0	100.0	100.0

<主な意見・感想等>

「非常に満足」の理由

- ・ 具体的・実践的なプログラムデザインの手法を学ぶことができた。学術的・理論的な講義もあり、体系的に学ぶことができた。
- ・ 男女共同参画の基本や心構えを踏まえた上で、学習オーガナイザーとして学ぶことができた。
- ・ プログラムデザインの作成を通して活発なグループ討議ができた。個別課題を社会の土台作りとして描いていく考え方・役割が大変重要であると実感できた。
- ・ 男女共同参画のための社会的土台作りの必要性を理解できる有意義な研修だった。

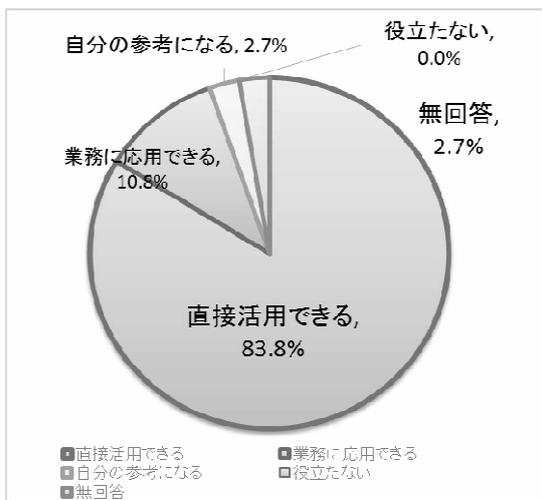
「満足」の理由

- ・ 男女共同参画の基本から、改めて確認することができた。また、プログラムデザイン等、新しく活用できるものが得られた。
- ・ 学習オーガナイザーとしての資質や、参画の視点に立ったプログラムデザインを学び、今までの講座の構築は的を得ていたのかと、座学が多くコミュニケーションによる気づきが少ないことを反省することができた。
- ・ 実践したいと思わせる内容だった。

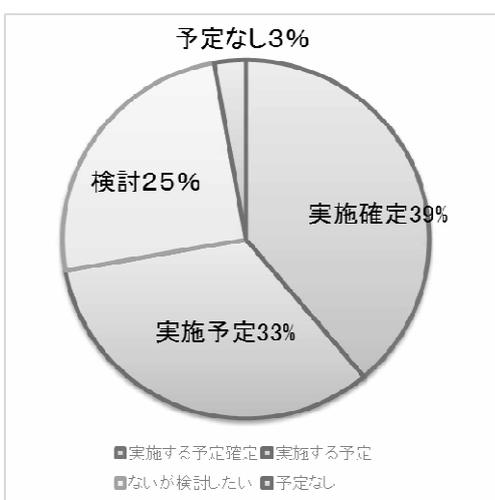
3研修と実践の関わり・能力の達成について

研修と実践との関わり

研修が業務に役立つか

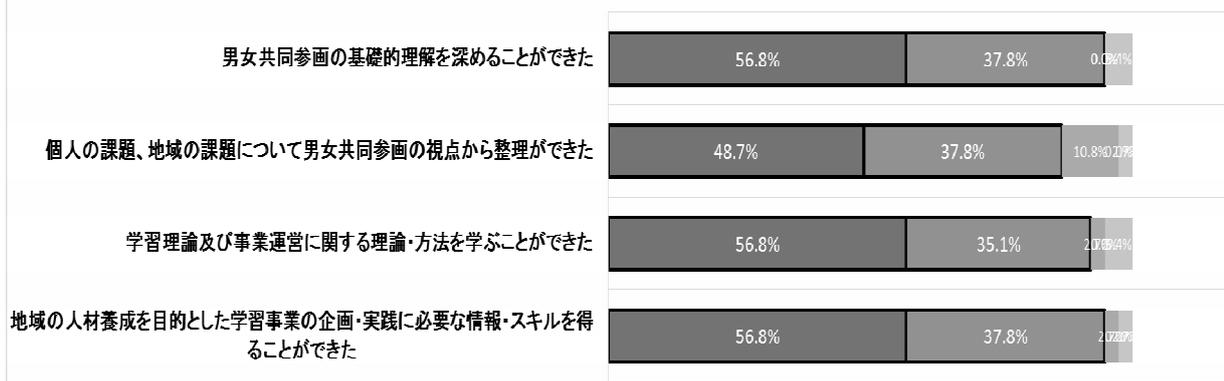


地域課題解決に向けた事業展開



研修による能力の達成

■できた ■おおむねできた ■あまりできなかった ■できなかった ■無回答



参加者のネットワークづくり

■できた ■おおむねできた ■あまりできなかった ■できなかった ■無回答



平成29年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」実施要項

1. 主 催 国立女性教育会館（NWE C）
2. 後 援 経済産業省、厚生労働省
3. 会 場
 - 1日目：放送大学東京文京学習センター
東京都文京区大塚 3-29-1 TEL:03-5395-8688
 - 2日目：国立女性教育会館
埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 TEL:0493-62-6725
4. 期 日
平成29年10月19日（木）～10月20日（金）1泊2日（日帰り参加も可能）
5. 参加者
企業におけるダイバーシティ（女性の活躍促進）の推進者、管理職及びリーダー
6. 日 程 ※「情報交換会」は、希望者のみの有料プログラムになります。

10/19 (木)	12:15 13:00 13:05 14:15 14:45 15:00 17:00 17:30 18:30										
		受付	開会	基調講演	情報提供	休憩	パネルディスカッション	閉会	※情報交換会	バス移動	
10/20 (金)	9:00 10:15 12:00 13:00 14:45 15:00										
	講義	グループワーク1	昼食	グループワーク2	閉会						

7. 内 容

第1日 10月19日（木）

【東京・茗荷谷会場】

- (1) 開会 13:00～13:05
主催者あいさつ：内海 房子 国立女性教育会館理事長
- (2) 基調講演「女性活躍を進めるための組織風土とは」 13:05～14:15
ダイバーシティ推進を経営戦略として位置づけ、長きにわたり女性活躍を進められてきた日産自動車株式会社の取組を踏まえ、女性活躍に必要なことは何か、働き方や組織の在り方はどうあるべきかについてお話いただきます。
講 師：志賀 俊之 日産自動車株式会社取締役
株式会社産業革新機構代表取締役会長（CEO）
- (3) 情報提供「新入社員の意識調査から」 14:15～14:45
国立女性教育会館が平成27年から行っている新入社員の追跡調査をもとに、入社2年目にかけてのキャリア意識とその変化について紹介します。
講 師：島 直子 国立女性教育会館研究国際室研究員

(4) パネルディスカッション「女性も男性も働きやすい職場環境をつくりだす取組とは」

15:00～17:00

女性も男性も働きやすい会社としての取組と風土づくりについての報告を聞き、これからの新しい働き方について議論を深めます。

パネリスト：今田堅太郎 株式会社神戸製鋼所人事労政部担当部長

パネリスト：多賀 朋子 SCSK株式会社

人事グループグループ長補佐兼人材開発部長

パネリスト：座間美都子 花王株式会社人財開発部門D&I推進部長

コーディネーター：土堤内昭雄 株式会社ニッセイ基礎研究所主任研究員

(5) 1日目閉会（1日目のみ参加者アンケート記入及び回収）

17:00～17:10

(6) 情報交換会（希望者のみ）

17:30～18:30

全国からの参加者と交流し、参加者同士の情報ネットワークづくりを行います。

* 2日目参加者はバスで国立女性教育会館へ移動（約90分）

第2日 10月20日（金）

【埼玉・武蔵嵐山会場】

(7) 講義「アクションラーニング」

9:00～9:45

21世紀型のリーダー育成のスキルとして注目され、リーダーに必要なコミュニケーション力養成に効果的なアクションラーニングを学びます。業務上で抱える問題について、対話を通じて解決するとともに、個人、チーム、組織の能力開発を行い、活気のある風土、自律型チーム、変革を生み出すリーダーを育成することに有効な学習法です。

講師：堀本麻由子 東海大学現代教養センター准教授

(8) 自己紹介と問題提示者決定

9:45～10:45

グループに分かれて、参加者同士の背景や問題意識を共有するための長めの自己紹介とその後のグループワークでの問題提示者を決定します。

(9) グループワーク1

11:00～12:00

実際の業務での問題を事例に、グループごとにアクションラーニングに基づいたディスカッションを行います。

(10) グループワーク1の振り返り

13:00～13:30

グループワーク1を全体で振り返り、アクションラーニングを体験した気づきを共有します。

(11) グループワーク2

13:30～14:30

引き続き、グループごとにアクションラーニングに基づいたディスカッションを行います。

- (12) まとめ 14:30～14:45
グループワークで話し合ったことを全員で共有し、全体のまとめを行います。
- (13) 閉会 14:45～15:00
アンケートの記入及び回収
閉会あいさつ：中澤 貴生 国立女性教育会館理事

8. その他

- (1) 職員が撮影した写真を、事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめ御了承ください。
- (2) 「モニター調査」の実施について
企画改善の一環として、セミナー終了から約3ヶ月後を目途に「モニター調査」を実施致します。セミナーが実際の業務にどのように役立てられているか等について伺います。今後、当会館が実施する研修事業を充実させていくための参考にさせていただきますので、御協力のほどよろしく申し上げます。
- (3) 本セミナーは、WAW!2017 シャイン・ウィークス公式サイドイベントに登録しています。

平成29年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」参加者概況

平成30年2月26日現在

定員 80
 申込者数 128
 参加者 114
 応募倍率 160.0 %

キャンセル 27

1. 性別

	合計
女性	92
男性	22
合計	114

2. 19日講演・パネルディスカッション

	女性	男性	合計
参加	91	22	113
不参加	1	-	1
合計	92	22	114

3. 19日情報交換会(オプション) (申込48名、キャンセル3名)

	女性	男性	合計
参加	38	7	45
不参加	54	15	69
合計	92	22	114

4. 20日グループワーク 1

	女性	男性	合計
参加	30	4	34
不参加	62	18	80
合計	92	22	114

5. 20日グループワーク 2

	女性	男性	合計
参加	29	4	33
不参加	63	18	81
合計	92	22	114

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	割合
北海道・東北	1	-	1	0.9
関東	77	19	96	84.2
甲信越	1	-	1	0.9
北陸・東海	6	1	7	6.1
近畿	3	-	3	2.6
中国・四国	3	-	3	2.6
九州・沖縄	1	2	3	2.6
合計	92	22	114	100.0

※アンケート結果(全体満足度)

	1日目	2日目	合計	割合
非常に満足	24	18	42	39.3
満足	49	14	63	58.9
やや物足りない	2	-	2	1.9
物足りない	-	-	-	-
合計	75	32	107	100.0
記入漏れ	3	1	4	

6. 都道府県別

		女性	男性	合計
北海道・東北	北海道	-	-	-
	青森県	-	-	-
	岩手県	1	-	1
	宮城県	-	-	-
	秋田県	-	-	-
	山形県	-	-	-
	福島県	-	-	-
関東	茨城県	2	-	2
	栃木県	-	-	-
	群馬県	-	-	-
	埼玉県	8	3	11
	千葉県	-	-	-
	東京都	56	14	70
	神奈川県	11	2	13
甲信越	山梨県	-	-	-
	新潟県	1	-	1
	長野県	-	-	-
北陸・東海	富山県	-	-	-
	石川県	2	-	2
	福井県	-	-	-
	岐阜県	-	-	-
	静岡県	3	1	4
	愛知県	1	-	1
	三重県	-	-	-
近畿	滋賀県	1	-	1
	京都府	-	-	-
	大阪府	2	-	2
	兵庫県	-	-	-
	奈良県	-	-	-
	和歌山県	-	-	-
中国・四国	鳥取県	1	-	1
	島根県	-	-	-
	岡山県	-	-	-
	広島県	2	-	2
	山口県	-	-	-
	徳島県	-	-	-
	香川県	-	-	-
	愛媛県	-	-	-
	高知県	-	-	-
	九州・沖縄	福岡県	-	1
佐賀県		-	-	-
長崎県		1	1	2
熊本県		-	-	-
大分県		-	-	-
宮崎県		-	-	-
鹿児島県		-	-	-
沖縄県	-	-	-	
	合計	92	22	114

平成29年度「企業を成長に導く女性活躍促進セミナー」 アンケート集計結果

参加者 114名 (女性92名 男性22名)
アンケート回答数 111件 (女性86名 男性22名 無回答3名)
アンケート回答率 97.4%

1. 事例発表・講演・パネルディスカッションについてご意見をお聞かせください。

- 資料も分かりやすく、取組する上でのジレンマやつまづくポイント、その対策など、分かりやすく説明してもらいました。貴重なお話が聞け、大変有意義でした
- ディスカッションによる意見交換の中で、参考になることも多くあり、よかったです。取組が進まれている企業でも、様々な問題、課題を一步一步クリアし、推進されている状況がわかりました。今後の取組を進めていく上で、参考になるディスカッションでした。
- 日本のトップ企業の経営陣の方の思考、考えを聴けたことは貴重な財産となった。”粘土層””無意識のバイアス””共感力”などのキーワードも、今後の人事施策立案に役立てると感じた。

2. その他プログラムについてご意見をお聞かせください。

- ディスカッションではお互いの制度や悩みを共有することができ前向きな解を得ることができた。
- アクションラーニングにおいて、質問する側も、何が問題かを考えて質問するので、本質が見えた気がした。様々な業種の方がいたので、違った業種の方の質問の内容に、新たな気づきがあった事が良かった。
- 2年目のモチベーションプランの統計は、弊社の実態をみたときに、納得するものでした。

3. このセミナー全体の満足度は、いかがでしたか。

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%	※%
非常に満足した	32	37.2	9	40.9	1	33.3	42	37.8	39.3
満足した	49	56.9	12	54.6	2	66.7	63	56.8	58.8
少し物足りなかった	1	1.2	1	4.5	-	-	2	1.8	1.9
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	4	4.7	-	-	-	-	4	3.6	-
合計	86	100.0	22	100.0	3	100.0	111	100.0	100.0

「非常に満足した」理由

- 非常に、中味の濃い内容だったと思います。本日は、会社で、私一人参加させていただきましたが、女性活躍を推進する、男性上司の方々にも、参加して欲しい内容だと感じました。
- 3年連続、参加させていただいております。女性活躍から、男性の働き方、働き方改革にテーマを広げ、最新の情報をいただき、感謝いたします。
- 人材育成担当者として、参加しましたが、今後の人材育成について、考える材料となると共に、私自身の悩みの参考にもなりました。

「少し物足りなかった」理由

- 初日のパネルディスカッションからしか参加できなかったのも、こちら側の問題です。朝から実施していただく方が、会社の事を放り出して来やすいかもしれません。パネルディスカッションの後、モデレーターさんのお話がなければ、質疑応答できたのでは…。
- セミナー全体のうち、前半は満足しましたが、パネルディスカッションが、コーディネーターとパネラーで、うまくかみ合っていないので、物足りないということです。

4. あなた自身についてお聞かせください。

◆性別	人数	%
女性	86	77.5
男性	22	19.8
無回答	3	2.7
合計	111	100.0

◆年代	女性	%	男性	%	無回答	%	合計	%
20代	6	7.0	-	-	-	-	6	5.4
30代	20	23.3	6	27.3	-	-	26	23.4
40代	38	44.1	5	22.7	1	33.3	44	39.7
50代	18	20.9	7	31.9	-	-	25	22.5
60代	1	1.2	3	13.6	-	-	4	3.6
無回答	3	3.5	1	4.5	2	66.7	6	5.4
合計	86	100.0	22	100.0	3	100.0	111	100.0

平成29年度「企業を成長に導く女性活躍推進セミナー」モニター調査集計結果

平成30年3月5日

●回答者について

参加者数	11名
モニター調査数	11名
回答数	8名

1 本セミナーはあなたの仕事に役立ちましたか

	件数	%
a. 非常に役立った	4	50.0
b. 役立った	4	50.0
c. あまり役立たなかった	-	-
d. 役立たなかった	-	-
合計	8	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
8	100.0

2 「非常に役立った」「役だった」に回答した方はそのように役立ちましたか(複数回答)

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (8名中)	件数	% (4名中)	件数	% (4名中)
a. 女性活躍促進の意義について納得できた	5	62.5	3	75.0	2	50.0
b. 女性活躍推進を進める上での具体的なヒントを得た	5	62.5	4	100.0	1	25.0
c. ダイバーシティ、ワークライフバランスへの理解が深まった	5	62.5	4	100.0	1	25.0
d. 勉強会・研修会実施に役立てた	5	62.5	3	75.0	2	50.0
e. 所属組織のシステムや制度整備の際に役立てた	1	12.5	1	25.0	-	-
f. 他企業とのネットワークを構築できた	3	37.5	1	25.0	2	50.0
g. 自らの行動の指針に影響があった	1	12.5	-	-	1	25.0
h. その他	-	-	-	-	-	-

(表中のa、bは、設問1におけるプラス回答者の件数)

平成29年度「男女共同参画推進フォーラム」実施要項

1. 趣 旨

男女共同参画を推進する行政担当者、女性団体やNPOのリーダー及び大学や企業において組織内のダイバーシティや女性の活躍を推進する担当者等が一堂に会し、課題の共有と課題解決のための方策を探る研修を実施します。同時に、組織分野を越え、連携・協働して男女共同参画を推進するためのネットワーク形成を図ります。

2. テーマ

つなぐ、あらたな明日へ
～女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る～

3. 日 程

平成29年8月25日（金）～8月27日（日）

4. 主催及び会場

独立行政法人国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

TEL 0493-62-6724、6725

FAX 0493-62-6720

Eメールアドレス progdiv@nwec.jp

ホームページ URL <https://www.nwec.jp>

5. 参加者

男女共同参画に関心のある方（行政、企業、大学、NPO等の組織において男女共同参画の推進に携わる方、並びに女性団体、女性／男女共同参画センター職員を含む）
1,000名

6. 内 容

【第1日】8月25日（金）

(1) 開会 主催者あいさつ 13:15～13:30

(2) 特別講演 13:30～14:40

変わる勇気、変えるアクション

～女性も男性もともに暮らしやすい社会を創る～

ソウルオリンピック柔道銅メダリスト山口香氏をお迎えします。長年、男性が中心的存在であり、指導的地位の女性が少なかった柔道界。そこで、自ら選手とし

て、指導者として、道を切り拓いていった山口さんに、柔道を始めたきっかけ、選手・指導者として気づいた古いしきたりの矛盾、スポーツから学んだ行動力などについて、様々なエピソードを交えながらお話いただきます。一人ひとりが勇気を持ち社会に声を発すること、具体的に行動することの大切さと、性別にかかわらず全ての人が能力を発揮できる社会のあり方について、会場みなさんと共に考えます。

講師：山口 香 筑波大学体育系准教授

- (3) ワークショップ1・パネル展示1 15：30～17：30
会館提供ワークショップと全国から募集したワークショップやパネル展示を行います。

- (4) 懇親会 参加費 3,500 円（税込）、立食 18：30～20：00

【第2日】8月26日（土）

- (5) ワークショップ2・パネル展示2 10：00～12：00
全国から募集したワークショップやパネル展示を行います。

- (6) 40周年記念シンポジウム 13：00～15：00
自分が変わる、社会を変える～明日に向けてのロードマップ～

今年、NWE Cは開館から40年を迎えます。この間、グローバル化やIT化、少子高齢化の進行に伴い、家族の形態や働き方が変化し、多様な価値観が創出されるなど、日本の状況も大きく変わりました。このシンポジウムでは、働き方改革やワーク・ライフ・バランスの推進、女性のリーダーシップ、男性の地域参画などの視点から、最前線で行動している方々にご登壇いただきます。これまでの男女共同参画推進の歴史を踏まえつつ、現在の日本が抱えている男女共同参画の課題を掘り下げ、男性も女性も共に働きやすく、暮らしやすい社会を創出するための議論を展開します。

パネリスト：

多賀 太 関西大学文学部教授

女性だけでなく、男性もまた固定的な「男性像」や「男らしさ」に縛られています。男性が抱える「生きづらさ」の可視化と分析を通じて、一人一人が能力を発揮して自分らしく生きることのできる社会を創るために何が必要かについて提言いただきます。

田中 恭代 旭化成株式会社 人事部付 シニアマネージャー
前 旭化成アミダス（株）代表取締役社長

女性社員の就労継続、女性管理職の登用拡大を目指し、社内における仕事と家庭の両立支援制度を整えた結果、女性社員の離職率激減させたことや、企

業トップの経験を踏まえ、女性が活躍できる仕組みづくりのポイントや、組織の風土改革について提言いただきます。

コーディネーター：

内海 房子 国立女性教育会館理事長

- (7) ワークショップ3・パネル展示3 15:30～17:30
全国から募集したワークショップやパネル展示を行います。

【第3日】8月27日(日)

- (8) ワークショップ4・パネル展示4 10:00～12:00
全国から募集したワークショップやパネル展示を行います。

- (9) 映画上映会 13:00～14:15
「アッラーと私とスカーフと」
カナダのトロントに住む4人のイスラム教徒の女性たちをめぐるドキュメンタリー映画。ヒジャブと呼ばれる髪を隠すスカーフを被るか被らないかという決断を通じて、彼女たちが自分の生き方を「自分で決める」姿を描きます。
上映前には監督の横間恭子氏が舞台挨拶及び作品の解説を行います。
横間 恭子 監督(カナダ在住)

7. ワークショップについて

(1) 趣旨

フォーラム期間中、会館及び一般公募による団体・個人が、男女共同参画、ダイバーシティ及び女性の活躍推進を目的とした日頃の取組や研究、教育、学習、実践活動の発表を行う場として、ワークショップ及びパネル展示を実施します。

(2) テーマ

ワークショップ及びパネル展示のテーマは「第4次男女共同参画基本計画」に示されている施策などを参考に設定した、以下の7分野です。

	テーマ：内容例
①	男性中心型労働慣行等の変革 ：ワーク・ライフ・バランスの推進、男性管理職等への意識啓発、男性の家庭・地域への参画、男性の男女共同参画に対する理解の促進等
②	女性の活躍と女性のキャリア形成支援 ：政策・方針決定過程への女性の参画の拡大、雇用等における機会の均等と待遇の確保、継続就業、再就職、女性管理職への支援、ポジティブ・アクションの推進、社会活動キャリアに対する評価、女性の能力開発への支援、女性のライフ・プランニング支援、女性起業家への支援等
③	学校教育における男女共同参画 ：大学における男女共同参画推進、科学技術・学術における男女共同参画の推進、女性研究者の参画拡大、小中学生向けプログラム、女子中高生への理系進路選択支援等
④	安全・安心と男女共同参画 ：女性に対する暴力の根絶、生活上の困難に直面する男女への支援、災害・防災への取組、高齢者・子ども・障害者・外国人等が安心して暮らせる環境の整備、人身取引等

⑤	地域づくりにおける男女共同参画 ：地域経済の活性化と女性の参画、地域や分野を横断するネットワークづくり、農山漁村女性のエンパワーメント、災害からの復興と地域づくり等
⑥	男女共同参画センターの役割 ：女性関連施設・社会教育施設の機能の充実、団体・NPO活動の支援、指定管理者制度のあり方、男女共同参画情報の発信・活用、女性関連施設における危機管理等
⑦	国際的な協調及び貢献 ：女子差別撤廃条約の遵守、国際規範の尊重、「北京行動綱領」の実現、男女共同参画の視点に立った国際貢献、国際機関・NGO等との連携、持続可能な開発のための2030アジェンダ等の情報提供等

(3) 会館提供ワークショップについて

会館から発信する学習支援や実践報告のワークショップを実施します。

①「ユースが見てきた世界とユースから見える社会」

8月26日(土) 15:30～17:30

10代から30代の若者が、今感じていることや身の回りで起きている問題について発信します。第1部では、ニューヨークの国連本部で開催されたCSW(国連女性の地位委員会)に参加し学んだ経験を国内外でどのように活かしてつなげていくか、実際に活動している先輩と共にパネルディスカッションを行います。第2部では、若い女性の生きづらさや見えにくい貧困、LGBTに対する/SOGI(性的指向と性自認)に基づく差別などユースの生きている現実について報告し、今後の取組みの可能性について会場の参加者とともに考えます。

コーディネーター：草野 由貴 JAWW会員CSW61メンター
女性と人権全国ネットワーク事務局

報告者：唐木まりも JAWW会員CSW61参加
国際基督教大学4年

飯塚 帆南 日本BPW連合会インターンとしてCSW61参加
三井不動産レジデンシャル株式会社

山下瑛梨奈 アムネスティ・インターナショナル日本
キャンペーン担当

竹下奈都子 特定非営利活動法人BONDプロジェクト広報

布施えり子 フリーター全般労働組合/キャバクラユニオン
共同代表

カワセミ のんき代表

②「男女共同参画の視点に立った企画の立て方と学習オーガナイザー養成

～キャリア開発プログラムを通して～

8月27日(日) 10:00～12:00

男女共同参画社会の実現を推進するためには、地域課題の解決に向けて男女共同参画の視点から体系化された効果的な学習プログラムの開発・企画することと同時に、それを展開していくための人材としての「学習オーガナイザー」が必要です。このワークショップでは、学習プログラムの設計図となる「プログラム

デザイン」の解説や、これまでの「学習オーガナイザー研修」事業の成果報告、フロアとの意見交換などを通じ、男女共同参画の視点に立った企画のあり方について考えます。

講師：神田 道子 国立女性教育会館事業課客員研究員

講師：松下 光恵 特定非営利活動法人男女共同参画フォーラムしずおか
代表理事

ファシリテーター：西山恵美子 国立女性教育会館事業課客員研究員

コメンテーター：亀田 温子 日本女性学習財団理事

(4) ワークショップ選定委員

募集ワークショップ（ワークショップの部、パネル展示の部）の選考と調整を行います。

- ・犬塚 協太 静岡県立大学国際関係学部教授
- ・小山内世喜子 前NPO法人全国女性会館協議会代表理事
- ・小野島恵子 公益財団法人21世紀職業財団開発事業部長

8. 情報コーナー（場所：本館1階南側レストラン前）

参加者の皆さまが、所属する団体の男女共同参画を推進に関わるパンフレットやチラシなどの資料や書籍など、自由に交換・販売するコーナーを設置します。資料の運搬、陳列、金銭の取扱いなどは、各自の責任でお願いします。

9. 送迎バス

期間中、国立女性教育会館本館前～東武東上線武蔵嵐山駅東口間で無料送迎バスをピストン運行します。

*運行間隔は、1時間に3～4本程度です。

10. その他

以下の点について、あらかじめ御了承ください。

- (1) 参加者同士の交流・情報交換の促進を目的とした場ですので、署名運動や行き過ぎた勧誘、募金等のご遠慮願います。
- (2) 申込書等で得た個人情報については、事業実施のための連絡及び参加者の統計情報として使用します。その情報は厳重に管理し、取扱いには十分留意いたします。
- (3) 期間中、当館が撮影した写真を記録や広報に使用することがあります。

平成29年度「男女共同参画推進フォーラム」参加者概況

2017/09/15 集計

1. 参加区分別人数

(人)

	一般参加者		募集WS運営者		講師・会館関係者		合計	
	計	%	計	%	計	%	計	%
女性	540	81.7	276	82.6	41	93.2	857	82.5
男性	97	14.7	53	15.9	2	4.5	152	14.6
不明・その他	24	3.6	無回答	5	1.5	無回答	30	2.9
計	661	100.0	334	100.0	44	100.0	1,039	100.0

定員 1000 名
参加者 1,039 名
充足率 103.9 %

平成28年度参加者 1,084 名

【区分内訳】

一般参加者 事前申込者(宿泊)、事前申込者(日帰り)、当日申込者(日帰り)、会館ボランティア
募集WS運営者 ワークショップの部及びパネル展示の部運営者等
講師・会館関係者 選定委員、会館プログラム講師、来賓等

【一般参加者・区分別人数】

(人)

	宿泊	日帰り	合計
女性	106	434	540
男性	18	79	97
無回答	-	24	24
計	124	537	661

2. 参加日別(延べ人数)

(人)

	一般参加者					募集WS運営者					講師・会館関係者					合計				
	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%
25日	261	57	24	342	42.5	138	17	-	155	37.9	33	1	-	34	36.2	432	75	24	531	40.6
26日	285	38	4	327	40.7	141	24	3	168	41.1	34	2	1	37	39.4	460	64	8	532	40.7
27日	108	26	1	135	16.8	74	12	-	86	21.0	23	-	-	23	24.5	205	38	1	244	18.7
計	654	121	29	804	100.0	353	53	3	409	100.0	90	3	1	94	100.0	1,097	177	33	1,307	100.0

3. 年代別

(人)

	一般参加者					募集WS運営者					講師・会館関係者					合計				
	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%
10～19歳	5	-	-	5	0.8	11	9	-	20	6.0	-	-	-	-	-	16	9	-	25	2.4
20～29歳	23	11	-	34	5.1	10	4	-	14	4.2	3	-	1	4	9.1	36	15	1	52	5.0
30～39歳	34	20	-	54	8.2	20	6	-	26	7.8	3	-	-	3	6.8	57	26	-	83	8.0
40～49歳	57	18	-	75	11.3	27	5	1	33	9.9	-	-	-	-	-	84	23	1	108	10.4
50～59歳	111	20	2	133	20.1	45	7	-	52	15.6	-	-	-	-	-	156	27	2	185	17.8
60～69歳	221	20	2	243	36.8	134	19	-	153	45.8	-	-	-	-	-	355	39	2	396	38.1
70代以上	75	6	1	82	12.4	15	-	-	15	4.5	-	-	-	-	-	90	6	1	97	9.3
無回答	14	2	19	35	5.3	14	3	4	21	6.3	35	2	-	37	84.1	63	7	23	93	9.0
計	540	97	24	661	100.0	276	53	5	334	100.0	41	2	1	44	100.0	857	152	30	1,039	100.0

4. 職業形態別

(人)

	一般参加者					募集WS運営者					講師・会館関係者					合計				
	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%
行政関係者	84	43	-	127	19.2	12	5	-	17	5.1	-	-	-	-	-	96	48	-	144	13.9
研究者・大学教員	21	5	-	26	3.9	27	7	-	34	10.2	1	-	-	1	2.3	49	12	-	61	5.9
小・中・高校教員	8	2	-	10	1.5	2	-	-	2	0.6	-	-	-	-	-	10	2	-	12	1.2
団体・グループ	290	25	20	335	50.7	135	16	-	151	45.2	-	-	-	-	-	425	41	20	486	46.8
施設関係者	17	3	-	20	3.0	5	1	-	6	1.8	-	-	-	-	-	22	4	-	26	2.5
会社員・企業関係者	23	8	-	31	4.7	22	5	-	27	8.1	-	-	-	-	-	45	13	-	58	5.6
学生	10	2	-	12	1.8	18	11	-	29	8.7	-	-	-	-	-	28	13	-	41	3.9
その他	59	6	-	65	9.8	34	8	1	43	12.9	-	-	-	-	-	93	14	1	108	10.4
無回答	28	3	4	35	5.3	21	-	4	25	7.5	40	2	1	43	97.7	89	5	9	103	9.9
計	540	97	24	661	100.0	276	53	5	334	100.0	41	2	1	44	100.0	857	152	30	1,039	100.0

5. 都道府県別

(人)

	一般参加者					募集WS運営者					講師・会館関係者					合計				
	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%	女性	男性	不明・その他	計	%
北海道	21	4	-	25	3.8	1	-	-	1	0.3	-	-	-	-	-	22	4	-	26	2.5
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2.3	1	-	-	1	0.1
岩手県	4	-	-	4	0.6	-	-	-	-	-	1	-	-	1	2.3	5	-	-	5	0.5
宮城県	2	1	-	3	0.5	1	-	-	1	0.3	-	-	-	-	-	3	1	-	4	0.4
秋田県	3	1	-	4	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	1	-	4	0.4
山形県	-	-	-	-	-	1	-	-	1	0.3	-	-	-	-	-	1	-	-	1	0.1
福島県	4	1	-	5	0.8	2	-	-	2	0.6	3	-	1	4	9.1	9	1	1	11	1.1
茨城県	36	3	-	39	5.9	1	1	-	2	0.6	-	-	-	-	-	37	4	-	41	3.9
栃木県	69	10	-	79	12.0	12	-	-	12	3.6	-	-	-	-	-	81	10	-	91	8.8
群馬県	45	3	-	48	7.3	2	1	-	3	0.9	-	-	-	-	-	47	4	-	51	4.9
埼玉県	93	15	2	110	16.6	52	17	-	69	20.7	1	-	-	1	2.3	146	32	2	180	17.3
千葉県	41	19	-	60	9.1	6	2	-	8	2.4	1	-	-	1	2.3	48	21	-	69	6.6
東京都	96	17	1	114	17.2	99	15	-	114	34.1	18	-	-	18	40.9	213	32	1	246	23.7
神奈川県	7	3	-	10	1.5	15	2	-	17	5.1	3	-	-	3	6.8	25	5	-	30	2.9
山梨県	17	2	-	19	2.9	18	5	-	23	6.9	-	-	-	-	-	35	7	-	42	4.0
新潟県	16	1	1	18	2.7	4	-	-	4	1.2	1	-	-	1	2.3	21	1	1	23	2.2
長野県	10	2	16	28	4.2	8	-	-	8	2.4	-	-	-	-	-	18	2	16	36	3.5
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	5	-	-	5	0.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	5	0.5
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	1	-	-	1	0.2	1	-	-	1	0.3	-	-	-	-	-	2	-	-	2	0.2
静岡県	4	2	-	6	0.9	5	-	-	5	1.5	1	1	-	2	4.5	10	3	-	13	1.3
愛知県	7	2	-	9	1.4	3	-	-	3	0.9	1	-	-	1	2.3	11	2	-	13	1.3
三重県	3	-	-	3	0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	3	0.3
滋賀県	4	2	-	6	0.9	7	2	-	9	2.7	2	-	-	2	4.5	13	4	-	17	1.6
京都府	1	-	-	1	0.2	1	1	-	2	0.6	-	-	-	-	-	2	1	-	3	0.3
大阪府	5	2	-	7	1.1	5	3	1	9	2.7	-	1	-	1	2.3	10	6	1	17	1.6
兵庫県	4	1	-	5	0.8	-	1	-	1	0.3	1	-	-	1	2.3	5	2	-	7	0.7
奈良県	2	-	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	0.2
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	2	-	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	0.2
島根県	1	-	-	1	0.2	2	1	-	3	0.9	-	-	-	-	-	3	1	-	4	0.4
岡山県	1	-	-	1	0.2	1	-	-	1	0.3	1	-	-	1	2.3	3	-	-	3	0.3
広島県	-	1	-	1	0.2	3	-	-	3	0.9	-	-	-	-	-	3	1	-	4	0.4
山口県	1	-	-	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	0.1
徳島県	1	1	-	2	0.3	2	-	-	2	0.6	-	-	-	-	-	3	1	-	4	0.4
香川県	1	-	-	1	0.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	0.1
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	2	-	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	0.2
福岡県	10	-	-	10	1.5	19	-	-	19	5.7	2	-	-	2	4.5	31	-	-	31	3.0
佐賀県	5	1	-	6	0.9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	1	-	6	0.6
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	5	-	-	5	0.8	1	-	-	1	0.3	-	-	-	-	-	6	-	-	6	0.6
大分県	1	1	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	2	0.2
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	2	1	-	3	0.5	4	1	-	5	1.5	-	-	-	-	-	6	2	-	8	0.8
沖縄県	5	1	-	6	0.9	-	-	-	-	-	2	-	-	2	4.5	7	1	-	8	0.8
国外	2	-	-	2	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	0.2
不明・無回答	1	-	4	5	0.8	-	1	4	5	1.5	2	-	-	2	4.5	3	1	8	12	1.2
	540	97	24	661	100.0	276	53	5	334	100.0	41	2	1	44	100.0	857	152	30	1,039	100.0

平成29年度「男女共同参画推進フォーラム」

参加者アンケート集計結果

参加者数661名(講師・関係者を除く一般参加者) アンケート回答数:539件 アンケート回収率:81.5%

● フォーラムに参加された感想

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
とても満足した	183	40.8	22	39.3	10	28.6	215	39.9	44.5
満足した	193	43.1	26	46.4	18	51.4	237	44.0	49.1
少し物足りなかった	21	4.7	6	10.7	2	5.7	29	5.4	6.0
物足りなかった	2	0.4	-	-	-	-	2	0.4	0.4
無回答	49	10.9	2	3.6	5	14.3	56	10.4	
合計	448	100.0	56	100.0	35	100.0	539	100.0	100.0

※主な感想・ご意見

- ・ 地方で男女共同参画を推進する事を担っている者にとって又エックに何うといつも勇気づけられ、明日への活力を頂いて帰っています。
- ・ 学校の夏休み中の課題の自由研究で「女性の自立」をテーマにしています。参考文献を読むことも大事なのですが、それ以上に実際に女性として働いている方や、取組をされている方のお話を聞く事ができ、とても満足しました。
- ・ 初めての参加で、地方の方々のパワーをいっぱい頂きました。2回、3回参加することで、知り合いもたくさん増え、もっと楽しくなるでしょうね！！来年も楽しみにしています
- ・ 各ワーク参加は多様で、領域も広がったのですが、若者をひな壇にあげた「ユース」は良かったと思います。参加者が年々高齢化し、いかに若者ヘリサーチし、巻き込むかも大切だと感じました。

● 参加したプログラム

(%は回答者に対する割合：※%は「無回答」を除いた割合)

	女性 (448人中)	% (448人中)	男性 (56人中)	% (56人中)	不明 (35人中)	% (35人中)	合計 (539人中)	% (539人中)	※% (532人中)
25日	開会	244	54.5	33	58.9	15	292	54.2	54.9
	特別講演	293	65.4	37	66.1	17	347	64.4	65.2
	ワークショップ1	248	55.4	33	58.9	20	301	55.8	56.6
	懇親会	133	29.7	15	26.8	5	153	28.4	28.8
26日	ワークショップ2	237	52.9	26	46.4	16	279	51.8	52.4
	シンポジウム	218	48.7	21	37.5	9	248	46.0	46.6
	ワークショップ3	139	31.0	16	28.6	6	161	29.9	30.3
27日	ワークショップ4	94	21.0	17	30.4	6	117	21.7	22.0
	映画	55	12.3	7	12.5	3	65	12.1	12.2
期間中	パネル展示	123	27.5	15	26.8	10	148	27.5	27.8
	情報センター	63	14.1	10	17.9	4	77	14.3	14.5
	アーカイブセンター企画展示	72	16.1	11	19.6	3	86	16.0	16.2
無回答	4	0.9	-	-	3	7	1.3		

● この講演を知ったきっかけ(複数回答)

(%は回答者に対する割合：※%は「無回答」を除いた割合)

	女性 (448人中)	% (448人中)	男性 (56人中)	% (56人中)	不明 (35人中)	% (35人中)	合計 (539人中)	% (539人中)	※% (509人中)
チラシ・ポスターを見て	68	15.2	12	21.4	7	20.0	87	16.1	17.1
知人からの紹介	128	28.6	10	17.9	7	20.0	145	26.9	28.5
インターネットで検索して	23	5.1	5	8.9	1	2.9	29	5.4	5.7
新聞、ミニコミ誌、各種広報誌など	15	3.3	3	5.4	1	2.9	19	3.5	3.7
NWECのホームページ・フェイスブックを見て	90	20.1	12	21.4	4	11.4	106	19.7	20.8
NWECのメルマガから	53	11.8	4	7.1	4	11.4	61	11.3	12.0
鉄道の駅でのポスターを見て	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他*	160	35.7	23	41.1	11	31.4	194	36.0	38.1
無回答	23	5.1	2	3.6	5	14.3	30	5.6	

※「その他」詳細

市から	13 件	甲府市から	5 件
行政から	11 件	推進委員で	5 件
仕事で	11 件	ワークショップ	4 件
所属団体から	10 件	NWECから	3 件
毎年参加	10 件	行政研修	3 件
		その他	72 件

● あなたご自身について

①性別、②年齢

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
10代	3	0.7	1	1.8	-	-	4	0.7	0.8
20代	13	2.9	5	8.9	-	-	18	3.3	3.4
30代	21	4.7	9	16.1	-	-	30	5.6	5.7
40代	56	12.5	9	16.1	2	5.7	67	12.4	12.7
50代	107	23.9	13	23.2	3	8.6	123	22.8	23.3
60代	141	31.5	10	17.9	11	31.4	162	30.1	30.7
70代以上	101	22.5	9	16.1	13	37.1	123	22.8	23.3
無回答	6	1.3	-	-	6	17.1	12	2.2	
合計	448	100.0	56	100.0	35	100.0	539	100.0	100.0

③所属

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性 (448人中)	% (448人中)	男性 (56人中)	% (56人中)	不明 (35人中)	% (35人中)	合計 (539人中)	% (539人中)	※% (490人中)
a.行政関係者	68	15.2	19	33.9	2	5.7	89	16.5	18.2
b.研究者・大学教員	20	4.5	3	5.4	3	8.6	26	4.8	5.3
c.小・中・高校教員	2	0.4	1	1.8	1	2.9	4	0.7	0.8
d.団体・グループ	212	47.3	16	28.6	13	37.1	241	44.7	49.2
e.施設関係者(女性/男女共同参画センター・社会教育施設等)	44	9.8	5	8.9	1	2.9	50	9.3	10.2
f.企業関係者	11	2.5	2	3.6	-	-	13	2.4	2.7
g.学生	5	1.1	1	1.8	-	-	6	1.1	1.2
h.その他※	49	10.9	7	12.5	5	14.3	61	11.3	12.4
無回答	37	8.3	2	3.6	10	28.6	49	9.1	

※「その他」詳細

一般	10 件
大学職員	3 件
その他	19 件

④フォーラムへの参加回数

(※%は「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%	※%
初めて	175	39.1	32	57.1	7	20.0	214	39.7	47.7
2 回目	65	14.5	11	19.6	4	11.4	80	14.8	17.8
3 回目	34	7.6	1	1.8	3	8.6	38	7.1	8.5
4 回目	24	5.4	3	5.4	1	2.9	28	5.2	6.2
5 回目	27	6.0	1	1.8	1	2.9	29	5.4	6.5
6 回目	11	2.5	-	-	1	2.9	12	2.2	2.7
7 回目	6	1.3	-	-	-	-	6	1.1	1.3
8 回目	5	1.1	-	-	1	2.9	6	1.1	1.3
9 回目	1	0.2	-	-	-	-	1	0.2	0.2
10 回以上	27	6.0	4	7.1	4	11.4	35	6.5	7.8
無回答	73	16.3	4	7.1	13	37.1	90	16.7	
合計	448	100.0	56	100.0	35	100.0	539	100.0	100.0

● フォーラムへのご意見、今後フォーラムで取り上げてほしいテーマなど

・次世代リーダー育成講座 ・介護 ・起業 ・LGBT ・教職員に向けた男女共同参画 ・人生100年時代ライフシフト

・女性と貧困、性産業、性暴力 ・少子高齢化社会 ・女性の政治参画 ・女性とスポーツ ・男性と男女共同参画等

・ユースのワークショップの第二弾

● 特別講演に参加された感想

(「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
とても満足した	180	66.4	25	67.6	13	68.4	218	66.7
満足した	76	28.0	8	21.6	6	31.6	90	27.5
少し物足りなかった	13	4.8	3	8.1	-	-	16	4.9
物足りなかった	2	0.7	1	2.7	-	-	3	0.9
合計	271	100.0	37	100.0	19	100.0	327	100.0

※主なご感想・ご意見

- ・様々な経験を積まれた山口さんのお話はとても興味深く沢山の経験談を聞いてよかった。男子は女子を、女子は男子を互いに価値観の違いを認めつつ、支え合っていける社会になる様に私達10代世代も考えて作っていきたい。
- ・山口先生のパワーと力強い言葉、そして日常感じたこと、思った事を仕方ないのかなと思うところを答えを導き出すヒントをもらえました。そして試合ではやっぱり相手が怖いと思っていたと話されたことは驚きでした。何にでも恐れず立ち向かう姿の強い選手の方だと思っていたので、しかし、今の各会議等でもその気持ちを乗り越えて、臆することなく発言される姿に感銘を受けた次第です。出来る事から1つずつ、一人一人の力の発信、たくさんの学びがありました。
- ・歯切れよくテンポよく、あつという間の1時間でした。男女共同という言葉に偏見を持っていましたが、今日の話をお聞きして考えが変わりました。元気ももらえました。本当に良かった。

● 40周年記念シンポジウムに参加された感想

(「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
とても満足した	77	35.6	6	27.3	5	38.5	88	35.1
満足した	110	50.9	14	63.6	7	53.8	131	52.2
少し物足りなかった	25	11.6	2	9.1	1	7.7	28	11.2
物足りなかった	4	1.9	-	-	-	-	4	1.6
合計	216	100.0	22	100.0	13	100.0	251	100.0

※主なご感想・ご意見

- ・男性から見た男女共同参画、企業で働き続ける女性から見た男女共同参画に向けたメッセージといった貴重なお話を聞いた。
- ・開館40周年おめでとうございます。写真に映し出された40年前に視察されていた女性たちに感謝したいです。田中さんと多賀先生のお話もとても勉強になりました。多賀先生みたいな男性が増えたら良いな・・・。
- ・男性目線から見た男女共同参画について語られていたのはとても良かった。教育の中で性別関係なく将来自立できる男女(家事、教育、介護)を育てていく事が大切なんだという事、企業側のサポートの必要性を感じました。
- ・女性の立場、男性の立場両方を比べることの出来るトークでした。大変わかりやすく話される講師お二人に感謝しています。やはりここまでできて良かった。学ぶ事がたくさんあり、持ち帰る情報の多さに喜んでます。

● 映画上映に参加された感想

(「無回答」を除いた割合)

	女性	%	男性	%	不明	%	合計	%
とても満足した	18	41.9	5	41.7	1	50.0	24	42.1
満足した	25	58.1	6	50.0	1	50.0	32	56.1
少し物足りなかった	-	-	1	8.3	-	-	1	1.8
物足りなかった	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	43	100.0	12	100.0	2	100.0	57	100.0

※主なご感想・ご意見

- ・監督さんの人間性を含めた映画に対する思い、メッセージを素直に受け止めることが出来、興味深い内容でした。
- ・ヒジャブ着用には象徴されるように、多文化社会であるカナダでイスラム教徒としてのidentityを守ることがかなり大変なことが感じられた。映画はとてもよかった。ここまで4人の女性の言葉を引き出したのは素晴らしいと思う。
- ・横間監督の解説と上映後の質疑応答が良かった。

平成29年度「男女共同参画推進フォーラム」 募集ワークショップ運営者アンケート集計

ワークショップ実施 59 団体 (ワークショップ:48団体、パネル展示11団体)
アンケート提出 59 団体
回答率 100.0 %

1. 参加人数

人数	回答数	割合
1～20名	19	32.2%
21～40名	14	23.7%
41～60名	13	22.0%
61～80名	4	6.8%
81～100名	4	6.8%
101名以上	1	1.7%
無回答	4	6.8%
合計	59	100.0%

2. ワークショップを実施してみてもいかがでしたか。

選択項目	回答数	割合
とてもよかった	46	78.0%
よかった	11	18.6%
少し物足りなかった	1	1.7%
物足りなかった	-	-
無回答	1	1.7%
合計	59	100.0%

3. 準備・運営にあたっての意見・感想など

W1	記述なし。
W2	鍵が開いていなかったこと。ホワイトボードを確認しましたが、奥から出すのが大変だったのと、消すクリーナーが見当たらなかった。クーラーなど設備の説明がほしかった。でも会場はとてもいい場所でした。
W3	何度かやっており、慣れてきたので楽でした。
W4	準備の時間が十分に取れて良かったです。30分前には来場が始まるので、1時間前の入室可ではキツイです。
W5	特にありません。いつもお世話になりまして、ありがとうございます。
W6	・機器のご用意を頂け、嬉しかったです。私自身の反省ですが、提案報告者とレジェメの題が少しずれていた事。事前の連絡不足を大いに反省しています。 ・参加は少なかったが、良い場、機会となりました。ありがとうございました。
W7	記述なし。
W8	参加してくれた方から、会場が広いため、部屋が分かりにくかったとの意見がありました。
W9	昨年参加者が少なかつたにもかかわらず、定員48人の部屋を割りあてていただきありがとうございます。懇親会でワークショップのチラシを配布して集客にがんばりました。
W10	参加して良かったです。
W11	特になし。
W12	ピラ配りが難しかった。
W13	部屋の準備が早めにできたのが良かった(前の出場グループがなかったため)。廊下に向けての広告ができた方がよい。
W14	角の部屋だったのですが、お陰さまで55名の参加がありました。三年目になりますが、スタッフの動き、指示も適確でこの場に参加できたことを有りがたく思っています。
W15	マルチメディア室は非常に使いにくかったです。パソコンがあることから参加を躊躇される方もいるようです。
W16	W16は3大学で共同実施しましたが、距離の離れた大学同士だったので、書類が少し大変でした。

W17	・準備がよくスムーズにできた。 ・定員以上入ったので、簡易なイスがほしかった。
W18	気持ちよくワークショップをひらくことができました。使用道具などもありがとうございました。
W19	事前準備について、又エック職員の方にていねいに対応いただき、感謝いたします。
W20	こちらの準備不足でアンケート足りなかった。
W21	おかげさまでスムーズにすすめることができました。ありがとうございました。
W22	パワーポイントを使用しましたが、PCも貸出していただければと思います。どれだけの方が参加していただけるか、不安を持ちながらの準備でした。
W23	荷物を運ぶキャスターか何か貸してほしかった。
W24	スムーズに行えました。
W25	ありがとうございました。
W26	準備不足のため十分に伝えきれなかった。(配布資料なし)
W27	記述なし。
W28	学生の方で資料だけほしいという方が、ことし目立ちました。ゼミ等で報告のノルマがあるのでしょうか。勉強になっているのかな?と、少し気になりました。
W29	ワークショップ中、ユーストリームの受信のコーナーがあり、その機械操作にNVECの方々に多大なご助力をいただき、感謝しています。
W30	記述なし。
W31	記述なし。
W32	至れり尽くせり、お忙しい中で十二分のご対応を頂いて、いつも本当にありがとうございます。WS主催者も参加者も心地よく参加できるのも、皆様のおかげと心から感謝しています。プロジェクターの「HDMIのコネクタ」を持参したものの、うまく接続できず、お忙しい中で来て頂いてサポート下さり、助かりました。本当にありがとうございました。
W33	研修棟の1階受付にパソコン・プリンターを備えてほしい(1F受付に)。
W34	部屋が狭かったので、丸イスを借りた。プロジェクターありがとうございました。
W35	準備時間が1時間になって良かったです。
W36	ワークショップの設営時間が短くて、開始に間に合いませんでした。設備の使い方がむずかしかった、動画音声で使用できなかった…(対応していただけた)。
W37	心からお礼を申し上げます。(特に桜田課長にお世話になりました。)
W38	記述なし。
W39	特になし。
W40	記述なし。
W41	研修室機の位置に印があつたら並べるのに時間がかからないと思いました。準備を事前に依頼した機材等、キッチンと揃えていただきスムーズに準備に取りかかり、運営が出来ました。ありがとうございました。
W42	開催中の担当者の私語がうるさい場合が多くせつかく参加した人たちに迷惑、不快な思いをさせていることが多いので気をつけたい。
W43	特にありません。
W44	事前に会場図を配布していただけたら、準備に役立つと思いました。
W45	記述なし。
W46	今回WSIにDVD上映もありました。又エックの貸機材を借用使用に際し、事前に会場(3F305)でリハーサルをしました。この時、事業課の佐伯さん、研修棟事務井上さんにていねいにご指導いただきありがとうございました。当日は参加者の皆さんに喜んでいただきました。本当にありがとうございました。
W47	グループワークの際のテーブル数を計算まちがいでいたのがグループ数が予定通りつくれず、しっかりと計画すべきと反省しました。ただ大勢の方に来ていただいて、良いsessionになりました。
W48	準備にもなれてきてスムーズにできた。機材等の用意も整っていてやりやすかった。参加者が始終生き生きとしていたことが嬉しかった。翌日も声をかけてくださる方が多かった。主催者としてはもう一歩かなと思っています。ありがとうございました。

P1	人が集まりやすい場所でもよかったと思います。
P2	大学関係者以外と意見を交わす、貴重な機会です。ワークショップの部屋とも近く、動線に配慮していただいたと感じました。ありがとうございました。
P3	フックの数が足りず借りてきました。快く貸して下さったので助かりました。
P4	たくさんの方に見ていただけて、良い機会になりました。ありがとうございました。
P5	反省点としては展示の文字が小さく、見づらかったか、多くを盛り込みすぎ、他の方のを見せていただき、いろいろ参考になりました。
P6	準備のための時間が会員の自覚の目覚め、第2ステージのスタートになったように思います。参加させて頂き誠にありがとうございました。
P7	展示だけでは周知するのは難しいので声かけの工夫が必要。うちは展示の場所が良かったです。
P8	展示について説明するような人員も必要。震災について関心が薄れつつあるかな。来年はもう少し丁寧に。
P9	「わかりやすくて良かった」と言ってもらえて嬉しかった。
P10	参加者が全体に少なくなる傾向が続いていて残念です。2000年代当初の熱気が懐かしいです。バックラッシュ前には旅費補助があり、自主企画ワークショップ運営者同士が、WSに参加しあって交流。地域に最新情報を持ち帰り、とてもよい循環でしたのを、取り戻したいです。緑の冊子にパネル展示部門10団体の呼びかけコメント一覧が欠落しています。残念。以前のように資料として活用できる様に、世界・日本の流れや用語説明があると充実すると思います。
P11	記述なし。

★今年初めてNWECのワークショップ・パネル展示に参加した運営団体の方へ

4-①. 何でこの募集を知りましたか。

項目	回答数
会館からの案内	10
知人からの紹介	5
HP、Webサイト(Facebookなど)	4
職場・行政・地域	4
参加経験有	3
その他	2
合計	28

※複数回答あり、過去参加経験のある団体からの回答あり

※その他(・毎年こちらからTELLして知る・これまでの会館の行事を周知していたから)

4-②. ワークショップに応募した動機・きっかけなどをお書きください

W1	研修成果を広く知って頂きたいので。
W3	多くの出会いを求めて。
W5	男女共同参画実現を目指して日々活動していますので、参加させて頂きたいと思ひまして。
W6	京都橘大の卒業生が、関東に就職・活躍している中、7年間の教師・保育士の集まりで、1期生卒業の先輩からキャリアの積み方、それぞれの職でどのように目標を持っていけば良いのかを伝え合える場が欲しかったことがきっかけ。
W8	全国からいろいろな人が集まるので。
W9	ワークショップに参加された方が地元に戻られてワークショップで学んだことを生かして存分に力を発揮できるようにいただければ幸いです。
W10	デートDVを多くの人に知ってほしかったから。
W11	「男女」とあるが、男性たちの参画は少なく、また、地域課題として、高齢男性のひきこもりがある。その解決のひとつ、きっかけになればと思って。
W12	初回から参加。
W13	我々の活動を皆さんに知っていただきたいので。

W14	今回で3回目となり、私たちの団体も少しずつ年輪ができてきました。全国の方よりの声を大切に、又来年(めざして)も精進していきたいと思えます(アンケート調査結果をまとめ、会員へ報告します)。
W15	毎年参加して下さる方もいるし発表したいこともあったため。
W18	北婦所50周年にあたり会員の活動他アンケートをとったのでその活動報告から課題解決、今後への展開へとつなぐため。全国の方からの意見を広く参考にし、また参加者と共有する為。
W20	育自の魔法を知ってもらえたら嬉しいと思って応募した。
W21	働きかたについて皆に考えていただくため、良い機会だと思ったため。
W22	草の根ネットは毎年ワークショップで参加させていただいてきました。今年は、昨年会が調査した、公共施設のユニバーサルデザインの状況を多くの人に知っていただきたいと思い申し込みました。
W23	全国の学校や男女共同センターでのモデルケースにしたかったのです。
W25	公立の別学校とりわけ男子校を残す3県の問題を公論の場で展開したかった。
W29	私共JAWWIにとりまして、このフォーラムでのワークショップは毎年の重要なイベントですので、今年も応募しました。
W34	子どもを通しての啓発活動は、今までになかったのでみなさんの意見を聞きたかった。
W35	日頃の活動の成果や問題意識を多くの人と共有したい。
W36	活動を知ってもらい、ネットワークを広げたかった。
W37	守山市を男女共同参画先進地域にしたいと思っています。(夢ですが)
W39	広く情報交換をし、活動に活かしたいと思ったから。
W41	私達の学びを他に広げる機会にしたかった。自分達自身の活動を振り返り次につなげる為。
W43	県内推進活動状況調査を全国の方々と共有し、男女共同参画の推進を更に進めたいと考えました。
W45	ガールスカウトでとりくんでいることを多くの人に知ってもらいたい&研さんの場として。
W46	又エックの企画事業に(H21、H22)参加修了した自主グループで発足をしました。『ピーターラビットのおはなし』全24巻他の女性絵本作家ビアトリクス・ポター。
W47	是非全国で浜松の成果を発表したく、応募しました。
P1	ネットワークづくり、取組紹介。
P3	ワークショップと同じです。
P6	3市連携事業で3ヶ年期限付きの為、ここで発表しておかないと、公表の機会がないと思った。これをきっかけに、今までNVECに来たことのない若いメンバーや市の担当者が来てくれたのでよかったです。
P7	松江市の男女共同参画に参画して、もっと学んでみたいと思った。
P9	全国の皆さんに見ていただきたいかった。
P11	本学の活動の発信と意見交換。

平成29年度「男女共同参画推進フォーラム」募集ワークショップ・運営者
フォローアップ調査集計結果

平成30年3月1日(木)現在

参加ワークショップ数: 59
アンケート回答数: 56
アンケート回収率: 94.9 %

1 フォーラムで実施したことは、その後の業務・活動に役立っていますか。

(※%は「不参加」「無回答」を除いた割合)

	件数	%	※%	※%
1.非常に役立っている	24	42.9	42.9	94.6
2.役立っている	29	51.7	51.7	
3.あまり役立っていない	3	5.4	5.4	5.4
4.役立っていない	-	-	-	
無回答	-	-	/	/
合計	56	100.0	100.0	100.0

2 「非常に役立っている」、「役立っている」と書いた方はどのように役立ちましたか。
(複数回答可)

	件数 (55件中)	%
ホームページや広報資料への実施報告の執筆・講評	23	41.1
つながりのできた組織・団体や個人との連絡・情報交換	34	60.7
勉強会・研修会の開催	17	30.4
講師や報告者として他機関・団体の事業へ協力	23	41.1
その他	18	32.1

その他(具体的に)

P03	ディーセント・ワークをテーマとしたパネル展示への関心度の高さから、現在、さらにテーマを深めてのパネル制作について取り組んでいます。
P04	他県の方へもパネルの貸し出しについて説明をする機会を得た。次年度の貸し出し検討候補に挙げていただけた。
P05	パネル展示に参加したことで、一緒に活動している若い世代に又エックやフォーラムを知っていただけたこと、行政関係者もフォーラムに参加してくれたことはよかったことです。課題としては、これを次にどうつなげてゆくかです。3市の一つ、清瀬市の女性センターは、今年度もミニ起業フェスタを実施しました。次年度も継続できるよう、模索しています。
P08	ワークショップ参加者が、自分の地元でも災害の講座とともに展示したいとの連絡があり、写真パネルと「声」印刷版の貸出につながった(新潟県長岡市のNPO)、展示と撮影者のトークイベントが予定されていた清瀬市男女共同参画センターのスタッフも参加し、清瀬市での事業がスムーズに開催できたことにつながった。さらに、その後、盛岡でのNPO主催事業の展示にもつながるなど、フォトボイスの写真と「声」の記録が東日本大震災の課題提起や風化防止に広がっている。
P09	参加したワークショップの方に講師を依頼し、講座を持つことができた。
P10	「政治分野における男女共同参画推進法」の制定に向けての動き
WS02	ワークショップ後の発展はありませんでしたが、今回は2回目の開催として、開催を待っていてくださった方がいらっしやっただけで、嬉しかったです。

WS03	問題意識を持った多数の方の意見が頂けて参考になります。また、ワークショップの名称の付け方などによっても参加人数に差が出るように感じました。名称はとても大事だと感じました。
WS04	9年連続で実施させていただいているが、他機関・団体から講師の依頼が続いているので、実施の効果はあると思う。ただし、今年度の実施によつての依頼があったかどうかは明確でない。
WS05	スエックの研修室で開催しています。源りう会男女共同参画学習会「はじめての源氏物語」第2木曜と土曜日に参加者希望。
WS08	当事者が、それもワーキングマザーたちの暮らし、生活の事態を共有できるので、とてもやりがいがある。現在当事者たちが、スエックのワークショップに参加したことで、日々の生活を意識的に、客観的に眺めることができるようになった。
WS09	NWECの男女共同参画フォーラムでワークショップを開催することは、開催者の(この世界における)社会的信用を高めることにつながり、各地から講師としてお呼びいただける可能性が高くなると考えています。
WS12	大阪堺市(人口80万都市)では、一昨年、与謝野晶子及び鉄幹を研鑽するための「利晶の杜」を市が建設した。発表後に堺市を訪れたい旨の参加者も出て、地方再生の一助にもなった。部屋に入りきれない数の参加者となった。
WS14	ワークショップ後、女性県議とともに今後の活動を考えています。
WS16	文科省の方の関心をひき、違うグラント獲得に役に立った。
WS18	<ul style="list-style-type: none"> ・定例学習会(9月)でワークショップについて報告し、学びを深めた。 ・会の広報紙に、ワークショップの記事を掲載し、全会員に配布した。 ・北九州市の広報紙に掲載。北九州市立生涯学習センター「まいなび21」、北九州社会教育・生涯学習研究会「北九社教研だより」 ・北九州市八幡東区会員向けに「アンケート報告」の学習会を実施予定。
WS19	当該ワークショップの参加者、登壇者、教材展示協力団体等が文部科学省が主催する消費者教育フェスタへの参加、教材展示協力団体等とのネットワーク構築などに役立っています。
WS21	ワークショップ開催後、参加して下さった方々から講座等の開催申込があり、練馬区・西宮市・釧路市等で実施(予定も含む)中です。
WS23	学生ピア・アクティビストによる講演の効果が得られた。また、ジェンダーの問題に敏感なNWEC参加者を対象に、デモンストレーションしたことにより、言葉や画像の表現についても建設的な意見を聴くことができ、学びが多かった。世代によって、ワークショップの受け止め方の違いなどがよくわかり、今後の発信の手法なども検証ができた。
WS24	CEDAW委員の林陽子さんによる女性差別撤廃条約の選択議定書批准に向けた講演会を開催したが、①その内容をNWECのWSに参加できない方々にも是非読んでもらいたい、②選択議定書の批准に向けた運動につなげたいと考え、JNNCとしてブックレットの発行を準備中である。3月8日の発行を目指している。
WS26	ワークショップ参加者が、自分の地元でも災害の講座とともに展示したいとの連絡があり、写真パネルと「声」印刷版の貸出につながった(新潟県長岡市のNPO)、展示と撮影者のトークイベントが予定されていた清瀬市男女共同参画センターのスタッフも参加し、清瀬市での事業がスムーズに開催できたことにつながった。さらに、その後、盛岡でのNPO主催事業の展示にもつながるなど、フォトボイスの写真と「声」の記録が東日本大震災の課題提起や風化防止に広がっている。
WS29	ICTの活用を実際を講師たちのプレゼンテーションにより目の当たりにし、参加者も主催者も、ICTをこれからの活動に有用に活かせることを実感した。以下はコメントシートより。「若者を巻き込むにはICT活用が欠かせないことが分かった」「体力が低下してもこのスキルで社会とつながり続けることが可能と分かった」「衆人環視のもとに意見が言えるツールであることを知った」「帰宅したらスマホに変える！」
WS31	当団体が発行した報告書について知ってもらうことができた。
WS32	毎年、ワークショップ参加者(都内、近郊、地方自治体の男女共同参画やダイバーシティ推進関係者、大学職員、個人事業主ら)から、「ワークショップには有益な情報が多い、即効性がある」と感謝されて、事後に参加者全員に追加で情報提供を行っています。情報交換会になることもあります。準備は大変ですが、NWECの影響力を毎年実感し、達成感もあり、ワークショップの場を提供いただいで感謝しています。
WS34	発表後、他県からの問い合わせがあったり、訪問があった。市民への報告もして、効果的だった。
WS35	「地域における男女共同参画の推進」というテーマは、予期以上に各地域の参加者に関心を持たれ、多くの参加者が集った。ここで不十分だった点や、首都圏においても講師(小山内さん)の話しを聞く機会を設け、かつ深めるということにつながり、フォローアップとして、地元(文京区)において 11月に「女性活躍と男女共同参画」の関係について、学習会を開催した。

WS36	今回実施した避難行動訓練ゲームEVAGを開発した国土防災技術株式会社の開発者が見学に来られゲーム誕生のきっかけや想いを話して下さり、『初めて、会社外の方がワークショップを実施している姿を見ることができた』と今後の展開に向けてゲーム実施一般トレーナー養成講座を開催する意義を感じられたそうです。その後も開発者や他社員の方々と交流を続けております。ワークショップ参加者からもお礼のメールや、広島訪問時に被災地見学や地元支援者や復興状況などの視察をされ、災害を経験した広島からの今回のワークショップについて大変意味のあるものとなりました。
WS37	滋賀県男女共同参画センター、守山市の宮本市長にヌエックのワークショップについて報告しました。その結果、守山市長から男女共同参画のイベントで「ヌエックの報告」をするよう提案して頂きました。守山市4つの学区(数十自治会を含む)の「男女共同参画社会づくり地域研修会」において「ヌエック報告」を行うことができました。
WS38	リーダーシップの認識が高まった。
WS41	○ホームページや広報資料への実施報告の執筆・講評 ○つながりのできた組織・団体や個人との連絡・情報交換 ○講師や報告者として他機関・団体の事業へ協力
WS42	貴フォーラムへの参加を、年間を通じての当会の活動計画の中に位置づけている。 具体的には、超党派議連の「政治における男女共同参画推進法案」の成立促進にむけて、当会賛同団体をはじめ全国各地の女性たちとの協働の場とさせていただいている。
WS43	「県内男女共同参画推進状況」冊子を活用し、「パルシステムやまなし」の助成金を受けた、県内自治体推進委員会・一般市民との交流会実施した。、ヌエックでのワークショップでの運営が役に立った。
WS44	CSW参加インターンに企画運営を任せているので、貴重な経験となっている。
WS46	会の目的である「ピアトリクス・ポターの生き方を学ぶ」夢をかたちに自己実現したポターは女性として絵本作家という職業で自立し、社会活動キャリアを積み、環境保護活動を展開し、社会貢献した。また、絵本を通して学び、地域活動として、県のWith Youさいたまフェスティバルにも参加して、参加者と情報共有している。
WS47	2017年11月に開催された「NAOTORASUMMIT」の分科会で「NPO法人浜松男女共同参画推進協会」による、「自分ごとは社会ごと～私と社会とのつながり～」というテーマで、弊団体の鈴木治代が団体活動を通じた発見や気づきなどについて発表しました。 https://naotorajosei-summit.jp/program/

3 来年度も参加を予定していますか。

	件数	%
1.参加を検討している	38	67.9
2.参加しない	3	5.4
3.未定	13	23.2
無回答	2	3.6
合計	56	100.0

4 その他会館で実施する事業やお気づきの点等御自由に御記入ください。

P01	立地条件等から、宿泊型研修が中心になることは理解できますし、その意義も大きいと思いますが、日帰り型の研修事業があってもよいかと思えます。また、女子大学生追跡ヒアリング調査はNWECでなければならない事業だと思えますので、ぜひ継続していただければと思います。
P08	2年続けて展示してみて、展示フロアの奥に大会費室があるが、そこに向かう人たちが展示を見る人が多い。その人たちの一定の人の動き(動線)があり、2階に上がる通路の左手奥の展示パネル前で足を止める人が多い。来年度は、ぜひ、そこにしていただけたらと、勝手ですが、希望する次第です。
P09	・遠くから、バスを仕立ててお見えになる地域もあるのは、素晴らしいと思います。ただ、大講堂のシンポが終わるとどっとお帰りになるのは残念です。ワークショップも参加していただきたいものですが、お帰りの時間があるようですね。
P10	以前のように、自主企画WS運営参加者に旅費補助を出すようにする。北海道や九州、中・四国地方など遠隔地の女性団体の参加を促すことになり、運営参加者＝他団体のWSへの参加者となり、フォーラム参加者が増える。また、全国的な交流が活発化し、フォーラム目標をより達成する好循環になる、と思えます。
WS03	講座のチラシを置かせていただけるスペースがありがたいです。時々立ち寄って、チラシが減っていくのを確認できます。手に取っていただけるチラシのデザインを考えるのも楽しいです。次回も視聴覚室の使用を考えていますが、視聴覚室の場合、パソコン操作をさせられると思う人がいるので、そのようなことがないことを事前に表示しておく必要があることを知りました。

WS04	男女共同参画推進事業の講師依頼者となりうる全国の都道府県・市区町村、推進団体に向けて、今以上に積極的にフォーラムへの参加を呼びかけていただきたい。
WS05	特にありません。日頃から会館のみなさまには大変お世話になっておりまして、感謝申し上げます。どうぞ今後ともよろしく願っています。
WS09	2016年は、選定委員会の進言に従って、ワークショップのタイトルから「男女共同参画」云々のサブタイトルを削除したところ、定員36人に対して26人しか集まらなかったにもかかわらず、今回、定員50人の会場を割り振っていただいて、とても感謝しています。今回は、例年通り、「男女共同参画」の字句を入れたサブタイトルをつけ、交流会ではワークショップのチラシを例年以上に積極的に配布して宣伝に励んだ結果、会場をほぼ満杯にすることができ、たくさんの方に受講いただくことができました。ありがとうございました。
WS12	事前の宣伝がいつも限られた人たちだと思う。インターネットなどでも宣伝してもらっているのでしょうか。新聞各紙にも宣伝していただきたいです。
WS13	全国からの参加者のある貴フォーラムは、私どもの活動を皆さんに知っていただく最高のチャンスです。特に、私たちは、日本の皆さんのご支援をいただいて、現地ネパールで女性教員の養成に取り組んでおりますので、日本の皆さんへの広報の機会をありがたく思っています。
WS15	年々、規模が小さくなってきているように感じています。ワークショップを開催しても参加者が少なくなると、交通費をかけて関東まで出向く意味がなくなります。ワークショップへの参加者を増やすより一層の努力をお願いしたいです。
WS18	ワークショップに参加したことで、本会のあり方を振り返ることができた。学びを継続することで、さらに地域に役立つ人材育成を継続していきたい。また、ワークショップでの全国からの意見を大切に、本会の活動につないでいくと共に、ご意見をいただいた活動の「見える化」についても再考したい。
WS19	来年度も当該ワークショップにおいて、消費者教育ワークショップを開催(8/30)したいと考えていますのでよろしくお願いいたします。
WS21	世代を超えてネットワークを構築できました。「来年度も、また、参加したい！」とアラフォー世代からのメッセージです。
WS24	2017年の1日目の交流会ですが、飲み物は多かったが、食事内容や量に難点があった。女性が多いのであれほどのアルコール類は不要と思われる。食堂の運営者が変わったのか朝食も値段からいってもバイキングにしては不十分に思えた。
WS26	2年続けて展示してみて、展示フロアの奥に大会費室があるが、そこに向かう人たちが展示を見る人が多い。その人たちの一定の人の動き(動線)があり、2階に上がる通路の左手奥の展示パネル前で足を止める人が多い。来年度は、ぜひ、そこにしていただけたらと、勝手ですが、希望する次第です。
WS30	ジェンダー平等の社会を実現していく上で、(1)女性の活躍促進と(2)男性のケア参画は、車の両輪であると考えられます。しかしながら、会館等で実施されている事業としては、(1)が圧倒的多数を占める現状にあり、(2)の強化が大きな課題であるように感じられます。また、男性のケア参画を進めていくためには、単なる啓発に留まらず、女性のサポート役としてケアに参加するための事業でもなく、男性が主たるケアの担い手としてケアに参画するための事業内容の実施となるよう、お取り組み願えましたら幸いです。期待しております。
WS32	千人規模で来場者が溢れるフォーラムにおいても、NWEC職員の皆さまの「おもてなしの心」を感じられる3日間で、心から感謝いたします。落ち込み気味の友人をお招きしたところ、3日間ですっかり元気を取り戻し、NWECのポテンシャルを実感しました。ありがとうございました。
WS34	若い人や、定年退職後の人対象のリーダー養成講座を増やしてほしい。
WS35	準備の時間が1昨年より増えたことは大いに助かりました。
WS37	「学習協議会」はいつ開催されるのでしょうか。大変楽しみにしております。
WS40	上映された映画(ヒジャブの話)と監督の話がとても面白かった
WS42	長年にわたり、貴フォーラムが全国各地の女性たちの交流の場・機会を作っておられることに感謝します。所管行政の枠内という制約があることは承知していますが、女性団体の活動は省庁間の枠にとらわれませんので、例えば、「北京+20」の節目の年の貴会館主催行事がその年のフォーラム全体の参加団体に浸透した感があつたことを思うと、貴館からもっとイニシアティブをお示しいただいてよいように思います。現状は、和やかではあります少々バラバラ感が否めません。
WS44	今のところとくにございません。

女子中高生夏の学校2017

～科学・技術・人との出会い～【実施要項】



1 趣 旨

女子中高生が「科学技術にふれ」、科学技術の世界で生き生きと活躍する女性たちと「つながり」、科学技術に関心のある仲間や先輩とともに「将来を考える」機会として「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い」を開催します。

このプログラムでは、2泊3日の合宿研修期間中、女子中高生が科学研究者・技術者、大学生・大学院生等との交流を通じて、理系進路の魅力を知り、あるいは再確認し、理系に進もうという意思を高めることを目指しています。加えて、合宿研修後に継続的に実施するメンター相談活動により、女子中高生が進路選択、キャリア形成について考えを深めるための支援を行います。

保護者や教員は、女子中高生にとって最も身近な理解者、支援者です。保護者と教員向けに準備している合宿研修プログラムでは、保護者や教員に理系の様々な分野のキャリアについて知り、また理系分野でキャリアを重ねている女性との交流を通じ、女性と理系キャリアの関係について理解を深めていただきます。また、企画委員や参加者同士での意見交換を通じて、理系進路選択を希望している女子中高生の良き理解者、助言者となるヒントを得ていただくことを目指します。

2 主 催

独立行政法人国立女性教育会館（NWEC）

3 共 催

日本学術会議「科学者委員会 男女共同参画分科会」
お茶の水女子大学 沖縄科学技術大学院大学

4 後 援

男女共同参画学協会連絡会 埼玉県教育委員会

5 会 場

国立女性教育会館（NWEC）
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地
電 話：0493-62-6724・6725 F A X：0493-62-6720
Eメール：progdiv@nwec.jp U R L：https://www.nwec.jp

6 期 日

平成29年8月5日（土）～8月7日（月）

7 参 加 者

○女子中高生（中学3年生、高校1～3年生） … 104名

○保護者・教員 … 21名

8 日程（予定）

【共通】……………女子中高生、保護者、教員共通プログラム

【女子中高生】……女子中高生用プログラム

【保護者・教員】…保護者・教員用プログラム

<第1日 8月5日（土）>

【共通】開校式 13:00～13:30

開会宣言 永合 由美子 実行委員長（日本女性技術者フォーラム）
あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長
松尾 由賀利 法政大学理工学部教授（日本学術会議第3部会員）
リエンテーション 古澤 亜紀 茨城県立水戸農業高等学校教諭

【共通】サイエンスアンバサダー「自分の将来について考えよう」 13:30～14:00

グループ内で自己紹介を行い、合宿研修期間を通してチームとなる仲間のことを知ります。学生TA（学生ティーチングアシスタント）の短い講話を聴き、合宿研修のねらいや目的を理解し、主体的に参加する気持ちを高めます。

【共通】キャリア講演 14:15～15:45

過去の夏学卒業生でもあり、学生TAや夏学の企画運営に長く携わった女性や女子中高生にとって魅力的な科学・技術の研究を行っている方から、現在の生活や仕事のことなど理系進路の魅力についてお話を伺い、将来理系で学ぶこと、働くことの意義や理系進路の多様性について理解を深めます。

講師 小野澤 真美 (株)ピカソ美化学研究所
講師 菅原 愛子 本田技研工業株式会社営業企画部チーフ

【女子中高生】学生企画「シェアトーク！」 16:00～17:30

講演を聴き、一人ひとりの女子中高生が感じ、考えたことを他の女子中高生、学生TA、企画委員と共有し、将来理系で学ぶこと、理系の職業に就くことの意義や価値の理解を深めます。理系進路が多様であることを理解します。

【保護者・教員】夏の学校を知る 16:00～17:30

今までの夏学の様子をDVDで視聴したり、担当者から説明を受けたりすることにより、3日間の研修の流れや意義を理解するとともに、グループ討議等を通じてお互いの交流を深めます。

夕食 18:00～19:00

【女子中高生】学生企画「サイエンスバトル!？」 19:15～20:45

グループで協力し合い、学生スタッフが出題する課題やクイズに答えるスタンプラリーに挑戦しながら、グループメンバーの親交を深めます。

【保護者・教員】理系進学を考える

「講師・研究者との本音（?!）フリートーク」

19:15～20:45

日本ではなぜ理系分野に女性が少ないのでしょうか。大人は「理系」にどのようなイメージを抱きますか。女子中高生の進路としてはどうでしょうか。ワークショップ形式で意識を深めます。進路選択に悩む女子中高生への支援の在り方についても考えます。

講師 河野 銀子 山形大学

「女子中高生の進路選択に関わる課題と支援」

【共通】天体観望会<希望者のみ>

21:00～22:00

自然豊かな国立女性教育会館の夏の夜空を天体望遠鏡で観察します。

【共通】研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会①<希望者のみ> 21:00～22:00

女子中高生の理系進路選択に向けて、研究者・技術者とさらに話をしたいという参加者のために、進学や就職など、将来のことに関する懇談会を行います。メンターに出会う機会にもなります。

<第2日 8月6日(日)>

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」

9:00～11:30

理系の専門分野の研究者・技術者の指導の下、実験・実習にじっくりと取り組みます。日常を科学する「不思議体験コース」と専門性の高い「チャレンジコース」の2種類の実験があります。実験を行うだけでなく、実験の意味や結果について考察してみましよう。

- A (チャレンジ) 組みひもの数学で遊んで占おう
- B (不思議体験) 身近に生きる生物たちの生態
- C (不思議体験) 身近な表面張力現象
- D (チャレンジ) 地層処分と放射線
- E (チャレンジ) 最初の一人は誰? 感染症の集団発生を科学しよう!
- F (不思議体験) 染め物の理論・実践と技術士～マイ ハンカチをつくろう!～
- G (不思議体験) 作って・見て・測って知る、地球と宇宙の「波」のふしぎ
- H (不思議体験) 楽しく、美しい化学の実験に挑戦!
- I (不思議体験) フィールドワークに挑戦～嵐山溪谷を探検しよう!～
- J (不思議体験) 金属の不思議
- K (不思議体験) "Scratch を使ったプログラミング体験 祭りだわっしょい!"
- L (不思議体験) 地球環境の変遷ー真夏に氷の実験ー
- M (不思議体験) フレミングの左手してる? 作ってみよう単極モーター!
- N (不思議体験) 自然放射線の測定から入るエネルギー $E=cm^2$ と宇宙の神秘
- O (不思議体験) 土で作る! ソイルタワーコンテスト
- P (不思議体験) ロボットセミナー:レゴで作ったロボットをプログラミングして動かそう

【保護者・教員】実験・実習の参加・見学 9:00～11:30

サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」の実験や実習を実際に見学・参加することで、研修に取り組む女子中高生の姿を見たり、理系進路選択を応援する意識を高めたりします。

昼食 11:30～12:45

集合写真の撮影 12:45～13:00

【女子中高生】サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」 13:00～15:50

女子中高生が理系進路（キャリア）の魅力を知る機会として、理系の様々な分野、世代の人と交流します。

①ポスター展示・キャリア相談

ポスター展示：協力学会、企業、大学から様々な理系キャリアを歩んでいる人がポスター展示や演習実験を行います。様々な理系分野で活躍する人たちに最先端の技術や各分野で必要となる基礎知識、さらにその分野で活動する人がどのようなライフスタイルをとっているのかを知る機会です。

キャリア相談：研究者、技術者、女子大学生・大学院生に進路選択やキャリアに関する疑問や不安を相談する機会として活用してください。

②国際交流

留学生が、大学生活、研究活動、日本での生活や母国に帰ってからの夢などについて英語で発表し、セミナー形式でみなさんとディスカッションします。英語でのコミュニケーションを通じて文化的に異なる背景を持つ人の考え方に触れることができます。「留学生TAの母国文化・大学生活の紹介」クラスと「留学生TAの研究紹介」クラスの2クラスに分かれて交流します。

【保護者・教員】夏学講演「理系分野の女性と社会とのつながり」 13:00～15:00

(休憩あり)

講師 井野瀬 久美恵 甲南大学教授 日本学術会議副会長

「理系女子よ、目を見開いて観察せよ」

講師 芳賀 恒之 NTTアドバンステクノロジー株式会社

グローバル事業本部 副本部長

「企業・産業界における女性研究者・技術者の活躍とその期待」

講師 田中 若代 日本女子大学附属中学校・高等学校前校長

「理科教育における中高大学連携の試み」

【保護者・教員】サイエンスカフェⅠ「ポスター展示・キャリア相談見学」 15:00～15:50

女子中高生の理系進路選択への支援に向けて、男女共同参画学協会連絡会や企業、大学等のポスターブースを回り、最先端の科学技術について知る機会とします。

また理系の進路について相談することで我が子や生徒の進路に関する不安や悩み等の解決に近づける場とします。

【女子中高生】学生企画「Gate Way」 16:00～17:30

女子中高生が理系の進路についてさらに深く知るため、理系の学びや進路について、多様な理系分野の様々な年代の人々と話し合います。

また、学生企画「キャリアプランニング」に向けて、科学・技術者や学生TAからアドバイスを受けます。

【保護者・教員】サイエンスカフェⅡ 16:00～17:30

「理系分野の大学生、新社会人との座談会」

理系分野に進学した大学生や大学院生、新社会人としての女性技術者や女性研究者からの講演や座談会を通じて、ロールモデルを知るとともに、最近の大学選択や就職活動といった理系進路選択の現状、理系分野の魅力、中高生のころに大人から受けた影響についても知る機会とします。

【共通】交流会 18:00～19:00

夕食をとりながら、参加者同士、講師や実行委員、女子大学生・大学院生と交流します。

【女子中高生】学生企画「キャリアプランニング」 19:15～20:45

夏学での3日間の学びをもとに、各グループでお互いの考えを話し合いながら、一人一人の具体的な進路を模索し「タイムライン」としてまとめます。

【保護者・教員】サイエンスカフェⅢ 19:15～20:45

「女性研究者・女性技術者との座談会」

社会人として活躍している女性技術者・女性研究者からの講演や座談会を通して、理系分野でキャリアを積んだ女性のロールモデルを知り、キャリアの変更、家事・育児・介護との両立、海外での生活などの可能性についても意識します。同じ大人としての立場や中高生への思いを共有する機会とします。

【共通】研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会②<希望者のみ>

21:00～22:00

女子中高生の理系進路選択に向けて、参加者が研究者・技術者とさらに将来のことに関し相談することができます。メンターに出会う機会にもなります。

【女子中高生】国際交流「もっと話そう英語」<希望者のみ> 21:00～22:00

日中の国際交流の時間で異文化や留学生の理系キャリアに対する視点に興味を抱いた女子中高生のために、留学生TAが英語で会話に応じます。

<第3日 8月7日(月)>

【女子中高生】キャリアプランニングポスター発表会 9:00～11:00

学生企画「キャリアプランニング」で作成したタイムラインを用いて、班で一つのポスターを作成し、夏学を通して考えた自分の将来について発表します。

【保護者・教員】夏の学校を振り返る 9:00～10:00

女子中高生の理系進路に関する保護者同士の忌憚のない意見交換を行い、この合宿研修の経験をどう生かすかについて考える機会として、3日間の研修を振り返ります。

【保護者・教員】キャリアプランニングポスター発表会見学 10:00～11:00

【共通】学生企画「夏学振り返りと表彰式」 11:15～11:45

参加者が一堂に会し、3日間の振り返りを学生スタッフの企画により行います。

【共通】サイエンスアンバサダー任命式・閉校式 11:45～12:15

女子中高生の参加者全員をサイエンスアンバサダーとして任命します。アンバサダーは、自分の学校や地域に戻った後、学校や友人に夏学の体験を伝えます。

任命 永合 由美子 実行委員長（日本女性技術者フォーラム）



平成29年度 女子中高生夏の学校2017参加者概況

1. 学年

中学生	3年	40	40
高校生	1年	30	63
	2年	28	
	3年	5	
合計		103	

2. 教員、保護者等

	保護者	教員	合計
女性	7	5	12
男性	1	6	7
合計	8	11	19

3. 都道府県別

※学校の所在地と居住地が違う場合、学校の所在地による。

	中学生	高校生	中高生合計	保護者	教員	
北海道・東北	北海道	—	4	—	1	
	青森県	—	1	—	—	
	岩手県	—	1	—	—	
	宮城県	1	1	2	—	—
	秋田県	1	3	4	—	—
	山形県	—	2	2	—	—
関東	福島県	—	1	—	1	
	茨城県	1	1	2	—	—
	栃木県	—	1	1	—	—
	群馬県	2	1	3	1	1
	埼玉県	6	7	13	2	2
	千葉県	1	7	8	—	—
	東京都	5	9	14	1	—
	神奈川県	4	3	7	—	1
甲信越	山梨県	2	2	4	—	—
	新潟県	2	2	4	—	1
	長野県	1	2	3	1	2
北陸・東海	富山県	2	—	2	—	—
	石川県	—	—	—	—	—
	福井県	—	—	—	—	—
	岐阜県	—	—	—	—	—
	静岡県	4	5	9	1	—
	愛知県	1	1	2	—	1
	三重県	—	—	—	—	—
近畿	滋賀県	—	—	—	—	—
	京都府	2	—	2	1	—
	大阪府	—	1	1	—	1
	兵庫県	—	1	1	—	—
	奈良県	—	—	—	—	—
	和歌山県	—	—	—	—	—
中国・四国	鳥取県	—	1	1	—	—
	島根県	—	—	—	—	—
	岡山県	1	—	1	—	—
	広島県	—	—	—	—	—
	山口県	—	1	1	—	—
	徳島県	—	1	1	—	—
	香川県	—	—	—	—	—
	愛媛県	—	—	—	—	—
九州・沖縄	高知県	—	—	—	—	—
	福岡県	—	—	—	—	—
	佐賀県	—	—	—	—	—
	長崎県	—	—	—	—	—
	熊本県	2	2	4	1	—
	大分県	—	—	—	—	—
	宮崎県	2	2	4	—	—
鹿児島県	—	—	—	—	—	
沖縄県	—	—	—	—	—	
合計	40	63	103	8	11	

※地域ブロック別内訳

	中学生	高校生	保護者	教員	合計
北海道・東北	2	13	—	2	17
関東	19	29	4	4	56
甲信越	5	6	1	3	15
北陸・東海	7	6	1	1	15
近畿	2	2	1	1	6
中国・四国	1	3	—	—	4
九州・沖縄	4	4	1	—	9
合計	40	63	8	11	122

平成29年度「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」
参加者アンケート集計結果(女子中高生)

参加者 103名
回答者 103名
回収率 100.0%

1. 研修全体について

(1) 今後の具体的な進路

	人数	%
理系	88	85.4
文系	1	1.0
まだ決めていない	14	13.6
無回答	-	-
合計	103	100.0

(2) 今回の企画を何で知ったか(複数回答可)

	人数	%
学校・先生から	74	71.8
会館広報を見て	8	7.8
新聞の記事	-	-
親、家族、親戚から	24	23.3
その他	4	3.9
無回答	-	-
全体	103	100.0

(3) 「女子中高生夏の学校2017」に参加した理由
(複数回答可)

	人数	%
科学・技術の分野に興味があるから	58	56.3
将来の進路を考える参考にするから	75	72.8
講師の先生に関心があるから	4	3.9
おもしろそうなプログラムがあるから	41	39.8
他校の生徒と話をしてみたかったから	19	18.4
大学生と話をしてみたかったから	16	15.5
先生にすすめられたから	36	35.0
親等にすすめられたから	14	13.6
その他	4	3.9
無回答	-	-
全体	103	100.0

(4) 「女子中高生夏の学校2017」全体について

	人数	%
非常に満足した	93	90.3
満足した	10	9.7
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
無回答	-	-
合計	103	100.0

2. 各プログラムについて

(1) キャリア講演①小野澤真美氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	53	51.4	51.4	99.0
有用	49	47.6	47.6	
あまり有用でない	1	1.0	1.0	1.0
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(※は不参加、無回答を除いた場合)

(2) キャリア講演②菅原愛子氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	49	47.5	48.0	95.1
有用	48	46.6	47.1	
あまり有用でない	5	4.9	4.9	4.9
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	1	1.0		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(3) 学生企画「シアターワーク」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	62	60.2	60.2	97.1
有用	38	36.9	36.9	
あまり有用でない	3	2.9	2.9	2.9
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(4) 学生企画「サイエンスバトル!？」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	69	66.9	67.6	99.0
有用	32	31.1	31.4	
あまり有用でない	1	1.0	1.0	1.0
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	1	1.0		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(5) 天体観望会

	人数	%	※%	※%
非常に有用	13	12.6	23.6	76.4
有用	29	28.2	52.8	
あまり有用でない	13	12.6	23.6	23.6
有用でない	-	-	-	
不参加	45	43.7		
無回答	3	2.9		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(6) 研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会①

	人数	%	※%	※%
非常に有用	28	27.2	68.3	97.6
有用	12	11.7	29.3	
あまり有用でない	1	1.0	2.4	2.4
有用でない	-	-	-	
不参加	56	54.3		
無回答	6	5.8		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(7)サイエンスアドベンチャーⅠ「ミニ科学者になろう」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	69	67.0	67.7	97.1
有用	30	29.1	29.4	
あまり有用でない	3	2.9	2.9	2.9
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	1	1.0		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(8)サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	86	83.5	83.5	100.0
有用	17	16.5	16.5	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(9)学生企画「Gate Way」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	86	83.5	83.5	100.0
有用	17	16.5	16.5	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(10)交流会

	人数	%	※%	※%
非常に有用	57	55.3	55.9	93.2
有用	38	36.9	37.3	
あまり有用でない	6	5.8	5.8	6.8
有用でない	1	1.0	1.0	
不参加	-	-		
無回答	1	1.0		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(11)学生企画「キャリア・プランニング」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	61	59.2	59.8	99.0
有用	40	38.8	39.2	
あまり有用でない	1	1.0	1.0	1.0
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	1	1.0		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(12)国際交流「もっと話そう英語」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	28	27.2	55.0	92.2
有用	19	18.4	37.2	
あまり有用でない	4	3.9	7.8	7.8
有用でない	-	-	-	
不参加	48	46.6		
無回答	4	3.9		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(13)研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会②

	人数	%	※%	※%
非常に有用	30	29.1	75.0	95.0
有用	8	7.8	20.0	
あまり有用でない	2	1.9	5.0	5.0
有用でない	-	-	-	
不参加	60	58.3		
無回答	3	2.9		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(14)学生企画「キャリアプランニング」ポスター発表会

	人数	%	※%	※%
非常に有用	60	58.3	63.8	97.9
有用	32	31.1	34.1	
あまり有用でない	2	1.9	2.1	2.1
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	9	8.7		
合計	103	100.0	100.0	100.0

(15)学生企画「夏学振り返りと表彰式」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	44	42.7	62.0	100.0
有用	27	26.2	38.0	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	32	31.1		
合計	103	100.0	100.0	100.0

3. 参加者感想

- ・ 将来の夢について、今回の夏学で新しいことを知ることができ、よかった。今までは自分が好きなことにしか興味がなかったが、様々な分野の研究者の方や先生とお話することができ、視野が広がった。中学生のうちどんな分野があるかを知り、進路について今まで以上に考えていきたいと思った。他府県の人と話すこともとても良い刺激になった。これからも夢に向かって勉強を頑張っていきたい。ありがとうございました。来年もまた来たいです。
- ・ 普通に生活していたら絶対会わないような人と会えて、いろんな話をし、学校の友達と進路の話はあまりしないけれど、ここでそういうことをいろいろ話して、聞いて、それが1番ためになりました。
- ・ 自分の知らない職業がとにかくたくさんあったなというのと、実際に働いている人のお話なので、ネットや本では味わうことのできない経験ができたなと思う。あと、一口に「理系」と言っても何をやっていてどんな方向に進めるのか知らなかったの、今後の進路についても大変参考になった。
- ・ 理系に進むか悩んでいる部分が多くありましたが、その1つ1つを夏学でお会いした多くの方が解決して下さり、とても参考になりました。また、たくさんの職を知ることができ、視野が広がったと思います。

平成29年度「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」
参加者アンケート集計結果(保護者)

参加者 8名
回答者 7名
回収率 87.5%

1.研修全体について

(1) 今回の企画を何で知ったか
(複数回答可)

	人数	%
学校・先生から	5	71.4
会館広報を見て	-	-
新聞の記事	-	-
親、家族、親戚から	1	14.3
その他	2	28.6
無回答	-	-
全体	7	100.0

(2) 「女子中高生夏の学校2017」に参加した理由
(複数回答可)

	人数	%
理系進路選択の知識を得るため	6	85.7
子どもの進路について悩んでいるため	3	42.9
理系進路選択事業に関心があるため	2	28.6
実験やポスター展示等に関心があるため	1	14.3
講師に関心があるため	-	-
情報交換のため	3	42.9
その他	-	-
無回答	-	-
全体	7	100.0

(3) 「女子中高生夏の学校2017」全体について

	人数	%
非常に満足した	7	100.0
満足した	-	-
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
無回答	-	-
合計	7	100.0

2. 各プログラムについて

(1) キャリア講演①小野澤真美氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	3	42.9	50.0	100.0
有用	3	42.9	50.0	100.0
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	1	14.2		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(※は不参加、無回答を除いた場合)

(2) キャリア講演②菅原愛子氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	4	57.1	66.7	100.0
有用	2	28.6	33.3	100.0
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	1	14.3		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(3) 夏の学校を知る

	人数	%	※%	※%
非常に有用	3	42.9	50.0	100.0
有用	3	42.9	50.0	100.0
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	1	14.2		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(4) 理系進学を考える

	人数	%	※%	※%
非常に有用	4	57.1	57.1	100.0
有用	3	42.9	42.9	100.0
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(5) 天体観望会

	人数	%	※%	※%
非常に有用	1	14.2	25.0	100.0
有用	3	42.9	75.0	100.0
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	3	42.9		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(6) 「講師・研究者との本音(?!)フリートーク」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	2	28.6	66.7	100.0
有用	1	14.3	33.3	100.0
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	4	57.1		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(7)研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会①

	人数	%	※%	※%
非常に有用	-	-	-	-
有用	-	-	-	-
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	5	71.4		
無回答	2	28.6		
合計	7	100.0	-	-

(9) 講演1井野瀬久美恵氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	3	42.9	50.0	100.0
有用	3	42.9	50.0	
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	1	14.2		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(11)講演3田中若代氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	6	85.7	85.7	100.0
有用	1	14.3	14.3	
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(13)サイエンスカフェⅡ「研究者・技術者、大学生、新社会人との座談会」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	7	100.0	100.0	100.0
有用	-	-	-	-
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(15) サイエンスカフェⅢ「女性研究者、女性技術者との座談会」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	6	85.7	85.7	100.0
有用	1	14.3	14.3	
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(17)夏の学校を振り返る

	人数	%	※%	※%
非常に有用	3	42.9	42.9	100.0
有用	4	57.1	57.1	
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(8)サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	6	85.7	85.7	100.0
有用	1	14.3	14.3	
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(10)講演2芳賀恒之氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	7	100.0	100.0	100.0
有用	-	-	-	-
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(12)サイエンスカフェⅠ「ポスター展示・キャリア相談見学」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	4	57.1	57.1	100.0
有用	3	42.9	42.9	
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(14)交流会

	人数	%	※%	※%
非常に有用	3	42.9	42.9	100.0
有用	4	57.1	57.1	
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(16)研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会②

	人数	%	※%	※%
非常に有用	4	57.1	66.7	100.0
有用	2	28.6	33.3	
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	1	14.3		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(18) 学生企画「キャリア・プランニング」ポスター発表
会見学

	人数	%	※%	※%
非常に有用	4	57.1	57.1	100.0
有用	3	42.9	42.9	
あまり有用でない 有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	7	100.0	100.0	100.0

(19)学生企画「夏学振り返りと表彰式」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	5	71.4	71.4	100.0
有用	2	28.6	28.6	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-	-	-
無回答	-	-	-	-
合計	7	100.0	100.0	100.0

3. 参加者感想

- ・ 高校3年生の大学選択のこの時期に夏の学校に参加できて、時期が少し遅かったという感じでしたが、娘が大学院まで行って研究がしたいという娘の考えがここに来てわかった気がします。学校でも子供達へ向けての職業人講話が高校1年の時にあっておりますが、それ以上の情報量の多さに高校3年の時期ではなく、もっと早い段階で参加しておくべきだと痛感しました。国立大学が86、私立大学が600とあり、それぞれ特色がある大学の中からやりたいことを探し出すのはとても困難を極めている状態です。今後、そのようなアドバイスをして頂ける機会があることを願います。又、もっと先生方との時間が欲しかったです。
- ・ 全ての時間が心躍るくらいの出会いであり、一日目にして有用な情報満載でインプットが追いつかない状態だったが、三日間で学習し得た話を参考に、今後子どもへの言葉がけや相談に乗ってあげられる、又は共に考えてあげられるだろうと感じている。子どもは、理科と数学と英語が好きで得意！！それならば理系選択についての知識と理解を深めてみようという段階での参加だったが、漠然としていたイメージから、理系といっても様々な職業や研究機関があることがクリアに見えてくるようになった。会終了後、子どもと習得した情報を共有するのが楽しみであり、その時どのような話の化学反応が起こるのか。リーフレットの「人との出会い」の文言に魅せられ、気軽に参加の一步を踏み出したおかげで、運営を支えて下さっている有識者の方々との交流できたことは大変に貴重な体験であり、感謝申し上げます。お世話になり、有難うございました。
- ・ どの方のお話を聞いても英語は大事だと、できないといけないとよく分かりました。英語ができるようになるためには、英字新聞を読むのをすすめられました。新聞はハードルがちょっと高いので、英語学習の提案が色々あったらいいなと思いました。

平成29年度「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」
参加者アンケート集計結果(教員)

参加者 11名
回答者 8名
回収率 72.7%

1.研修全体について

(1) 今回の企画を何で知ったか
(複数回答可)

	人数	%
学校・先生から	6	75.0
会館広報を見て	-	-
新聞の記事	-	-
親、家族、親戚から	-	-
その他	2	25.0
無回答	-	-
全体	8	100.0

(2) 「女子中高生夏の学校2017」に参加した理由
(複数回答可)

	人数	%
理系進路選択の知識を得るため	3	37.5
子どもの進路について悩んでいるため	4	50.0
理系進路選択事業に関心があるため	2	25.0
実験やポスター展示等に関心があるため	1	12.5
講師に関心があるため	-	-
情報交換のため	5	62.5
その他	4	50.0
無回答	-	-
全体	8	100.0

(3) 「女子中高生夏の学校2017」全体について

	人数	%
非常に満足した	5	62.5
満足した	3	37.5
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
無回答	-	-
合計	8	100.0

2. 各プログラムについて

(1) キャリア講演①小野澤真美氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	3	37.5	42.9	100.0
有用	4	50.0	57.1	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	1	12.5		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(※は不参加、無回答を除いた場合)

(2) キャリア講演②菅原愛子氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	3	37.5	42.9	100.0
有用	4	50.0	57.1	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	1	12.5		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(3) 夏の学校を知る

	人数	%	※%	※%
非常に有用	3	37.5	42.9	100.0
有用	4	50.0	57.1	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	1	12.5		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(4) 理系進学を考える

	人数	%	※%	※%
非常に有用	4	50.0	50.0	100.0
有用	4	50.0	50.0	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(5) 天体観望会

	人数	%	※%	※%
非常に有用	-	-	-	60.0
有用	3	37.5	60.0	
あまり有用でない	1	12.5	20.0	40.0
有用でない	1	12.5	20.0	
不参加	3	37.5		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(6) 「講師・研究者との本音(?)」フリートーク

	人数	%	※%	※%
非常に有用	1	12.5	33.3	100.0
有用	2	25.0	66.7	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	5	62.5		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(7)研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会①

	人数	%	※%	※%
非常に有用	1	12.5	33.3	100.0
有用	2	25.0	66.7	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	4	50.0		
無回答	1	12.5		
合計	8	100.0	100.0	-

(8)サイエンスアドベンチャーⅡ「研究者・技術者と話そう」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	5	62.5	62.5	100.0
有用	3	37.5	37.5	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(9) 講演1井野瀬久美恵氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	2	25.0	25.0	87.5
有用	5	62.5	62.5	
あまり有用でない	1	12.5	12.5	12.5
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(10)講演2芳賀恒之氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	4	50.0	50.0	100.0
有用	4	50.0	50.0	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(11)講演3田中若代氏

	人数	%	※%	※%
非常に有用	5	62.5	62.5	100.0
有用	3	37.5	37.5	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(12)サイエンスカフェⅠ「ポスター展示・キャリア相談見学」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	2	25.0	25.0	87.5
有用	5	62.5	62.5	
あまり有用でない	1	12.5	12.5	12.5
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(13)サイエンスカフェⅡ「研究者・技術者、大学生、新社会人との座談会」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	3	37.5	37.5	87.5
有用	4	50.0	50.0	
あまり有用でない	-	-	-	12.5
有用でない	1	12.5	12.5	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(14)交流会

	人数	%	※%	※%
非常に有用	2	25.0	40.0	100.0
有用	3	37.5	60.0	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	1	12.5		
無回答	2	25.0		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(15)サイエンスカフェⅢ「女性研究者、女性技術者との座談会」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	5	62.5	62.5	100.0
有用	3	37.5	37.5	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(16)研究者・技術者やTAとのキャリア・進学懇談会②

	人数	%	※%	※%
非常に有用	1	12.5	50.0	100.0
有用	1	12.5	50.0	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	5	62.5		
無回答	1	12.5		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(17)夏の学校を振り返る

	人数	%	※%	※%
非常に有用	1	12.5	14.3	100.0
有用	6	75.0	85.7	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	1	12.5		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(18) 学生企画「キャリア・プランニング」ポスター発表会見学

	人数	%	※%	※%
非常に有用	4	50.0	50.0	100.0
有用	4	50.0	50.0	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

(19)学生企画「夏学振り返りと表彰式」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	1	12.5	12.5	100.0
有用	7	87.5	87.5	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	-
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	8	100.0	100.0	100.0

3. 参加者感想

- ・ 文理選択や理系への進路選択における教員の責任について、改めてその重さを実感しましたが、これまで私が歩んできた経験等をもとにして、現実社会の様子を考えることも重要なことだと思いました。将来理系を目指す生徒に、次年度以降も「夏学」の参加を勧めます。
- ・ ここに来ている生徒たちは、本当に意識が高く感じました。ここに来るまでにいかない生徒たちへの進路指導が本当の課題だと思いました。
- ・ 生徒にとってはこの夏学は自分がやりたい事、目標にしたいことを見つける良いきっかけになっていると思います。また何よりも多くの人達と出会い、コミュニケーションできることが大きな収穫だったと思います。理系で活躍する人達は、様々な悩みを抱えつつもその多くが自分の好きなこと、やりたいことに積極的に挑戦し、自らその道を切り開いているように感じます。そして、親や先生など、温かいサポートが彼女達を支えているように思いました。私も教師として、理系を目指す生徒たちの背中をやさしく支える存在になればと思いました。
今後、夏学の取り組みを、学校に戻って広める取り組みを考えていきたいと思っています。

平成29年度「女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～」 フォローアップ調査集計結果

対象者数 103 名
回答数 55 件
回答率 53.4 %

★ 回答者内訳

	回答数	対象者数	回答率(%)
中3	25	40	62.5
高1	16	30	53.3
高2	11	28	39.3
高3	3	5	60.0
合計	55	103	53.4

1. 「女子中高生夏の学校」の3日間で学んだことは、その後の学校生活にどんな点で役立ちましたか。

	中3	% (25名中)	高1	% (16名中)	高2	% (11名中)	高3	% (3名中)	合計	% (55名中)
ア 自分自身の進路についてよく考えるようになった	23	92.0	13	81.3	9	81.8	2	66.7	47	85.5
イ 自分に合うこと・合わないことがはっきりした	4	16.0	7	43.8	4	36.4	2	66.7	17	30.9
ウ 進路を考える幅が広がった(迷いを含めて)	19	76.0	12	75.0	7	63.6	1	33.3	39	70.9
エ 理系進路の具体的なイメージがわいた	16	64.0	6	37.5	7	63.6	2	66.7	31	56.4
オ 理系進路選択への意志が強くなった	12	48.0	9	56.3	6	54.5	1	33.3	28	50.9
カ 理科や数学に対する興味・関心が以前より強くなったカ その他	16	64.0	7	43.8	5	45.5	1	33.3	29	52.7
キ 理科や数学の授業が楽しくなった	5	20.0	3	18.8	2	18.2	-	-	10	18.2
ク 学校での授業内容についてよく理解できるようになった	5	20.0	1	6.3	1	9.1	-	-	7	12.7
ケ 定期テストや模試、通知表などの成績が上がった	2	8.0	2	12.5	1	9.1	-	-	5	9.1
コ 家族や学校の先生、友達などと進路についてよく話すようになった	12	48.0	5	31.3	4	36.4	1	33.3	22	40.0
サ 役立つことはなかった	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
シ その他	1	4.0	-	-	-	-	-	-	1	1.8

(シ その他)の内容

- ・ 授業への取り組み方や、勉強の仕方を見直すきっかけになった。
2. 夏学から半年がたちましたが、今の自分にとって夏学に参加したことにより、良かったことや変わったことなど自由に書いてください。
- ・ 元々行く前は就職だけを考えていたけど参加することによって進学してもその後の就職の幅も広がるのが分かって良かった。
 - ・ 医学部で大学の研究をしている先生方とお話することによって、医学部に進路を決めようと思い、勉強に励むことができた。
 - ・ 将来、自分がやりたい事がはっきりしてきた気がする。
 - ・ 同じチームの人たちと話あったり、進路相談できたことが、自分の進路を考えるいい機会となった。学校だと人の事考えたり周り似合わせないといけなけれど、似たような考えを持つ人と行動すると、ああしよう、こうしたい、とハッキリ言え、それに正直な返答をもらえてすごく楽に過ごせた。同じチームで地域、年齢バラバラなことにメリットばかりだった。
 - ・ 学校の授業で分かることが増えた。
 - ・ 自分から積極的に質問などができるようになった。
 - ・ 私はまず他にも進路について考えている同年代の子たちがたくさんいて、それを支えてくださる方たちがいることを実感できたことが良かった。中3だということもあって、付属校ですが義務教育を終えて高校に行くということは自分で選ぶものなので進路について考える機会が多かった。その一回一回にしっかり向き合えるようになったと思います。そのなかでもデータを処理する仕事があることを合宿中に知ることになった。おもしろそうだなと思い興味を持つようになったのはとても大きかった。建築の分野にも世界が広がった。理系に進もうと決めた訳ではないですが、これからは自分で迷ったら相談して世界を広げて行きたい。
 - ・ 理系の進路について前向きに考えるようになった。
 - ・ 夏学に参加したことで、理系進学に関する様々なことを知ることができた。また理系と一言と言っても多くの職業があり、どれもとても興味深いと思った。夏学には理系進学を志す人がたくさんいて、レベルの高い中で3日間を過ごすことができたのも自分にとってプラスであったと感じている。

- ・具体的な理系のことが分かり、理系に行く意志が強くなった。
- ・自分の興味のあることについて、より深く調べようになった。
- ・高校生や大学生、大学の先生と会話ができたことで、進路について考えるきっかけができた。また、日々の学校では分からないことを質問できるようになったり、より多数の人と話ができるようになったりして、考え方やものの見方が広がったと思う。夏学で、現在の勉強が将来の自分のためになっている、と再確認できたため、勉強面で苦しいことがあっても努力が続けられるようになった。勉強に対する気持ちが「やらなければいけないもの」から「やりたい」もの変わったことで、勉強を楽しめるようになった。
- ・進路に対して前向きに考えられるようになったことです。夏学に参加する以前は、今後の進路に対しての不安や焦りばかり抱いていたが、夏学に参加して、大学等で研究していらっしゃる方々のお話を直接伺い、応援していただいたことで、進学への意欲が高まり、少しですが前向きに考えられるようになった。また、夏学では、初めてお会いする方とお話することで、コミュニケーション能力もついたと思う。
- ・自主性が出てきた。明確な進路希望ができた。
- ・科学や研究について積極的に自分から行動できるようになった。
- ・物事の見え方やものの見方が広がった
- ・幅広い知識を得たいと思うようになった。
- ・将来や勉強への考え方が良い方向で変わった。
- ・大学生と知り合ったことで、勉強や受験について相談することができたり、大学を案内してもらうことができた。また、メンターさんとも連絡を取り、進学先についての相談をすることもできた。
- ・都会の、学習に力を入れている学校や同じ中高一貫校の人の様子から、うちの学校のステータスがわかった。自分の学校の劣っている部分を知る機会は、学校の中じゃまずないのでいい機会になった。
- ・コミュニケーション能力が付き、誰とでも話せるようになりました。
- ・一口に理系と言っても様々な分野があることが分かり、理系への進学を前向きな考えられるようになった。
- ・参加前は、理系に進んだらどんなことが学べるのか、どんな職業があるのか、なんとなく知っているけれど具体的にはよくわからなかった。理系に進学している人が周りにいなかったのです。しかし、ここでの出会いが私を大きく成長させてくれた。理系で生き生きと輝く方々を見て、理系って楽しいんだと感じた。また様々な分野に触れたことが、かえって、私は本当は何に興味があるのか気づかせてくれるきっかけとなった。
- ・高校卒業後の進路まで考えて、進路を決めることができるよになりました。

3. TAを希望しますか。

	中3	% (25名中)	高1	% (16名中)	高2	% (11名中)	高3	% (3名中)	合計	% (55名中)
ア 是非(必ず)参加したい	10	40.0	4	25.0	5	45.5	3	100.0	22	40.0
イ 参加してもよい	13	52.0	9	56.3	5	45.5	-	-	27	49.1
ウ あまり参加したいとは思わない	2	8.0	2	12.5	1	9.1	-	-	5	9.1
エ 参加する気持ちはまったくない	-	-	1	6.3	-	-	-	-	1	1.8
合計	25	100.0	16	100.0	11	100.0	3	100.0	55	100.0

4. 今後の「女子中高生夏の学校」に望むことなど、自由に書いてください。

- ・二日目の夕食の時間がもっと長いと良かったと思う。また、夜の天体観測や国際交流の時間がもう少し長いと有難かった。
- ・周りの学生との交流をもう少ししたかった。
- ・最初のクイズは友達との親睦を深められたのすごく良かった。また、大学の先生方や、企業の方とお話できたことも本当に楽しく、進路を決める際に役に立ったと思います！出来れば、外国人留学生とお話する機会がもう少しあれば良かった。
- ・国際交流のプログラムを残してほしい。
- ・親睦を深めるオリエンテーションや大学の先生や企業の方と会話できる時間はとても有意義でしたので今後もぜひ続けてほしいと感じた。
- ・英語での講義が難しかった。
- ・ポスター展示ではいろいろな人と話す機会があり、とても良い経験になった。是非これからもやってほしい。
- ・シェアトークや、初日の夜のプログラムは残してほしい。
- ・自分の将来設計の発表は、継続して欲しい。他の人と意見交換できて、視野も広がった。
- ・3日間はとても充実したスケジュールで、楽しかった。「キャリア講演」と「サイエンスアドベンチャーⅡ研究者・技術者と話そう」を継続してほしい。また、大学の選び方や、進路の実現方法を個別で相談できるような場所を作ってほしい。
- ・企業にどんな人材を採用したいのかききたい。
- ・文房具のプレゼントがとても嬉しかったです！
- ・他の班のTAさんとも、もっと交流する機会がほしかったです。
- ・研究所見学や、チーム対抗の研究大会などがあったら楽しいと思います。
- ・体験実習は、特に興味のあるものは学校ではなかなかできないから残して欲しい。自分の将来設計の発表はあまり役に立たないと思う
- ・班ごとに別れて共同作業するプログラムはすごい仲間のことを知れてよかったです。数学や科学を使った運動するプログラムもいいなと思いました。
- ・選べるメンターの人数の制限や、メンターになってくださる方を増やして欲しかった。
- ・夜のレクリエーションがとても楽しく、同室の人たちとなかよくなれたので、残して欲しい。全てが楽しかったです！

平成29年度「女子大学生キャリア形成セミナー」実施要項

1. 趣 旨

国立女性教育会館では、自らのキャリアを人生の先輩や仲間と一緒に考え整理したい女子大学生を対象に、

①仕事をもち、自らの人生の選択権を持つことが豊かな人生設計に重要であること
(自主自立)

②女性の人生設計に関わる様々な出来事をあらかじめ知り、長期的な視点を持つこと
(ライフ・プランニング)

③キャリアの構築が単に個人の自己実現にとどまらず、よりよい社会づくりにつながるとい
うこと(社会に主体的に参画・変える視点)

の3つの視点を学ぶ機会を提供し、男女共同参画社会実現に向けて、社会や組織における女性リーダーの育成を図ります。

2. プログラムの特徴

共催者である「リーダーシップ111」のメンバーが、ロールモデルのパネリストとして登壇するだけでなく交流会やグループワークにも主体的に加わることで、学生に寄り添い、社会で働く女性の生の声を学生に届けます。

2日間のプログラムは、インプットからアウトプットへと導けるようにデザインされています。セミナー初日は、講演とパネルディスカッションによるインプットを行います。2日目は、社会に主体的に関わり自立したキャリアを形成することをテーマにしたグループワークを行うとともに、キャリアシートの作成を通じて各自の考えを「見える化」するなどの、アウトプットを行います。

また、本セミナーの企画・運営には過去の参加者がOG企画委員として参画し、学生の学びを支援することで「学びの循環」となっています。

3. 主 題

「キャリアを考えることは人生を考えること」

4. 主 催

独立行政法人国立女性教育会館

5. 共 催

リーダーシップ111

★リーダーシップ111(ワンワンワン)は、各分野を代表する女性たちが、よりよい社会の実現を目指して、助け合い、学び合い、情報交換をするネットワークとして、1994年に設立されました。グローバル社会に向けて提言を発信し、自らも実践することをモットーとしている団体です。

6. 会 場

国立女性教育会館

〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

電 話 0493-62-6724・6725

FAX 0493-62-6720

7. 期 日

平成30年2月17日(土)～2月18日(日) 1泊2日

8. 対象・定員

女子大学生 30名

9. 日 程 (各プログラムの間に10分程度の休憩があります)

2/17 (土)	12:15		13:00	13:30	14:40	16:50	17:30	19:00	20:30
		受付	開 会	基調 講演	パネル ディス カッション	情報 セン ター 見学	休憩・ 夕食	交流会	
2/18 (日)	9:00	10:10	12:00	13:00	15:30	16:00	17:00		
	講義	グループ ワーク ①	昼食	グループ ワーク ②	閉 会	懇親会 *希望者 のみ			

10. 内 容

第1日 2月17日(土)

(1) 開会

13:00～13:30

主催者挨拶：内海 房子 国立女性教育会館理事長

プログラムオリエンテーション：佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

(2) 基調講演「キャリアを考えることは人生を考えること」

13:30～14:30

ボストンのタフツ大学国際関係学部を卒業後、(株)リクルートに入社して29年。日本で仕事をしていく上での楽しさややりがい、苦労や気づきについてエピソードを交えながらのお話を伺いつつ、自分らしい視点や生き方について学びます。日本人のよいところを外国人の目線で日本人に伝え、ネガティブを知りポジティブに焦点を当てるルーシーさんが、社会に新たな一歩を踏み出していく女子大学生にエールを贈ります。

講 師：ルース・マリー・ジャーマン 株式会社ジャーマン・インターナショナルCEO
NHK「しごとの基礎英語」レギュラー出演

(3) パネルディスカッション「先輩の声を聞く」

14:40～16:40

人生経験を重ねたパネリストの話から、働く女性の現状や課題、女性の人生設計に関わるさまざまな出来事や、働くことの面白さ、課題を乗り越えるための視点を学びます。

パネリスト：平野こずえ JXTGエネルギー株式会社危機管理部

BCMグループ担当マネージャー

パネリスト：山崎 裕子 国立女性教育会館情報課情報係長(併)専門職員

コーディネーター：生越多恵子 株式会社ハウスオブローゼ

取締役 専務執行役員 マーケティング本部長

コメンテーター：ルース・マリー・ジャーマン

(4) 情報提供「女性情報ポータル Winet の紹介と女性教育情報センター見学」

16:50～17:30

女性教育情報センターは男女共同参画及び女性・家庭・家族に関する専門図書館として図書資料13万冊、雑誌類約4000誌、新聞記事クリッピング44万件以上を所蔵しています。女性情報ポータル Winet (ウィネット) の活用方法の説明と見学を通して、女性のキャリア形成に関する資料や情報へのアクセス方法を学びます。

講師：山崎 裕子 国立女性教育会館情報課情報係長(併)専門職員

(5) チェックイン・夕食・休憩

17:30～19:00

(6) 交流会

19:00～20:30

パネルディスカッションのパネリストや、本セミナーの過去の参加者として企画・運営に参画しているOG企画委員を交え、小グループで意見交換を行います。さまざまな立場の方のお話を聞くことでキャリアについての自分の考えを掘り下げ、整理し、また、参加者同士の交流から自身のネットワークを広げる機会とします。

第2日 2月18日(日)

(7) 講義「働く女性を取り巻く環境～女子大学生追跡ヒアリング調査を通して～」

9:00～10:00

一昨年度に大学を卒業し、就職した女性の追跡調査から、大学時代から入社3年目にかけての意識や経験について学びます。また、国際比較データを交えながら、女性を取り巻く状況や社会環境、男女共同参画の推進についても解説します。

講師：島 直子 国立女性教育会館研究国際室研究員

(8) グループワーク①

10:10～12:00

学習した内容を踏まえ、自分自身の未来や主体的に社会に関わるキャリア形成について自分の考えや思いを整理し、参加者同士で対話を通じ共有します。自己理解、他者理解を深めながら、ネットワークづくりを進めます。

講師：佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

(9) 昼食・休憩

12:00～13:00

(10) グループワーク②

13:00～15:30

グループワーク①を踏まえ、自分の価値観や社会との関わり、これからの目標を明確にするキャリアシートの作成を通じ、具体的な行動計画を考えます。仲間からのフィードバックを含め、自身を客観視することで自分軸を捉え、これからのキャリアデザインを見える化します。

講師：佐伯加寿美 国立女性教育会館事業課専門職員

(11) 閉会

15:30～15:50

パネリストやOG企画委員等からのコメントを交え、2日間の研修を振り返ります。アンケート記入、修了証授与を行います。

(12) 懇親会（希望者のみ）

16:00～17:00

軽食をとりながら研修を振り返り、学生同士、講師、OGとのつながりをさらに深めます。

11. 所要経費

(1) 参加費 無料

(2) 宿泊費 研修期間中は1泊1,200円
(前・後泊が必要な方はこの料金で宿泊できます)

(3) 食費 朝食バイキング870円、昼食550円～、夕食バイキング1,080円
※研修終了後の懇親会（希望者のみ）に参加の場合、会費として別途1,000円を集金します。

12. その他

期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報（ホームページ、フェイスブック、チラシ等）のために使用することがあります。あらかじめご了承ください

平成29年度「女子大学生キャリア形成セミナー」参加者概況

定員： 30 申込者： 31 参加者：26
 (キャンセル 5)

応募倍率： 103.3%

1. 性別

	合計
女性	26

2. 研修1日目

	女性
参加	26
不参加	-
合計	26

3. 研修2日目

	女性
参加	26
不参加	-
合計	26

4. 懇親会(希望者)

	女性
参加	20
不参加	6
合計	26

※地域ブロック別参加者内訳

	女性
北海道・東北	5
関東	20
甲信越	-
北陸・東海	3
近畿	1
中国・四国	1
九州・沖縄	1
合計	31

5. 都道府県別

黄色網掛：私立大学も
送付対象とした。

		女性
北海道・東北	北海道	-
	青森県	1
	岩手県	-
	宮城県	1
	秋田県	-
	山形県	-
関東	福島県	3
	茨城県	1
	栃木県	2
	群馬県	-
	埼玉県	7
	千葉県	2
甲信越	東京都	3
	神奈川県	5
	山梨県	-
北陸・東海	新潟県	-
	長野県	-
	富山県	-
	石川県	-
	福井県	-
	岐阜県	3
近畿	静岡県	-
	愛知県	-
	三重県	-
	滋賀県	-
	京都府	-
	大阪府	1
中国・四国	兵庫県	-
	奈良県	-
	和歌山県	-
	鳥取県	-
	島根県	-
	岡山県	-
	広島県	-
	山口県	-
徳島県	1	
九州・沖縄	香川県	-
	愛媛県	-
	高知県	-
	福岡県	-
	佐賀県	-
	長崎県	-
	熊本県	-
大分県	-	
宮崎県	-	
鹿児島県	1	
沖縄県	-	
合計	31	

平成29年度「女子大学生キャリア形成セミナー」アンケート集計結果

2018年3月8日

研修参加者数	26名
アンケート回答数	26件
アンケート回答率	100.0%

1. このセミナーは、これからのあなたのキャリアを考える上で役立つと思いますか。

	人数	%
とても役立つ	22	84.6
役に立つ	4	15.4
あまり役に立たない	-	-
合計	26	100.0

2. このセミナー全体の満足度は、いかがでしたか。

	人数	%
非常に満足した	23	88.5
満足した	3	11.5
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
合計	26	100.0

※主な感想

- ・ 同年代の方々、先輩方からたくさんの考えを聞き、自分の考えを深めることが出来ました。気付いたことも多くあったので、他の人にもこのセミナーを勧めたいと思いました。
- ・ 同じ大学生なのに、いろいろと行動に移していたり、社会について考えている方々がたくさんいて、自分も行動に移さなければと非常に刺激になりました。これから、1人の人間として意志を持って行動し、キャリアを形成していきたいと思います。遠方からの参加でしたが、時間とお金をかけて来た甲斐がありました。このような場を設けて下さりありがとうございました。
- ・ 新しい人とのつながりができて良かった。自分とは全く異なる考えを持つ人たちと話すことで自分も狭いところではなくもっと視野を広げていくことが大切だと思った。
- ・ 講座やグループワークだけでなく講師や他の参加者、職員さんからもキャリア面、私生活面…と幅広く学びを得られ、とても刺激になりました。また改めて自分の内面についても振り返られたのでとても良かったです。
- ・ 講師の方によるためになる話や質問ができたりと、近い距離でお話できて良かったです。また、友人もたくさん出来たので参加して本当に良かったです。
- ・ 2日目のグループワークを通して自分の気持ちをアウトプットしたことで新たな自分を見つけることができました。また、同じ不安や悩みをもった人達とのネットワークをもったことで一人じゃないということが分かり、どんどん挑戦していこうと思いました。

3. 各プログラムの内容について

講演「キャリアを考えることは人生を考えること」

	人数	%	※%	※%
非常に満足した	18	69.2	72.0	100.0
満足した	7	26.9	28.0	
少し物足りなかった	-	-	-	-
物足りなかった	-	-	-	-
参加していない	1	3.8		
合計	26	100.0	100.0	100.0

※%は「参加していない」を除いた場合

※主な感想

- ・ ルーシー先生の様々な実体験を通して得られたリアルな意見、すごくおもしろく学ぶ事ができました。
- ・ 51%のやりたさ、先例がなければ自分でつくるといったみんなの心に残ることばを多くいただきました。
- ・ 自分のアイデンティティ、相手の異なる点を楽しむ事や海外出身の人から見た、日本・日本人や観光大国を目指していく上でのこれからの日本内の変化への話凄く勉強になりました。
- ・ 説明すること、言語化することで多様性を認めあう社会になれたらいいなど、そのために自分にできることをしたいなと思いました。

パネルディスカッション「先輩の声を聞く」

	人数	%
非常に満足した	22	84.6
満足した	4	15.4
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
参加していない	-	-
合計	26	100.0

※主な感想

- ・ 先輩方のリアルな体験を聞くことができ、スゴイ方々も最初からそうなのではなく、キャリアを形成しながら成長されていたことを知りました。
- ・ 51%やりたいならやるや、決断を下す際に気を付けている話や点と点をつなぐために今のうちに点をつくっていく等自分もこれから意識しようと思います。
- ・ 様々なキャリアの方から話をきくことで、働く女性でも職種や立場がちがえば、考え方もちがうことがわかっておもしろかったです。
- ・ 四人の講師の先生方のお話が、それぞれ「違い」があって、興味深かったです。キャリア形成には色々な形があることを学びました。

交流会(2/17)

	人数	%	※%	※%
非常に満足した	19	73.1	76.0	100.0
満足した	6	23.1	24.0	
少し物足りなかった	-	-	-	-
物足りなかった	-	-	-	-
参加しなかった	1	3.8		
無回答	-	-		
合計	26	100.0	100.0	100.0

※%「無回答」を除いた場合

※主な感想

- ・ もっとお話をききたい！と思った方々とお話が自由にできる時間があったのはすごく良かったです。
- ・ OGの方や他の学生さんとたくさん話せとても仲良くなれた！
- ・ 人生相談まで出来て、遠い存在だと思っていた人たちが身近なのが嬉しかった。
- ・ OGの方や同世代の方の考えていること、悩みがわかって共感してもらえたのが嬉しかった。

講義「働く女性を取り巻く環境」

	人数	%
非常に満足した	13	50.0
満足した	12	46.2
少し物足りなかった	1	3.8
物足りなかった	-	-
参加していない	-	-
合計	26	100.0

※主な感想

- ・ グラフや数値で具体的に説明されていて分かりやすかったです。
- ・ 働く女性の環境を理解したので、その環境に負けずキャリアを築きたいと思いました。
- ・ 出世もしたいし結婚、出産もしたい。女性だけの悩みがあり、考えなければいけないことがたくさんあると感じた。
- ・ 今の現状を知ることができました。分かりやすかったです。

グループワーク①②

	人数	%
非常に満足した	21	80.8
満足した	5	19.2
少し物足りなかった	-	-
物足りなかった	-	-
参加していない	-	-
合計	26	100.0

※主な感想

- ・ 話せる場だったのですごく楽しかったです！他の人の意見を取り入れて、成長していきたいです。
- ・ 自分について、深く知れる時間で自分の悩みに対してもグループの仲間の新しい視点をだしてもらって別視点が自分の中にもでき、自信が持てるようになりました。
- ・ アウトプットをすることで自分が今やるべきこと、できることが明確化できた。
- ・ 皆の勇気あふれるスピーチに感動しました。頑張れ～！私も頑張る～！と、心の中で叫びました。
- ・ 今まで、やったことのないGW法で、とてもインプット・アウトプットしやすかったです。

4. 「OG企画委員」希望

13名希望あり

5. このセミナーを受講するにあたりどのプログラムに一番期待していましたか。(複数回答可)

	人数
基調講演	11
パネルディスカッション	14
女性情報センター見学	1
交流会	9
講義	6
グループワーク	12
その他	-

☆ このセミナーを知ったきっかけ(複数回答)

	人数
チラシ・ポスター	9
会館ホームページ	1
facebook	-
大学の先生	5
大学の就職課支援課	-
過去の参加者	6
インターネット検索	-
情報誌	-
親から	2
その他	3

平成29年度「女性関連施設相談員研修」実施要項

- 1. 趣 旨** 女性関連施設の相談員を対象に、女性に対する暴力などの喫緊の課題解決を目指し、相談者への理解を深め、必要な知識・技能を習得するとともに、関係機関との連携促進を図るための研修を行います。複雑・多様化する悩みに男女共同参画の視点から適切に対応できる相談員の育成と業務の質の向上を図るための専門的・実践的研修です。
- 2. 主 催** 独立行政法人国立女性教育会館
- 3. 会 場** 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
TEL 0493-62-6724・6725
FAX 0493-62-6720
Eメールアドレス progdiv@nwec.jp
ホームページ URL <https://www.nwec.jp>
- 4. 期 日** 平成29年7月4日（火）～ 7月6日（木） 2泊3日
- 5. 参加者** 公私立の女性会館・女性センター、男女共同参画センター等の女性関連施設において相談業務に携わっている相談員
- 6. 定 員** 80名

7. 日 程 (各プログラムの間に10～15分の休憩があります。)

7/4 (火)	12:30 13:15 13:30 14:45 16:25 17:00 18:30 20:00									
				受付	開会	講義	講義	討議	チェックイン	情報交換会
7/5 (水)	9:00	10:00	11:30	13:00	14:45	17:15	19:00	20:00		
	講義	講義	昼食休憩	講義	分科会1	夕食	オプション			
7/6 (木)	9:00 11:05 11:45 12:00									
	分科会2	全体会	閉会							

8. 内 容

第1日 7月4日(火)

- (1) 開会 13:15～13:30
- ① 主催者あいさつ
 - ② オリエンテーション
- (2) 講義1「男女共同参画の視点に立った女性相談とは」 13:30～14:30
- 女性関連施設における相談業務の意義と役割について、理解を深めるとともに女性が抱える問題の支援の際に留意すべき点について学びます。
- 講 師 米田 弘枝 立正大学非常勤講師、臨床心理士
- (3) 講義2「女性相談の実態と支援に関する法知識」 14:45～16:15
- 実際によくある女性からの相談の事例などを交えながら、関係機関との連携の仕方や法的措置など、相談員として知っておくべき法知識を学びます。
- 講 師 馬場 望 くくな法律事務所弁護士、社会福祉士
- (4) グループ討議 16:25～17:00
- 参加者同士の自己紹介を行った後、研修に対するニーズや課題などについて、グループワークと討議を通じ、整理・共有します。
- 進 行 国立女性教育会館事業課専門職員
- (5) 情報交換会 18:30～20:00
- 相談業務における課題などの情報交換と参加者同士のネットワークづくりを行います。

第2日 7月5日(水)

- (6) 講義3「ストーカー事案の概要と被害防止のポイント」 9:00～9:45
- ストーカー事案の概要と被害防止のポイントについて、最新の情報を身に付けます。
- 講 師 加藤 邦明 埼玉県警察本部子ども女性安全対策課課長補佐
- (7) 講義4「相談者の背景にある問題を理解する～女性と貧困」 10:00～11:30
- なぜ女性は貧困に陥りやすいのか？女性を取り巻く貧困の現実と社会構造に目を向けつつ、支援の方策を考えます。
- 講 師 飯島 裕子 ノンフィクションライター、大学非常勤講師

**(8) 講義5 「相談員自身も大事にしながらトラウマを抱える相談者への
トラウマ・インフォームドな相談の受け方」** 13:00~14:30

性暴力やDV等、人間関係で傷ついてトラウマを抱えた相談者を、理解し支援していく「トラウマ・インフォームド・ケア」について学びながら、相談者側も大切にされる実践の在り方を考えます。

講師 熊谷 珠美 HEARTカウンセリングセンター代表
臨床心理士

(9) 分科会1 「課題別ケース検討」 14:45~17:15

課題を抱える当事者に対して実際にどのように支援をしていったらよいか、課題別コースに分かれて、講義とワークショップで学びます。

A：人間関係に関する相談者への支援

夫婦、子ども等の家族、職場や男女間など、人との関係性を巡る相談者の課題をどのように捉えて支援につなげるかについて学びます。

講師 田口 京子 ウィメンズカウンセリングいずみ代表

B：配偶者等からの暴力被害者への支援

配偶者等からの暴力被害について、相談員が理解しておくべき心理的・社会的な構造やその背景、相談者のエンパワーメントにつなげる支援理念と対応の仕方を学びます。

講師 直井 裕子 東京臨床心理士会 司法関連領域担当理事

C：ひとり親家庭の困難と相談者への支援

支援活動を通じて見えてきたひとり親家庭が直面している問題とその背景を踏まえ、相談者への支援の在り方を探ります。

講師 赤石 千衣子

特定非営利活動法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事長

●オプション・プログラム「ナイトウォーク」(自由参加) 19:00~20:00

国立女性教育会館敷地内を散策。マイナスイオンを浴び、日頃のストレスを解消し、心身のリフレッシュを図ります。

第3日 7月6日(木)

(10) 分科会2 「相談事業の展開と機関連携」 9:00~10:50

相談者の自立に向けた地域・機関連携について理解を深めるとともに、相談の在り方や相談者のエンパワーメントにつながる支援について、現在直面している課題とその解決に向けた意見交換を行い、今後の相談業務に役立つヒントを探ります。

A : DV防止基本計画からみる各機関との連携

講 師 日光市健康福祉部人権・男女共同参画課職員
母子・父子自立支援員兼婦人相談員

B : NPO法人の女性支援からみる団体・機関との連携

講 師 貝原 己代子 特定非営利活動法人さんかくナビ理事長

C : 男性のための相談の事業展開

講 師 静岡県男女共同参画課職員
静岡県相談員

(11) 全体会

11:05~11:45

分科会講師により分科会の様子や話し合われた内容の情報の共有化を図り、
これからの共通課題と今後の方向性について考えます。

コーディネーター 岸上 真巳

一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会
企画調整課チーフ

報告者 分科会2各コース登壇者

(12) 閉会

11:45~12:00

- ① アンケート記入・振り返り
- ② 主催者あいさつ

9. その他

- (1) 期間中、職員が撮影した写真を、事業記録や広報に使用することがあります。
あらかじめ御了承ください。
- (2) 研修の一環として、研修終了6か月後を目途にフォローアップ調査を実施します。
皆様の実際の職務に、研修成果がどのように役立てられているかを伺うものです。
今後、当会館が実施する事業を充実させていくための参考にさせていただきますので、
御協力のほどよろしくお願いいたします。

平成29年度「女性関連施設相談員研修」参加者概況

平成30年2月26日現在

1. 性別

	合計
女性	100
男性	2
合計	102

2. 年代

	女性	男性	合計
20代	5	—	5
30代	1	—	1
40代	27	1	28
50代	47	1	48
60代以上	17	—	17
合計	97	2	99

*無記入3名

3. 施設区分

	女性	男性	合計
公設公営	80	2	82
公設民営	13	—	13
民設民営	2	—	2
その他	4	—	4
合計	99	2	101

*無記入1名

4. オプションプログラム参加

	女性	男性	合計
①情報交換会	83	1	84
②ナイトウォーク	55	1	56

5. 5日(水)分科会1

	女性	男性	合計
A 人間関係に関する相談者への支援	31	—	31
B 配偶者等からの暴力被害者への支援	48	1	49
C ひとり親家族の困難と相談者への支援	19	—	19
不参加	2	1	3
合計	100	2	102

6. 6日(木)分科会2

	女性	男性	合計
A DV防止基本計画からみる各機関との連携	56	1	57
B NPO法人の女性支援からみる団体・機関との連携	23	—	23
C 男性のための相談の事業展開	15	—	15
不参加	4	1	5
合計	98	2	100

*講師2名

7. 日にち別参加者

	4(火)	5(水)	6(木)
参加	99	102	95
不参加	2	—	5
計	102	102	100

*講師2名

8. 地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計	割合
北海道・東北	11	1	12	11.8
関東	35	1	36	35.3
甲信越	4	—	4	3.9
北陸・東海	15	—	15	14.7
近畿	5	—	5	4.9
中国・四国	11	—	11	10.8
九州・沖縄	19	—	19	18.6
合計	100	2	102	100

定員: 80

申込者数: 105

参加者数: 102

応募倍率: 131.3%

9. 都道府県別

	女性	男性	合計
北海道・東北	北海道	—	—
	青森県	1	—
	岩手県	—	—
	宮城県	3	—
	秋田県	1	—
	山形県	1	—
関東	福島県	5	1
	茨城県	5	—
	栃木県	9	—
	群馬県	6	—
	埼玉県	5	1
	千葉県	3	—
	東京都	5	—
神奈川県	2	—	
甲信越	山梨県	1	—
	新潟県	2	—
	長野県	1	—
北陸・東海	富山県	1	—
	石川県	—	—
	福井県	2	—
	岐阜県	4	—
	静岡県	3	—
	愛知県	3	—
	三重県	2	—
近畿	滋賀県	—	—
	京都府	—	—
	大阪府	3	—
	兵庫県	1	—
	奈良県	1	—
中国・四国	和歌山県	—	—
	鳥取県	1	—
	島根県	3	—
	岡山県	2	—
	広島県	—	—
	山口県	4	—
	徳島県	—	—
	香川県	—	—
	愛媛県	1	—
	高知県	—	—
九州・沖縄	福岡県	4	—
	佐賀県	2	—
	長崎県	4	—
	熊本県	1	—
	大分県	4	—
	宮崎県	2	—
九州・沖縄	鹿児島県	1	—
	沖縄県	1	—
合計	100	2	102

10. 参加歴

	初めて	1回	2回	3回以上
	85	14	1	2

平成29年度「女性関連施設相談員研修」参加者アンケート 集計結果

参加者 102名
 回答者 98名
 回収率 96.1%
 (※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

1. 各プログラムについて

(1) 講義「男女共同参画の視点に立った女性相談とは」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	52	53.1	55.3	98.9
有用	41	41.8	43.6	
あまり有用でない	1	1.0	1.1	1.1
有用でない	-	-	-	
不参加	3	3.1		
無回答	1	1.0		
合計	98	100.0	100.0	100.0

(2) 講義「女性相談の実態と支援に関する法知識」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	69	70.4	72.0	99.0
有用	26	26.5	27.1	
あまり有用でない	1	1.0	1.0	1.0
有用でない	-	-	-	
不参加	2	2.0		
無回答	-	-		
合計	98	100.0	100.0	100.0

(3) グループ討議

	人数	%	※%	※%
非常に有用	36	36.7	39.1	94.6
有用	51	52.1	55.5	
あまり有用でない	5	5.1	5.4	5.4
有用でない	-	-	-	
不参加	2	2.0		
無回答	4	4.1		
合計	98	100.0	100.0	100.0

(4) 講義「ストーカー事案の概要と被害防止のポイント」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	58	59.1	59.1	96.9
有用	37	37.8	37.8	
あまり有用でない	3	3.1	3.1	3.1
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	98	100.0	100.0	100.0

(5) 講義「相談者の背景にある問題を理解する～女性と貧困」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	54	55.1	55.7	96.9
有用	40	40.8	41.2	
あまり有用でない	3	3.1	3.1	3.1
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	1	1.0		
合計	98	100.0	100.0	100.0

(6) 講義「相談員自身も大事にしながらトラウマを抱える相談者へのトラウマ・インフォームドな相談の受け方」

	人数	%	※%	※%
非常に有用	73	74.6	76.8	98.9
有用	21	21.4	22.1	
あまり有用でない	1	1.0	1.1	1.1
有用でない	-	-	-	
不参加	1	1.0		
無回答	2	2.0		
合計	98	100.0	100.0	100.0

(7) 分科会1「課題別ケース検討」

A: 人間関係に関する相談者への支援

	人数	%	※%	※%
非常に有用	16	55.3	57.1	96.4
有用	11	37.9	39.3	
あまり有用でない	1	3.4	3.6	3.6
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	1	3.4		
合計	29	100.0	100.0	100.0

B: 配偶者等からの暴力被害者への支援

	人数	%	※%	※%
非常に有用	35	72.8	77.8	97.8
有用	9	18.8	20.0	
あまり有用でない	1	2.1	2.2	2.2
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	3	6.3		
合計	48	100.0	100.0	100.0

C: ひとり親家庭の困難と相談者への支援

	人数	%	※%	※%
非常に有用	13	72.2	72.2	100.0
有用	5	27.8	27.8	
あまり有用でない	-	-	-	
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	-	-		
合計	18	100.0	100.0	100.0

(8) 分科会2「相談事業の展開と機関連携」

A: DV防止基本計画からみる各機関との連携

	人数	%	※%	※%
非常に有用	46	83.7	86.8	100.0
有用	7	12.7	13.2	
あまり有用でない	-	-	-	
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-		
無回答	2	3.6		
合計	55	100.0	100.0	100.0

B: NPO法人の女性支援からみる団体・機関との連携

	人数	%	※%	※%
非常に有用	15	65.3	68.2	100.0
有用	7	30.4	31.8	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-	-	-
無回答	1	4.3	-	
合計	23	100.0	100.0	100.0

C: 男性のための相談の事業展開

	人数	%	※%	※%
非常に有用	10	66.7	66.7	100.0
有用	5	33.3	33.3	
あまり有用でない	-	-	-	-
有用でない	-	-	-	
不参加	-	-	-	-
無回答	-	-	-	
合計	15	100.0	100.0	100.0

(9)全体会

	人数	%	※%	※%
非常に有用	41	41.9	55.4	97.3
有用	31	31.7	41.9	
あまり有用でない	2	2.0	2.7	2.7
有用でない	-	-	-	
不参加	2	2.0	-	-
無回答	22	22.4	-	
合計	98	100.0	100.0	100.0

2. 研修全体について

(1)満足度

	人数	%	※%	※%
非常に満足	63	64.3	67.7	97.8
満足	28	28.6	30.1	
少し物足りない	2	2.0	2.2	2.2
物足りない	-	-	-	
無回答	5	5.1	-	-
合計	98	100.0	100.0	

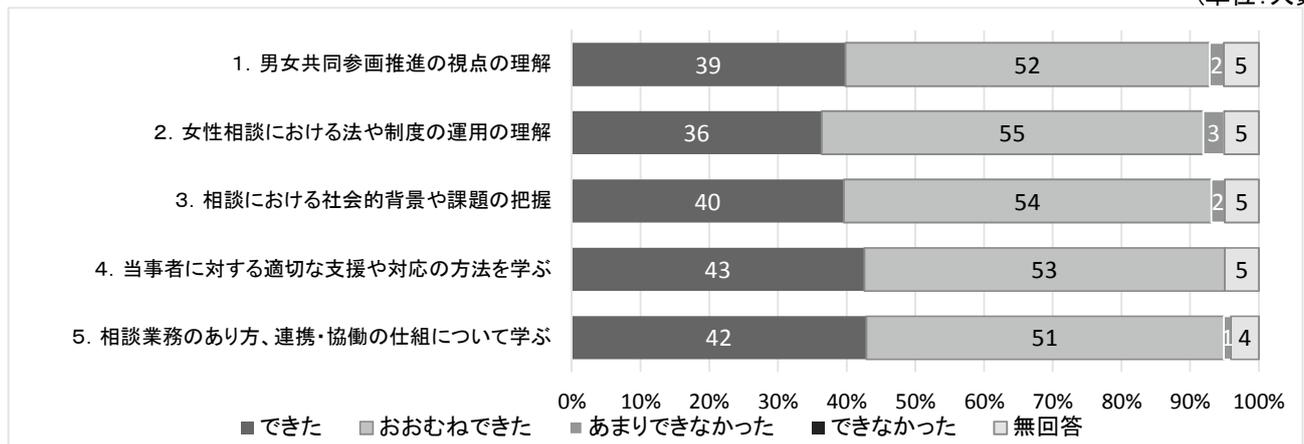
<意見・感想等>

「非常に満足」の理由

- ・ 全ての講義の講師の皆様の女性相談への熱意が伝わってきました。目の前の仕事に必死になり、大変大変と口にするようになっていた6年目ですが、リフレッシュできました。全国には自分と同じように女性相談に関わっている方々がこんなに大勢いらして、同じような思いをしている事を知り、今は、自分が出来る事をひたすらやっと思いえた研修だったからです。
- ・ 女性の支援に関して、ここまでまとめ上がった研修は他にありません。何と云っても、全国の相談員と濃密にかかわれるのが貴重な経験です。今年も参加させていただき、本当にありがとうございました。
- ・ 研修に参加して本当によかった。皆さんと共有できることが何よりでした。最新情報をたくさん得ました。今まで見えてなかったことがわかり大収穫となりました。今後の相談業務に役立てたい、必ず役に立つと思いました。
- ・ これまで数多くの研修を受けました(自費含む)。被害者の相談支援することは、相談員自身のセルフ・マネジメントをうまくできることが、より良い相談支援につながるということが、ストンと気持ちにおりました。これまでの研修では、全く受けることができてなかった感覚です。私が疑問に感じていた、偏ったフェミニズムによる相談支援の在り方が、払拭されました。感謝!!

3. 研修の達成度について

(単位:人数)



平成29年度「女性関連施設相談員研修」フォローアップ調査集計結果

2018年2月20日

●回答者について

参加者数	102名
フォローアップ対象者	102名
回答者数	94名
無効回答者数	1名(退職のため回答不能)
回収率	93.1%

1 研修の成果はあなたの仕事や活動に役立ちましたか

	件数	%
a. 非常に役立った	67	71.3
b. 役立った	27	28.7
c. あまり役立たなかった	-	-
d. 役立たなかった	-	-
合計	94	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
94	100.0

2 研修の成果を普及・活用した方法について(複数回答)

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (94名中)	件数	% (67名中)	件数	% (27名中)
相談者の背景について理解が増した	72	76.6	51	76.1%	21	77.8%
相談を受ける上でのスキル向上した	72	76.6	51	76.1%	21	77.8%
自身の2次受傷への対応力が高まった	46	48.9	36	53.7%	10	37.0%
研修成果を活用した勉強会・研修会を開催した	11	11.7	9	13.4%	2	7.4%
所属組織の体制づくり・整備への提言を行った	9	9.6	6	9.0%	3	11.1%
来年度の事業・予算に反映できた	2	2.1	1	1.5%	1	3.7%
事業の企画・実施に役立った	4	4.3	3	4.5%	1	3.7%
研修会で築いたネットワークが活用できた	20	21.3	17	25.4%	3	11.1%
その他	5	5.3	4	6.0%	1	3.7%

(表中のa、bは、設問1におけるプラス回答者の件数)



平成29年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」実施要項

- 1. 趣 旨** テーマ：「多様な人材を生かす大学の組織改革と新しいリーダーシップ」
 経営戦略として男女共同参画推進を位置づけ、各機関や地域の特色を踏まえた大学等の学内環境整備や次世代育成に対する取組は徐々に浸透しつつあります。本セミナーでは、男女共同参画推進をとりまく状況と高等教育機関が進むべき方向について、学内で男女共同参画推進に携わる教員・職員を対象に専門的・実践的な研修を行います。
- 2. 主 催** 独立行政法人国立女性教育会館
- 3. 後 援** 一般社団法人国立大学協会、一般社団法人公立大学協会、日本私立大学団体連合会、全国公立短期大学協会、日本私立短期大学協会、独立行政法人国立高等専門学校機構
- 4. 会 場** 1日目：筑波大学東京キャンパス文京校舎 134講義室
 〒112-0012 東京都文京区大塚3丁目29-1
 （最寄駅：東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅「出口1」より徒歩約5分）
 2日目：国立女性教育会館（NWEC）
 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728
 ※1日目のプログラム終了後、バスでNWECまで移動します。
- 5. 期 日** 平成29年11月30日（木）～12月1日（金） 1泊2日
- 6. 対象及び定員** 大学・短期大学・高等専門学校の男女共同参画に携わる教職員及び女性の採用、就労、入学、キャリア教育、就職に関わる総務・人事・入試・就職部門の教職員80名

7. 日 程（各プログラムの間に10～20分の休憩あり）

11/30 (木) 東京 会場	12:30		13:00	13:15	15:00	16:40	17:30	19:00(予定)	
		受付	開会	基調講演	パネル ディスカ ッション	情報提供	名刺交換会	バス 移動	チェ ック イン 夕食
12/1 (金) 埼玉 会場	9:00	10:00	12:00	13:00	14:30				
	情報提供	事例報告 と討議	昼食	講義	閉会				

※本セミナーは、WAW! 2017 シャイン・ウィークス
 公式サイドイベントです。



8. 内 容

第1日 11月30日(木)【東京・茗荷谷会場：筑波大学東京キャンパス文京校舎】

(1) 開会 13:00~13:15

- ①主催者あいさつ 内海 房子 国立女性教育会館理事長
②プログラムの趣旨説明 引間 紀江 国立女性教育会館事業課専門職員

(2) 基調講演「社会、組織、大学の男女共同参画は進化しているか」 13:15~14:45

男女共同参画基本計画の策定や監視専門調査会など、男女共同参画行政に長くかかわられた経験を基に、時代の変化とともにどのように男女平等が進化してきたのか、そして今後大学に求められる役割について提言をいただきます。

講 師：鹿嶋 敬 一般財団法人女性労働協会会長

(3) パネルディスカッション「多様な人材を生かす組織改革とリーダーシップ」

15:00~16:30

高等教育機関が研究力・教育力を高めていくためには、多様な人材が活躍できる自由闊達な職場の雰囲気をつくることが重要です。その「多様性」を生かしながら「働く場」としての大学の組織改革をどうすすめるのか、そのヒントを探ります。

パネリスト：平田 郁美 共愛学園前橋国際大学教授・前学長
藤木なほみ 国立高等専門学校機構男女共同参画推進室長
ロニー・アレキサンダー 神戸大学男女共同参画推進室長
コーディネーター：河野 銀子 山形大学学術研究院教授

(4) 情報提供「新入社員の意識調査から」 16:40~17:10

NWECが平成27年から行っている新入社員の追跡調査をもとに、大学時代から入社2年目にかけてのキャリア意識とその変化について紹介します。

講 師：島 直子 国立女性教育会館研究国際室研究員

※プログラム終了後17:30まで講師等を交えた名刺交換会を予定しております。

ネットワーク構築や情報交換の場としてご活用ください。

※名刺交換会終了後、NWECへバスで移動(約90分)、19時頃到着予定。

到着後チェックイン、夕食は会館内のレストラン「らん」でお取りいただけます。

第2日 12月1日(金)【埼玉・武蔵嵐山会場：国立女性教育会館】

(5) 情報提供「女性教育情報センター・女性アーカイブセンターの紹介」 9:00~9:40

女性教育情報センター及び女性アーカイブセンター特別展示「国立女性教育会館40周年展」の見学と解説など、大学等での男女共同参画推進に役立つNWECの情報機能の紹介です。

案 内：山崎 裕子 国立女性教育会館情報課情報係長(併) 専門職員
五十嵐裕一 国立女性教育会館情報課専門職員

(6) 事例報告と討議「経営戦略としての男女共同参画推進を考える」 10:00~12:00

大学における男女共同参画推進の主要なテーマから、特色ある事例報告を共有し、明日からの具体的な取組につながる知見を培います。

「大学活性化に向けた人材育成としての女性研究者支援」

報告者：長堀 紀子 北海道大学人材育成本部女性研究者支援室特任准教授

「芸術系大学におけるダイバーシティ推進」

報告者：海田 恭子 東京藝術大学ダイバーシティ推進室特任助教

「女性活躍インデックスの開発 —東洋大学男女共学100周年事業の取組—」

報告者：松原 聡 東洋大学副学長

(7) 講義「キャンパスハラスメントはなぜなくなるのか —効果的な防止策とは」

13:00~14:30

教員・職員・学生など、キャンパスの全ての構成員がいきいきと学び働く環境を整えることは大学等にとって基本的な使命であり、多様で優秀な人材がさらに活躍していくために必要な条件です。大学におけるあらゆるハラスメント防止に向け、実態とその特徴、法的責任と防止策について学びます。

講師：井口 博 弁護士

(8) アンケート記入・閉会

14:30~14:45

9. その他

(1) 研修参加者には、『実践ガイドブック 大学における男女共同参画の推進』（国立女性教育会館、2015年発行）をお一人1冊ずつ進呈します。

(2) 期間中、職員が撮影した写真を事業記録や広報のために使用することがあります。あらかじめ御了承ください。

平成29年度 大学等における男女共同参画推進セミナー
参加者概況

平成30年2月26日現在

1. 性別

	合計
女性	59
男性	27
合計	86

定員 80名
 申込者 93名
 ※内キャンセル 7名
 参加者 86名
 応募倍率 116.3%

2. 参加日別

	女性	男性	合計
全日程	31	17	48
30日のみ	23	6	29
1日のみ	5	4	9
合計	59	27	86

※所属別

	合計
国公立大学	39
私立大学	21
高専(国公立)	15
その他	11
合計	86

※職種別

	合計
教員系	23
職員系	59
その他	4
合計	86

※地域ブロック別参加者内訳

	女性	男性	合計
北海道・東北	7	6	13
関東	31	15	46
甲信越	—	—	—
北陸・東海	10	1	11
近畿	3	1	4
中国・四国	—	4	4
九州・沖縄	8	—	8
合計	59	27	86

3. 都道府県別

	女性	男性	合計	
北海道・東北	北海道	3	1	4
	青森県	—	2	2
	岩手県	2	2	4
	宮城県	2	—	2
	秋田県	—	—	—
	山形県	—	—	—
	福島県	—	1	1
関東	茨城県	3	—	3
	栃木県	1	—	1
	群馬県	1	3	4
	埼玉県	4	—	4
	千葉県	—	—	—
	東京都	19	12	31
	神奈川県	3	—	3
甲信越	山梨県	—	—	—
	新潟県	—	—	—
	長野県	—	—	—
北陸・東海	富山県	1	1	2
	石川県	—	—	—
	福井県	—	—	—
	岐阜県	3	—	3
	静岡県	2	—	2
	愛知県	2	—	2
	三重県	2	—	2
近畿	滋賀県	1	—	1
	京都府	—	1	1
	大阪府	—	—	—
	兵庫県	2	—	2
	奈良県	—	—	—
	和歌山県	—	—	—
中国・四国	鳥取県	—	1	1
	島根県	—	—	—
	岡山県	—	—	—
	広島県	—	2	2
	山口県	—	—	—
	徳島県	—	—	—
	香川県	—	—	—
	愛媛県	—	1	1
	高知県	—	—	—
九州・沖縄	福岡県	5	—	5
	佐賀県	—	—	—
	長崎県	—	—	—
	熊本県	—	—	—
	大分県	1	—	1
	宮崎県	—	—	—
	鹿児島県	—	—	—
	沖縄県	2	—	2
	合計	59	27	86

平成29年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」 参加者アンケート 集計結果

アンケート対象者数 86 名
 アンケート回答者数 78 名 (女性45名、男性24名、その他1名、性別不明8名)
 回答率 90.7 %

(※%は「不参加」、「無回答」を除いた割合)

1. セミナー全体の満足度について

	人数	%	※%	※%
非常に満足	30	38.5	48.4	100.0
満足	32	41.0	51.6	
少し物足りない	-	-	-	-
物足りない	-	-	-	-
無回答	16	20.5		
合計	78	100.0	100.0	100.0

<意見・感想等>

「非常に満足」の理由

- ・ 内容の濃い研修だった。ここで得たことを学内に持ち帰り、情報共有して進んでいきたい。
- ・ テーマ、講師ともに充実していた。時間的にももう少し長めにとってもらえると、より理解も深まると思う。
- ・ 今まで男女共同参画ということにあまり関心を持っていなかったが、今回のセミナーをきっかけに、このテーマについて改めて考えるきっかけになった。
- ・ 男女共同参画の歴史から現状、各先生方の意識・考えがわかって勉強になった。

「満足」の理由

- ・ 「男女共同参画推進」の目指すものの概要が理解できた。
- ・ 多様な講師の方々に、話題もよかった。

2. 各プログラムについて

(1)基調講演「社会、組織、大学の男女共同参画は進化しているか」

	人数	%	※%	※%
非常に満足	33	42.2	50.8	95.4
満足	29	37.2	44.6	
少し物足りなかった	2	2.6	3.1	4.6
物足りなかった	1	1.3	1.5	
不参加	11	14.1		
無回答	2	2.6		
合計	78	100.0	100.0	100.0

(2)パネルディスカッション「多様な人材を生かす組織改革とリーダーシップ」

	人数	%	※%	※%
非常に満足	22	28.2	32.4	76.5
満足	30	38.5	44.1	
少し物足りなかった	16	20.5	23.5	23.5
物足りなかった	-	-	-	
不参加	9	11.5		
無回答	1	1.3		
合計	78	100.0	100.0	100.0

(3)情報提供「新入社員の意識調査から」

	人数	%	※%	※%
非常に満足	20	25.6	31.7	87.3
満足	35	44.9	55.6	
少し物足りなかった	8	10.3	12.7	12.7
物足りなかった	-	-	-	
不参加	11	14.1		
無回答	4	5.1		
合計	78	100.0	100.0	100.0

(4)情報提供「女性教育情報センター・女性アーカイブセンターの紹介」

	人数	%	※%	※%
非常に満足	12	15.4	35.3	97.1
満足	21	26.9	61.8	
少し物足りなかった	1	1.3	2.9	2.9
物足りなかった	-	-	-	
不参加	43	55.1		
無回答	1	1.3		
合計	78	100.0	100.0	100.0

(5)事例報告と討議「経営戦略としての男女共同参画推進を考える」

	人数	%	※%	※%
非常に満足	24	30.8	49.0	89.8
満足	20	25.6	40.8	
少し物足りなかった	5	6.4	10.2	10.2
物足りなかった	-	-	-	
不参加	28	35.9		
無回答	1	1.3		
合計	78	100.0	100.0	100.0

(6)講義「キャンパスハラスメントはなぜなくなるのかー効果的な防止策とは」

	人数	%	※%	※%
非常に満足	28	35.9	57.1	89.8
満足	16	20.5	32.7	
少し物足りなかった	5	6.4	10.2	10.2
物足りなかった	-	-	-	
不参加	25	32.1		
無回答	4	5.1		
合計	78	100.0	100.0	100.0

3. その他 セミナー全体に対して

- ・ 初めてこのようなセミナーに参加し、情報共有の大切さを実感した。また、多大の取り組みに勇気づけられた。
- ・ 図書館が充実しており、興味深かった。気軽に来られないのが残念だが、パッケージ貸出に興味を持った。
- ・ 男女共同参画・ハラスメントの担当になり5か月。学外の事例を多数学べる機会はなかなかないので、大変有意義なセミナーだった。
- ・ 男性の年輩の方(教授クラス)に参加してもらうような取組が必要になるのではと感じた。
- ・ 大変有意義なセミナーだった。内容を少し減らして、じっくり討論や質疑ができるような工夫をするとよいのではないか。
- ・ 大学の中での男女共同参画推進というアジェンダは、関心度がまだまだ低いと感じており、貴重な機会であると感じる。
- ・ このセミナーで、日々の業務とつながる学びができた。
- ・ 全国各地の大学の方々とお話する機会があつて、よかった。
- ・ NWECが女子学生へのキャリア教育活動にも取り組んでいることを知り、大変参考になった。

平成29年度「大学等における男女共同参画推進セミナー」モニター調査集計結果

●回答者について

参加者数:86名

モニター調査数:20名

回答数:8名

1 このセミナーはあなたの仕事に役立っていますか

	件数	%
a. 非常に役立っている	5	62.5
b. 役立っている	3	37.5
c. あまり役立っていない	-	-
d. 役立っていない	-	-
合計	8	100.0

プラス評価者(a+b)	
件数	%
8	100.0

2 研修成果をどのように生かしていますか

	件数	%
自分の仕事に直接的に生かしている	6	75.0
自分の仕事には直接的生かしていないが、学内や関係部署が活用	1	12.5
自分の仕事には直接的生かしていないが、物の見方や考え方の参考にしている	1	12.5
役に立つこと、参考になることはない	-	-
合計	8	100.0

3 どのような場面でセミナーで学んだことを活用しましたか(複数回答)

内容	実績		プラス評価者の実績			
	合計		a		b	
	件数	% (8名中)	件数	% (5名中)	件数	% (3名中)
研修内容を職場に報告・説明	7	77.8	5	100.0	2	66.7
各種広報資料への執筆・公表	2	-	2	40.0	-	-
学内で勉強会・研修会を企画または開催	2	22.2	2	40.0	-	-
外部の勉強会・研修会に講師として登壇	1	-	1	20.0	-	-
所属組織のシステムや制度づくり、または整備	2	22.2	2	40.0	-	-
来年度事業・予算へ反映	1	-	1	20.0	-	-
参加者同士のネットワークづくり	5	55.6	4	80.0	-	-
その他	-	-	-	-	-	-
特に普及・活用していない	-	-	-	-	-	-

(表中のa、bは、設問1におけるプラス回答者の件数)

「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査」結果 ～パネル調査による入社 3 年目までの意識と実態～

独立行政法人国立女性教育会館

【お問い合わせ】

独立行政法人国立女性教育会館 研究国際室
〒 355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
電話 0493 (62) 6437 FAX 0493 (62) 9034
担当：島 直子 (shima@nwec.jp)

1. 調査の概要

1-1. 調査目的

新規学卒者が直面する職場環境は、その後の男女のキャリア形成やライフスタイルを左右する。また女性のキャリア意識を高め活躍を促進するためには、入社間もない時期から、成長を先取りさせる必要があるとされる。そこで独立行政法人国立女性教育会館では、初期キャリア期男女の意識や成長をとらえるため、平成 27 年に民間企業の正規職について新入社員（大学・大学院卒）を 5 年間追跡するパネル調査を実施している。平成 27 年に第一回調査、平成 28 年に第二回調査、平成 29 年に第三回調査を行った（実施月は毎年 10 月）。

※**パネル調査の利点**：「同一個人」に「同一質問」を繰り返し尋ねるため、人々が置かれている環境や意識などの「変化」と「変化の要因」について、精緻な検証が可能。

1-2. 調査内容

現在の就業状況、今後の希望・見通し、ライフプランなどに関する意識調査

1-3. 調査要領

①調査対象：第一回調査の対象は、調査協力企業 17 社に、平成 27 年に入社した新規学卒者（大学・大学院卒）2137 人（女性 836 人、男性 1301 人）。第二回以降の調査では、各調査実施時点で当該企業を退職している者は対象外。

企業 17 社は、正社員が 3000 人以上（10 社）、1000 人以上 2999 人以下（4 社）、800 人以上 999 人以下（3 社）の大企業で、金融業 1 社、建設業 1 社、コンサルタント業 1 社、サービス業 7 社、商社・卸業 1 社、通信・ソフト業 2 社、製造業 4 社（本社は東京 15 社、埼玉 1 社、大阪 1 社）。

②調査方法：WEB アンケート調査

③回 答 数：第一回調査（入社 1 年目）1260 人、回答率 58.9% ※有効回答数 1255 人（女性 474 人、男性 781 人）
第二回調査（入社 2 年目）979 人、回答率 50.7% ※有効回答数 975 人（女性 393 人、男性 582 人）
第三回調査（入社 3 年目）1092 人、回答率 59.8% ※有効回答数 1090 人（女性 409 人、男性 681 人）
※第二回・第三回調査では、各調査時点の退職者を調査対象から除外

2. 調査結果の公開

「第一回調査・第二回調査」報告書

<https://www.nwec.jp/about/publish/2016/ndpk5s0000005xg6.html>

「第三回調査」報告書

<https://www.nwec.jp/about/publish/2017/hqtuvq00000036tr.html>

3. 調査研究の実施体制

外部有識者及び国立女性教育会館研究国際室メンバーからなる「男女の初期キャリア形成と活躍推進に関する調査研究」検討委員会を組織し、調査研究を実施した。

<外部有識者> (五十音順、敬称略 肩書きは平成30年3月31日現在)

安齋 徹 (群馬県立女子大学教授) ※現職は目白大学教授

大槻 奈巳 (聖心女子大学教授・キャリアセンター長)

大山 瑞江 (日本経済団体連合会政治・社会本部主幹)

高見 具広 (労働政策研究・研修機構研究員)

永井 暁子 (日本女子大学准教授)

<国立女性教育会館>

中野 洋恵 (国立女性教育会館研究国際室長)

島 直子 (国立女性教育会館研究国際室研究員)

渡辺 美穂 (国立女性教育会館研究国際室研究員)

4. 入社3年目までの意識と実態 (概要)

○仕事満足度・成長実感・貢献意欲

男女ともに仕事満足度は年々低下するが、2年目から3年目にかけての低下は比較的緩やか。毎年、男性の方が「満足している」割合が多い(図1)。「担当業務を遂行するための知識・技能」の自己評価は男女ともに年々上昇するが、2年目以降は男性の方が高い(図2)。男女ともに、毎年7~8割が「企業目標への貢献」を意識しているが、男性の方が「あてはまる」割合が多い(図3)。

○転職希望

「3年間一貫して転職希望あり」は男女ともに2割。「3年間一貫して転職希望なし」は女性3.5割、男性3割(図4)。

■ 転職希望の背景

やりがいの低さ・能力不安、上司の育成熱意・訓練機会の少なさ、残業の多さ

「3年間一貫して転職希望あり」は「3年間一貫して転職希望なし」に比べて、男女ともに毎年、仕事にやりがいを感じられず(図5)、自分の能力で今の仕事を続けていけるか不安(図6)。また「上司が熱心に育ててくれる」(図7)、「教育・訓練の機会が充実している」と感じられず(図8)、残業頻度が多い(図9)。

○管理職希望

「3年間一貫して管理職希望あり」は女性3.5割、男性8割(図10)。

■ 「一貫・管理職希望 (=3年間一貫して管理職を希望)」女性と「管理職希望・喪失 (=1年目は管理職希望だが、2年目 or 3年目以降は希望なし)」女性の比較

やりがい・知識技能の自己評価、企画提案・残業頻度・リーダー適性観

1年目の仕事のやりがいや担当業務を遂行する知識・技能の自己評価、企画提案や残業頻度、リーダー適性観には比較的差がない。

管理職希望の有無がわかる3年目は、「管理職希望・喪失」女性の方が、やりがいや知識・技能の自己評価が低く、企画提案しておらず、残業頻度が多い。「リーダーには、女性より男性の方が向いている」を肯定する割合が比較的多い(図11~図15)。

■ 「一貫・管理職希望」女性と「一貫・管理職希望」男性の比較

知識技能の自己評価・求められる成長スピード・残業頻度

知識・技能の自己評価は、1年目は女性の方が、3年目は男性の方が高い(図16)。求められる成長スピードは、2年目は男女差があまりないが、3年目は男性の方が「早い」と感じている(図17)。残業頻度は1年目・3年目ともに男性の方が多く、3年目の方が男女差が大きい(図18)。

※結果数値(%)は表示している小数第一位未満を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならないことがある。

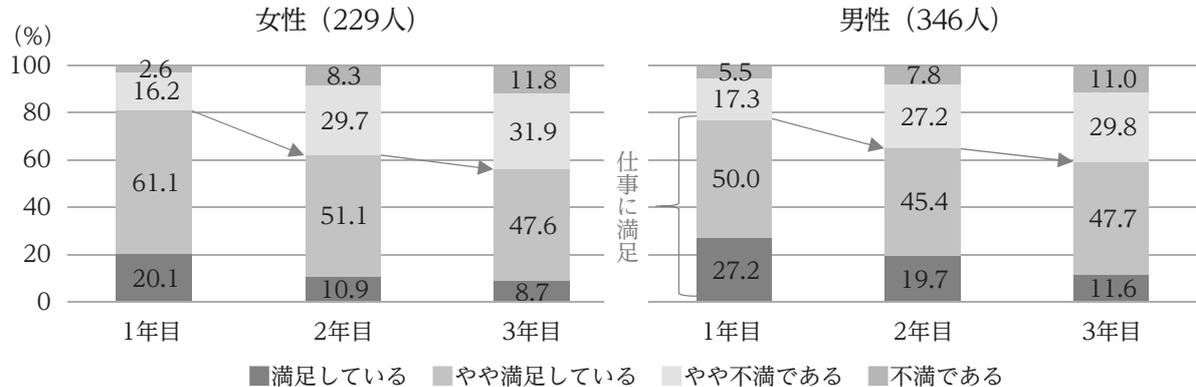
5. 入社3年目までの意識と実態（詳細）

5-1. 仕事満足度・成長実感・貢献意欲

※分析対象：入社1年目～3年目の全調査に回答した女性229人、男性346人

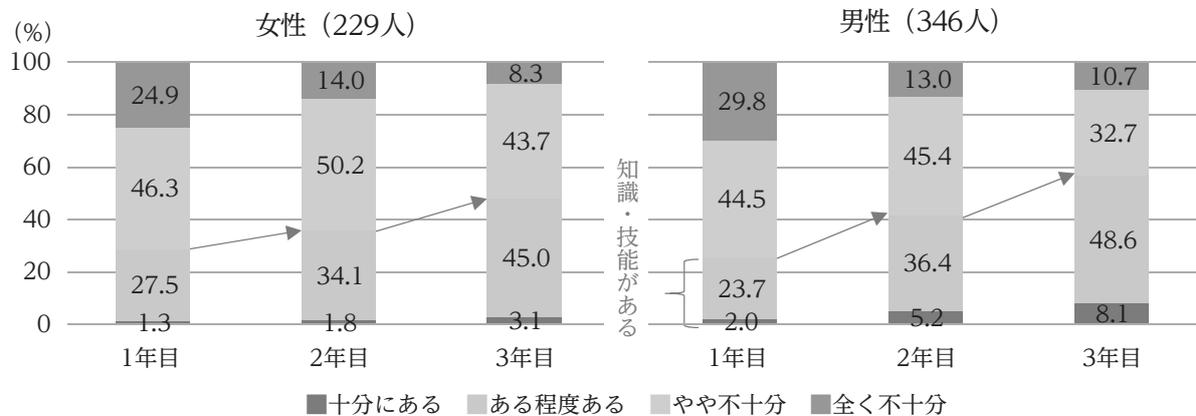
- 男女ともに満足度（＝「満足している」＋「やや満足している」）は年々低下するが、2年目から3年目にかけての低下は比較的緩やか。
毎年、男性の方が「満足している」割合が多い（図1）。

図1. 仕事満足度



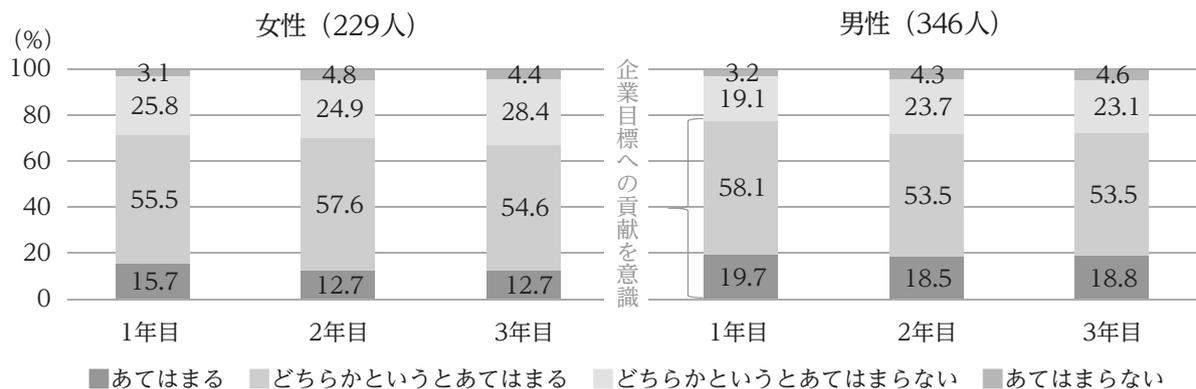
- 男女ともに、「担当業務を遂行するための知識・技能」の自己評価が年々上昇。
2年目以降は、男性の方が自己評価が高い（図2）。

図2. 担当業務を遂行するための知識・技能の自己評価



- 毎年7割～8割が「企業目標への貢献」を意識。
毎年、男性の方が「あてはまる」割合が多い（図3）。

図3. 企業目標に貢献することを意識して行動している

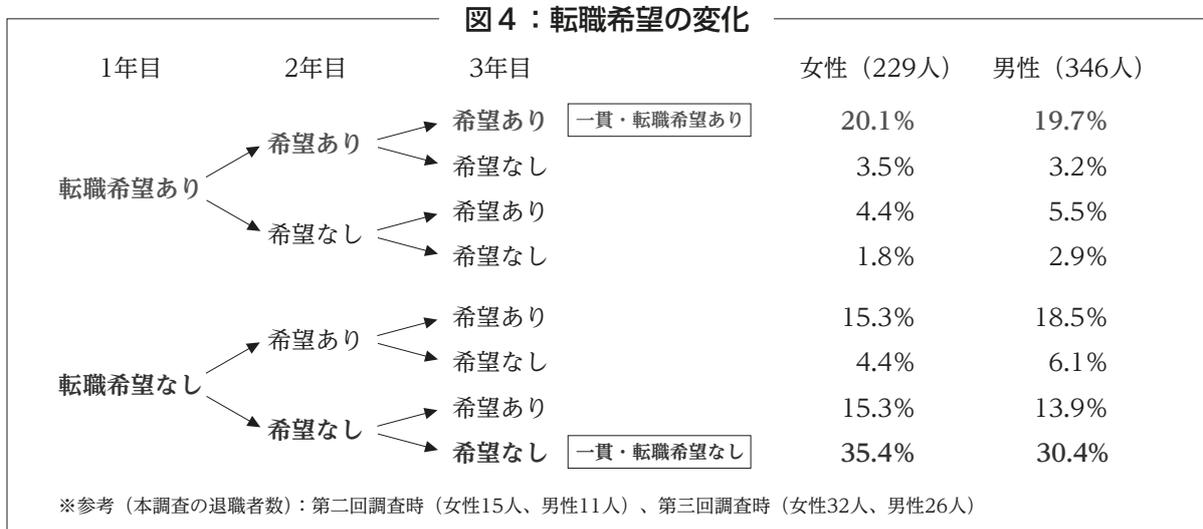


5-2. 転職希望

※分析対象：入社1年目～3年目の全調査に回答した女性229人、男性346人

転職希望の変化

一貫・転職希望あり：3年間一貫して「転職したい」 女性20.1%、男性19.7%
 一貫・転職希望なし：3年間一貫して「転職したい」と思わない 女性35.4%、男性30.4%



転職希望の背景：やりがいの低さ・能力不安

男女ともに、「一貫・転職希望あり」は「一貫・転職希望なし」に比べて、毎年やりがい感が低く（図5）、能力不安が高い（図6）。なお、「一貫・転職希望あり」では、能力不安が「あてはまる」が女性は増加、男性は低下（図6）。

図5：やりがいのある仕事をしている
 （「一貫・転職希望あり」と「一貫・転職希望なし」の比較・男女別）

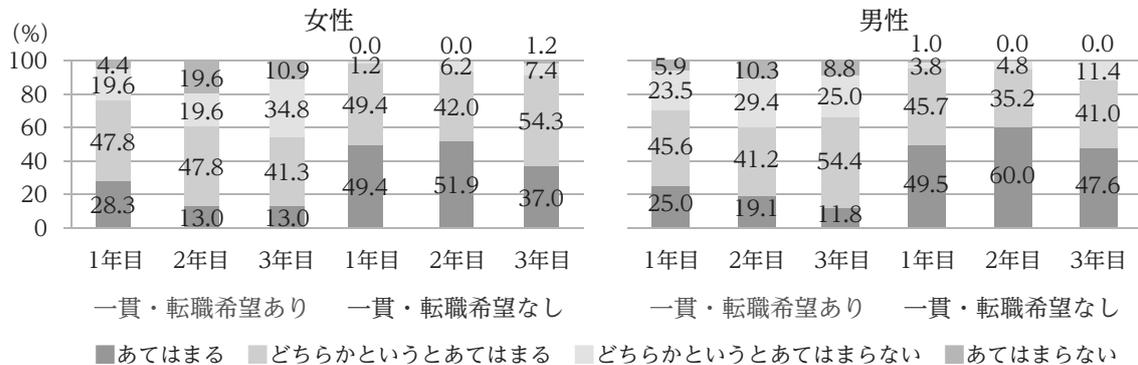
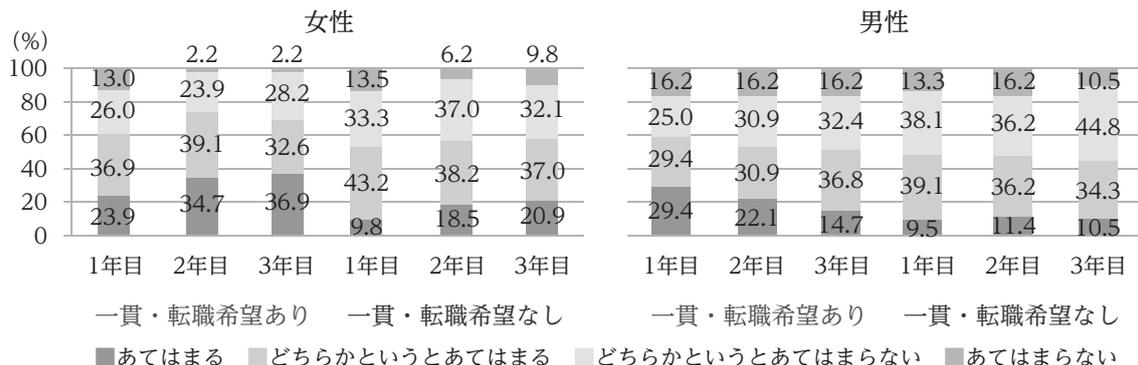


図6：自分の能力で今の仕事を続けていけるか不安である
 （「一貫・転職希望あり」と「一貫・転職希望なし」の比較・男女別）



転職希望の背景：上司の育成熱意・訓練機会の少なさ

男女ともに、「一貫・転職希望あり」は「一貫・転職希望なし」に比べて、毎年「上司の熱意」(図7)「教育・訓練機会」の評価が低い(図8)。なお、「上司の熱意」「教育・訓練機会」とともに、男性の方が「あてはまる」割合が多い傾向(図7・図8)

図7：上司はあなたの育成に熱心である
 (「一貫・転職希望あり」と「一貫・転職希望なし」の比較・男女別)

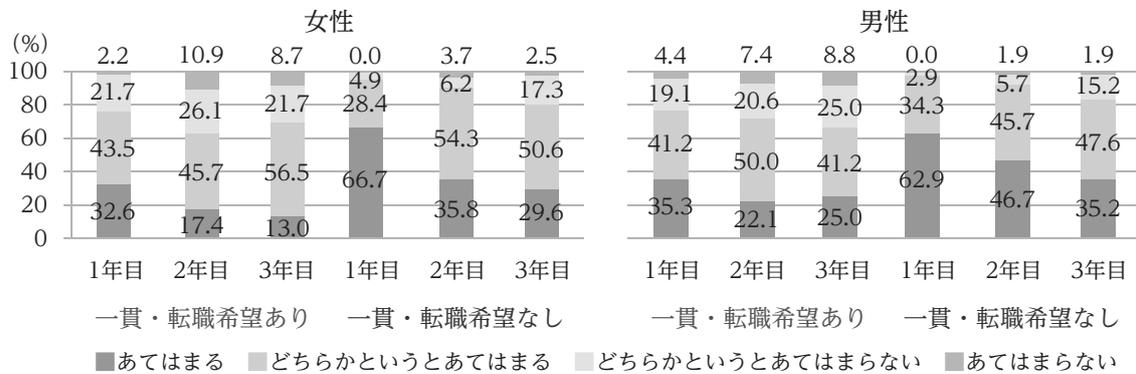
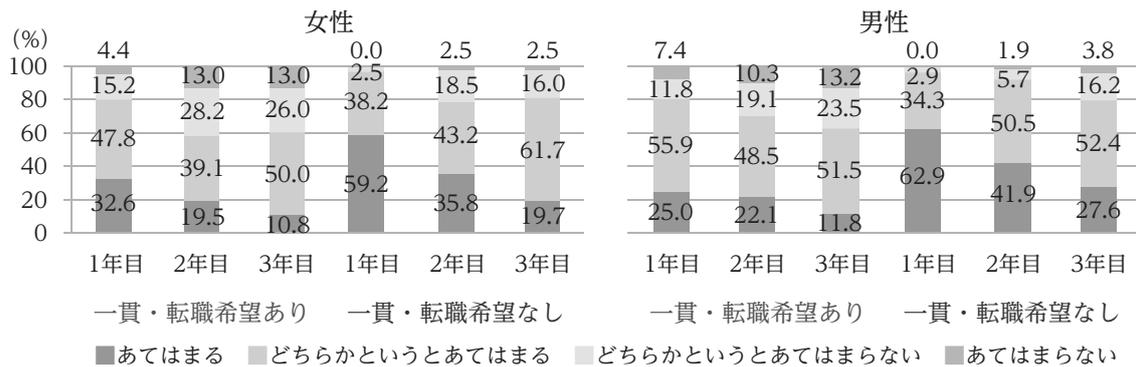


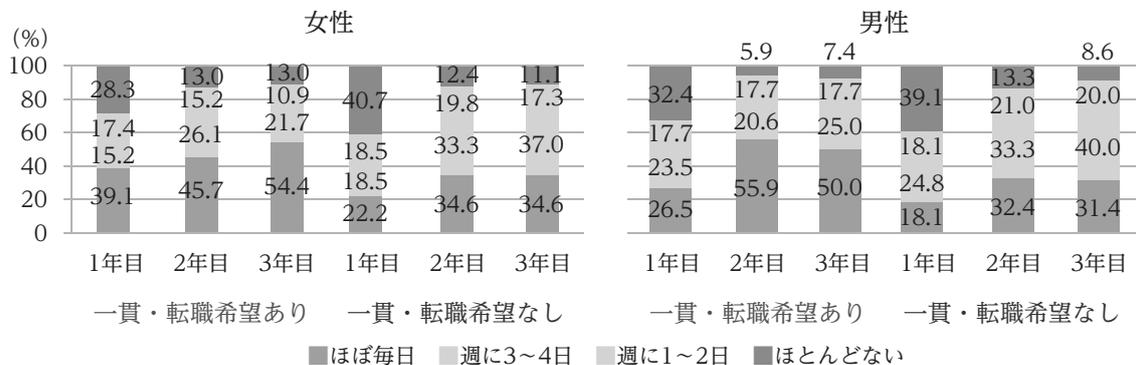
図8：職場では、仕事に必要な教育・訓練の機会が充実している
 (「一貫・転職希望あり」と「一貫・転職希望なし」の比較・男女別)



転職希望の背景：残業の多さ

男女ともに、「一貫・転職希望あり」は「一貫・転職希望なし」に比べて、毎年残業頻度が多い(図9)。

図9：残業頻度
 (「一貫・転職希望あり」と「一貫・転職希望なし」の比較・男女別)



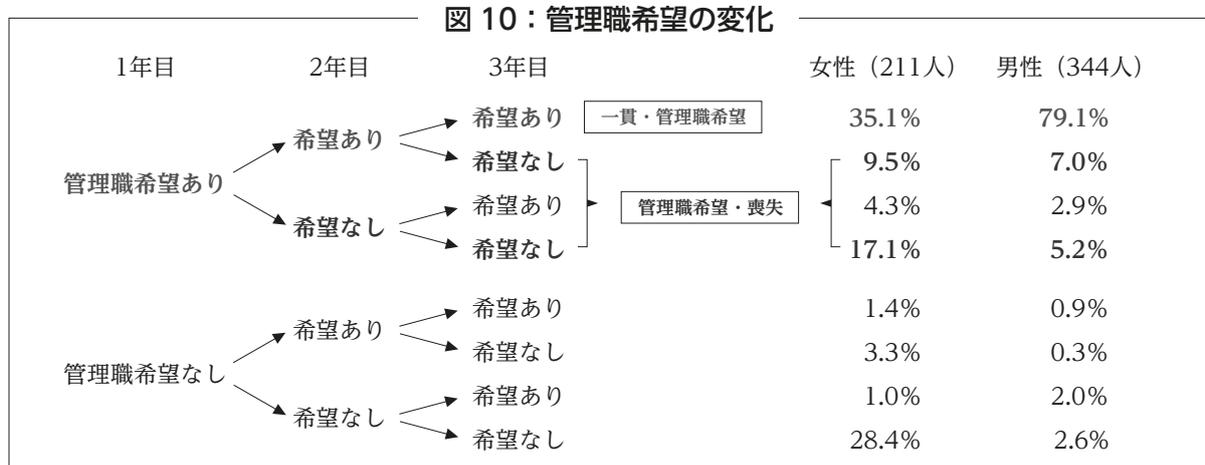
5-3. 管理職希望

※分析対象：入社1年目～3年目の全調査に回答した人から、「管理職になることが想定されていない職種である」を除いた女性211人、男性344人

管理職希望の変化

一貫・管理職希望：3年間一貫して「管理職をめざしたい」 女性35.1%、男性79.1%

管理職希望・喪失：1年目は「めざしたい」が、2年目or3年目以降は「めざしたくない」 女性26.6%、男性12.2%



●女性間の比較：「一貫・管理職希望」と「管理職希望・喪失」

やりがい・知識技能の自己評価

- 1年目は、仕事のやりがい（図11）や担当業務を遂行する知識・技能の自己評価（＝「十分にある」＋「ある程度ある」の割合）（図12）に比較的差がない。
- 管理職希望の有無がわかる3年目は、管理職希望を失った「管理職希望・喪失」の方が、やりがい（図11）や知識・技能の自己評価が低い（図12）。

図11：やりがいのある仕事をしている
 （「一貫・管理職希望」女性と「管理職希望・喪失」女性の比較）

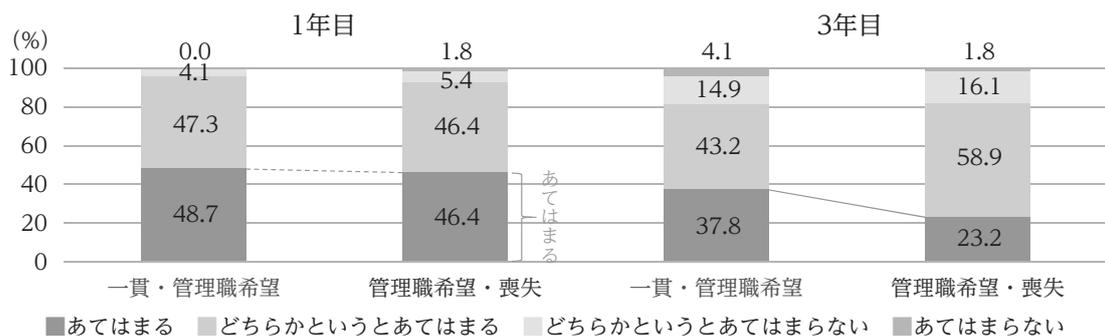
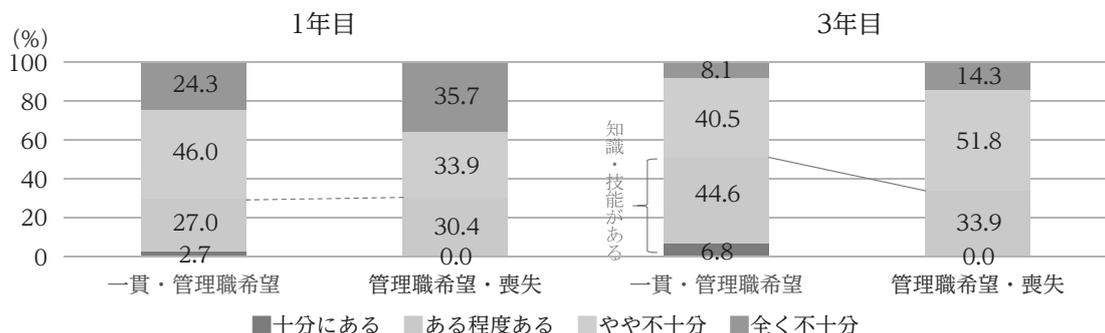


図12：担当業務を遂行するための知識・技能の自己評価
 （「一貫・管理職希望」女性と「管理職希望・喪失」女性の比較）



企画提案・残業頻度・リーダー適性観

- 1年目は、企画提案（＝「あてはまる」＋「どちらかというにあてはまる」の割合）（図13）や残業頻度（＝「ほぼ毎日」の割合）（図14）、リーダー適性観に比較的差がない（図15）。
- 管理職希望の有無がわかる3年目は、管理職希望を失った「管理職希望・喪失」の方が企画提案しておらず（図13）、残業頻度が多い（図14）。また「リーダーには、女性より男性の方が向いている」により肯定的なことから、より「男性の方がリーダーに向いている」と思う職場環境にあることが推測される（図15）。

図13：自分からアイデアや企画を提案している
（「一貫・管理職希望」女性と「管理職希望・喪失」女性の比較）

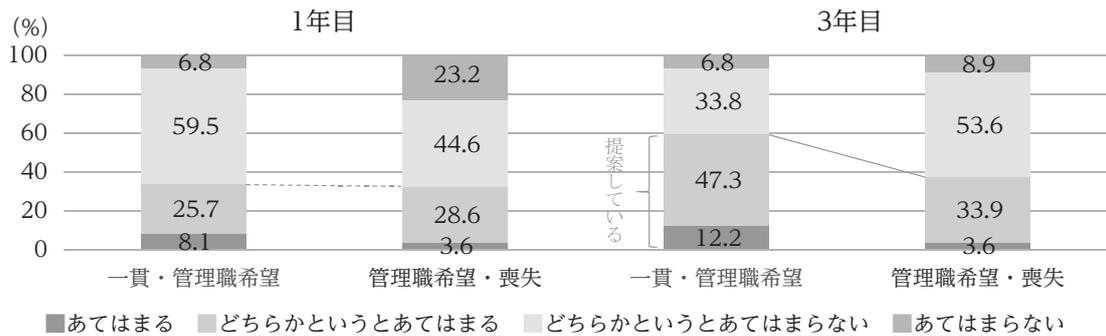


図14：残業頻度
（「一貫・管理職希望」女性と「管理職希望・喪失」女性の比較）

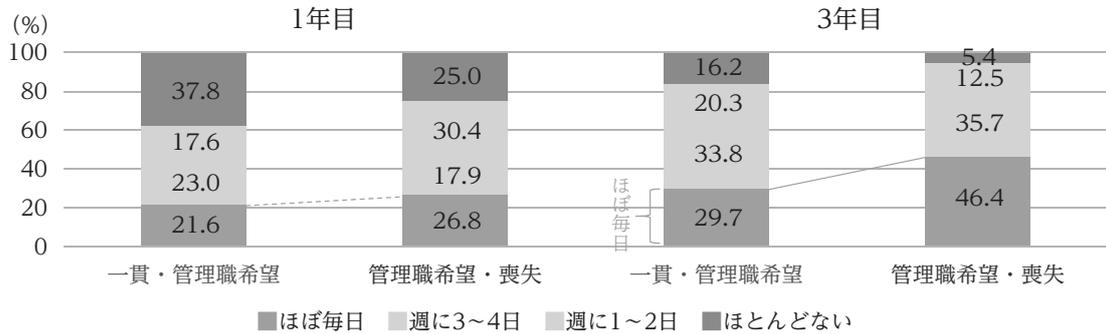
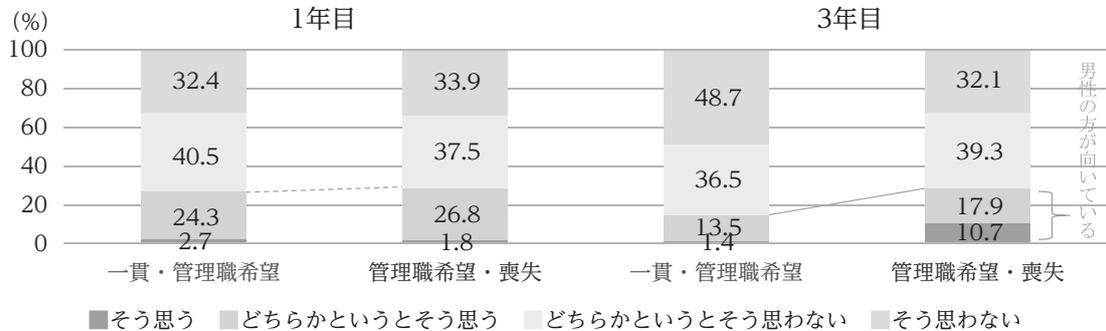


図15：リーダーには、女性より男性の方が向いている
（「一貫・管理職希望」女性と「管理職希望・喪失」女性の比較）



●男女間の比較：「一貫・管理職希望」

知識技能の自己評価・求められる成長スピード・残業頻度

○知識・技能の自己評価は、1年目は女性の方が、3年目は男性の方が高い（図16）。

○求められる成長スピードは、2年目は男女差があまりないが、3年目は男性の方が「早い」と感じている（図17）。

※1年目調査では「求められる成長スピード」について尋ねていないので、2年目と3年目の回答を比較

○残業頻度は1年目・3年目ともに男性の方が多いが、3年目は男女差がより大きい（図18）。

図16：担当業務を遂行するための知識・技能の自己評価
（「一貫・管理職希望」女性と「一貫・管理職希望」男性の比較）

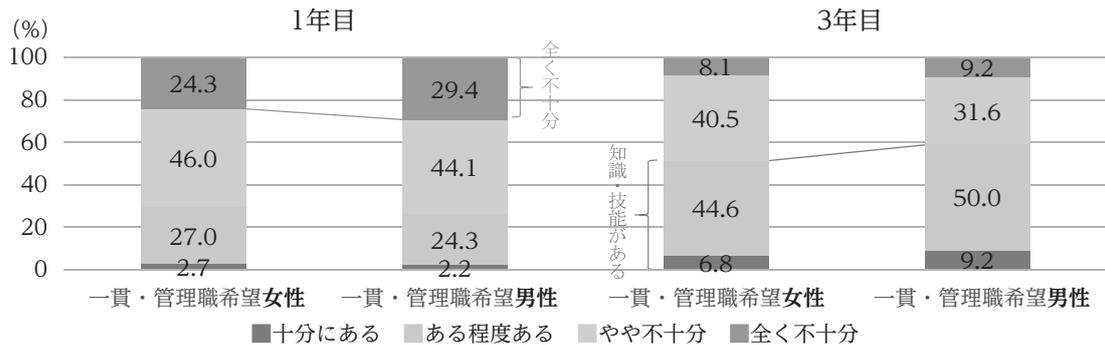


図17：求められる成長スピードが早い
（「一貫・管理職希望」女性と「一貫・管理職希望」男性の比較）

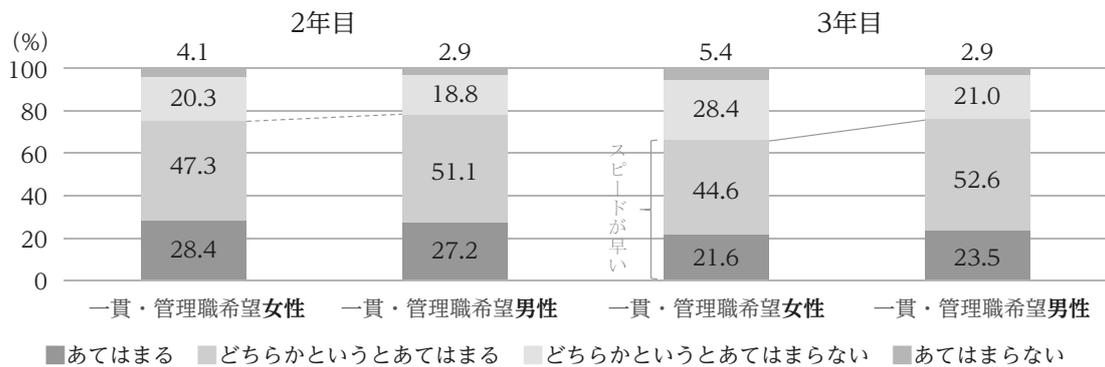
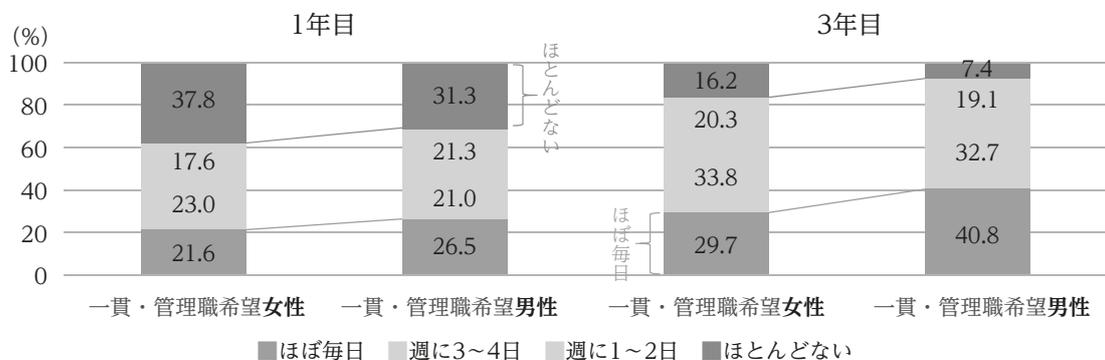


図18：残業頻度
（「一貫・管理職希望」女性と「一貫・管理職希望」男性の比較）



【お問い合わせ】

独立行政法人国立女性教育会館 研究国際室
室長 中野 洋恵
担当 飯島 絵理
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
電話 0493 (62) 6437 FAX 0493 (62) 9034
Eメール fellow@nwec.jp

* 調査結果については、下記 URL も合わせてご参照ください。
<https://www.nwec.jp/research/hqtuvq0000002ko2.html>

「学校教員のキャリアと生活に関する調査」結果の公表

調査の概要

1 調査の趣旨および目的

初等中等教育における女性教員は、教員全体に占める割合に比べて管理職に占める割合が極めて低く、学校経営や地域づくりにかかわる意思決定過程に必ずしも十分には参画できていない。本調査は、この問題に関連する男女教員の職場環境や管理職に関する意識、性別役割分担意識等の実態を明らかにすることを目的とする。得られた結果は、女性教員の管理職登用やキャリア形成のあり方、男女教員の働き方等、男女共同参画に係る課題の解決に向けた政策提言や研修に活かす。

2 調査名 「学校教員のキャリアと生活に関する調査」

3 調査対象 公立小学校・中学校本務教員

(ただし、養護教諭、栄養教諭、助教諭、講師、休職・育児休暇中の教員を除く)

4 調査方法 ウェブ調査（事前に都道府県・政令市教育委員会を通して対象校に協力を依頼した上で実施）

5 実施期間 平成 30 年 1 月 16 日～ 2 月 23 日

6 標本抽出方法

層化集落抽出法

校長の性別・都市規模・学校規模・教員数・女性教員割合を層として、平成 29 年度学校基本調査の個票データから小学校 1,500 校、中学校 1,500 校をそれぞれ抽出し、選ばれた学校の本務教員全員を対象とした。選ばれた学校に在籍する本務教員数は小学校 28,918 人、中学校 32,486 人※。

※調査対象外である休職・育児休業中の教員を含む

7 有効回答数

小学校教員有効回答数 11,602 人 (40.1%※) 女性 6,926 人 男性 4,676 人

中学校教員有効回答数 12,215 人 (37.6%※) 女性 5,143 人 男性 7,072 人

※在籍する本務教員数に対する有効回答数の割合

小学校回答数（一人でも回答した学校の数）1,163 校 (77.5%)

中学校回答数（一人でも回答した学校の数）1,211 校 (80.7%)

8 集計方法 回収されたデータにウェイトをつけて、全国レベルでの推定を可能としている。

調査結果のポイント

1 ○教員の94.3%は仕事にやりがいを感じ、教員の87.1%は、全体としてみれば、現在の仕事に満足している。

- ・『仕事にやりがいを感じる』に「あてはまる」「どちらかというにあてまはる」と回答した教員の割合は94.3%（女性94.8%、男性93.5%）であり、『全体としてみれば、現在の仕事に満足している』については87.1%（女性87.0%、男性87.4%）であった。
- ・『自分は児童生徒や学校のために貢献している』に「あてはまる」「どちらかというにあてまはる」と回答した教員の割合は92.9%（女性92.0%、男性94.0%）であり、『自分の持っている能力を十分に発揮できている』については83.9%（女性83.6%、男性84.3%）であった。
- ・管理職になって「とてもよかった」「どちらかというよかった」と回答した管理職の割合は91.6%（女性88.4%、男性92.3%）であり、校長（97.0%）のほうが副校長・教頭（86.7%）より割合は高かった。
- ・一方で『慢性的に疲れを感じている』に「あてはまる」「どちらかというにあてまはる」と回答した教員の割合は80.1%（女性85.1%、男性74.6%）であり、小学校（79.3%）と中学校（81.5%）のいずれにおいても女性教員（小学校84.3%、中学校87.0%）のほうが男性教員（小学校71.8%、中学校77.9%）より割合は高かった。

2 ○1日の平均在職場時間（休憩時間を含む）が12時間以上となる教員の割合は40.8%であり、小学校は36.2%、中学校は49.0%であった。特に副校長・教頭はその割合が他の職位より高く、小学校で74.5%、中学校で81.3%であった。
○中学校では女性教諭の15.6%、男性教諭の31.9%が「ほぼ全部の土日・祝日」仕事のために外出している。

- ・1日の平均在職場時間（休憩時間を含む）が12時間以上と回答した教員の割合は40.8%（女性36.5%、男性45.7%）であった。教諭では、その割合は男女とも中学校（女性43.9%、男性52.4%）のほうが小学校（女性32.5%、男性39.5%）より高かった。
- ・管理職のうち副校長・教頭は、1日の平均在職場時間が12時間以上となる割合が76.7%であり、他の職位（校長17.2%、主幹・指導教諭41.2%、教諭40.0%）より高かった。校種別にみると、その割合は小学校では74.5%（女性78.0%、男性73.5%）、中学校では81.3%（女性82.9%、男性81.1%）であった。
- ・中学校では、「ほぼ全部の土日・祝日」に学校の仕事のために外出している教諭の割合は24.7%（女性15.6%、男性31.9%）であり、「月に5～6回」も合わせると53.0%（女性36.2%、男性66.3%）と半数を超えていた。

3 ○子供が未就学から小学生の時期に、女性教員の79.4%は家事・育児等の半分以上を担っている（た）。男性教員ではその割合は3.5%であった。

- ・国民全体で見られる傾向と同様、家庭生活における役割については女性の負担が大きい。子供が未就学から小学生の時期に、家事・育児等を「ほとんどあなたがしている（した）」「半分以上はあなたがしている（した）」と回答した教員の割合は、女性は79.4%（校長81.9%、副校長・教頭82.8%、主幹・指導教諭79.8%、教諭79.2%）であり、男性の3.5%（校長1.5%、副校長・教頭1.8%、主幹・指導教諭4.8%、教諭4.1%）よりかなり高かった。

- 4
- 管理職になりたいと思う教員の割合は、女性 7.0%、男性 29.0%であった。
 - 管理職になりたくない理由としては「担任を持って子どもと接していきたい」の割合が最も高い。特に女性のほうが男性より割合が高い項目は、「責任が重くなると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」「自分にはその力量がない」「労働時間が増えると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」であった。
 - 「女性の管理職が増えるように考慮している」と思う管理職は 70.9%であった。
 - 約半数の管理職が、育児や介護等を担う教員には管理職になるための試験や研修を勧めにくいとしている。
 - 管理職になった理由としては「やりがいのある仕事ができると思ったから」の割合が最も高い。女性管理職は「所属長の薦めを受けたから」の割合が最も高く、また男性管理職の割合より高かった。

- ・将来、管理職に「ぜひなりたい」「できればなりたい」と回答した教員の割合は、女性（7.0%）のほうが男性（29.0%）より低かった。
- ・管理職になりたくない理由としては「担任を持って子どもと接していきたい」（63.5%）、「自分にはその力量がない」（61.2%）、「現在の仕事に満足している」（55.7%）の割合が高い。特に女性のほうが男性より割合が高い項目は「責任が重くなると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」（女性 51.5%、男性 34.9%）、「自分にはその力量がない」（女性 66.9%、男性 51.5%）、「労働時間が増えると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」（女性 48.4%、男性 38.1%）であった。
- ・『女性の管理職が増えるように考慮している』に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した管理職の割合は 70.9%であった。
- ・一方で、『育児や介護等の家庭の負担を担っている女性教員には、管理職になるための試験の受験や研修等を勧めにくい』に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した管理職の割合は 54.8%であった。同様の状況にある『男性教員』に対しては 46.5%であった。
- ・管理職になった理由としては「やりがいのある仕事ができると思ったから」（75.3%）、「所属長の薦めを受けたから」（65.7%）、「学校経営に関心があったから」（57.5%）の割合が高い。女性管理職（76.2%）は「所属長の薦めを受けたから」の割合が最も高く、また男性管理職（63.5%）の割合より高かった。

- 5
- 「男性のほうが女性より管理職に向いている」と「思わない」教員の割合は 74.2%、「思う」教員の割合は 25.7%であった。
 - 年齢が若いほど「男性のほうが女性より管理職に向いている」と考える傾向にある。

- ・『男性のほうが女性より管理職に向いている』に「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した教員の割合は 74.2%であった。一方、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は 25.7%であり、女性（29.7%）のほうが男性（21.3%）より割合はやや高い。若い教員ほどその割合が高く、女性（20代 34.2%、30代 32.3%、40代 30.5%、50代 25.1%）によりその傾向が見られる。
- ・『理数系の教科は、男子児童生徒のほうが能力が高い』に「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した教員の割合は 77.2%であった。一方、「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合は 22.8%であり、女性（25.6%）のほうが男性（19.7%）より割合はやや高い。さらに女性（20代 31.8%、30代 26.9%、40代 25.2%、50代 21.7%）と男性（20代 27.2%、30代 24.9%、40代 16.3%、50代 15.0%）のいずれにおいても、若い教員ほど割合が高い傾向にある。

調査結果の概要

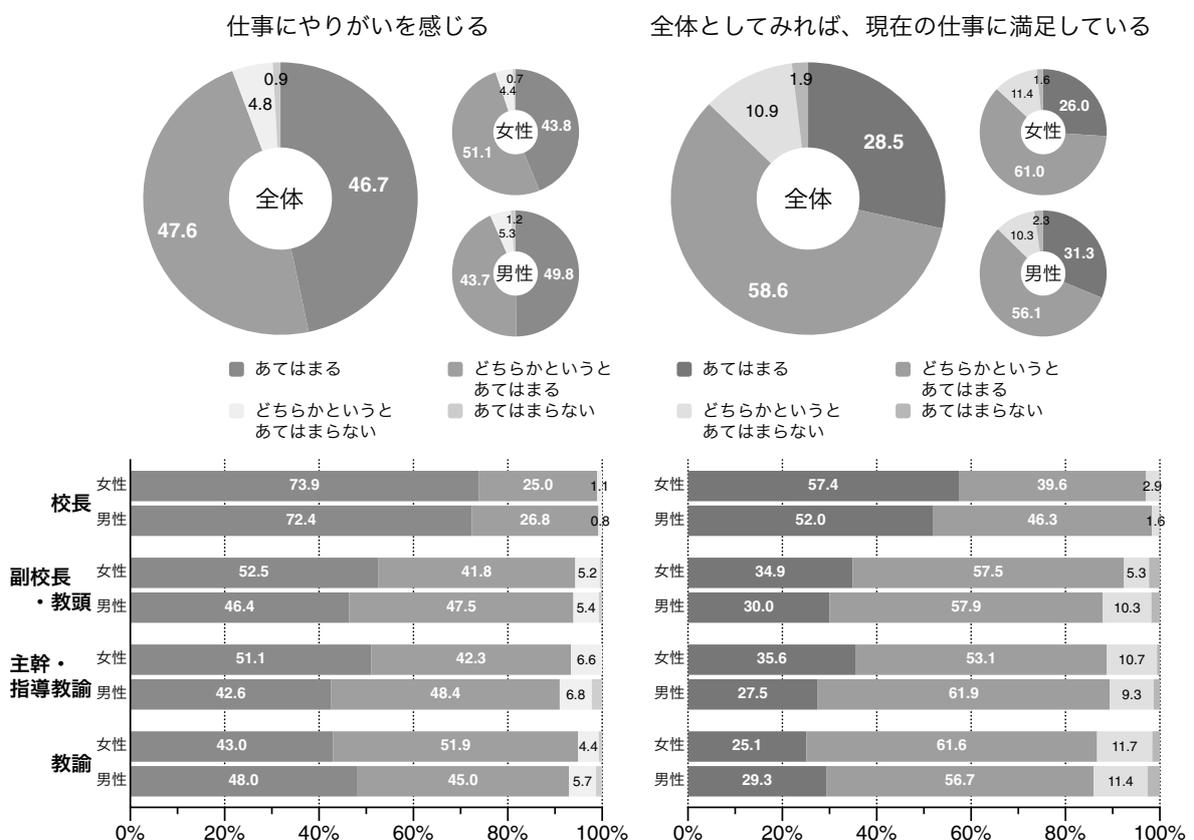
1 やりがい・満足度、自己効力感、疲労感

(1) やりがい・満足度

仕事に対するやりがいや満足度は総じて高い。『仕事にやりがいを感じる』の項目について、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合は、94.3%（女性94.8%、男性93.5%）で男女とも9割を超える。『全体としてみれば、現在の仕事に満足している』の項目についても、87.1%（女性87.0%、男性87.4%）と8割を超える。

職位別に見ると、やりがいと満足度について、男女ともに校長は他の職位に比べて「あてはまる」の占める割合が高い（やりがい：女性校長73.9%、女性副校長・教頭52.5%。男性校長72.4%、男性副校長・教頭46.4%。満足度：女性校長57.4%、女性副校長・教頭34.9%。男性校長52.0%、男性副校長・教頭30.0%）。

図1 「仕事にやりがいを感じる」「全体としてみれば、現在の仕事に満足している」

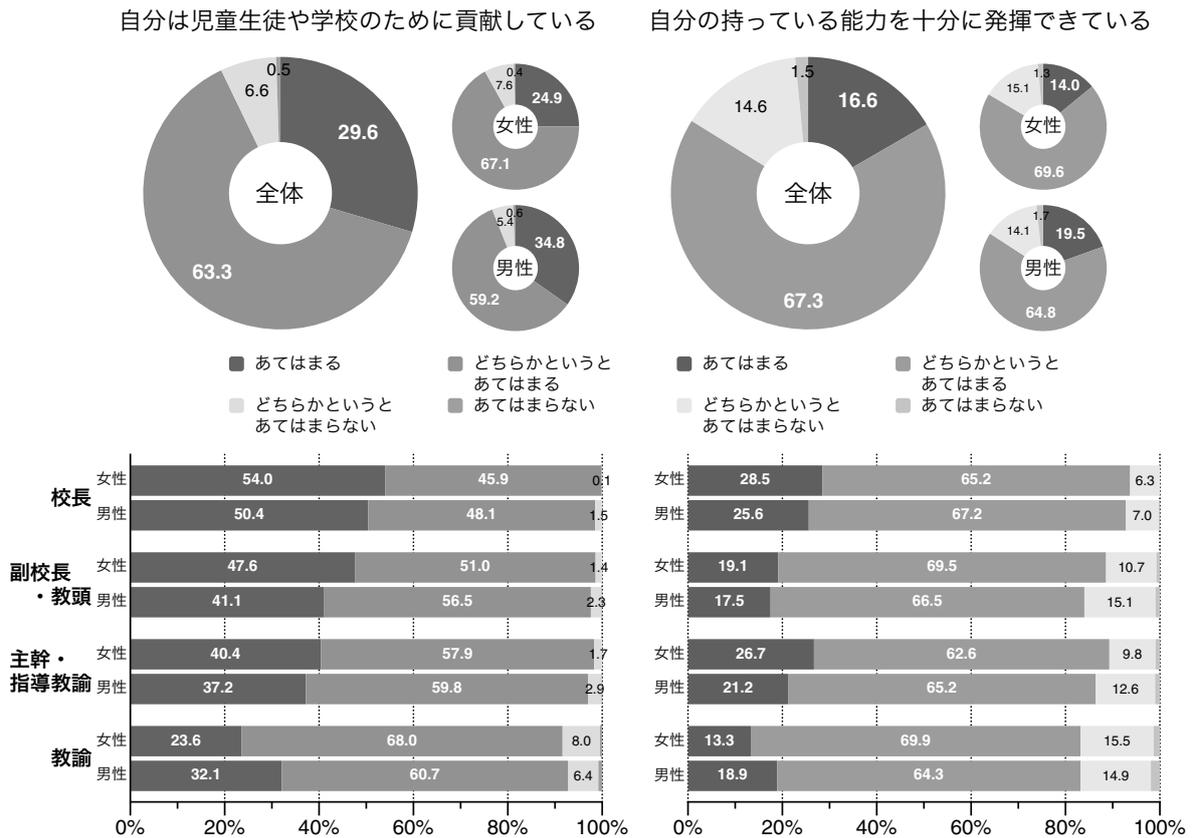


(2) 自己効力感

貢献度や能力発揮についての自己効力感は総じて高い。『自分は児童生徒や学校のために貢献している』の項目に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合は男女とも高く、女性教員は92.0%、男性教員は94.0%である。『自分の持っている能力を十分に発揮できている』の項目も、女性教員は83.6%、男性教員は84.3%と高い。

職位別に見ると、男女ともに校長は他の職位に比べて「あてはまる」の占める割合が高い。（貢献度：女性校長54.0%、女性副校長・教頭47.6%。男性校長50.4%、男性副校長・教頭41.1%。能力発揮：女性校長28.5%、女性副校長・教頭19.1%。男性校長25.6%、男性副校長・教頭17.5%）。

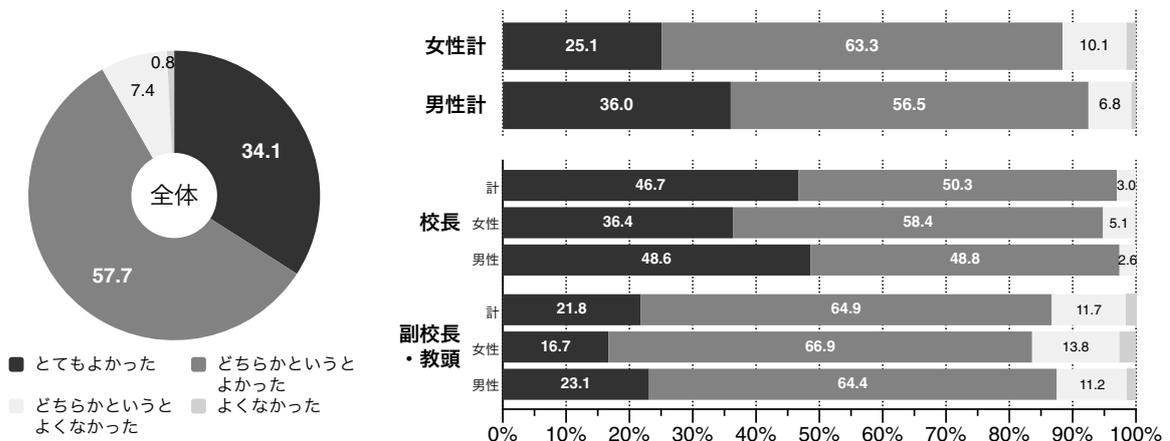
図2 「自分は児童生徒や学校のために貢献している」「自分の持っている能力を十分に発揮できている」



(3) 管理職になってよかったか (管理職への問)

管理職になって「とてもよかった」「どちらかというよかった」と回答した割合は、男女とも高く、女性管理職は88.4%、男性管理職は92.5%である。また、校長(97.0%、女性94.8%・男性97.4%)のほうが副校長・教頭(86.7%、女性83.6%・男性87.5%)より高い。

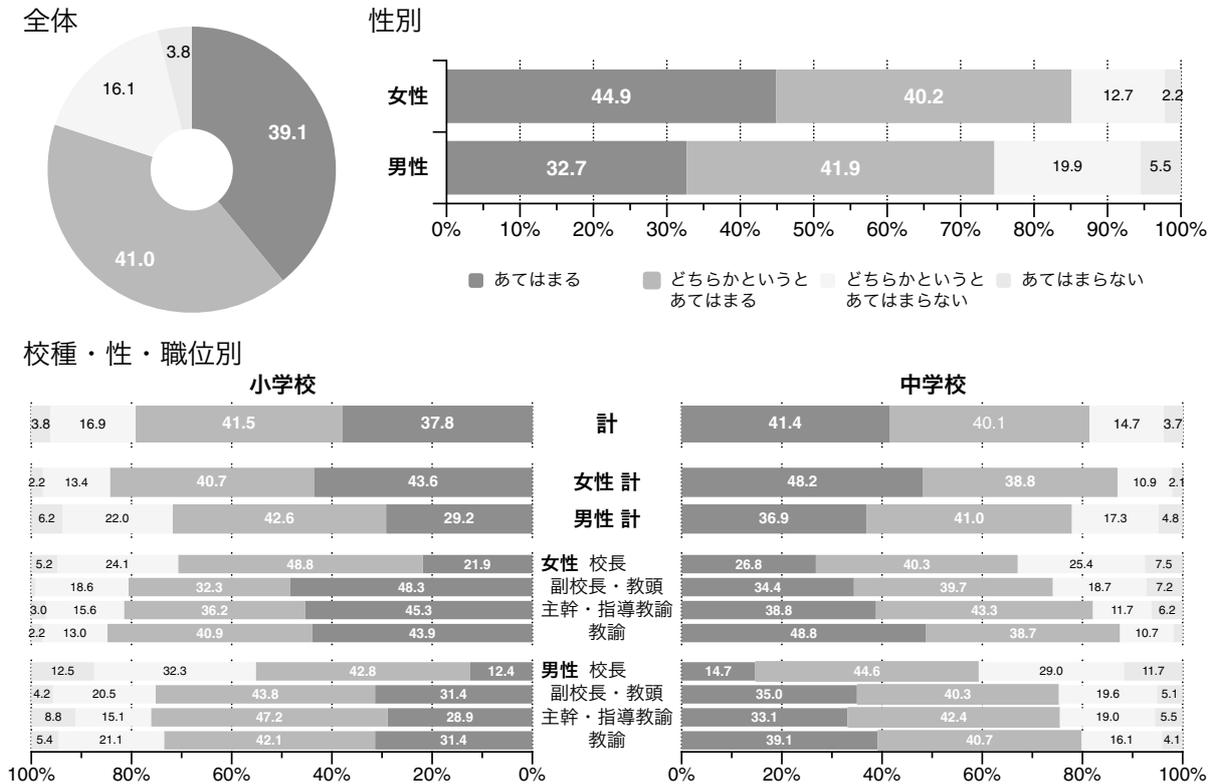
図3 管理職になってよかったですか



(4) 疲労感

『慢性的に疲れを感じる』に「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した教員の割合は80.1%（女性85.1%、男性74.6%）であり、小学校（79.3%）と中学校（81.5%）のいずれにおいても女性教員（小学校84.3%、中学校87.0%）のほうが男性教員（小学校71.8%、中学校77.9%）より割合は高かった。職位別にみると、男女ともに校長より校長以外のほうが、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した割合が高い。

図4 慢性的に疲れを感じる



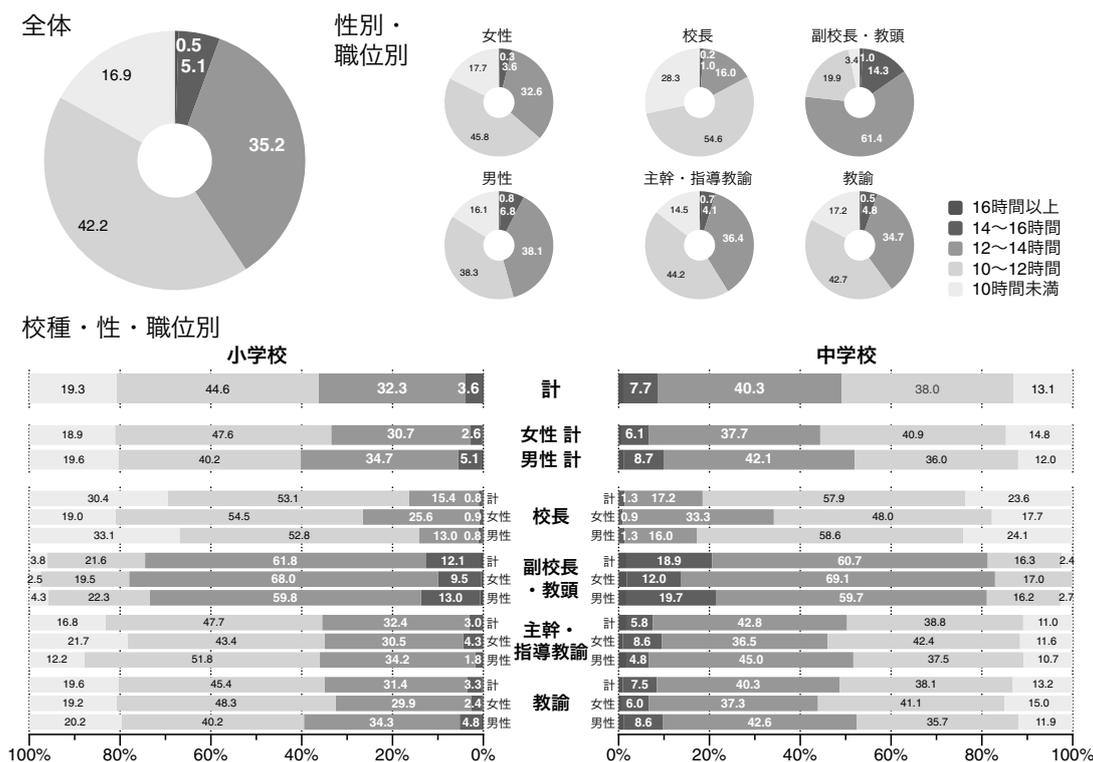
2 労働時間

(5) 平均的な1日の在職場時間（休憩時間含む）

平均的な1日の在職場時間（休憩時間含む）が、12時間以上の女性教員は36.5%、男性教員は45.7%である。校種別にみると、男女にかかわらず副校長・教頭の割合が高く、小学校では74.5%、中学校では81.3%である。

どの職位においても、小学校より中学校のほうが12時間以上の割合が高い。女性教諭では、小学校では32.5%に対し中学校では43.9%、男性教諭では、小学校39.5%に対し中学校では52.4%である。

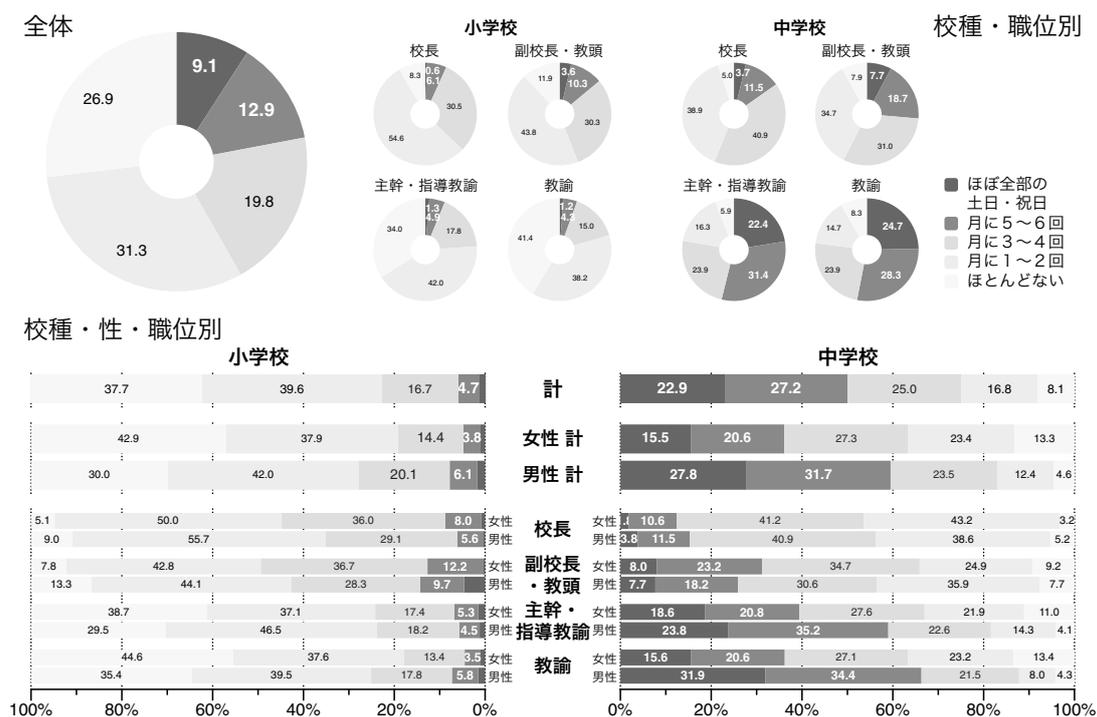
図5 平均的な1日の在職場時間は何時間ですか



(6) 一月にどの程度、休日に学校の仕事のために外出しているか

仕事のための休日の外出は、特に中学校において頻度が高い回答が多い。「ほぼ全部の土日・祝日」と答えた割合は、中学校の主幹・指導教諭は22.4%（女性18.6%、男性23.8%）であり、教諭は24.7%（女性15.6%、男性31.9%）である。小学校では、管理職のほうが管理職以外よりも頻度が高い回答が多いが、中学校では、管理職以外のほうが頻度が高い回答が多い。

図6 平均すると、月にどの程度、休日に学校の仕事のために外出していますか
(部活動、試合や大会の引率、地域行事の参加等)



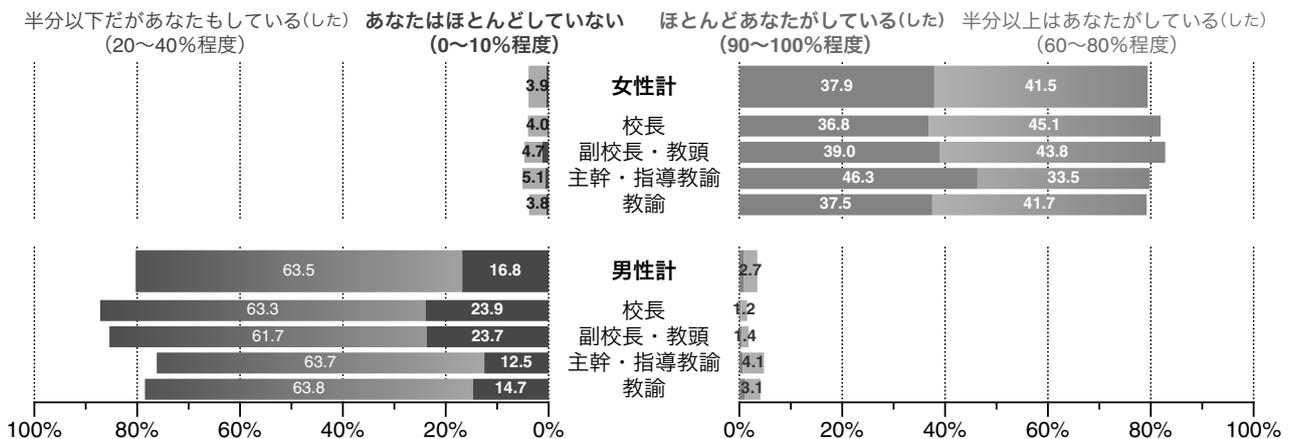
3 家庭生活

(7) 家庭生活における家事・育児等の分担

国民全体で見られる傾向と同様、子供が未就学から小学生の時期の家庭生活における役割については、女性の負担が大きい。「ほとんどあなたがしている(した)」「半分以上はあなたがしている(した)」を合わせると、女性教員は79.4%に対し男性は3.5%である。「ほとんどあなたがしている(した)」と回答した女性の割合は37.9%である一方、「あなたはほとんどしていない」男性は16.8%である。

職位別にみると、どの職位においても、女性は家事・育児等の負担をおっている。「ほとんどあなたがしている(した)」「半分以上はあなたがしている(した)」女性は、校長は81.9%、副校長・教頭は82.8%、主幹・指導教諭は79.8%、教諭は79.2%である。男性は、管理職のほうが「あなたはほとんどしていない」と回答した割合が10ポイントほど高い。

図7 子供が未就学児から小学生の時期に家事・育児等、家庭生活の役割をどの程度担っている(た)か



注1) 一番下の子供が12歳以下の回答者の現在についての回答と、13歳以上の子供を持つ回答者の過去についての回答を合算して算出

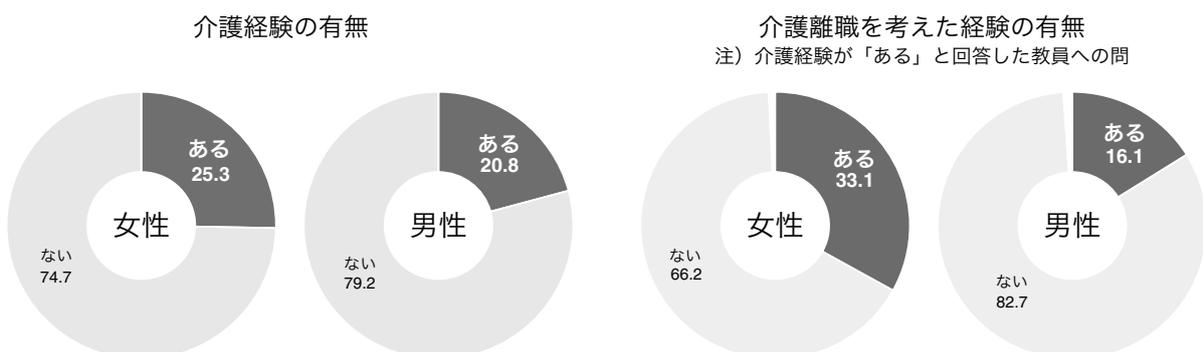
注2) 「ほとんどあなたがしている(した) (90~100%)」「半分以上はあなたがしている(した) (60~80%)」「ほぼ半分あなたがしている(した) (50%)」「半分以下だがあなたもしている(した) (20~40%)」「あなたはほとんどしていない (0~10%)」のうち1つを選んで回答

(8) 介護経験の有無および介護離職を考えた経験

家族を介護した経験が「ある」と回答した割合は、女性は25.3%、男性は20.8%である。また、介護経験が「ある」と答えたこれらの回答者のうち、今までに介護を理由に仕事を辞めることを考えたことが「ある」と回答した割合は、女性は33.1%、男性は16.1%である。

なお、総務省統計局「平成29年就業構造基本調査」によると、介護・看護を理由とする離職者数は、平成28年10月~平成29年9月において約9.9万人。女性が75.8%、男性が24.2%である。

図8 「ご家族の介護の経験はありますか」
「いままでに、介護を理由に仕事を辞めることを考えたことはありますか」

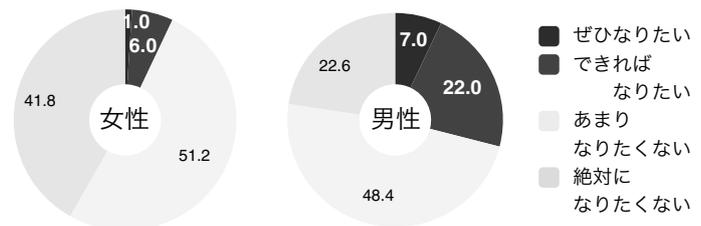


4 管理職志向

(9) 管理職になりたいと思うか (管理職以外への問)

将来、管理職に「ぜひになりたい」「できればになりたい」と思う教員の割合は、女性は7.0%、男性は29.0%であり、女性のほうが低い。女性教員の93.0%が「あまりなりたくない」「絶対になりたくない」と回答している。

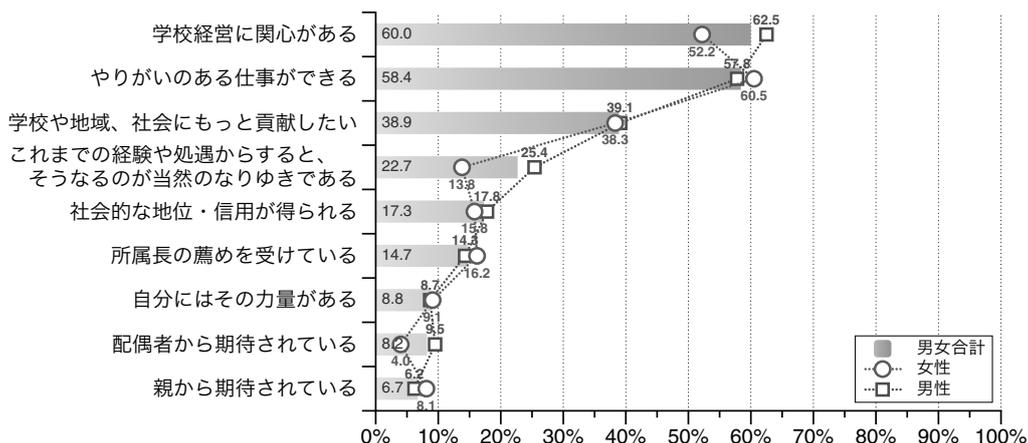
図9 あなたは将来、管理職になりたいと思いますか



(10) 管理職に「ぜひになりたい」「できればになりたい」理由 (管理職以外への問)

管理職に「ぜひになりたい」「できればになりたい」理由として選ばれた割合が半数を超える項目は「学校経営に関心がある」(60.0%)、および「やりがいのある仕事ができる」(58.4%)である。特に女性教員と男性教員の割合に差がある項目は、「これまでの経験や処遇からすると、そうなるのが自然のなりゆきである」(女性13.8%、男性25.4%)、「学校経営に関心がある」(女性52.2%、男性62.5%)の2つで、ともに女性教員より男性教員のほうが割合が高い。

図10 「ぜひになりたい」「できればになりたい」理由は何ですか (複数回答)

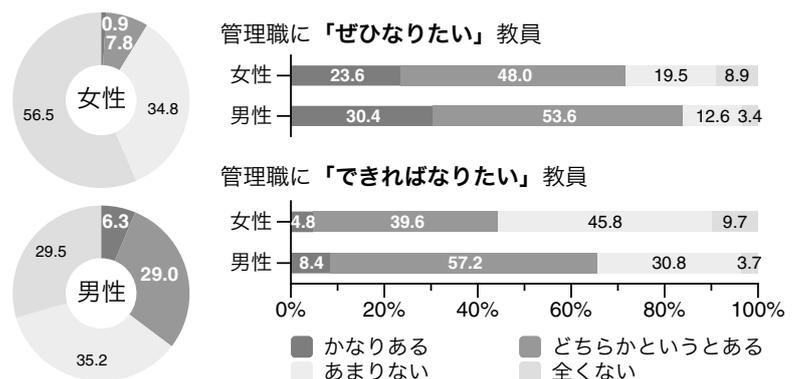


(11) 管理職志向と管理職になる可能性についての自己認識 (管理職以外への問)

将来、管理職になる可能性が「かなりある」「どちらかというところ」と回答した女性教員は8.7%、男性教員は35.3%であった。

管理職に「ぜひになりたい」と回答した女性教員の71.6%、男性教員の84.0%が管理職になる可能性が「かなりある」「どちらかというところ」と回答する一方、女性教員の28.4%、男性教員の16.0%が「あまりない」「全くない」と回答した。管理職に「できればになりたい」の回答では、女性教員の44.4%、男性教員の65.6%が管理職になる可能性が「かなりある」「どちらかというところ」と回答する一方、女性教員の55.5%、男性教員の34.5%が「あまりない」「全くない」と回答した。

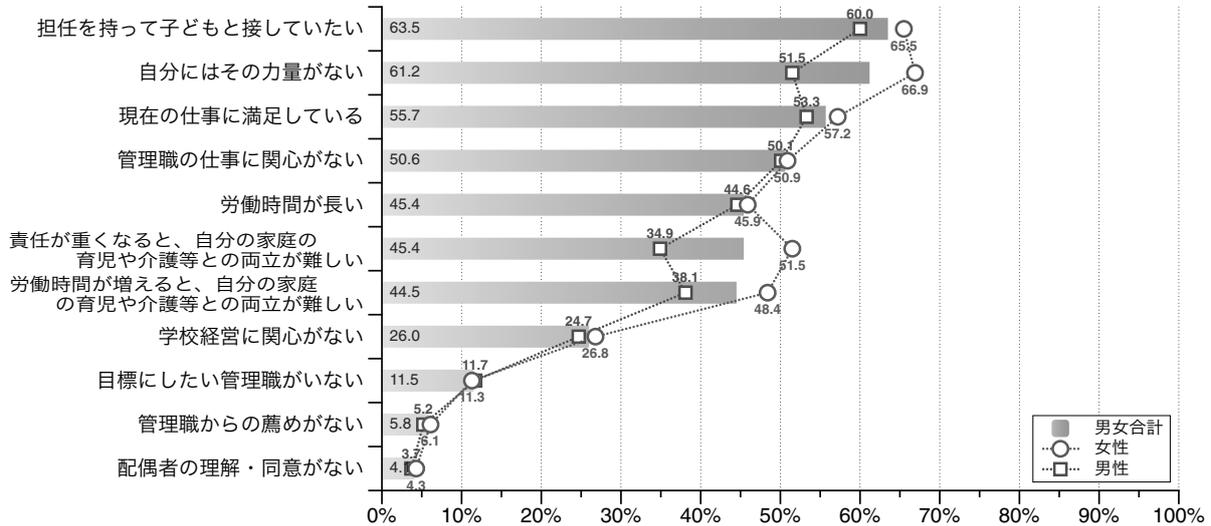
図11 あなたは、将来、管理職になる可能性はどの程度あると思いますか



(12) 管理職に「あまりなりたくない」「絶対になりたくない」理由（管理職以外への問）

管理職に「あまりなりたくない」「絶対になりたくない」理由としては「担任を持って子どもと接していきたい」(63.5%)、「自分にはその力量がない」(61.2%)、「現在の仕事に満足している」(55.7%)の割合が高い。特に女性のほうが男性より割合が高い項目は「責任が重くなると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」(女性51.5%、男性34.9%)、「自分にはその力量がない」(女性66.9%、男性51.5%)、「労働時間が増えると、自分の家庭の育児や介護等との両立が難しい」(女性48.4%、男性38.1%)であった。

図 12 「あまりなりたくない」「絶対になりたくない」理由は何ですか（複数回答）



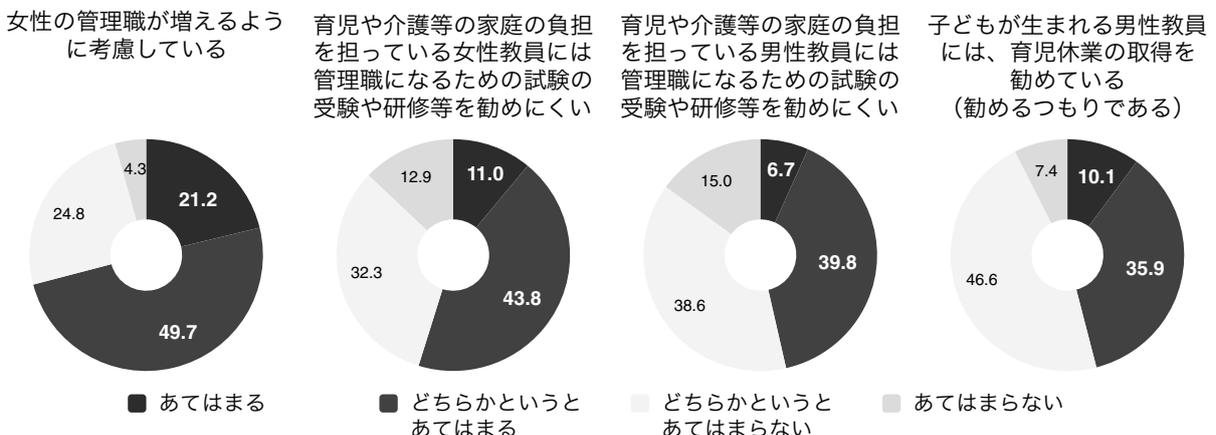
(13) 教員に対する管理職としての姿勢・態度（管理職への問）

『女性の管理職が増えるように考慮している』の項目に、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した管理職の割合は70.9%であった。

『育児や介護等の家庭の負担を担っている女性教員には、管理職になるための試験の受験や研修等を勧めにくい』の項目について54.8%の管理職が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した。一方で、『育児や介護等の家庭の負担を担っている男性教員には、管理職になるための試験の受験や研修等を勧めにくい』の項目については、46.5%が「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した。

『子どもが生まれる男性教員には、育児休業の取得を勧めている（勧めるつもりである）』の項目について、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した割合は、46.0%であった。

図 13 教員に対する管理職としての姿勢・態度（管理職への問）

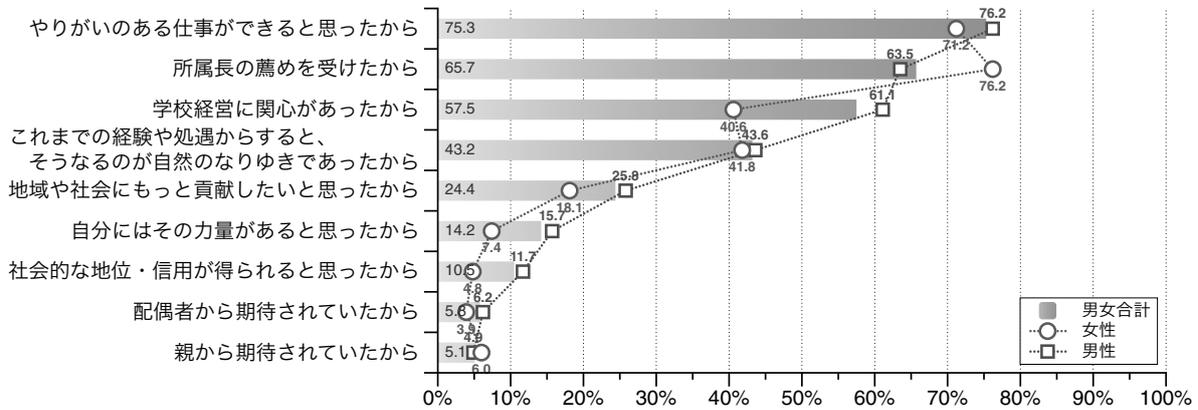


注) 管理職男女計の割合

(14) 管理職になった理由（管理職への問）

管理職になった理由としては「やりがいのある仕事ができると思ったから」（75.3%）、「所属長の薦めを受けたから」（65.7%）、「学校経営に関心があったから」（57.5%）の割合が高い。「所属長の薦めを受けたから」の割合は女性管理職（76.2%）のほうが男性管理職（63.5%）より高く、「学校経営に関心があったから」の割合は男性管理職（61.1%）のほうが女性管理職（40.6%）より高かった。

図 14 あなたが管理職になったのはなぜですか（複数回答）



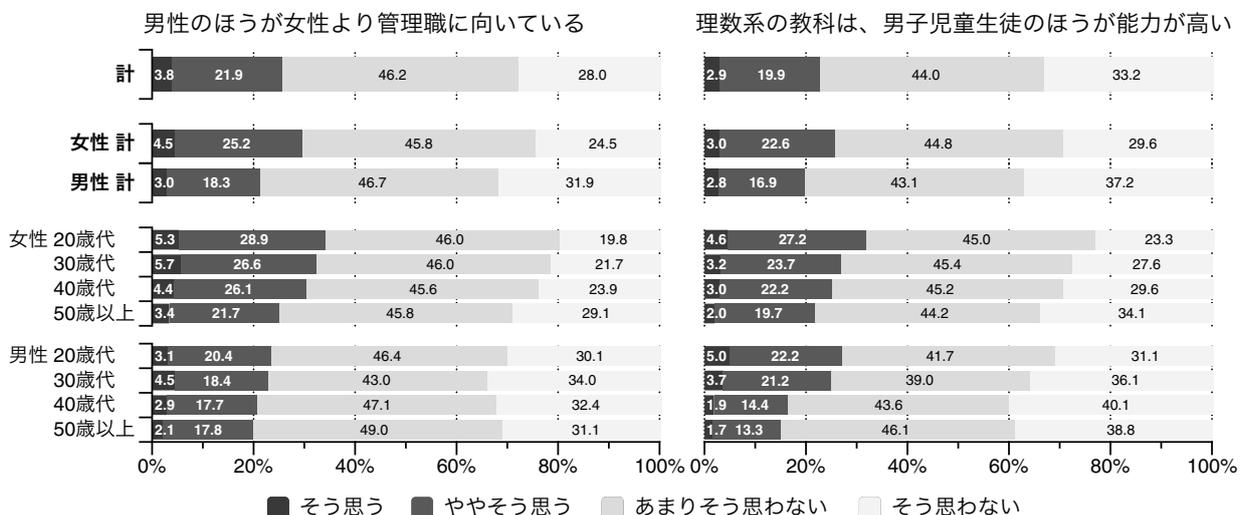
5. 性別役割分担意識

(15) 性別役割分担意識

管理職の向き不向きにかかわる性別役割分担意識について、『男性のほうが女性より管理職に向いている』に「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した教員の割合は74.2%であった。一方、「そう思う」「ややそう思う」の割合は25.7%であり、女性（29.7%）のほうが男性（21.3%）より割合はやや高い。若い教員ほど割合が高い傾向にある。

理数系教科の能力にかかわる性別役割分担意識について、『理数系の教科は、男子児童生徒のほうが能力が高い』に「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答した教員の割合は77.2%であった。一方、「そう思う」「ややそう思う」の割合は22.8%であり、女性（25.6%）のほうが男性（19.7%）より割合はやや高い。女性（20代31.8%、30代26.9%、40代25.2%、50代21.7%）と男性（20代27.2%、30代24.9%、40代16.3%、50代15.0%）のいずれにおいても、若い教員ほど割合が高い傾向にある。

図 15 「男性のほうが女性より管理職に向いている」
「理数系の教科は、男子児童生徒のほうが能力が高い」



参考 初等中等教育における女性管理職率の現状

初等中等教育における女性教員の割合は、小学校では半数を超え 62.5%、中学校は 43.5%、高校は 33.2%です（「平成 29 年度学校基本調査」）。これらの割合に比べると、女性の管理職率は低く、特に学校での意思決定権を持つトップである校長の割合は増加傾向にあるものの、小学校 19.3%、中学校 6.6%、高校 7.5%と低くなっています（表 1）。

表 1 校種別 初等中等教育における女性管理職率

	小学校			中学校			高校		
	男	女	女性比率	男	女	女性比率	男	女	女性比率
教員計	154,674	257,224	62.5	131,708	101,539	43.5	106,675	53,022	33.2
校長	15,546	3,727	19.3	8,516	597	6.6	3,083	251	7.5
副校長	1,244	573	31.5	827	119	12.6	552	50	8.3
教頭	13,776	4,299	23.8	8,032	933	10.4	3,694	393	9.6

出所：「平成 29 年度学校基本調査」より作成

「学校教員のキャリアと生活に関する調査」検討委員（2018 年 11 月現在）

大竹 美登利	東京学芸大学名誉教授
高林 直人	静岡県立浜松商業高等学校教諭
土屋 隆裕	横浜市立大学データサイエンス学部教授
平林 久美子	全国公立小・中学校女性校長会会長／墨田区立両国小学校校長
渡部 誉	西条市教育委員会指導部学校教育課副課長兼スマートスクール推進係長
中野 洋恵	国立女性教育会館研究国際室長
島 直子	国立女性教育会館研究国際室研究員
飯島 絵理	国立女性教育会館研究国際室研究員

女性教育情報センターの運営

収集資料統計(平成30年3月末現在)

項目	和			洋			計			
	28年度受入	29年度受入	累計	28年度受入	29年度受入	累計	28年度受入	29年度受入	累計	
図書	図書	2,883	2,153	84,955	708	138	24,740	3,591	2,291	109,695
	地方行政資料	353	233	27,449	—	—	—	353	233	27,449
	計(冊数)	3,236	2,386	112,404	708	138	24,740	3,944	2,524	137,144
逐次 刊行物 (新規受入 タイトル)	雑誌	95	35	3,272	1	—	764	96	35	4,036
	新聞	—	—	74	—	—	1	—	—	75
その他	新聞 切り抜き	21,964	24,876	458,085	—	—	—	21,964	24,876	458,085
	AV資料※	26	34	334	4	—	4	30	34	338

※毎年見直しを実施

利用状況統計：平成28年度・平成29年度（平成30年3月31日現在）

	平成28年度	平成29年度
資料等利用者数	5,760	5,015
貸出資料総数(冊)	9,519	10,794
図書資料	8,579	9,829
地方行政資料	84	31
雑誌類	488	660
新聞記事	159	44
研修貸出(冊数)	40	200
その他	169	30
レファレンスサービス件数	821	727
文献複写サービス(件数)	795	883
情報研修プログラム(件数)	6	4
情報研修プログラム(人数)	45	29
相互貸借貸出件数	221	285
内 パッケージ貸出件数	71	79

女性情報ポータルの整備充実

＜文献情報データベース データ件数＞ (平成 30 年 3 月末現在)

	29 年度増加件数	累計
図書	2,291	109,695
雑誌	35	4,036
地方行政資料	233	27,449
オーディオ・ビジュアル資料	34	338
和雑誌記事	1,216	73,672
新聞記事インデックス	24,876	458,085
計	28,685	673,275

＜その他のデータベースのデータ件数＞ (平成 30 年 3 月末現在)

	29 年度増加件数	累計
女性関連施設 DB	1,977	39,056
女性情報レファレンス事例集	-1	294
男女共同参画人材 DB	12	847
女性と男性に関する統計 DB	-66	432
国立女性教育会館リポジトリ*1	-54	6,730
計	1,868	47,359

※「女性情報レファレンス事例集」(294 件)は、平成 29 年度に掲載事例の見直しを行って整理したため減少となっている

※「女性と男性に関する統計 DB」(432 件(表))は、平成 29 年度に収録データの見直しを行って整理したため減少となっている。

※「国立女性教育会館リポジトリ」(6,730 件)は平成 29 年度に登録内容を整理したため減少となっている。

*1「国立女性教育会館リポジトリ」は平成 26 年 4 月公開した。

平成29年度「アーカイブ保存修復研修（基礎コース）＋（実技コース）」開催要項

国立女性教育会館では、女性の歴史を今に生かし、未来につないでいくために、女性に関わる原資料（女性アーカイブ）の保存と活用に取り組んでいます。

その活動の一環として、アーカイブの保存や整理について新しい情報をお求めの方や、これから業務にとりくむ方のために、平成21年度からアーカイブ関連の研修を実施しています。

平成29年度は、アーカイブの作成や保存に関する講義・実践報告と、参加者によるグループ別の話し合いを行う基礎コース、そして資料の保存修復を実習形式で学んでいただく実技コースを開催します。

アーカイブの保存・提供に関心をお持ちの方、大学・機関等の図書館職員の方のご参加をお待ちしております。

1. 期 日 平成29年11月20日（月）～11月22日（水）

- ① 基礎コース：11月20日（月）午後～11月21日（火）午前 1泊2日
- ② 実技コース：11月21日（火）午後～11月22日（水）午前 1泊2日
- ・ オプション：11月22日（水）午後

- ・ 基礎コースのみ、実技コースのみ、基礎・実技通しての参加、いずれも可能です。
- ・ オプションは全日参加の方を優先とします。
- ・ 研修参加の方は国立女性教育会館に1泊1,200円でご宿泊いただけます。

2. 募集人員 女性アーカイブの保存・提供に携わる実務者の方、大学・機関等の図書館職員の方

- ① 基礎コース：30名
- ② 実技コース：20名
- ・ オプション：20名

3. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館

4. 後 援 株式会社資料保存器材

5. 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地
URL: <https://www.nwec.jp/>

6. 日程・内容

11月20日(月)

<基礎コース 第1日>

12:45~13:00	受付	
13:00~13:15	開会・挨拶	国立女性教育会館理事長 内海房子
	オリエンテーション	
13:15~14:00	女性アーカイブと NVEC 女性アーカイブの基礎的な知識と国立女性教育会館(NVEC)の実践事例を紹介します。	国立女性教育会館情報課情報係長(併)専門職員 山崎裕子
14:00~14:50	実践報告① 東京女子医科大学におけるアーカイブの実践事例について学びます。	東京女子医科大学史料室 油谷順子
15:00~15:50	実践報告② 「震災・まちのアーカイブ」における実践事例について学びます。	震災・まちのアーカイブ会員 /神戸大学地域連携推進室 准教授 佐々木和子
16:00~17:00	ディスカッション テーマを決め、講師も交えてグループ別にディスカッションを行います。	
17:15~17:45	女性教育情報センター、女性アーカイブセンター見学(希望者のみ) 国立女性教育会館におけるアーカイブ構築事例を中心にご紹介します。	
19:30~20:30	情報交換会(希望者のみ) 参加者相互の情報交換やネットワークづくりの場を提供します。	

11月21日(火)

<基礎コース 第2日>

9:00~9:55	デジタルアーカイブの活用方法 資料のデジタル化の手順や権利処理の進め方について事例を基に学びます。	(株) デジタル SKIP ステーション(彩の国デジタルアーカイブ) 関口万里
9:55~10:50	写真・フィルムの保存方法 写真・フィルムの保存方法や劣化が進んだ資料の取扱方法などについて学びます。	東京都写真美術館保存科学専門員/日本写真保存センター 諮問委員 山口孝子
11:00~11:55	国立公文書館の活動について 国立公文書館の活動および実践事例について紹介します。	国立公文書館公文書専門官 笥雅貴
11:55~12:00	閉会	

11月21日(火)

<実技コース 第1日>

13:00~13:25	受付	
13:25~13:30	開会	
	オリエンテーション	
13:30~17:00	紙資料の修復関連実習① ソフトカバー(小冊子)などの図書資料への館内でもできる処置(綴じ直し、修補)の実習を行います。 ※昨年度と同じ内容です	(株) 資料保存器材 伊藤美樹、高田かおる
19:00~20:30	交流会(希望者のみ)	

11月22日(水)

<実技コース 第2日>

9:00~12:00	紙資料の修復関連実習② ハードカバー(くるみ製本)などの図書資料への館内でもできる処置(修補、外れた表紙・背表紙の接合)の実習を行います。 ※昨年度と同じ内容です	(株)資料保存器材 伊藤美樹、高田かおる
12:00~12:05	閉会	

11月22日(水)

<オプション>

15:00~17:00	(株)資料保存器材見学会 全国から集まるアーカイブ資料の保存修復の作業現場を見学します。	(株)資料保存器材 伊藤美樹、高田かおる
-------------	--	-------------------------

7. 所要経費

- (1) 参加費 ①基礎コース:無料 ②実技コース:材料費2,000円
(2) 宿泊費 1泊1,200円(前・後泊とも同額)
(3) 食費 朝食 バイキング 870円
昼食 カフェテリア形式 550円~750円程度
夕食 バイキング 1,080円
(4) 情報交換会費 1,000円(希望者のみ。軽い飲食物をご用意します)

8. 申込手続

- (1) 方法 下記①または②のいずれかにてお申し込みください。
①電子メール:ホームページ(<https://www.nwec.jp/event/training/archivist2017.html>)
掲載の申込書様式に入力のうえファイル添付にて送信
(必要事項をメール本文に入力のうえ送信しても可)
②FAX: ホームページ掲載の申込書様式またはチラシ裏面の申込書に記入の上送信
(様式がなければ必要事項を記入した紙でも可)
- (2) 期限 平成29年11月10日(金)
定員を超えた場合は、期限前に締め切ることもあります。

9. 申込・問い合わせ先

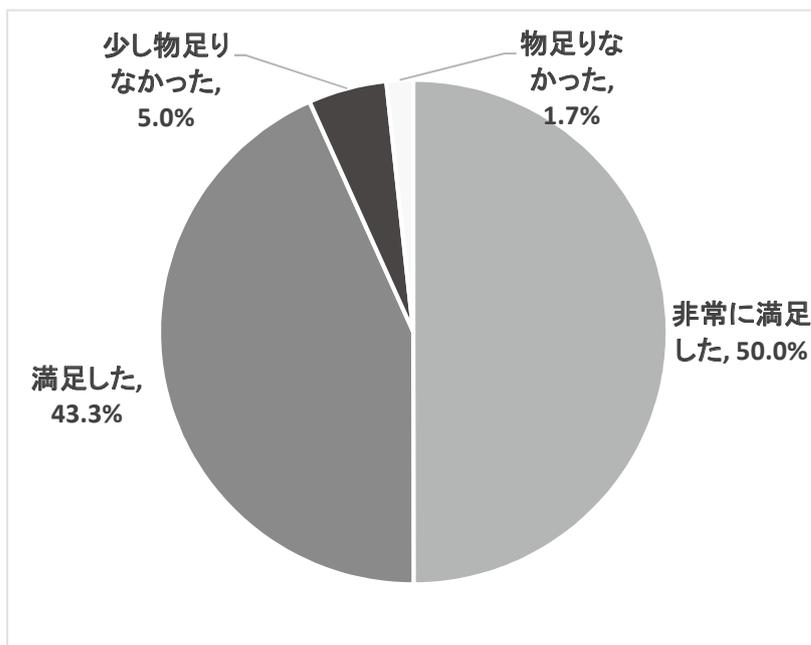
国立女性教育会館情報課 山崎、関森

TEL: 0493-62-6195 FAX: 0493-62-6721 電子メール: infodiv@nwec.jp

平成29年度アーカイブ保存修復研修(基礎コース+実技コース)アンケート結果

満足度

非常に満足した	30人	50.0%	93.3%
満足した	26人	43.3%	
少し物足りなかった	3人	5.0%	
物足りなかった	1人	1.7%	
無回答	1人		
計	61人	100.0%	

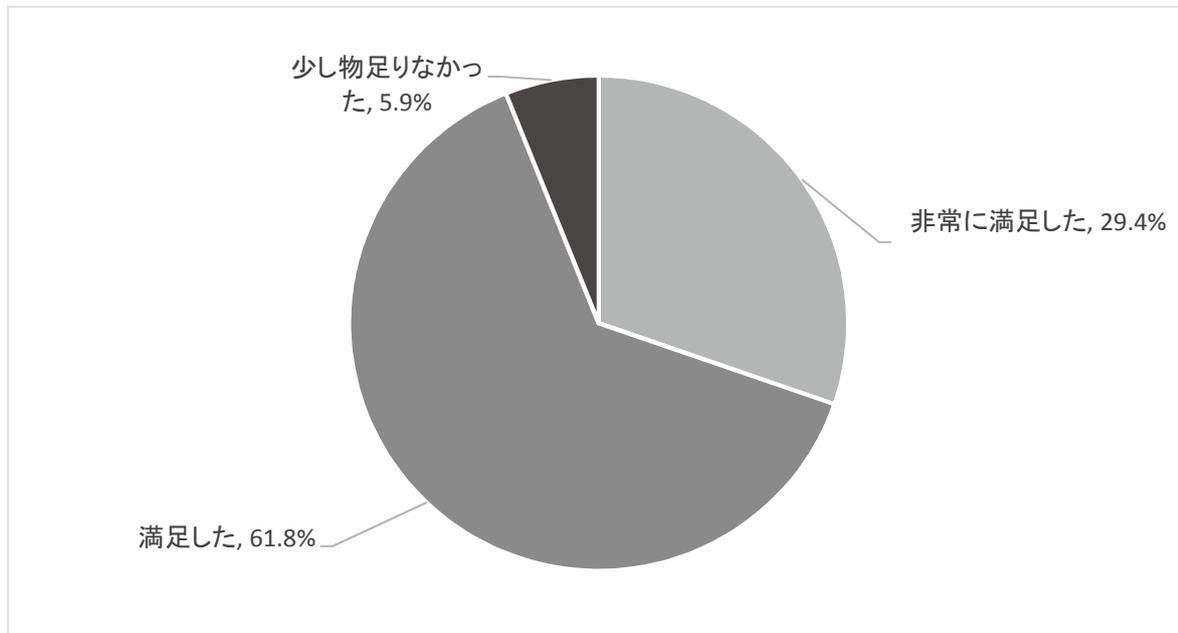


基礎	女性関連の情報のアーカイブの難しさや取り組みを継続する重要性を知ることができた。
	様々なアーカイブのありようがわかり、多面的に運用を学ぶことができた。
実技	各講師の内容が濃く興味深いものだったが、少し駆け足になってしまうところがあった。
	参加者一人一人に合わせて対応していただき、大変参考になった。
	通常業務にすぐ活かせる内容でとても役に立つと思います。
	作業のスピードも丁寧でたくさん質問をする機会もあり有意義でした。

平成29年度アーカイブ保存修復研修(基礎コース)アンケート結果

満足度

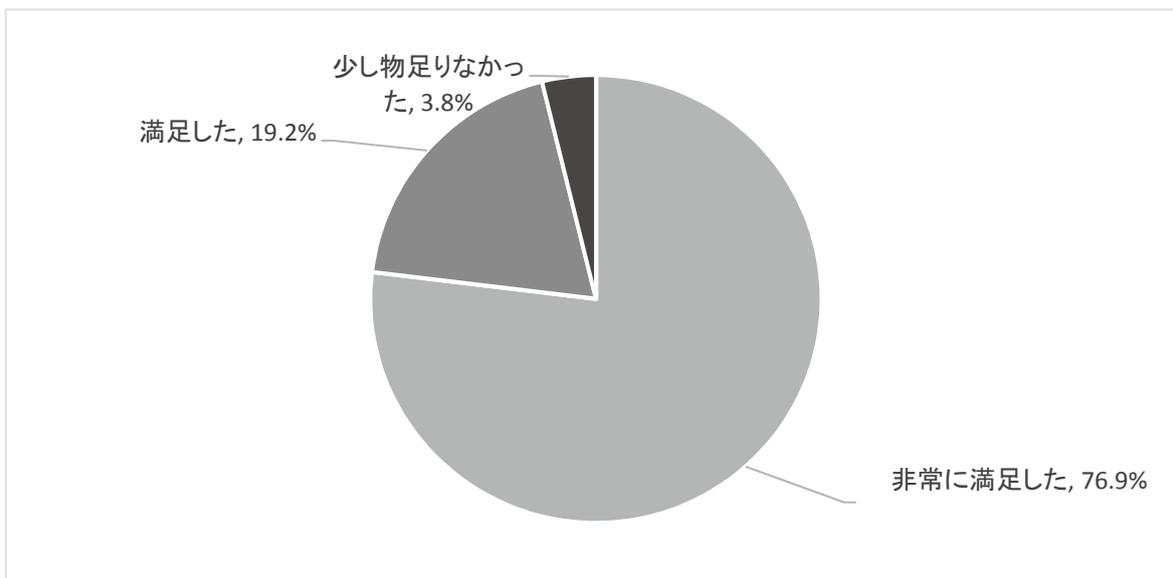
非常に満足した	10人	29.4%	91.2%
満足した	21人	61.8%	
少し物足りなかった	2人	5.9%	
物足りなかった	—		
無回答	—		
計	33人	100.0%	



平成29年度アーカイブ保存修復研修(実技コース)アンケート結果

満足度

非常に満足した	20人	76.9%
満足した	5人	19.2%
少し物足りなかった	1人	3.8%
物足りなかった	—	
無回答	—	
計	26人	100.0%



平成29年度アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー開催要項

1. 趣 旨

「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」は会館の第四期中期目標・中期計画において、開発途上国において男女共同参画の政策策定・政策提言を行う立場にある女性行政・教育担当者、NGOのリーダーを対象に、女性の能力開発を目的としている集団研修である。平成29年度のリーダーセミナーでは、指導的地位への女性の参画をテーマとして設定し研修を行う。

2. 主 題 指導的地位への女性の参画

3. 主 催 独立行政法人国立女性教育会館

4. 期 間 平成29年10月2日（月）～10月6日（金）
（受入れ期間10月1日（日）～10月7日（土））

5. 募集人員 10名程度

6. 募集対象国 カンボジア、インドネシア、フィリピン、韓国、ベトナム

7. 応募資格

以下の12項目を満たす者

- (1) 女性
- (2) 下記のいずれかに該当する者
 - ① 女性に関する行政機関に所属する者
 - ② 女性の地位向上に関するNGOに所属する者
 - ③ 女性学関連研究に携わる者
- (3) 所属機関の長から推薦が得られる者
- (4) 大学卒またはそれと同等の学力及び経験を有する者
- (5) 原則として、平成29年4月1日現在で満45歳未満の者
- (6) 講義を理解するのに十分な英語の能力を有する者
- (7) 原則として、研修の全日程に参加できる者
- (8) 男女共同参画及び女性の社会参画に関わる課題について十分な関心を持ち、課題解決に熱意のある者
- (9) 本国の担当部署で女性の能力向上に関わる事業を立ち上げる裁量・権限を持つ者
- (10) 研修終了後も、会館及び参加者との持続的情報交換や連携事業について積極的に関わることができる者
- (11) 平成29年度の研修テーマに沿った事前課題を提出することが可能な者
- (12) 心身ともに健康である者（なお、妊娠中の女性の参加は、渡航・移動及び研修参加への医者からの許可がある場合に限る）

8. 応募方法

申込みは国立女性教育会館研究国際室宛に必要な書類（応募書類・所属長の推薦状）を提出する。提出書類に不備がある申込みは選考の対象外となるので注意すること。

(1) 締切日 平成29年7月14日（金） 日本時間24時必着

(2) 提出書類

- a. 様式1 PART A：応募用紙（貼付する写真は、半年以内に撮影したものであること）
 - b. 様式1 PART B：所属長からの推薦状
 - c. 様式1 PART C：健康に関する質問票
 - d. 様式1 PART D：カントリーレポート（PPTスライド）
 - e. 有効なパスポートの顔写真貼付ページのコピー（所持者のみ）
 - f. 提出書類チェックリスト
- * 行政機関以外の所属の場合は以下の書類及び資料を併せて提出のこと。
- g. 様式2：NGO団体概要及び所属団体の活動内容の記載されたパンフレット

提出書類は返却しない。応募書類に記載された個人情報には本研修の実施の目的のみに使用する。可否に関する問い合わせには応じない。

9. 選考方法及び決定通知

対象国はアジア地域から5ヵ国を選定し、国立女性教育会館の調査研究事業等に関係を深めている国の機関を中心に、女性問題・女性教育に関するナショナルマーシナリー及びフォーカルポイント、女性団体等に研修生の推薦を依頼する。

10. 研修日程

別紙参照

11. 研修内容・方法

- (1) カントリーレポートの発表・討議
- (2) 講義
- (3) 行政機関、女性関連施設、企業等の視察
- (4) 女性リーダーとの意見交換

12. 事前提出課題

研修参加者は、研修開始以前に、出身国における男女平等政策及び指導的地位への女性の参画に関する取組みに関するカントリーレポートと小論文を提出する。研修中に提出したカントリーレポート、小論文をもとに討議を行う。

1 3. 使用言語

講義、演習はすべて英語で行う。日本語による講義・演習・施設訪問の場合には英語の通訳を配置する。

1 4. 研修費用

研修のための下記費用は、国立女性教育会館が負担する。それ以外のすべての費用は研修生の負担とする。

- (1) 最寄りの国際空港から往路は成田（または羽田）空港まで、復路は関西国際空港から出身国の国際空港までの往復航空運賃、日本国内のホテル及び国立女性教育会館の宿泊費
- (2) 研修実施にかかる費用
- (3) 自国出国日から入国日までの滞在経費

1 5. 研修成果の普及

国立女性教育会館は、本研修の成果物（紙及び電子媒体の資料、パワーポイントスライド、カントリーレポート等）を研修終了後、会館のホームページ及び大学・行政機関が運営するレポジトリ等に掲載し報告書を出版する。

1 6. 連絡先、応募書類の提出先

独立行政法人国立女性教育会館研究国際室

「平成29年度アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー担当」宛
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728

T e l : +81-493-62-6437

F a x : +81-493-62-9034

E - m a i l : noriko15@nwec.jp

（電子メールでの問い合わせは、件名の頭に「平成29年度リーダーセミナー」と入れる）。

1 7. その他

- (1) 海外から日本への渡航に必要なすべての手続きは、研修生自身の責任において行う。
パスポート及びビザの入手に必要な招へい状等の書類は、国立女性教育会館が送付する。日本までの航空便、到着日時、交通手段等に関する詳細は、決定通知時に併せて知らせる。研修生の意向による航空便の変更は認めない。
- (2) 家族等の同伴は不可。
- (3) 研修期間中は日本国内に留まる。
- (4) 研修終了後は直ちに帰国する。
- (5) 応募用紙の記入方法等、不明の点は、独立行政法人国立女性教育会館研究国際室に照会のこと。

平成29年度「アジア地域における男女共同参画推進官・リーダーセミナー」日程

テーマ: 指導的地位への女性の参画

平成29年10月2日(月)～10月6日(金) (受け入れ期間 10月1日～10月7日)

月日	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師 (敬称略)	開催地
10月	日					
1日			日本到着(成田または羽田に到着)			
2日	月	10:20	会館到着・記念撮影			国立女性教育会館 宿泊棟A棟2階 ミーティングルーム
		10:45-11:00	開会挨拶・職員紹介		NWEC理事長 内海 房子	
		11:00-12:00	プログラムオリエンテーション & アイスブレイク	研修のねらい、目的、スケジュール説明	NWEC研究国際室専門職員 越智 方美	
		13:30-15:00	講義 「日本における女性の活躍促進～課題と挑戦」		NWEC理事長 内海 房子	
		15:15-16:00	会館案内		NWEC事業課専門職員 引間 紀江	
		16:00-16:30	視察: 女性教育情報センターと女性アーカイブセンター	「女性教育情報センター」と「女性アーカイブセンター」の見学	NWEC情報課係長(併)専門職員 山崎 裕子	
		16:30-17:00	会館概要説明	国立女性教育会館について	NWEC研究国際室研究員 渡辺 美穂	
3日	火	9:00-15:00	カンントリーレポートの発表	研修生による事例の発表と討議	ファシリテーター: NWEC研究国際室専門職員 越智 方美	国立女性教育会館 宿泊棟A棟2階 ミーティングルーム
			成果報告書執筆の打ち合わせ		研修生、NWEC職員	
		15:00-15:45	理事長室表敬訪問		研修生、NWEC職員	
		16:00-17:00	情報提供 企業を成長に導く女性活躍促進セミナー	企業で働く女性のキャリア形成支援に係る会館の事業について	NWEC事業課専門職員 上田 芳子	
4日	水	10:30-11:30	視察と意見交換1 「ANAのダイバーシティ・マネジメントの取り組み」	ダイバーシティ・マネジメント、女性の活躍促進(管理職への登用、育児、介護と仕事との両立支援制度)	ANA 人財戦略室 人事部 ダイバーシティ&インクルージョン推進室	ANA 人財戦略室人事部ダイバーシティ&インクルージョン推進室 東京都港区東新橋1丁目5番2号 汐留シティセンター37F
		13:30-15:00	講義 「日本の男女共同参画施策」	日本政府の男女共同参画政策、WAW! 等について	内閣府男女共同参画局 総務課 国際機関係長 伊東 法之	内閣府男女共同参画局 中央合同庁舎8号館 千代田区永田町1-6-1
5日	木	9:30-11:30	視察と意見交換2 「京都ウィメンズベースの取り組み」	女性の活躍を支援する拠点施設の取り組み	京都府府民生活部男女共同参画課女性活躍推進担当課 課長 木村 真子 主査 中村 早苗	京都ウィメンズベース 京都市中京区御池通東洞院西入る笹屋町435 京都御池第一生命ビル8F
		14:00-15:00	視察と意見交換3 「株式会社Strolyについて」	ICTを活用した起業	株式会社Stroly 代表取締役社長 Co-CEO 高橋 真知	株式会社Stroly 京都市下京区金換町109番地1(猪熊通塩小路上ル)
		15:30-16:30	日本文化の紹介	歴史上の女性に縁のある寺社の見学		養源院 京都市東山区三十三間堂廻り町656
6日	金	9:30-11:30	視察と意見交換4 「地域に根ざしたアグリビジネスの展開」 「京の農林女子ネットワークについて」	地域の特性を活用した起業	森田製茶 森田 真希 京都府農林水産部流通・ブランド戦略課農業流通・販売戦略担当(農業革新支援専門員)主査 中川 淳子	森田製茶 京都府木津川市山城町神童子不晴谷117
		13:30-15:15	講義 「京都市男女共同参画センターの仕組み」 施設見学	男女共同参画の拠点としての活動(DV相談等)	京都市男女共同参画センターウイングス京都 総務課長 福田 真子 事業企画課 今井まゆり	京都市男女共同参画センターウイングス京都 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町262番地
		15:30-16:30	成果報告書についての打ち合わせ 評価会	アンケート記入	研修生、NWEC職員	
		16:30-17:00	閉講式	修了書の授与	研修生、NWEC職員	
7日	土		帰国			

「平成29年度アジア地域における男女共同参画官リーダーセミナー」アンケート集計

1. 研修の参加動機（複数回答）

Why did you apply for this seminar? (Please circle as many as you like.)

1	9人	男女共同参画の推進に資する知識と技能の向上のため Enhance your knowledge and practical skills for promoting gender equality
2	8人	男女共同参画の推進に従事する女性リーダーとしての能力向上のため Capacity development as a women's leader for promoting gender equality
3	9人	研修で得た知識・能力を時刻で活用するため Enhance your ability to implement what you have learned from this seminar in your country
4	9人	会館職員や研修参加者とのネットワーク構築のため Build a collaborative network with NWEC and the seminar participants
5	3人	その他 Others (please specify: Get several ideas for policy advocacy)

2. 研修の満足度

How satisfied were you with the program in general? Please provide details.

← Satisfied		Unsatisfied →	
10人	0人	0人	0人
満足度 = 100%	0%	0%	0%

3. 研修の有用度

Will you be able to apply information and knowledge gained through this program at work upon returning to your country? What part of the training program was most beneficial to you?

← Satisfied		Unsatisfied →	
10人	0人	0人	0人
満足度 = 100%	0%	0%	0%
<ul style="list-style-type: none"> ・日本における女性リーダーを取り巻く現状と課題を分析した講義や、会館が実施した企業セミナーについての講義を受講し、男女の性別役割分業意識が女性の社会進出を妨げている点は自国でも同様であり、意識啓発事業を継続していくことの重要性を認識した（フィリピン、インドネシア、韓国） ・女性教育情報センターの充実した所蔵資料に感銘を受けた（ベトナム） ・ANAのダイバーシティ・マネジメントの取組みについての講義が非常に有用であった（インドネシア、フィリピン、ベトナム、韓国） ・内閣府やANAの講義で紹介された「イクメン」、「イクボス」のように男性を対象とした、ジェンダー平等推進のアプローチが参考になった（ベトナム） ・女性起業家との対話が有益であった（インドネシア、ベトナム） ・「ワーク・ライフ・バランス」という女性の就労を考える上で重要な概念を初めて学んだ（インドネシア） ・京都ウィメンズベースや京都市男女共同参画センターウィングス京都の視察を通じて、行政機関（京都府や京都市）の女性活躍推進の取組みの実態を理解できた（フィリピン） 			

4. 研修内容等に関する質問

What did you think of the textbooks, training equipment and lecture facilities used for the program?

	←Very Good		Very Poor→	
	4	3	2	1
Textbook	10人	0人	0人	0人
講義資料 満足度	100%	0%	0%	0%
Training Equipment	10人	0人	0人	0人
研修機材 満足度	100%	0%	0%	0%
Lecture facilities	9人	1人	0人	0人
研修環境 満足度	90%	10%	0%	0%
Accommodation	10人	0人	0人	0人
宿泊 満足度	100%	0%	0%	0%
Staff	10人	0人	0人	0人
担当職員 満足度	100%	0%	0%	0%

5 追加した方がよい内容

If any topics were to be added to the program, what should they be?

- ・ 政府機関における女性の登用の具体的事例（カンボジア）
- ・ 男性、若者を対象としたジェンダー平等推進の取組みをより多く学びたかった（インドネシア）
- ・ 女性リーダーに対する社会に残る偏見や否定的な見方をどのように払拭することができるか、また働く女性がリーダーを目指そうという動機をどのように持ち続けることができるかについて、より深く議論できる時間があるとよかった（韓国）
- ・ カントリー・レポートの報告は各国の取組みを知ることができて有意義であった。研修参加者間で、自身の体験や困難などを共有する時間をもう少し長くもてるとよかった（フィリピン）

平成29年度「NWE Cグローバルセミナー」開催要項

1. 趣 旨

東西ドイツ統一を契機として1990年代以降、ドイツではジェンダー平等に係る様々な取組みが進められてきました。女性の就業継続のための支援やワーク・ライフ・バランス施策の推進の必要性、高齢化社会における男女格差の拡大など日独両国は共通のジェンダー課題をかかえています。また政治分野および民間企業でのポジティブ・アクションの実施など、ドイツの男女共同参画政策は日本にとり多くの示唆に富んでいます。平成29年度のNWE Cグローバルセミナーではドイツから専門家を招聘し、ドイツの経験から日本は何を学ぶことができるかについて議論をおこないます。

2. 主 題

「女性の活躍促進に向けた取組み ドイツの経験から考える」

3. 主 催

独立行政法人 国立女性教育会館

4. 後 援

文部科学省

ドイツ連邦共和国大使館

5. 会 場

主婦会館プラザエフ クラルテ

東京都千代田区六番町15

6. 期 日

平成29年12月7日（木）13:00～16:30

7. 使用言語

日本語、英語（同時通訳付き）

8. 募集人員

企業関係者、研究者、男女共同参画の行政担当者、女性関連施設職員、女性団体等のリーダー等 80名程度

9. プログラム

○基調講演「決着のつかない問題：21世紀におけるジェンダー平等 ドイツの事例」

講 師：ウルリケ・ヘルワース

ドイツ女性協議会 国際ジェンダー平等政策顧問

○パネルディスカッション「企業における女性の活躍促進」

パネリスト

カレン・シャイア

お茶の水女子大学グローバルリーダーシップ研究所 特別招聘教授
デュースブルグ・エッセン大学教授
森川 典子 ボッシュ株式会社 取締役副社長

コーディネーター

大西 祥世 立命館大学法学部 教授

10. 申込方法・申込期限

①申込方法

ア. 電子メール

下記の必要事項を入力の上、rese2@nwec.jp までお申し込みください。

(メールのタイトルを「平成29年度NWECグローバルセミナー参加希望」としてください。)

イ. ファックスまたはホームページから申込用紙をダウンロードの上、

- 1) お名前・フリガナ、2) 郵便番号・住所、3) 電話番号、4) ファックス番号、
- 5) メールアドレス、6) 所属先を記入し、下記までお送りください。

独立行政法人国立女性教育会館研究国際室 グローバルセミナー担当

FAX 番号 0493-62-9034

②申込期限 平成29年12月4日(月) 必着

③決定通知 参加決定次第、メールもしくはファックスにて参加証をお送りします。
当日ご持参ください。

11. 所要経費 参加費 無料

平成 29 年度「NWEC グローバルセミナー」アンケート集計

「女性の活躍促進に向けた取組み ドイツの経験から考える」

日時：平成 29 年 12 月 7 日(木)

会場：主婦会館プラザエフ クララルテ

申込者 120 人 (定員 80 人)

当日来場者 86 人 (107.5%) 女性 79 人 男性 7 人

アンケート回答 72 人 アンケート回収率 83.7%

1 満足度

非常に満足 28.2 % (20 名)、満足 69.0% (49 名)、あまり満足ではない 2.8% (2 名)
無記入 (1 名)

2 有用度

非常に有用 28.2%(20 名)、有用 67.6% (48 名)、あまり有用ではない 4.2% (3 名)
無記入 (1 名)

参加者のコメント

① 基調講演

- ・ドイツの現状についての理解を深めることができた。(複数意見)
- ・日本より男女共同参画が進んでいるドイツのような国でも努力が続けられている点に、感銘を受けた。
- ・ドイツの社会的背景と現状などよく知らない情報を得られドイツと日本の状況が非常によく似ている一方、政治分野では大きな差があることが興味深かった。(複数意見)
- ・ドイツの取組について具体的に知ることにより、日本でまずどんなことをすればいいか考えるきっかけになった。(複数意見)
- ・ガールズ・デイ、ボーイズ・デイ等の取組みがとても興味深かった。

② パネルディスカッション

- ・基調講演を補足する形でのドイツの話が参考になった。同時に日本がやるべき事ははっきりしたと思う。
- ・パネラーが学者、企業、活動家と多様だったので、偏った話しにならずとても参考になった。
- ・政策と具体例がつながるパネルだった。
- ・ボッシュ株式会社の取組み事例が具体的で参考になった。(複数意見)
- ・組織を活性化させる(特に女性の力を活性化する)具体的な視点を得ることができた。
- ・ボトム・アップアプローチで従業員の声を活かしていくことの重要性を学んだ。

- ・ダイバーシティ推進が、企業の成長のために必要と感じた。トップへ理解を求めたい。
- ・ボッシュの取組みは好事例と思うが、外資系企業なので、本国のカルチャーのもとで、実行できること。日本企業の事例を扱って欲しかった。(複数意見)
- ・進行がてきぱきとしていた。
- ・最後のまとめがよかった。
- ・グローバル・ジェンダー・ギャップ指数が日本とこれほど離れている理由、これだから日本は114位でドイツは12位という実践可能な分かりやすい例や分析が欲しかった。”程度の差はある“というのが事実である以上仕方ないが、学べるものは少なかった。

3 その他の意見

- ・質問用紙があり、その場で答えていただけたのはよかった。(複数意見)
- ・質問事項について、事前にフォームから提出できるとなおありがたかった。
- ・データに基づいた講演内容で説得力があった。(複数意見)
- ・ジェンダー関連の授業を持っているので、日独の比較などの統計データが有用だった。
- ・短時間に多くの内容を盛り込んでいるので少々テンポが早かったが、充実した内容であった。

4. 回答者の属性

4-a 年齢

- ① 19歳以下 1.5% (1名) ② 20歳代 10.1% (7名) ③ 30歳代 11.6% (8名)
 ④ 40歳代 20.3% (14名) ⑤ 50歳代 29.0% (20人) ⑥ 60歳以上 27.5% (19名)
 ⑦ 無回答 (3名)

4-b 性別

- ① 女性 90.4% (47名) ② 男性 9.6% (5名) ③ 無回答 20名

4-c お住まいの都道府県

- ① 岩手県 1.7% (1名) ② 山形県 1.7% (1名) ③ 東京都 50.8% (30名)
 ④ 神奈川県 18.6% (11名) ⑤ 埼玉県 3.4% (2名) ⑥ 千葉県 3.4% (2名)
 ⑦ 静岡県 1.7% (1名) ⑧ 岐阜県 1.7% (1名) ⑨ 兵庫県 3.4% (2名)
 ⑩ 福岡県 13.6% (8名) ⑪ 無回答 13名

4-d 所属

- ① 女性関連施設 6.2% (4名) ② 行政 20.0% (13名) ③ NPO/NGO 9.2% (6名)
 ④ 企業 29.2% (19名) ⑤ 大学 21.5% (14名) ⑥ その他 13.9% (9名) (在宅ワーク・政党・専業主婦・無職・学生への就職支援) ⑦ 無回答 (7名)

5. このセミナーをどのようにお知りになりましたか？（複数回答）

- ① NWEC メールマガジン 16名
- ② メールマガジン(内閣府・JILPT・JICA) 9名
- ③ ちらし・ポスター 17名
- ④ NWEC HP 6名
- ⑤ 知人からの紹介 11名
- ⑥ その他 10名（人事課からの案内、研修にて、所属学会からの通信）
- ⑦ 無回答 9名

以 上

平成29年度 課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」実施要項

1. 趣 旨

国際協力機構（JICA）がアセアン諸国において実施する、人身取引被害者保護・社会復帰・被害の予防の分野でのプロジェクトのカウンターパート及びアセアン地域の人身取引対策に携わる関係者を対象としたワークショップ型研修を実施する。3年計画の第3年次*。

人身取引撲滅と被害者保護は一国のみで対応できる課題ではなく、国境を越えた広域的課題として対応するためにも、アジア地域におけるネットワーク形成が重要である。参加者が日本を含め、互いの国の人身取引対策に関する取り組みについて相互理解を深め、特に予防、被害者の保護と自立支援に携わる関係機関の役割や協力体制等について把握し、参加者間で人身取引対策に取り組む機関の機能強化や連携、国を越えたネットワークの強化に資する方策を検討することを目的として行われる。

2. 主 催 独立行政法人国際協力機構(JICA)

3. 実施機関 独立行政法人国立女性教育会館

4. 協 力 内閣官房、外務省、厚生労働省、警察庁、法務省、国際移住機関(IOM)、東京都、岐阜県、人身売買禁止ネットワーク(JNATIP)、一般社団法人社会包摂センター他

5. 期 日 平成29年10月19日（木）～11月2日（木）

6. 対 象 13名（男女）

カンボジア、タイ、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、ベトナム、ラオスの人身取引対策の予防と保護の分野に携わっている者（中央・地方政府機関）。

7. 研修項目

- (1) 日本政府の人身取引対策及び日本の人身取引被害者保護支援策について理解する。
- (2) 日本・参加国における人身取引予防・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセス及び関連機関の関係を把握し、グッドプラクティスを学び、課題について検討する。
- (3) 日本における在住外国人支援団体の取組について学ぶ。
- (4) アジア地域における人身取引対策のネットワーク強化に向けて各国の状況やアプローチを理解し、改善策やネットワーク連携・強化に資する方策を検討し、成果発表を行う。

8. 使用言語 英語

9. 日 程 別紙参照

*平成27年度は、「アセアン諸国における人身取引対策協力促進セミナー」として実施。

**本研修の前身として、「人身取引に関する日タイ合同ワークショップ」（平成21～24年度）、「国別研修ミャンマー」（平成24～25年度）、「国別研修ベトナム」（平成24～25年度）、地域別研修「アジア諸国における人身取引対策協力促進セミナー」（平成23年～25年度）が、国立女性教育会館を実施機関として、日本（JICA 東京）で開催されている。

なお、「国別研修タイ」は、平成25年度はJICA北九州で開催。タイの「メコン地域人身取引被害者支援能力向上プロジェクト」の関係者を対象にした国別研修が、平成27年度から別途、JICA関西で開催されている。

簡易日程表

日 時	内 容	場 所
10月18日(水)	来日	
10月19日(木)	午前 JICA オリエンテーション 午後 研修プログラムオリエンテーション	TIC
10月20日(金)	午前 日本政府の人身取引対策：内閣官房 午後 法務省東京入国管理局の取組みと施設見学	内閣府 東京入国管理局
10月21日(土)	午前 民間女性シェルター訪問と支援団体との意見交換 夜間 街歩きスタディーツアー	都内
10月22日(日)	終日 自由	
10月23日(月)	午前①日本政府の取組：警察庁 午前②日本政府の取組：厚生労働省（女性保護） 午後 東京都婦人相談所：視察と意見交換	TIC 都内
10月24日(火)	終日 社会福祉法人の施設見学と母子保護と自立支援の取組	千葉
10月25日(水)	午前 日本政府の取組：厚生労働省（労働） 午後 意見交換：外国人労働者支援団体の取組から	TIC 都内
10月26日(木)	午前 ジェンダー平等に向けた取組の現状と課題 午後 人身取引被害者保護と防止：民間団体、弁護士	NWEC
10月27日(金)	午前 被害者保護の国内外事例検討：岐阜県警、民間団体 午後 グループディスカッション IOM 他	NWEC
10月28日(土)	JICA フィールドトリップ	東京
10月29日(日)	終日 自由	
10月30日(月)	午前 在住外国人の生活・学習支援：かながわ国際交流財団 午後 在住外国人の就労支援：横浜市福祉事業経営者会	横浜
10月31日(火)	終日 成果発表会と意見交換会 ：関係省庁、大使館研修関連 民間団体、研究者等	TIC
11月1日(水)	午前 民間団体の取組：よりそいホットライン 午後 研修成果まとめ作成	TIC
11月2日(木)	午前 評価会	TIC
11月3日(金祝)	帰国	

TIC：JICA 東京（最寄駅：京王新線幡ヶ谷駅もしくは千代田線・小田急線代々木上原駅）

NWEC：国立女性教育会館（最寄駅：東武東上線 武蔵嵐山駅）

実施要項 平成 29[2017]年度 課題別研修 アセアン諸国における人身取引対策協力促進 研修のデザイン

人身取引対策(3年間) 本年は第3年次

- ①相互の取り組みや実態について理解を深める
- ②ネットワーク強化に資する方策を検討する

全体:ミャンマー(2)、ベトナム(2)、フィリピン(1)、ラオス(2)、カンボジア(2)
マレーシア(2)、タイ(2)



2017年度研修員

(1)日本政府の人身取引対策および参加国の人身取引対策について理解する。

(2)日本の民間団体の人身取引被害者保護支援策について理解する。

(3)人身取引予防・加害者訴追・被害者保護・帰還・社会復帰の一連のプロセスおよび関連機関の関係を把握し、各国のグッドプラクティスを学び、課題について分析・検討する。

(4)アセアン地域における国境を超えた人身取引対策のネットワーク強化に向けて、参加各国の人身取引対策の取組状況やアプローチを理解し、改善策やネットワーク連携・強化に資する方策を検討し、成果発表を行う。

2017年度詳細項目

実態把握・課題把握 日本政府・自治体の人身 取引対策・被害者保護支援 策についての理解	実態把握・課題把握 参加国相互の人身取引対 策・被害者保護支援策につ いての理解	実態把握・課題把握 在住外国人の現状と課 題、支援活動の取組に ついての実態理解	課題分析力の向上 被害者保護・帰還・社会復帰の一連 のプロセスにおける課題の把握、 関係機関の把握、グッドプラ クティスの共有	課題解決に向けた実践 日本および参加各国関係者間の討 議と共有を通じて、それぞれの自 国の取組を振り返り、ネットワー ク強化に向けた相互の実態理解を促進
<ul style="list-style-type: none"> ■ 人身取引対策行動計 画に基づいた各省市 自治体の施策と現状 の課題 ■ 民間支援組織の取組 みと課題 ■ ジェンダー平等を推進 する公的機関の機能と 役割の理解 ■ 女性に対する暴力へ の取組の理解 ■ 技能実習制度の概要 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 参加国の人身取引施 策・取組と課題 ・カンボジア ・タイ ・マレーシア ・ミャンマー ・フィリピン ・ベトナム ・ラオス ・日本 ■ グローバル・アジア 太平洋地域の動向 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 在日外国人団体・ネ ットワークの人身取 引対策の取組 ■ 自治体レベルの在 住外国人支援の取 組 ・生活相談支援 ・就労支援 ■ 全体研修 埼玉、千葉、東京、 神奈川 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 被害者保護・帰還・社会復 帰の一連のプロセスの整 理と把握 ■ 技能実習制度、移住労働者 に関する整理と把握 ■ 関係機関の協力連携関係 の理解と把握 ■ ホットライン・匿名通報ダイ ヤルの制度と仕組み 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各国における取組の発表と 意見交換 ■ 研修成果発表と意見交換 ■ 今後の情報共有を含む関 係づくりに関する提案 ■ 自国の取組へのフィードバ ック
<ul style="list-style-type: none"> ・関係省庁・自治体・ NWEC 講義と意見交換 ・シエルター・警察・入国管理 局等の視察と講義 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・各国の取組の発表と 意見交換 ・夜のスタディツアー 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義や視察 ・自治体や団体、在日外 国人ネットワークメンバ ーとの意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・講義と意見交換 ・討議 ・民間団体の視察・意見交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ討議 ・プレゼンテーション ・意見交換会への参加・発表

2017年度研修項目

研修方法

平成29年度課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」研修日程

	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師	研修場所	宿泊先	
10月18日	水			来日、移動 成田国際空港 → 幡ヶ谷(TIC)			TIC	
19日	木	AM	ブリーフィング	JICAブリーフィング	JICA	TIC	TIC	
		13:00-14:00	オリエンテーション	オリエンテーション、関係者紹介、プログラム全体説明	阿部 亮子(国際協力機構(JICA)) 渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員(NWEC))			
		14:10-15:20	プログラム説明	プログラム詳細説明				
		15:30-16:10	講義	研修課題に関する基礎講義、ビデオ上映	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)			
		16:10-18:00	ワークショップ	ワークショップ、取り組みと課題の共有	研修員			
20日	金			移動(中型バス・正座席27)9:10JICA発				
		10:00-11:00	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:「人身取引対策行動計画2014に基づく日本の取組み」(内閣官房)	重成 麻利(内閣官房副長官補(内政担当)付参事官補佐) 和田 敦朗(内閣官房副長官補(外政)付参事官補佐)	内閣府8号館 5階共用会議室C	TIC	
				移動(バス)内閣官房 → (昼食:品川イオン シーサイド) → 東京入国管理局				
		14:30-17:20	見学・説明	日本政府の人身取引対策:東京入国管理局	尾形 茂夫(東京入国管理局総務課渉外調整官)	東京入国管理局		
		移動(バス)東京入国管理局 → TIC						
21日	土	AM		移動(JICAバス?) TIC → 女性の家サラー				
		10:00-12:00	視察・意見交換(グループ単位)	民間団体の取組:民間の女性支援(グループA4名)	湯山 佳代(特定非営利活動法人女性の家サラー事務局長)	女性の家サラー	TIC	
		10:00-13:40	講義・意見交換(グループ)	民間団体の取組:民間の女性支援(グループB9名)	田口 道子(PAPSホルノ被害と性暴力を考える会事務局長) 金尻カズナ(PAPS・ライトハウス相談支援チーフ)	TIC SR406(36人部屋)		
22日	日							
23日	月	9:30-10:40	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:警察庁	後藤 泰弘(警察庁生活安全局保安課課長補佐)	TIC SR402(24人)	TIC	
		10:45-12:50	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:厚生労働省(女性保護)	桝堀 正信(厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課女性保護専門官)			
		12:50-13:00	ガイダンス	日本の人身取引対策(自治体)施設見学にあたって	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)			
			昼食	(食堂開館時間11:30-14:00)				
		14:00	移動(バス)					
		14:30-17:30	講義・見学・意見交換	日本の人身取引対策(自治体):女性相談所の被害者保護	和田 芳子(東京都女性相談センター所長)			東京都女性相談センター
24日	火	7:45発		移動(中型バス・正座席27) TIC → (海ほたる40分) → 木更津				
		9:45-12:00	講義・見学	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	花崎みさを(社会福祉法人一粒会理事長・統括施設長) 中尾 充孝(社会福祉法人一粒会「野の花の家」施設長)	社会福祉法人一粒会	TIC	
			昼食					
		13:00-15:30	視察・講義・意見交換	民間の取組:社会福祉法人による地域の外国人支援	小林 晶子(社会福祉法人一粒会「FAHこずす」副施設長・相談員) 鳥海 典子(社会福祉法人一粒会「FAHこずす」センター主任・主任母子指導員) フランク・オカノボス(社会福祉法人一粒会「ファミリーセンター・ヴィオラ」外国人ソーシャルワーカー)			
			移動(バス)木更津 → (海ほたる15分) → TIC17:40着					
25日	水	9:30-10:15	講義	振り返り	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)			TIC SR304(20人)
10:30-12:00	講義・意見交換	日本政府の人身取引対策:厚生労働省(労働)	横田 和也(厚生労働省海外人材育成担当参事官室室長補佐)					
	昼食							
14:00-17:20	講義・意見交換	民間団体による支援:外国人労働者が直面する課題	鳥井 一平(特定非営利活動法人移住者と連帯する全国ネットワーク代表理事) 山岸 素子(特定非営利活動法人移住者と連帯する全国ネットワーク事務局長) 高山 ゆき(全統一労働組合通訳)					
26日	木	9:00-9:40	会館説明	会館案内	中野 洋恵(国立女性教育会館研究国際室長)	国立女性教育会館 研修棟1階101室	NWEC	
		9:45-10:30	講義・意見交換	日本と各国における男女共同参画の現状と課題	越智 方美(国立女性教育会館研究国際室専門職員) 研修員			
		10:45-11:15	挨拶・職員意見交換	理事長挨拶・職員意見交換	会館職員			
		11:20-12:00	お茶室見学	茶室見学	NWEC職員			響書院
			昼食					
		13:00-14:10	講義・事例説明	在住外国人支援者の活動紹介	武田ヴィーリン(TNJタイネットワークINジャパン代表)			
		14:30-16:30	実習	成果発表会資料準備	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)			研修棟1階101室
		16:45-18:30	講義・事例説明	人身取引の法的課題	吉田 容子(弁護士、立命館大学教授)			
27日	金	9:00-12:00	講義・事例説明	日本政府の人身取引対策:岐阜県警の取組 人身取引対策ケーススタディー	西脇 克児(岐阜県警察本部刑事部組織犯罪対策課調査官) 吉田 容子(弁護士、立命館大学教授)	研修棟1階101室	TIC	
		12:00	昼食					
		13:00-14:00	講義	日本政府の人身取引対策:国際移住機関の取組	森田カーリーナ(国際移住機関(IOM)チーフ・ケースワーカー)	研修棟1階101室		
		14:00-14:50	講義	人身取引の法的課題	吉田 容子(弁護士、立命館大学教授)			
		15:00-17:15	発表	グループディスカッション	吉田 容子(弁護士、立命館大学教授) 西脇 克児(岐阜県警察本部刑事部組織犯罪対策課調査官) 森田カーリーナ(国際移住機関(IOM)チーフ・ケースワーカー)			
		17:30	移動(中型バス・正座席27) NWEC → TIC19:00着					
28日	土		自由	JICAフィールドトリップ		TIC		
29日	日		自由研究			TIC		

平成29年度課題別研修「アセアン諸国における人身取引対策協力促進」研修日程

	曜日	時間	研修項目	研修内容	講師	研修場所	宿泊先
30日	月	10:00-12:00	講義	在住外国人の生活・学習支援の取組	山内 涼子(公益財団法人かながわ国際交流財団多文化共生・協働推進グループリーダー)	かながわ国際交流財団(13階、15階)	TIC
		14:00-16:30	講義・見学・意見交換	在住外国人の就労支援の取組	甘粕 弘志(公益社団法人横浜市福祉事業経営者会事務局長) 福山 満子(公益社団法人横浜市福祉事業経営者会コーディネーター)		
31日	火	10:30-10:35	成果発表・ 各国の取組意見交換	開会挨拶・プログラム説明	石川 剛生(産業開発・公共政策課長) 渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員) 省庁(内閣官房、法務省、警察庁、厚生労働省、東京入国管理局)、 自治体、大使館 吉田 容子(弁護士、立命館大学教授) 西脇 克児(岐阜県警察本部刑事部組織犯罪対策課調査官) 和田 芳子(東京都女性相談センター所長) 佐藤 美央(国際移住機関(IOM)駐日代表) 須藤 詠子(国際移住機関(IOM)人身取引対策コーディネーター) 松田美恵子(東京都女性相談センター係長)、他1名 遠藤 智子(社会的包摂サポートセンター事務局長) 花崎みさを(社会福祉法人一粒会理事長・統括施設長) 馬海 典子(社会福祉法人一粒会「FAHこすす」センター主任・主任 母子指導員) 武田ヴィーリン(TNJタイネットワークINジャパン代表) 湯山 佳代(特定非営利活動法人女性の家サラー 事務局長)	TIC SR411(88) SR402(24)	TIC
		10:35-10:55		山口専門員発表			
		11:00-12:00		研修員によるカンントリーレポート発表(3か国)			
		12:00-13:00		昼食(於: JICA東京食堂)			
		13:00-14:20		研修員によるカンントリーレポート発表(4か国)			
		14:20-14:45		休憩			
		14:45-15:15		武田ヴィーリン(TNJタイネットワークINジャパン代表)発表			
		15:15-16:00		研修員成果発表			
		16:00-17:00		意見交換会			
		17:30-18:45		交流会			
		11月 1日		火			
13:30-15:30	ワークショップ		国境を超える人身取引被害者保護のフローについて 成果のとりまとめ		松野/佐藤(国際協力機構タイ事務所専門家) 渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)		
2日	木	10:00-11:00	評価	評価会	阿部 亮子(産業開発・公共政策課) 渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)、JICA、研修員	TIC SR306・410	TIC
		11:15-11:45	閉講式	JICA挨拶、NVEC挨拶、研修員代表挨拶、修了証書授与	渡辺 美穂(国立女性教育会館研究国際室研究員)、JICA、研修員		
3日	金		帰国	帰国			

1. 案件目標を達成しましたか？

Q1. Have you achieved Course Objective?

← Fully Achieved 十分達成できた		Not achieved 達成して ない →	
4	3	2	1
5	8		

9. 本邦研修で得た日本の知識・経験は役立つと思いますか？

Q9. Do you think the knowledge and experience you acquired through the course in Japan is useful?

A	10	はい、業務に直接的に活用することができる。 Yes, it can be directly applied to work.
B	3	直接的に活用することはできないが、業務に応用できる。 It cannot be directly applied, but it can be adaptable to work.
C		直接的に活用、応用することはできないが、自分自身の参考になる。 It cannot be directly applied or adapted, but it can be of reference to me.
D		いいえ、全く役立たない。 No, it was not useful at all.

3年分の集計

	平成29年度		平成28年度		平成27年度		3年間の平均	
	A	B	A	B	A	B		
案件目標を達成しましたか(達成度)	38.5%	61.5%	46.2%	53.8%	50.0%	50.0%		
	5人	8人	6人	7人	7人	7人	45.0%	55.0%
研修で得た知識の活用度	76.9%	23.1%	46.2%	53.8%	35.7%	64.3%		
Q本邦研修で得た知識・経験は役立つと思いますか	10人	3人	6人	7人	5人	9人	52.5%	47.5%

**平成29年度「地域における男女共同参画推進リーダー研修」における
事前学習（eラーニング：「男女共同参画の基礎知識」）の実施報告**

1. 参加者概況

- (1) 受講登録者数 138名、
→修了者 131名（事前チェック・テスト・アンケートの3つに回答した方）
※内4名はリーダー研修の初日の午前中にマルチメディア室にて受講
- (2) 未修了者内訳：キャンセル3名、未受講者2名、途中まで受講2名、

2. 学習結果集計より

- (1) セルフチェック（レッスン冒頭に回答）

	GGIと日本の順位	男女共同参画社会のイメージ	固定的性別役割分担意識	M字カーブ	ワーク・ライフ・バランス	女性活躍推進法	202030	ダイバーシティ	ポジティブ・アクション	CSW
A	22.7%	25.8%	39.4%	39.4%	31.8%	19.7%	25.8%	21.2%	16.7%	2.3%
B	42.4%	61.4%	50.8%	43.9%	60.6%	56.1%	32.6%	59.8%	50.0%	17.4%
C	23.5%	11.4%	9.1%	7.6%	6.1%	22.7%	15.2%	13.6%	25.8%	38.6%
D	11.4%	1.5%	0.8%	9.1%	1.5%	1.5%	26.5%	5.3%	7.6%	41.7%

A: よく知っている（人に説明できる程度） B: ある程度知っている C: あまり知らない D: まったく知らない

- (2) 確認テスト（レッスン末に回答）

	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	総計
女性関連施設管理コース		2	4	11	18	14	9	2	60
団体リーダーコース		1	1	5	6	5	3		21
地方自治体職員コース	1	3	2	7	14	13	10	1	51
総計	1	6	7	23	38	32	22	3	132

3. アンケート結果集計（コース末に回答 詳細は別紙参照）

- (1) レベル、分量、学習時間（1時間程度）、難易度ともに狙い通り
(2) 自由記述（主にコースに関する意見・感想）より抜粋

①全体について

- ・確認テストがあるのがとてもよかったです。資料を読むだけでは、自分の先入観が覆らず、きづきがもらえない。自分で気づいたことはずっと頭に残るので、これを機会に、新たな気持ちで勉強していきたいと思いました。

- ・男女共同参画にかかわる施策は幅広いため、こうした学習は学びきっかけとなり、よいと思う。
- ・研修の参加事前の研修にこのような機会を与えられたので、実際に体験できてよかった。再度基礎的な言葉や意味、内容を確認できたよかった。ありがとうございました。
- ・意欲的な試みだと思います。どのような反響があったか、ぜひ教えてほしいです。

②使い勝手について

- ・勤務がシフト制で尚且つ仕事時間とプライベート時間を分けたいと考える者としては、曜日時間の制約がないことと拘束時間がさほど長くない点がよかったと思います。
- ・PC でなければ出来ないのかな、と思いましたがスマートフォンで受講できたので大変便利で受けやすかった。
- ・紙をめくっていくより、簡単で読みやすかったから良かった

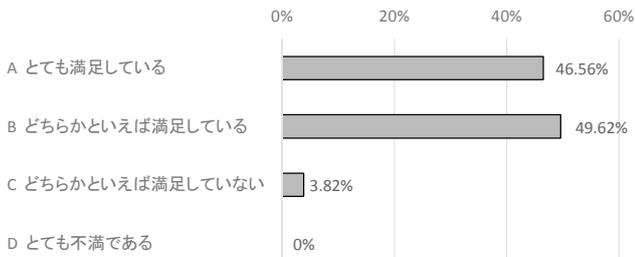
③改善点について

- ・近年問題とされている「防災分野における男女共同参画」、「LGBTなどの性的少数者」について、とりあげて欲しい。
- ・復習用にテキストが印刷できるとうれしいです。
- ・イラストやグラフは読み上げ機能が動かないので、わかりにくくなってしまう。しかし見える人にはわかりやすいと思うので、特にグラフはわかりやすい解説があると視覚障害者も理解しやすいと感じる。

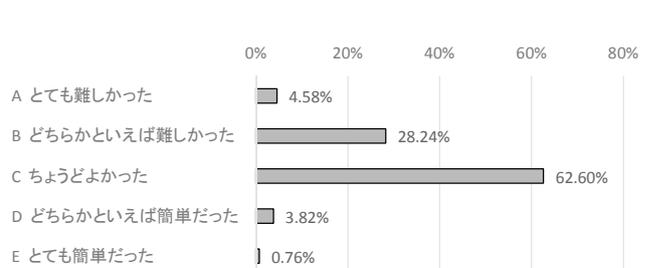
④他機関や他機会の研修での活用について

- ・とても分かりやすかったので、センター内でも今後の取組の参考にさせていただきたい。また、連続講座の受講者にも提供可能なのであれば、その利用を検討したいです。
- ・とても分かりやすく、文字だけでなくイラストなども多用してありとても分かりやすかったです。当センター内でも使用したいと思いました。
- ・わたくしの属する団体では着任後の研修というものはありません。自学自習をしながら理解を進め、今回の研修に参加させていただくことになっています。そのため、今回の講義は、自分自身の理解度の確認と再学習の機会として、ありがたかったです。

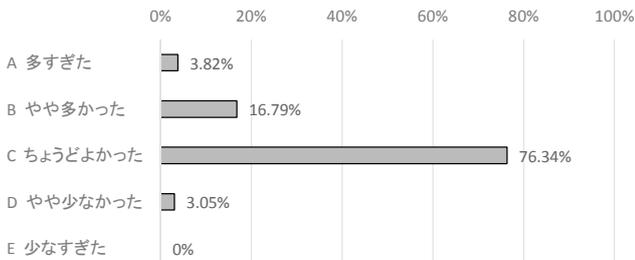
Q1.このコースの学習はいかがでしたか？



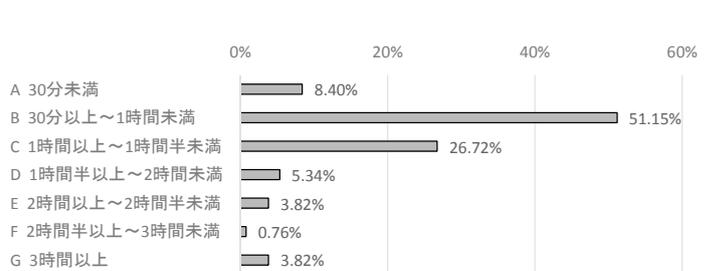
Q2.学習した内容のレベルはいかがでしたか？



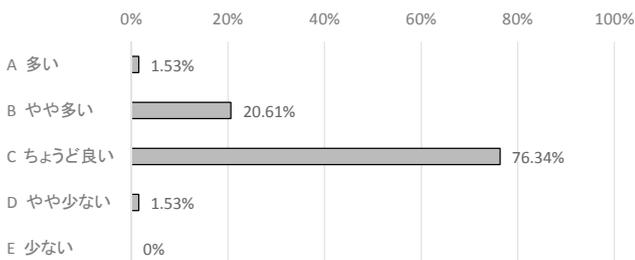
Q3.コース全体の分量はいかがでしたか？



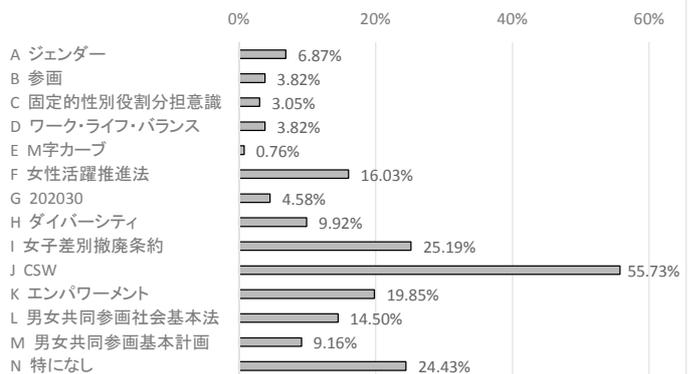
Q4.学習するのにどれくらい時間がかかりましたか？



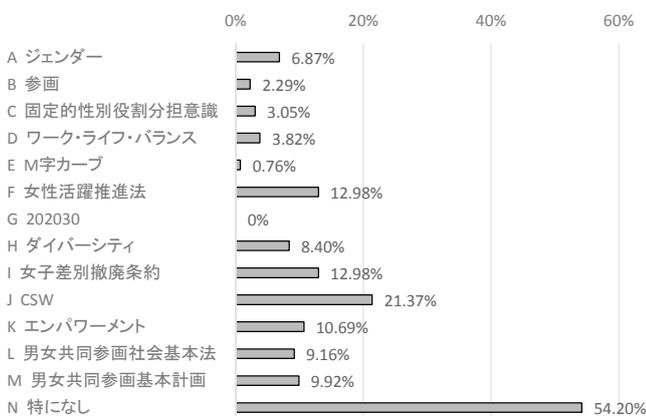
Q5.学習した内容(キーワードやテーマ)の分量は いかがでしたか？



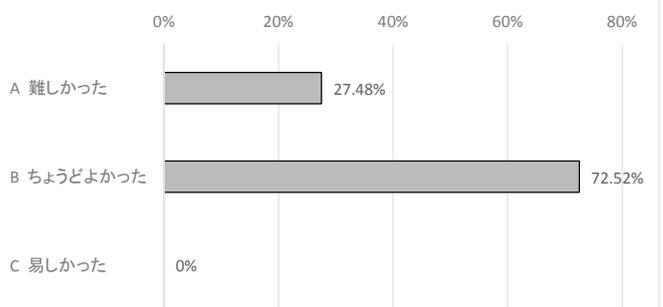
Q6.難しいと感じたキーワードがありましたら、 以下から選んでください。(複数選択可)(回答必須) 特になし場合は、「N.特になし」を選んでください。



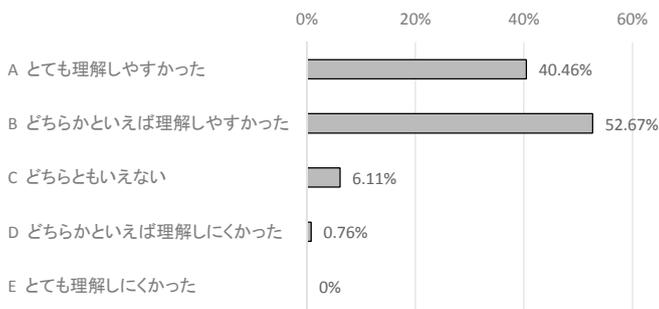
Q7.もっと説明がほしいと感じたキーワードが ありましたら、以下から選んでください。(複数 選択可)(回答必須) 特になし場合は、「N.特になし」を選んでください。



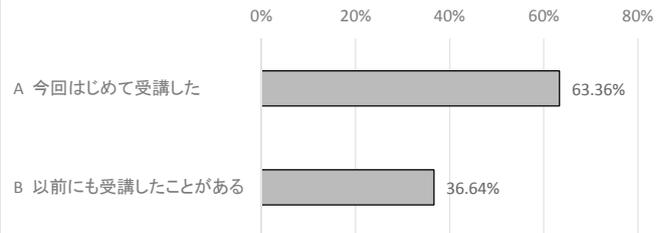
Q9.確認テストの難易度はいかがでしたか？



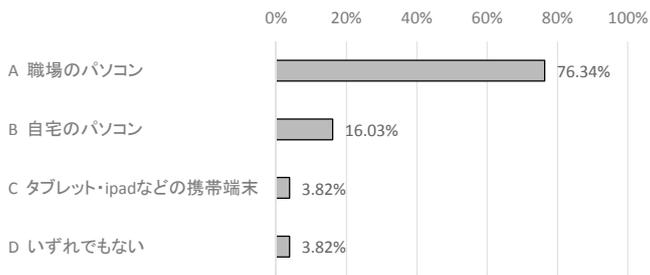
Q10. 確認テストの解説はいかがでしたか？



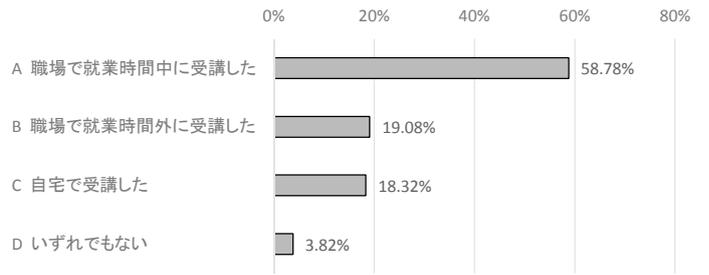
Q12. 今回のようなインターネットを使った学習・研修を過去に受講されたことはありますか？



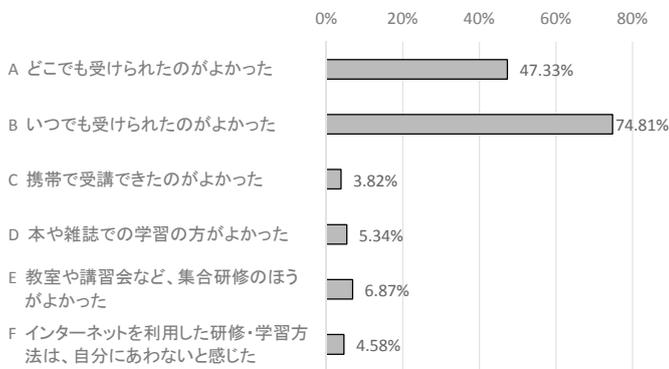
Q14. 今回の学習は主にどのような端末で受講されましたか？



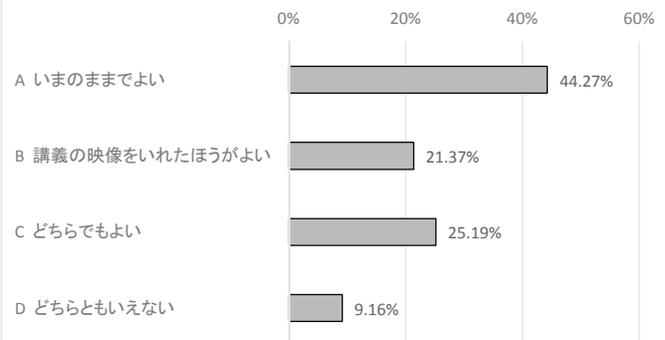
Q13. 今回の学習は主にどこで受講されましたか？



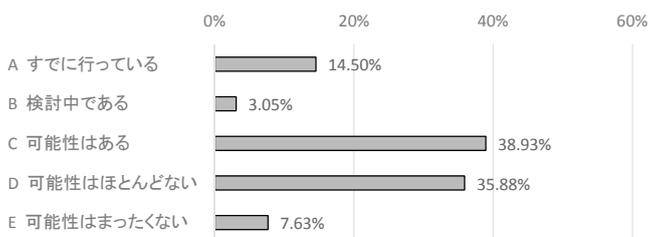
Q16. 今回受講されたインターネットを利用した研修・学習方法について、どのようにお感じになりましたか？
あてはまるものをすべて選択してください。
(複数選択可)



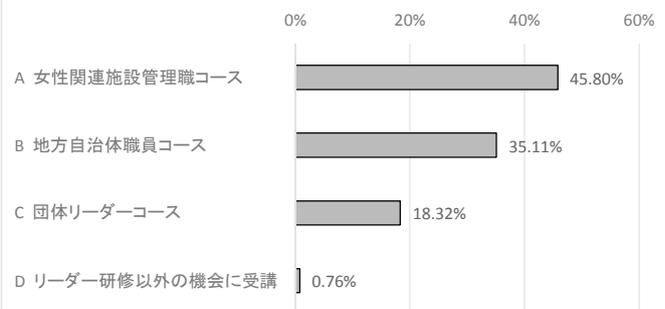
Q18. 最近は、ネット上の講義をみるオンライン学習が増えています。今回のプログラムにそのような講義の映像はありません。それについて、あなたはどのように感じましたか？



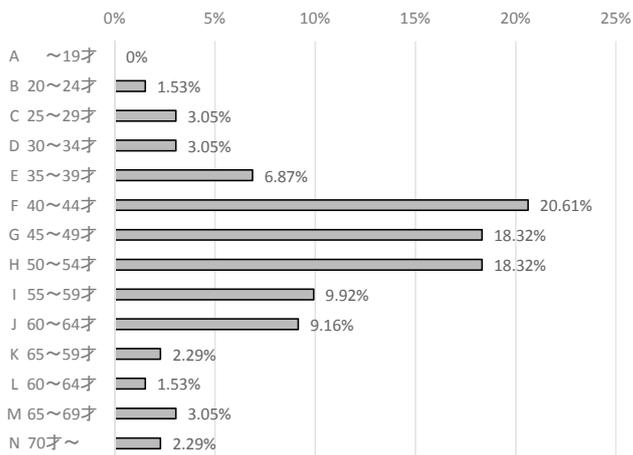
Q20. 所属されている施設・組織・団体等で、今回のようなインターネットを使う研修・事業を提供・活用する可能性はありますか？



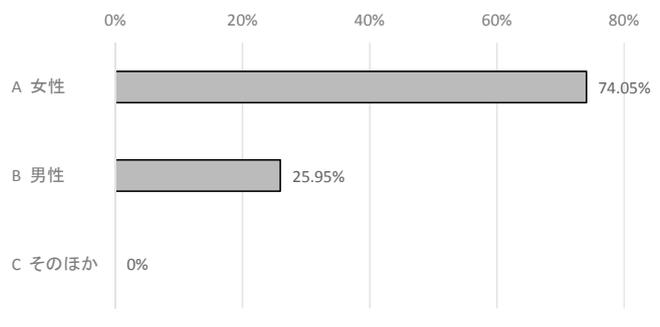
Q22. どのコースに申し込まれましたか？



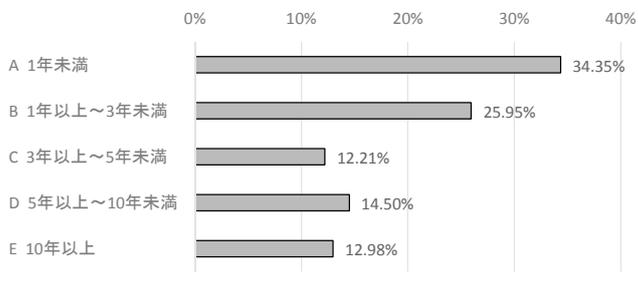
Q23.あなたの年齢を教えてください。



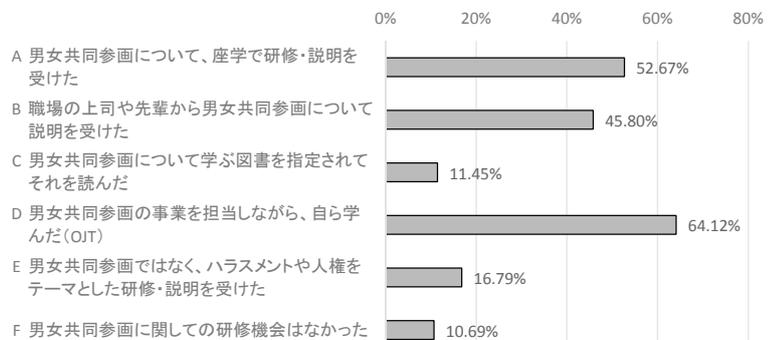
Q24.あなたの性別を教えてください。



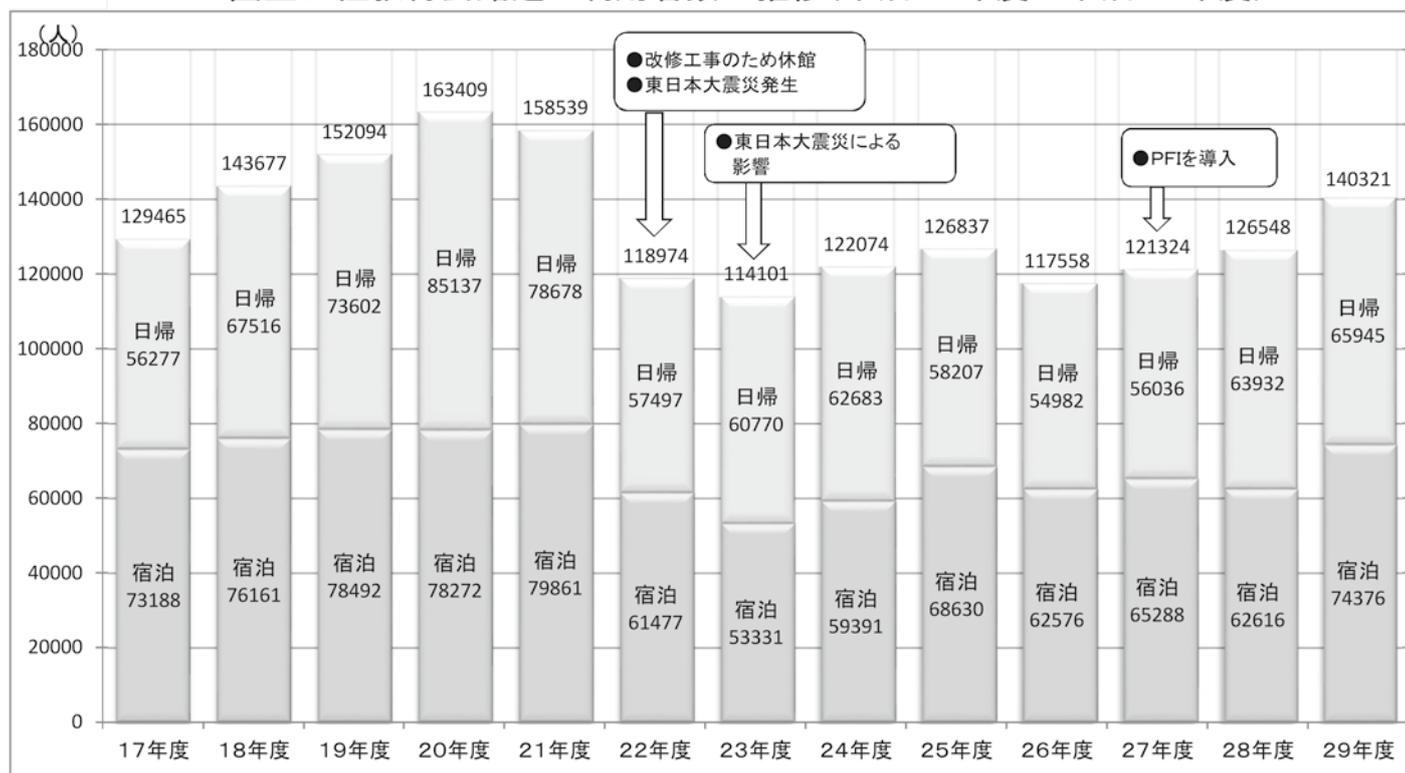
Q25.男女共同参画の業務・活動に関わっている年数を教えてください。



Q26.あなたは職場に着任後、男女共同参画についてどのように学びましたか？
あてはまるものをすべて選択してください。(複数選択可)
(回答必須)

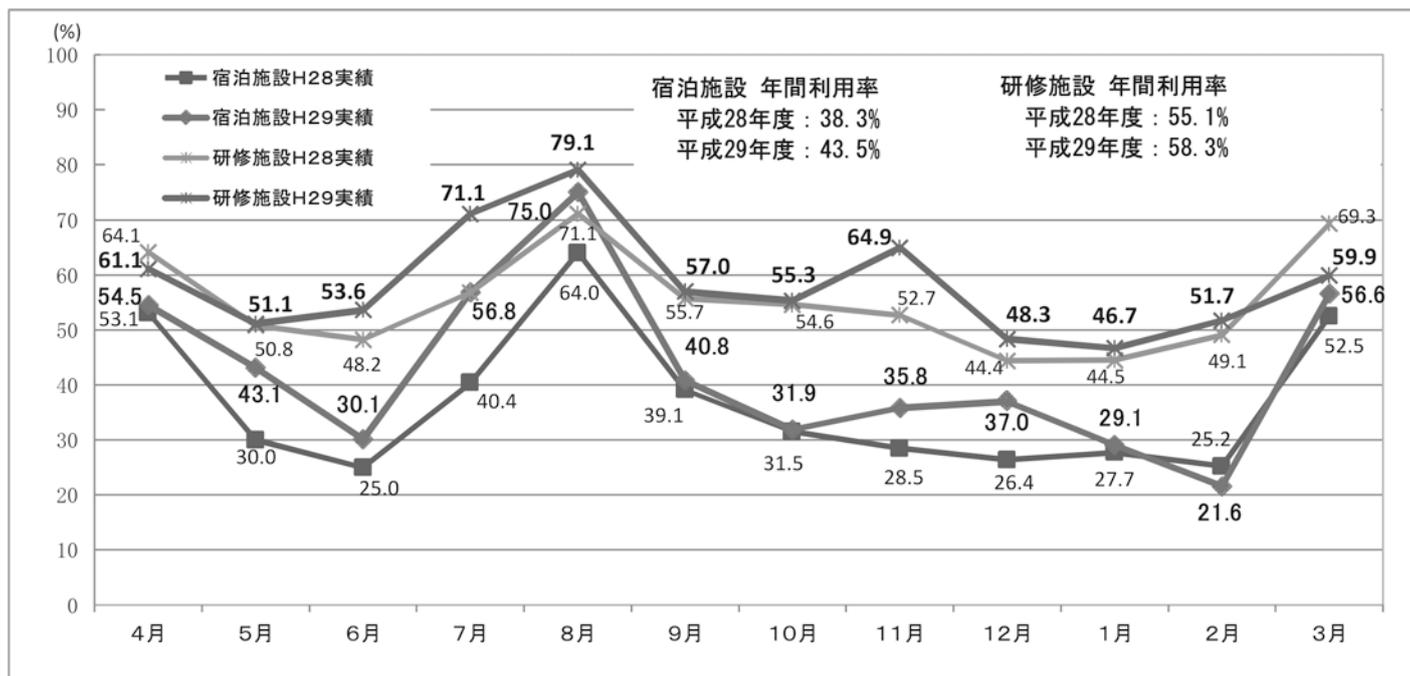


国立女性教育会館延べ利用者数の推移(平成17年度～平成29年度)



(注) 1 22年度11月15日～2月28日まで改修工事のため休館(前年度実績31,119人)
 2 東日本大震災によるキャンセル:22年度7,218人、23年度14,879人

宿泊施設及び研修施設利用率の推移(平成28年度～平成29年度)



【全体施設利用率】

(研修施設利用率(58.3%) + 宿泊施設利用率(43.5%)) / 2 = 50.9% (平成29年度目標: 49%)

【第4期中期計画:PFI事業の適切な実施のための監視・協力】

宿泊施設を含め、施設利用率について、中期目標期間中に55%以上を達成する。また、施設ごとの利用率の目標については、PFI事業者と協議の上、年度計画において適切に設定する。

【平成29年度計画:PFI事業の適切な実施のための監視・協力】

宿泊施設の利用率については44%、研修施設の利用率については54%を目指し、施設全体の利用率として49%を達成する。